

JIN-AI UNIVERSITY

2015 SYLLABUS

平成27年度
人間学部
シラバス



目 次

I. 1年生

<学部共通科目>

仏教の人間観	都路 恵子	1
生命の倫理	都路 恵子	3
人間の教育	高野 秀晴	5
芸術の世界	中野 研也	7
人間と環境A	鳴瀬みどり	8
人間と環境C	八木 秀夫	10
スポーツと健康	野田 政弘	12
スポーツA	山村 恵子	14
スポーツB	山村 恵子	16
英語 I a	矢橋・スプリチャル・ハウカ・パトラー・山口	18
英語 I b	矢橋・スプリチャル・ハウカ・パトラー・山口	20
フランス語 I a	大竹口麻里	22
フランス語 I b	大竹口麻里	23
ドイツ語 I a	橋本 武志	24
ドイツ語 I b	橋本 武志	26
中国語 I a	ショウ ロ	28
中国語 I b	ショウ ロ	30
情報リテラシーa	宮川 祐一・森本 文人・佐々木裕子	32
情報リテラシーb	宮川 祐一・森本 文人・佐々木裕子	34
情報活用 a	宮川 祐一・佐々木裕子	36
情報活用 b	宮川 祐一・佐々木裕子	38
基礎演習	久保・山本・森本・水上・片畑・竹村	40
基礎演習	島岡・加藤・矢橋・升田・大河	42
キャリア・デザイン I	植月 百枝	44
日本語文章表現	大河 晴美・柚谷 英紀	46
フィールドワーク演習 (ボランティア)	金田 明彦・谷 雅徳	48
フィールドワーク演習 (国際交流)	ML スプリチャル	49

<心理学科専門科目>

心理学概論 I	大森 慈子	51
心理学概論 II	大森 慈子	53
心理学研究法 I	吉田 和典	55
心理学研究法 II	西村 則昭	57

心理統計Ⅰ	杉島 一郎・森本 文人	59
心理統計Ⅱ	杉島 一郎・水田 敏郎	61
性格心理学	森 俊之	63
精神分析論	西村 則昭	65
学習心理学	杉島 一郎	67

＜コミュニケーション学科専門科目＞

人間関係論 a	橋本 武志	69
コミュニケーション概論 a	山中 千恵	71
コミュニケーション概論 b	山中 千恵	72
企画開発基礎演習	富永 良史	74
現代社会論 a	島岡 哉	76
現代社会論 b	島岡 哉	78
異文化理解	加藤 優子	80
言語学概論	矢橋 知枝	82
社会言語学	加藤 和夫	84
日本語概論	天野 義廣	86
日本語表現（スピーキング）	植月 百枝	88
オーラル・コミュニケーションⅠa	ML スプリチャル	90
オーラル・コミュニケーションⅠb	ML スプリチャル	92
英文法 a	加藤 優子・フッド晴美	94
英文法 b	加藤 優子	96

Ⅱ. 2年生

＜学部共通科目＞

人間と宗教	都路 恵子	97
仏教の思想	山田 恵文	99
哲学の世界観	橋本 武志	101
文学の世界	柚谷 英紀	103
歴史と地域文化	久保 智康	105
人権と法	山下 秋子	107
日本国憲法	山下 秋子	109
人間と環境B	西出 和彦	111
ふくい総合学	金田 明彦	113
スポーツC	野田 政弘	115
英語Ⅱa	紺渡・スプリチャル・加藤・ハウカ・バトラー・山口	116
英語Ⅱb	紺渡・スプリチャル・加藤・ハウカ・バトラー・山口	118

フランス語Ⅱa	大竹口麻里	120
フランス語Ⅱb	大竹口麻里	121
ドイツ語Ⅱa	橋本 武志	122
ドイツ語Ⅱb	橋本 武志	124
中国語Ⅱa	ショウ ロ	126
中国語Ⅱb	ショウ ロ	128
海外語学研修	ML スプリチャル	130
情報活用 a	宮川 祐一・佐々木裕子	132
情報活用 b	宮川 祐一・佐々木裕子	134
情報処理演習 a	宮川 祐一	136
情報処理演習 b	宮川 祐一	138
フィールドワーク演習（ボランティア）	金田 明彦・谷 雅徳	140
フィールドワーク演習（国際交流）	ML スプリチャル	141

<心理学科専門科目>

心理学基礎実験Ⅰ	山本・水上・森本・青井・梶村	143
心理学基礎実験Ⅱ	大森・水田・森本・青井・箕浦	145
心理検査法Ⅰ	森 俊之・吉水ちひろ・青井 利哉	147
心理調査法	早川 清一	149
心理面接法	片畑真由美・水上喜美子・久保 陽子	151
臨床心理学Ⅰ	片畑真由美	152
臨床心理学Ⅱ	佐藤 至子	153
生涯発達心理学Ⅰ	竹村 明子	154
生涯発達心理学Ⅱ	竹村 明子	156
認知心理学	杉島 一郎	158
生理心理学	水田 敏郎	160
産業・組織心理学Ⅰ	早川 清一	162
産業・組織心理学Ⅱ	早川 清一	163
社会心理学Ⅰ	山本 雅代	164
社会心理学Ⅱ	山本 雅代	166
心理学特別講義	複数で担当	168

<コミュニケーション学科専門科目>

言語コミュニケーション論	矢橋 知枝	170
非言語コミュニケーション論	山本 雅代	171
パーソナル・コミュニケーション論 a	谷 雅徳	173
プレゼンテーション技法 a	北神 慎司	175

プレゼンテーション技法 b	本多 幸子	177
地域経済論	小林 大祐	179
地域社会論	島岡 哉	181
デザイン文化論	佐野 寛	183
時事問題研究a	四戸 友也	185
時事問題研究 b	四戸 友也	187
日本語文法論	笹原 幸子	189
英文講読 a	紺渡 弘幸	191
英文講読 b	紺渡 弘幸	193
L L 演習 a	加藤 優子	195
L L 演習 b	加藤 優子	197
企画開発論	富永 良史	199
企画開発演習	金田 明彦	201
コミュニケーション技法 I a	四戸 友也	202
コミュニケーション技法 I b	小林 逸雄	204
マス・コミュニケーション論 a	小林 逸雄	206
マス・コミュニケーション論 b	四戸 友也	208
ビジュアル・コミュニケーション論 a	金田 明彦	210
ビジュアル・コミュニケーション論 b	金田 明彦	211
デジタル・デザイン a	金田 明彦	213
デジタル・デザイン b	金田 明彦	215
英語音声学	フット晴美	217
英作文演習 a	フット晴美	219
英作文演習 b	フット晴美	221
オーラル・コミュニケーション II a	ME ハウカ	223
オーラル・コミュニケーション II b	ME ハウカ	225
英米文化論	ML スプリチャル	227
家族の人間関係	織田 暁子	229
社会の人間関係	山本 雅代	231
社会学概論 a	八木 秀夫	233
社会学概論 b	織田 暁子	235
社会調査法 I	小林 大祐	237
社会調査法 II	小林 大祐	239
現代社会研究 I	島岡 哉	241
社会調査方法論	織田 暁子	243
社会統計学	杉島 一郎	245
データ解析法a	山中 千恵	247

日本の言語文化a	大河 晴美	248
日本の言語文化 b	大河 晴美	250

Ⅲ. 3年生

<学部共通科目>

英語Ⅲ a	ME ハウカ	252
英語Ⅲ b	ME ハウカ	254
海外語学研修	ML スプリチャル	256
情報処理演習 a	宮川 祐一	258
情報処理演習 b	宮川 祐一	260
フィールドワーク演習 (インターンシップ)	升田 法継・水田 敏郎	262
フィールドワーク演習 (ボランティア)	金田 明彦・谷 雅徳	264
フィールドワーク演習 (国際交流)	ML スプリチャル	265

<心理学科専門科目>

心理検査法Ⅱ	水上喜美子・吉水ちひろ・青井 利哉	267
精神医学Ⅰ	三脇 康生	269
精神医学Ⅱ	三脇 康生	271
教育心理学	杉島 一郎	273
家族心理学	竹村 明子	275
スポーツ心理学	野田 政弘	277
心理療法論Ⅰ	森 俊之	279
心理療法論Ⅱ	久保 陽子	281
アイデンティティ心理学	西村 則昭	283
犯罪心理学	廣井 亮一	285
臨床心理演習	森 俊之・片畑真由美・久保 陽子	287
比較心理学	吉田 和典	289
神経心理学	森本 文人	291
心理学特殊実験Ⅰ	水田 敏郎・大森 慈子	293
心理学特殊実験Ⅱ	吉田 和典・森本 文人	295
高齢者心理学	水上喜美子	297
消費者心理学	山本 雅代	299
対人心理学	大森 慈子	301
多変量解析演習	早川 清一	303
産業カウンセリングⅠ	久保 陽子	305
産業カウンセリングⅡ	吉水ちひろ	307
心理学特別演習Ⅰ	複数で担当	309

<コミュニケーション学科専門科目>

ビジネスコミュニケーション研究	升田 法継	310
日本文化論	大河 晴美	312
企画開発研究a	谷 雅徳	314
企画開発研究 b	金田 明彦	316
コミュニケーション技法Ⅱa	柚谷 英紀	317
コミュニケーション技法Ⅱb	谷 雅徳	319
地域メディア論	升田 法継	321
メディア・コミュニケーション論	升田 法継	323
メディア制作 a	金田 明彦	325
メディア制作 b	野尻 昌明	326
ビジュアル・コミュニケーション演習 a	金田 明彦	328
ビジュアル・コミュニケーション演習 b	金田 明彦	329
ビジネス能力論	吉田 史朗	330
ビジネス能力研究	吉田 史朗	332
英語学研究Ⅱ（談話分析）	矢橋 知枝	334
英語文章表現法 a	紺渡 弘幸	335
英語文章表現法 b	紺渡 弘幸	337
メディア英語研究 a	矢橋 知枝	339
メディア英語研究 b	矢橋 知枝	340
英米文学研究 a	原口 治	341
英語コミュニケーションa	ML スプリチャル	343
英語コミュニケーション b	ML スプリチャル	345
英語聴解技法a	矢橋 知枝	347
英語聴解技法 b	矢橋 知枝	348
ビジネス英語研究a	澤崎 敏文	349
英語プレゼンテーション技法a	フット晴美	351
英語プレゼンテーション技法 b	フット晴美	353
現代社会研究Ⅱ	島岡 哉	355
臨床社会学	宝月 誠	357
データ解析法 b	白川 俊之	358
社会調査演習a	島岡 哉・山中 千恵・白川 俊之	360
社会調査演習 b	島岡 哉・山中 千恵・白川 俊之	362
現代文化研究	山中 千恵	364
比較文化研究	山中 千恵	366
言語心理学	杉島 一郎	368
コミュニケーション特別演習Ⅰa	複数で担当	370
コミュニケーション特別演習Ⅰb	複数で担当	371

Ⅳ. 4年生

<学部共通科目>

海外語学研修	ML スプリチャル	372
フィールドワーク演習（ボランティア）	金田 明彦・谷 雅徳	374
フィールドワーク演習（国際交流）	ML スプリチャル	375

<心理学科専門科目>

学校臨床心理学	廣澤 愛子	377
障害者心理学	水田 敏郎	379
社会福祉概論	元村 妙子	381
心理学特別演習Ⅱ	複数で担当	383
卒業研究	複数で担当	384

<コミュニケーション学科専門科目>

デザイン運用論	二口誠一郎	385
英語学研究Ⅱ（談話分析）	矢橋 知枝	387
英米文学研究b	原口 治	388
ビジネス英語研究b	澤崎 敏文	390
現代社会特論Ⅰ	八木 秀夫	392
現代社会特論Ⅱ	島岡 哉	394
コミュニケーション特別演習Ⅱa	複数で担当	396
コミュニケーション特別演習Ⅱb	複数で担当	397
卒業研究	複数で担当	398

Ⅴ. 特設科目

<教職に関する専門科目>

教職論	高野 秀晴	399
教育原理	高野 秀晴	401
教育心理学	大野木裕明	403
教育経営論	奥谷 崇	405
教育課程・特別活動論	高野 秀晴	407
英語科教育法Ⅰ	フッド晴美	409
英語科教育法Ⅱ	フッド晴美	411
英語科教育法Ⅲ	紺渡 弘幸	413
英語科教育法Ⅳ	紺渡 弘幸	415
道德教育の理論と方法	高野 秀晴	417
教育の方法と技術	宮川 祐一	419

教育相談	佐々木雅代	421
事前・事後指導	紺渡 弘幸・フット晴美	422
教育実習Ⅰ	紺渡 弘幸	424
教育実習Ⅱ	紺渡 弘幸	426
教職実践演習	紺渡 弘幸・フット晴美・奥谷 崇	428

<日本語教員養成に関する専門科目>

日本語教授法a	大河 晴美	430
日本語教授法 b	大河 晴美	431
日本語教育課程論	笹原 幸子	432
日本語指導技法a	笹原 幸子	434
日本語指導技法 b	笹原 幸子	436

仏教の人間観 (Views on the Humanity of Buddhism)			担当教員	都路 恵子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1111	2 単位	1 年前期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 全学共通科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		■計画実行能力		■選択能力	
				■社会・職業理解能力	
				■課題解決能力	

授 業 の 内 容
この授業では、2500年前インドに生まれたブッダ(釈尊)の悟りの内容を、日々の生活の中で活用・実践できる形で紹介します。通常外に向いている私たちの目を、逆に私たちの内側に向け、自分自身の心と対話するスタイルで、授業は進みます。自分をより明確に知る。それが、本授業の大きなテーマです。 又、毎回授業の最後に書いて頂く「感想文」から次回の授業テーマを決める、(学生と教員との)キャッチボール形式で授業を進めます。
授 業 の 到 達 目 標
・ 仏教の智慧を自分の生活の中で、活用実践できるようになる。 ・ 自分自身の「心の声」に気づき、その内容を具体的に言語化する。又、身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業を一致させて現実化する仕組みを理解する。
授 業 の 計 画
第1回：イントロ(1) 自己紹介スピーチ、新興宗教と伝統仏教の違い 第2回：イントロ(2) 悩みの構造、「人の目」の正体 第3回：ブッダ(1) 身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業が現実を作る ：いのちのつながり、生の誕生 第4回：ブッダ(2) 身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業が現実を作る：生と死 第5回：ブッダ(3) 身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業が現実を作る：豊かさとは？幸せとは？ 第6回：ブッダ(4) 身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業が現実を作る ：夢のコラージュで知る自分の「色」 第7回：ブッダ(5) 初転法輪：悟りの内容は、人から人へ 第8回：聖徳太子(1) 十七条の憲法① 第9回：聖徳太子(2) 十七条の憲法② 第10回：聖徳太子(3) 十七条の憲法③ 第11回：親鸞 自らの心の声を灯とした生き方：親鸞と恵信尼の結婚・在家仏教の誕生 第12回：生き方としての仏教(1) 自らの自灯明に気づこう 第13回：生き方としての仏教(2) 仁愛大学の仏教モニュメント紹介 第14回：まとめ、スピーチ大会のリハーサル 第15回：最終スピーチ大会「自らの心の声を灯とした生き方について」 －いのちのつながりの中で、世界に一つだけの花を咲かせよう－ 第16回：学期末テスト
授 業 外 の 学 習 方 法
・ 図書館2階にある指定図書コーナー(授業中に紹介する)にある書籍など、興味のある本をどんどん読んでみる。 ・ 魅力的だと感じる人の生き方・働き方についての本やDVDなどを見ることで、自分の人生を具体的にイメージすること。こうしたいと思ったことは、身・口・意の三業を一致させ続けて、現実化する感覚をつかむこと。
成 績 評 価 方 法
レポート(10%)、毎回の感想文の内容(20%)、最終スピーチ大会内容(20%)、平常点(20%)、学期末テスト(30%) 平常点は、講義の聞き方、グループワークなどへの参加態度等で総合的に判断します。

成 績 評 価 基 準
・ 仏教に対して、正しい理解ができているか。 ・ 仏教の智慧を自分の人生に活用実践できるよう、自分の中で深く解釈しているか。 ・ 自分自身と誠実に向き合い、どのように生きていきたいかという問いに対する答えを自分の中から導き出し、それを具体的に言語化できているか。
テキスト、参考図書
福井仁愛学園『和』、『礼讃抄』、プリントを使用。
その他(受講上の注意)
担当者による15回の授業以外に福井仁愛学園の理念及び本学の開設の趣旨を理解し、仁愛大学生としての自覚を深めることを目的として禿了滉学園長講演(2回)を実施する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生命の倫理 (Bioethics)			担当教員	都路 恵子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1122	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
池田晶子著「14歳からの哲学ー考えるための教科書」を、自らが考える手がかりとし、受講生が考えたい様々なテーマについて、共に考え、グループディスカッションを通して、互いに考えを深める授業形式を取ります。「自分の問いに、自分で考え、自分にとっての答えを導き出せる思考力」を身につけることが、本授業のテーマです。その中で、自分自身にとってのQOL(Quality of Life)の高い生き方とはどのように生きることなのか？を具体的に見出すことを目標とします。
授 業 の 到 達 目 標
・自分の問いに、自分で考え、自分自身が納得できる答えを導き出せる論理的思考力を身につけること。 ・ディスカッションの中で、自分自身の考えを表現し、クラスメイトとの語り合いの中で、新たな考えを導き出すこと。 ・自分自身にとってのQOL(Quality of Life)の高い生き方とはどのように生きることなのかを明確に言語化すること。
授 業 の 計 画
第1回：イントロ(1) 初回スピーチ：この授業を通して、何を学び、どのような成長がしたいのか？ 第2回：イントロ(2) 「生命」についてのShow&Tellスピーチ 第3回：生の誕生(1) 第4回：生の誕生(2) 第5回：生きることの意味(1) 第6回：生きることの意味(2) 第7回：死の受容・ホスピス(1) 第8回：死の受容・ホスピス(2) 第9回：命の受け渡し(1) 第10回：命の受け渡し(2) 第11回：QOL(Quality of Life)とは？(1) 第12回：QOL(Quality of Life)とは？(2) 第13回：まとめ(1) レポート提出 第14回：まとめ(2) ラストディスカッション、スピーチ大会リハーサル 第15回：まとめ(3) スピーチ大会
授 業 外 の 学 習 方 法
・図書館2階にある指定図書コーナー(授業中に紹介する)にある書籍など、興味のある本をどんどん読んでみる。 ・毎回宿題となるテキストの章を何度も読み、自分なりの考えを言葉にしてくる。
成 績 評 価 方 法
レポート(50%)、毎回のディスカッション・感想文の内容(30%)、平常点(20%) 平常点は、講義の聞き方、テキストの理解度、スピーチ内容等で総合的に判断します。
成 績 評 価 基 準
・テキストの内容について理解し、その事柄について、自分の考えを論理的に記述できること。 ・ディスカッションの中で、自分自身の考えを表現できるかどうか。クラスメイトとの語り合いの中で、新たな考えを導き出すことができるかどうか。 ・QOLの高い生き方について、自分にも他人にも具体的に伝えることができるかどうか。

テキスト、参考図書	
池田晶子「14歳からの哲学 ― 考えるための教科書」(トランスビュー)、及びプリントを使用。	
その他(受講上の注意)	
・ 15回無遅刻・無欠席の学生には、皆勤賞を差し上げます。(原則として全出席を求め、遅刻は認めません。毎回テキスト課題についてのディスカッションで次につなげていく、連続する授業スタイルの為。) ・ 初回のガイダンスには、必ず出席のこと。	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

人間の教育 (Human Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1123	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実証的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
ヒトが人になるためには教育が必要だと言われる。こうして私たちも教育を受けてきたわけだが、私たちがこれまで学んできたことは、そもそも一体何だったのだろうか？ そして、今、大学で学んでいることには一体何の意味があるのか？ これからの人生にいかに関与するのか？ しないのか？ この授業では、有史以来の人間の教育の様々なあり方を通観することを通じて、上記の問いを考察していく。
授 業 の 到 達 目 標
「教育によって形成されてきた／されつつある自己」の成り立ちとゆくえについて理解を深め、自ら考察する力を身につけること。これがこの授業の到達目標である。したがって、この授業では下記の成果が求められる。 ・自らがこれまで受けてきた教育の意味について説明することができる。 ・現代における教育の社会的役割を分析することができる。 ・自らの今後のあり方を、教育の観点から展望することができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：生きることと教育 第3回：食べることと教育 第4回：よく生きることと教育 第5回：人は何のために成長するのか 第6回：老いと死と教育 第7回：価値の伝達・贈与と教育 第8回：生涯教育について 第9回：「できない」ということ 第10回：はたらくことと教育 第11回：日本型企業中心社会と教育 第12回：キャリア教育について 第13回：子どもの面倒は誰が見るのか 第14回：家族の歴史的変遷と教育 第15回：愛について 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
授業では幅広いトピックを取り上げるため、トピックの概要しか述べることができない。したがって、授業時に紹介される参考文献や配布資料を参照しながら、各トピックについて、各自でノートにまとめ直す作業が必要となる。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 授業時の課題(30%)
成 績 評 価 基 準
現代における教育の社会的役割を分析的に記述することができるか。 教育に関する諸問題を自己と関連付けながら記述することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
必要に応じて、プリントを配布する。

その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

芸術の世界 (The World of Art)			担当教員	中野 研也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1121	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
さまざまな音楽・美術作品の魅力や特徴を探る。
授 業 の 到 達 目 標
音楽・美術などの芸術についての知識を身に付け、自分なりの考えを持つことができる。
授 業 の 計 画
第1回：音と音楽、さまざまな種類の音楽について 第2回：音階とメロディー、拍子(ビート)とリズム、和声(ハーモニー) 第3回：西洋の音楽 1 (バッハからストラヴィンスキーまで) 第4回：西洋の音楽 2 (現代音楽と私達) 第5回：西洋の音楽 3 (新たな潮流) 第6回：音楽鑑賞・視聴 1 ～器楽作品(予定) 鑑賞レポート 第7回：美術・デザイン 1 ～美術は如何にして生まれ、どのように発達したか 第8回：美術・デザイン 2 ～音楽と美術との関係を探る 第9回：世界の民族音楽と日本の伝統音楽 第10回：ジャズ 1 第11回：ジャズ 2 第12回：ロック、ポピュラー音楽 1 第13回：ロック、ポピュラー音楽 2 第14回：音楽を制作する・音楽を記録する 第15回：音楽鑑賞・視聴 2 ～ミュージカル作品(予定) 鑑賞レポート 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
授業で配布した資料と、授業で話した内容のメモを見返して下さい。
成 績 評 価 方 法
2 度のレポート(20%)、定期試験(40%)、授業への参加状況(40%)で評価する。
成 績 評 価 基 準
音楽や美術に関しての通論および通史的な知識が身につく、かつ自分なりの考えを持つことができたか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
試験問題は、授業で話した事と配布資料(プリント)から出すので、配布物と自分でメモをとったものは試験まで無くさずに持っておくこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と環境 A (Human Beings and the Environment A)			担当教員	鳴瀬 みどり	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1131	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☒ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
ヒトの健康の保持・増進における食・栄養の重要性を理解し、私たちを取り巻く生活環境や様々な情報、そして食生活の変化が、人体の持つ特性(恒常性)を妨げ、私たちの健康維持にどのような影響を与えているかについて学習する。 これらのことを通して、食品、サプリメント、薬等、普段私たちの身近にあるものに関して、その必要性や効果を正しく理解し、情報に惑わされることなく自らの判断で必要な情報や商品を選択・活用し、個々の健康な生活に役立てることができる。
授 業 の 到 達 目 標
・健康についての基本的な概念や制度、健康の維持・増進のために重要な事項、問題点等について説明できる。 ・世界と日本の食文化や現在の食糧事情について説明ができる。 ・食生活について栄養の重要性や食品の安全性、運動との関わり等について理解し、説明ができる。
授 業 の 計 画
第1回：はじめに：私たちを取り巻く食物および環境 第2回：食の歴史 第3回：健康に関する社会制度 第4回：世界と日本の食 第5回：栄養面からみた食生活①（炭水化物と食物繊維） 第6回：栄養面からみた食生活②（タンパク質とアミノ酸） 第7回：栄養面からみた食生活③（脂質の種類と役割） 第8回：栄養面からみた食生活④（ビタミン・ミネラルの役割と機能） 第9回：栄養と運動 第10回：安全面から見た食生活①（食品の安全性と健康被害） 第11回：安全面から見た食生活②（食品添加物） 第12回：安全面から見た食生活③（食品の品質） 第13回：安全面から見た食生活④（サプリメント～情報に惑わされないために～） 第14回：食品と医薬品との相互作用(飲み合わせ) 第15回：大麻・麻薬・覚せい剤の基礎知識と乱用防止、まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
・予習は特に要求しない。 ・新聞・ニュース等で報じられる食糧事情、食を取り巻く環境、健康の維持・増進に関する項目について日頃から興味を持つように努めること。 ・各回の講義内容についてよく復習し、各自が書籍や新聞などから積極的に情報を収集し、自己学習すること。 ・授業中の不明な点は、授業の前後に教員に質問するなどして理解を深めること。 「自身の健康とは何か」「心身ともに健康に生きていくために重要なこと」等についてよく考えてください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%)、課題レポート(20%)、平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断する)

成 績 評 価 基 準
・健康の概念、健康の維持・増進について理解できているか。 ・食の歴史や文化、日本の食糧事情や食を取り巻く環境について理解できているか。 ・栄養素の機能、食品の安全性、栄養と運動の関わりについて理解できているか。 ・食品、サプリメント、医薬品、麻薬・覚せい剤について正しく理解できているか。
テキスト、参考図書
吉田勉監修 『私たちの食と健康－食生活の諸相－』 三共出版 2011年 必要に応じて、講義用資料を出席者に配布する。
その他(受講上の注意)
・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・課題レポートなどは、提出期限を必ず守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と環境C (Human Beings and the Environment C)			担当教員	八木 秀夫	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1132	2単位	1年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■ 自他の理解能力 □ コミュニケーション能力 □ 情報収集・探索能力 ■ 社会・職業理解能力 ■ 役割把握・認識能力 □ 計画実行能力 □ 選択能力 □ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
人間の最も身近な社会的環境は家族である。人間は家族の中に生まれ、他の家族成員との相互作用の中で自分自身と家族を変化させていく。社会的環境としての家族の所与性とその変革の可能性を考えていく。
授 業 の 到 達 目 標
社会的環境として家族が全体社会システムのなかで果たす意義・役割、集団特性、基本的機能を理解するとともに、よりよい家族環境を築くための知識を獲得する。
授 業 の 計 画
第1回：社会的環境としての家族 第2回：家族の時代(1) 第3回：家族の時代(2) 第4回：家族の時代(3) 第5回：家族の集団的特徴(1) 第6回：家族の集団的特徴(2) 第7回：家族の集団的特徴(3) 第8回：家族の基本的機能(1) 第9回：家族の基本的機能(2) 第10回：家族の基本的機能(3) 第11回：機能的家族と機能不全家族(1) 第12回：機能的家族と機能不全家族(2) 第13回：機能不全家族で育った子供たちの問題 第14回：家族の回復力 第15回：おわりに 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
e-learningで毎回の授業内容を確認し、そこにアップロードされた資料を読んでおくこと。 資料の内容の理解度を知るために小テストを行う。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、小テスト(30%)、平常点(20%) 平常点は、授業への参加状況、受講態度、クイズの解答状況を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
社会的環境として家族が全体社会システムのなかで果たす意義・役割、集団特性、基本的機能を理解しているか。 よりよい家族環境を築くための知識を獲得できているか。

テキスト、参考図書
テキスト；使用しない 参考資料、図書資料 クリントン、ブッシュ、オバマ大統領のNational Family Week 等の宣言文 Communitarian Networkのいくつかのpapers J. Miller Living Systems McGraw-Hill 1978 J.ヘイリー『戦略的心理療法』黎明書房 1963 L.ホフマン『システムと進化 家族療法の基礎理論』朝日出版 1981 S.ミニューチン『家族と家族療法』誠信書房 1974 J. Lewis, R. Beavers, T. Gessett, A. Phillips No Single Thread: Psychological Health in Family Systems Brunner/Mazel, Publishers 1976, and other papers Walsh, F(ed.) Normal Family Process, The Guilford Press, 1992, and other papers その他 授業で紹介する
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツと健康 (Sports and Health)			担当教員	野田 政弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1133	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☐コミュニケーション能力 ☐情報収集・探索能力 ☐社会・職業理解能力 ☐役割把握・認識能力 ☒計画実行能力 ☐選択能力 ☒課題解決能力					

授 業 の 内 容
現代社会においてスポーツや運動など日常生活におけるさまざまな身体活動は、人々が健康な生活を送るうえで重要な役割を果たしている。スポーツや運動にみられる身体現象を運動生理学やスポーツ心理学、スポーツ社会学などの観点から科学的に探求し理解を深める。
授 業 の 到 達 目 標
健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できる。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できる。
授 業 の 計 画
第1回：健康の捉え方と獲得するためのポイント 第2回：生活習慣病と関連する要因 第3回：体力とは何か① 第4回：体力とは何か② 第5回：運動のしくみ① 第6回：運動のしくみ② 第7回：トレーニング理論とトレーニング方法 第8回：健康を維持・増進するための運動、ダイエット計画 第9回：運動と水分補給、熱中症 第10回：ウォーミングアップとクーリングダウン 第11回：応急手当 第12回：スポーツと心理のかかわり 第13回：今日の学校保健の問題 第14回：欲求、ストレスと疲労への対処法 第15回：地域とスポーツのかかわり、社会におけるスポーツの役割 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、自身の日常生活におけるスポーツ・運動や健康について理解や関心を深める。
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
健康、生活習慣病、体力、運動のしくみなどに関する理論について理解できている。スポーツや運動などの身体活動が人の心身に及ぼす影響について理解できている。
テ キ ス ト、参 考 図 書
出村慎一編著、「健康・スポーツ科学講義 第2版」、杏林書院 2012
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるように。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツA (Sports A)			担当教員	山村 恵子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1134	1 単位	1 年前期	実技	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
生涯スポーツ、テニスを楽しむことを目指し、健康維持増進、体力の向上をねらいとする。
授 業 の 到 達 目 標
硬式テニスと軟式テニスとの違いを知り、ラケットの扱いやボールコントロール・サーブが出来るようになり、シングルス・ダブルスのゲームが出来ることを目標とする。 自他理解能力、コミュニケーション能力、計画をたて実行出来る能力を養成する。
授 業 の 計 画
第1回：ガイダンス、硬式テニス競技の日本における歴史と変遷。個人基本技の説明。 第2回：準備体操(ストレッチ)フットワーク(以後毎週行う。)個人技の習得(グリップング・素振り・ボール慣れ) 第3回：個人技の習得(ストローク・バック・ボレー) 第4回：基本技(毎週行う)/サーブ シングル反面ゲーム/攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。/ゲーム管理・運営を学習する/基本技のスキルテスト① 第5回：基本技(毎週行う)/サーブ シングル反面ゲーム/攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。/ゲーム管理・運営を学習する/基本技のスキルテスト② 第6回：基本技(毎週行う)/サーブ シングル反面ゲーム/攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。/ゲーム管理・運営を学習する/基本技のスキルテスト③ 第7回：基本技(毎週行う)/サーブ シングル反面ゲーム/攻撃、防御の動きについてメンバーの特質を理解する。/ゲーム管理・運営を学習する/基本技のスキルテスト④ 第8回：基本技(毎週実施)ダブルスゲーム/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。/作戦・戦略について・審判法を学習する。① 第9回：基本技(毎週実施)ダブルスゲーム/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。/作戦・戦略について・審判法を学習する。② 第10回：基本技(毎週実施)ダブルスゲーム/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。/作戦・戦略について・審判法を学習する。③ 第11回：基本技(毎週実施) ダブルスゲーム/団体リーグ戦/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。① 第12回：基本技(毎週実施) ダブルスゲーム/団体リーグ戦/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。② 第13回：基本技(毎週実施) ダブルスゲーム/団体リーグ戦/体力・技術等メンバー構成に等質性を考慮する。③ 第14回：作戦・戦略について学習する。 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義(実技)を受けた後、地域、クラブで実践する。 個人技の向上に努力する。
成 績 評 価 方 法
技術の習得(70%)、平常点(30%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
軟式テニスと硬式テニスの違いを理解できているか。 ラケットの扱いやボールコントロール・サーブができるか。 シングルス・ダブルスのゲームができるか。

テキスト、参考図書	
必要に応じて授業内で配付する。	
その他(受講上の注意)	
原則として全出席を求め、遅刻、早退は認めない。 トレーニングウェア着用のこと。原則として見学の場合もトレーニングウェア着用のこと。 春先、外気温が上がるため、水分補給に注意する。	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

スポーツB (Sports B)			担当教員	山村 恵子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1135	1 単位	1 年後期	実技	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
バスケットボールを楽しむことを目指し、健康維持増進、体力の向上をねらいとする。
授 業 の 到 達 目 標
自他の理解能力、コミュニケーション能力、計画をたて実行できる能力を養成する。 バスケットボールのスピードあるボールコントロール・フォーメーションプレーなどがスムーズにできることを目標とする。
授 業 の 計 画
第1回：ガイダンス、バスケットボールの歴史と変遷・個人基本技の説明 第2回：準備体操(ストレッチ)毎回行う ボディーコントロール フットワーク/ボールコントロール パス・ドリブル・シュート/個人技の習得 1対1 2対2/ ① 第3回：準備体操(ストレッチ)毎回行う ボディーコントロール フットワーク/ボールコントロール パス・ドリブル・シュート/個人技の習得 1対1 2対2/ ② 第4回：準備体操(ストレッチ)毎回行う ボディーコントロール フットワーク/ボールコントロール パス・ドリブル・シュート/個人技の習得 1対1 2対2/ ③ 第5回：基本技(毎週実施)/ オフェンス コンビネーションプレー(パス&ゴー・スクリーンプレー)/ 3対3 基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプシュート・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(5分間ゲーム) ① 第6回：基本技(毎週実施)/ オフェンス コンビネーションプレー(パス&ゴー・スクリーンプレー)/ 3対3 基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプシュート・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(5分間ゲーム) ② 第7回：基本技(毎週実施)/ オフェンス コンビネーションプレー(パス&ゴー・スクリーンプレー)/ 3対3 基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプシュート・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(5分間ゲーム) ③ 第8回：基本技(毎週実施)/ オフェンス コンビネーションプレー(パス&ゴー・スクリーンプレー)/ 3対3 基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプシュート・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(5分間ゲーム) ④ 第9回：基本技(毎週実施)/ オフェンス コンビネーションプレー(パス&ゴー・スクリーンプレー)/ 3対3 基本的フォーメーション(タイミング・スペーシング)/ 個人技能評価・ゴール下ジャンプシュート・ジグザグドリブル/体力・技能等メンバー構成に特質性を考慮する(5分間ゲーム) ⑤ 第10回：基本的スキルテスト/基本技(毎週実施)/ 5対5 防衛インフォメーション/全面での攻防(5分間ゲーム)/ 作戦・戦略・審判法について学習する ① 第11回：基本的スキルテスト/基本技(毎週実施)/ 5対5 防衛インフォメーション/全面での攻防(5分間ゲーム)/ 作戦・戦略・審判法について学習する ② 第12回：基本的スキルテスト/基本技(毎週実施)/ 5対5 防衛インフォメーション/全面での攻防(5分間ゲーム)/ 作戦・戦略・審判法について学習する ③ 第13回：基本的スキルテスト/基本技(毎週実施)/ 5対5 防衛インフォメーション/全面での攻防(5分間ゲーム)/ 作戦・戦略・審判法について学習する ④ 第14回：基本的スキルテスト/基本技(毎週実施)/ 5対5 防衛インフォメーション/全面での攻防(5分間ゲーム)/ 作戦・戦略・審判法について学習する ⑤ 第15回：ゲームまとめ

授業外の学習方法
各回の講義(実技)を受けた後、個人技の向上に努力する。
成績評価方法
技術の習得(70%)、平常点(30%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
成績評価基準
スピードのあるボールコントロール・フォーメーションプレーなどがスムーズにできるか。
テキスト、参考図書
必要に応じて授業内で配付する
その他(受講上の注意)
原則として全出席を求め、遅刻、早退は認めない。 トレーニングウェア着用のこと。 原則として見学の場合もトレーニングウェア着用のこと。 授業中の水分補給は各自行う。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語 I a (English I a)			担当教員	矢橋知枝、ML スプリチャル、ME ハウカ、 バトラー田中ポール、山口和代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1141	1 単位	1 年前期	演習		必修
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容	
Following a 'Warm up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.	
授 業 の 到 達 目 標	
Upon finishing the course students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives, as well as be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.	
授 業 の 計 画	
第1回：Class Introduction 第2回：Unit 1 Introductions① 第3回：Unit 1 Introductions② 第4回：Unit 2 What a life!① 第5回：Unit 2 What a life!② 第6回：Unit 3 Free Time① 第7回：Unit 3 Free Time② 第8回：Review 第9回：Unit 4 Places① 第10回：Unit 4 Places② 第11回：Unit 5 Getting Around① 第12回：Unit 5 Getting Around② 第13回：Unit 6 Shopping① 第14回：Unit 6 Shopping② 第15回：Review 第16回：Examination	
授 業 外 の 学 習 方 法	
Before each unit students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the writing assignments suggested in the textbook, and accessing the online 'Digibook'(listening activities & video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will be tasked with self-study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy 2 software.	
成 績 評 価 方 法	
Outside-class Activities('Grammar reference' pages, homework assignments, 'Digibook' activities, NetAcademy 2 usage) - 30% Proactive In-class Participation - 30% Examination - 40%	

成 績 評 価 基 準
Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated as well the ability to read and comprehend short, written passages.
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 1 - Miles Craven - 2013 - Macmillan Education - ISBN 978-0-230-43813
その他(受講上の注意)
During the semester a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory (E-303) for the purpose of familiarizing students with the 'Digibook' activities and to familiarize students with the use of NetAcademy 2 software.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語 I b (English I b)			担当教員	矢橋知枝、ML スプリチャル、ME ハウカ、 バトラー田中ポール、山口和代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1142	1 単位	1 年後期	演習		必修
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容	
Following a 'Warm up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.	
授 業 の 到 達 目 標	
Upon finishing the course students will be able to express themselves freely in general conversation through exchanging personal information and talking about their daily lives, as well as be able to listen for key words and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short letters, descriptions, and articles on a variety of subjects.	
授 業 の 計 画	
第1回：Class Introduction 第2回：Unit 1 Introductions① 第3回：Unit 1 Introductions② 第4回：Unit 2 What a life!① 第5回：Unit 2 What a life!② 第6回：Unit 3 Free Time① 第7回：Unit 3 Free Time② 第8回：Review 第9回：Unit 4 Places① 第10回：Unit 4 Places② 第11回：Unit 5 Getting Around① 第12回：Unit 5 Getting Around② 第13回：Unit 6 Shopping① 第14回：Unit 6 Shopping② 第15回：Review 第16回：Examination	
授 業 外 の 学 習 方 法	
Before each unit students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the writing assignments suggested in the textbook, and accessing the online 'Digibook'(listening activities & video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will be tasked with self-study activities in preparation for the TOEIC through the use of NetAcademy 2 software.	
成 績 評 価 方 法	
Outside-class Activities('Grammar reference' pages, homework assignments, 'Digibook' activities, NetAcademy 2 usage) - 30% Proactive In-class Participation - 30% Examination - 40%	

成 績 評 価 基 準
Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated as well the ability to read and comprehend short, written passages.
テキスト、参考図書
Breakthrough Plus 1 - Miles Craven - 2013 - Macmillan Education - ISBN 978-0-230-43813
その他(受講上の注意)
During the semester a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory (E-303) for the purpose of familiarizing students with the 'Digibook' activities and to familiarize students with the use of NetAcademy 2 software.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語 I a (French I a)			担当教員	大竹口 麻里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1143	1 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
「フランス語技能検定試験(仏検)」の4級程度の、フランス語の発音と単語及び文の構造を学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
1) 綴り字と発音の関係を学び「早い段階で臆することなくフランス語を発音できる」ようになること。 2) 初級文法を学び簡単な会話文が読み書けるようになること。
授 業 の 計 画
第1回：フランス語について、ABCの発音、あいさつ 第2回：綴り字の読み方・リズムをつかむ発音練習 第3回：第1課 二人の出会い 第4回：練習問題 第5回：第2課 自己紹介をする 第6回：練習問題 第7回：第3課 好きなものをいう 第8回：練習問題 第9回：第4課 これはなんですか？ 第10回：練習問題 第11回：フランス映画鑑賞 第12回：第5課 ここはどこ 第13回：練習問題 第14回：第6課 年齢の話 第15回：練習問題 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
毎回の授業のあとで板書したノートとテキストでよく復習すること。
成 績 評 価 方 法
定期試60% 平常点40%(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
1) 綴り字と発音の関係を理解し、早い段階で臆することなくフランス語を発音できるか。 2) 初級文法及び簡単な会話文が読み書きができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
藤田裕二 『パリのクール・ジャパン』 朝日出版社 2011
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
辞書を毎回持ってくる。辞書については初回の授業で説明します。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語 I b (French I b)			担当教員	大竹口 麻里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1144	1 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実証的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
「フランス語技能検定試験(仏検)」の4級程度の、フランス語の発音と単語及び文の構造を学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
1) テキストの内容について滑らかにフランス語を発音できるようになること。 2) テキストの内容や自分自身について質問されたことについてフランス語で書くことができるようになること。
授 業 の 計 画
第1回：第7課 日本料理店に行く 第2回：練習問題 第3回：第8課 布団が好き 第4回：練習問題 第5回：第9課 店で買物をする 第6回：練習問題 第7回：フランス映画鑑賞 第8回：第10課 ジャパンエキスポ 第9回：練習問題 第10回：第11課 天候の話 第11回：練習問題 第12回：美術館に行く 第13回：練習問題 第14回：第10課 バカンス 第15回：練習問題 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
毎授業後早い段階で板書したノートとテキストで復習すること。
成 績 評 価 方 法
定期試60% 平常点40%(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
1) フランス語の滑らかな発音ができるか。 2) 簡単な質問に対してフランス語で回答できるか。
テキスト、参考図書
藤田裕二 『パリのクール・ジャパン』 朝日出版社 2011
その他(受講上の注意)
辞書は毎回持ってくること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語 I a (German I a)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1145	1 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
ドイツ語の発音と単語、文の構造を学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
ドイツ語のアルファベットの発音、単語の読み方、規則的な動詞変化(現在形)、定冠詞・不定冠詞の格変化を習得し、簡単なドイツ語のあいさつや、ドイツ語の単文をある程度読み、書き、発音することができるようになることを目的とする。
授 業 の 計 画
第1回：ドイツ語という言語の説明・アルファベット 第2回：いろいろな単語を発音してみよう。 第3回：単語と簡単なあいさつをしてみよう。 第4回：小テスト1 およびこれまでの復習 第5回：Lektion 1 エリ、アナと知り合う1(動詞の人称変化・定動詞第2位の法則) 第6回：Lektion 1 エリ、アナと知り合う2(動詞の不規則な人称変化) 第7回：Lektion 2 エリ、レストランへ行く1(名詞の格変化) 第8回：Lektion 2 エリ、レストランへ行く2(定冠詞と不定冠詞) 第9回：Lektion 2 エリ、レストランへ行く3(不定冠詞) 第10回：小テスト2 およびこれまでの復習 第11回：映像によってドイツ文化を知る1 第12回：Lektion 3 エリ、パーティに招待される(命令文) 第13回：名詞の複数形と定冠詞・不定冠詞変化 第14回：映像資料によってドイツ文化を知る2 第15回：これまでのまとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%)、平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
・ドイツ語の発音の規則を理解し、知らない単語にも応用することができるか。 ・動詞変化の基本的規則を理解し、自分で動詞を変化させることができるか。 ・英語にはない動詞の「性および格」について理解し、冠詞変化規則を応用することができるか。
テキスト、参考図書
(1)春日正男 松澤淳 『レッカー！レッカー！レッカー！—おいしく学ぶドイツ語—』 郁文堂 2007年 (2)在間進 『新キャンパス独和辞典』 郁文堂 2011年 初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。

その他(受講上の注意)

語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語 I b (German I b)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1146	1 単位	1 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
ドイツ語 I aにつづいて、ドイツ語のやや高次な初級文法について学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
ドイツ語の定冠詞・不定冠詞類の格変化、前置詞、助動詞を習得し、英語とは異なるドイツ語独自の「ワク構造」について理解する。
授 業 の 計 画
第1回：ドイツ語 I aの復習 第2回：Lektion 5 エリ、アナと料理をつくる～パートⅡの1 (人称代名詞) 第3回：Lektion 5 エリ、アナと料理をつくる～パートⅡの2 (前置詞1) 第4回：Lektion 5 エリ、アナと料理をつくる～パートⅡの3 (前置詞2) 第5回：小テスト1 第6回：Lektion 6 エリ、道をたずねる1 (助動詞とワク構造) 第7回：Lektion 8 エリ、風邪をひく1 (動詞の3基本形) 第8回：Lektion 8 エリ、風邪をひく2 (過去をあらわす文) 第9回：Lektion 8 エリ、風邪をひく3 (過去をあらわす文～不規則動詞の場合) 第10回：小テスト2 第11回：Lektion 9 エリ、映画を見に行く1 (完了形とワク構造) 第12回：Lektion 9 エリ、映画を見に行く2 (完了形の意味) 第13回：Lektion 7 エリ、ハイキングに誘われる (分離動詞とワク構造) 第14回：小テスト3 第15回：これまでのまとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
毎回プリントによる練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は、必ず復習しておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%)、平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
・冠詞類、動詞の不規則変化、前置詞、話法の助動詞、過去形について理解し、ある程度応用できるか。
テキスト、参考図書
(1)春日正男 松澤淳 『レッカー！レッカー！レッカー！—おいしく学ぶドイツ語—』 郁文堂 2007年 (2)在間進 『新キャンパス独和辞典』 郁文堂 2011年 初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明します。
その他(受講上の注意)
語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語 I a (Chinese I a)			担当教員	ショウ ロ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1147	1 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
中国語の学習を進めていく上で基礎知識を学習し、中国語の検定試験準 4 級のレベルをめざす。(10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。)
授 業 の 到 達 目 標
1、中国語の発音に関して、表音ローマ字の読み方と綴り方を取得する。 2、中国語の簡略字を正しく読み取れる。 3、基礎単語300語程度を覚える。 4、簡単な日常あいさつ用語30語程度を聞き取れる、応答ができる。 5、簡単な基本文型20語程度を取得し、基本的な事項の確認や、自分の意思を伝えられる。 6、演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。
授 業 の 計 画
第1回：中国の国土、民族など。中国語の表記法、文字、普通話、方言など 第2回：声調(四声)。母音。子音。その他の発音上の注意事項 第3回：人称代名詞。判断動詞“是” 第4回：中国語の基本的な語順。省略疑問詞。否定を表わす副詞“不” 第5回：疑問詞疑問文。動詞“在”。所有を表わす“有”。連動文 第6回：形容詞述語文。語気助詞 第7回：第1回～第6回の復習 第8回：存在を表わす“有”。数量詞の位置。所有・所属関係を示す“的” 第9回：指示代名詞。名詞述語文 第10回：語気助詞“了”。比較文“A比B～”。介詞“在～”。反復疑問文 第11回：動態助詞“了”。否定を表わす副詞“没(有)” 第12回：助動詞“想”。動詞の重ね型 第13回：主述述語文。場所を表わす代名詞 第14回：第8回～第13回の復習と確認 第15回：第1回～第14回の復習とまとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配る、これを見直しながら復習し次の講義に臨むこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 課題練習の成績(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
1、表音のローマ字の読みと綴りを行うことができるか。 2、常用簡略字が読み取れるか。 3、基礎単語300語程度が話せるか。 4、簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。 5、簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。

テキスト、参考図書
佐藤晴彦 監修 徐 送迎 著 『たのしくできる We Can! 中国語(初級)』 朝日出版社 2013年
その他(受講上の注意)
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語 I b (Chinese I b)			担当教員	ショウ ロ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1148	1 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
中国語を読むこと、話すことを重点において学習し、中国語の検定試験準 4 級を合格する。 (10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。)
授 業 の 到 達 目 標
1、中国語表音ローマ字による発音ができる。 2、基礎単語500語程度を使って、簡単な中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。 3、日常あいさつ用語50語程度を聞き取れる、応答ができる。 4、簡単な基本文型50語程度を利用し、基本的な事項の確認や、自分の意思を自然に伝えられる。 5、演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。
授 業 の 計 画
第1回：中国語 I aの重要事項の確認、復習 第2回：時量補語。時刻の言い方 第3回：動態助詞“過”。選択疑問文“是(A)、還是B” 第4回：年月日の言い方。結果補語。助動詞“会”(1)。介詞“給～” 第5回：助動詞“能”。疑問詞“几”と“多少” 第6回：副詞“在”。曜日の言い方 第7回：第1回～第6回の復習 第8回：“的”構文。助動詞“可以” 第9回：“是～的”構文。禁止を表わす副詞“別” 第10回：介詞“从～”。様態補語 第11回：単純方向補語。助動詞“要” 第12回：挿入語“听说～”。介詞“離～” 第13回：動量補語。動態助詞“着”。二重目的語。使役表現 第14回：第8回～第13回の復習 第15回：学習成果の確認。第1回～第14回の復習とまとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配る。これを見直ししながら復習し次の講義に臨むこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 課題練習の成績(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
1、表音のローマ字による発音ができるか。 2、簡単な中国語と日本語の訳ができるか。 3、簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。 4、簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。

テキスト、参考図書
佐藤晴彦 監修 徐 送迎 著 『たのしくできる We Can! 中国語(初級)』 朝日出版社 2013年
その他(受講上の注意)
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報リテラシーa (Information Literacy a)			担当教員	宮川 祐一、森本 文人、佐々木裕子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1151	2 単位	1 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
大学(および一般社会)において、学習や研究を進めるうえで必要となるコンピュータの基本的知識及び操作法を身につける。 特に、キーボードを見ずにキー入力ができるタッチタイピング技能、および日本語文書作成能力を身に付けることを主眼とする。
授 業 の 到 達 目 標
パソコンに関する基礎的な知識と学内ネットワークの利用、インターネットなどの基本的な使い方を理解する。文書作成ソフトWordを使い、基本的な日本語文書作成ができる。 タッチタイピングができる。 10分間で300文字以上の日本語文章を入力する能力を身に付けている。
授 業 の 計 画
第1回：学内ネットワーク利用、Windows 8 の基礎 1、タッチタイピング 1 第2回：各種設定、Windows 8 の基礎 2、タッチタイピング 2 第3回：メール設定、Windows 8 の基礎 3、タッチタイピング 3 第4回：Word入門 テキストp.77～104、タッチタイピング 4 第5回：Word文書の作成 テキストp.105～127、タッチタイピング 5 第6回：Wordの活用 1 テキストp.128～152 第7回：Wordの活用 2 テキストp.153～175 第8回：Wordの活用 3 テキストp.176～191 第9回：Word の応用 テキストp.192～219 第10回：プレゼンテーションソフトについて 第11回：Wordによるプレゼンテーション テキストp.220～236 第12回：Word活用 1 (ビジネス文書作成 1) 第13回：Word活用 2 (ビジネス文書作成 2) 第14回：Word活用 3 (ビジネス文書作成 3) 第15回：Word活用 4 (ビジネス文書作成 4)・まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 次の授業に向けて、教科書を参照しながら基本的な操作を確認しておく。 復習 授業内に指示した課題は、次の授業までに完成させておくこと。(提出の指示がある場合には、提出) また、やむを得ず欠席した場合には、休んだ回の例題や課題は次の授業までにすべて完成させて臨むこと。 タッチタイピング 練習ソフトウェア「Type Quick Profesional USB版」を用いた練習に取り組むこと。15～30時間の練習が必要。
成 績 評 価 方 法
定期試験(約70%) タイピング練習(約10%) 提出課題(約10%) 平常点(約10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成 績 評 価 基 準
ワープロソフトWordの基本的な利用ができるか。 タッチタイピングができるか。 タイピング練習を10時間以上したか。 10分間で300文字以上の日本語文章を入力する能力があるか。 （能力がないと判断した場合は、単位認定をしない） 基本的なビジネス文書の作成・編集ができるか。
テキスト、参考図書
『30時間でマスター Word2013』 実教出版 2014 教材：『Type Quick Profesional USB版』 日本データパシフィック （およそ2600円）
その他（受講上の注意）
この授業は、Word初心者を対象とした内容であるので、経験を有する者は情報活用aを受講すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報リテラシー b (Information Literacy b)			担当教員	宮川 祐一、森本 文人、佐々木裕子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1152	2 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
大学(および一般社会)において、学習や研究を進めるうえで必要となるコンピュータの基本的知識及び操作法を身につける。 特に、表計算ソフトの基本的な使用法を習得して、データの集計処理や活用法を身に付けることを主眼とする。併せて、タッチタイピング技能の向上を目指す。
授 業 の 到 達 目 標
表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフの作成ができる。 基本的な関数の使い方が理解できる。 表計算ソフトとワープロソフトの連携処理ができる。 タッチタイピングができる。 10分間で350文字以上の日本語文章を入力する能力を身に付けている。
授 業 の 計 画
第1回：文章入力問題、Excel 1(データ入力、集計、印刷) 第2回：Excel 2(グラフ作成、表の編集) 第3回：Excel 3(平均、表示形式) 第4回：Excel 4(罫線、ワークシートの活用) 第5回：Excel 5(ワークシートの活用2、いろいろな関数) 第6回：Excel 6(条件判定、グラフ) 第7回：Excel 7(グラフ2) 第8回：Excel 8(データベース機能) 第9回：Excel 9(データの集計、関数の活用1) 第10回：Excel 10(関数の活用2) 第11回：Excel 11(関数の活用3) 第12回：Excel 12(3D集計、WordとExcelの連携) 第13回：Excel Word総合問題 1,2 第14回：Excel Word応用問題 第15回：Excel Word総合問題 3 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 次の授業に向けて、教科書を参照しながら基本的な操作を確認しておく。 復習 授業内に指示した課題は、次の授業までに完成させておくこと。(提出の指示がある場合には、提出) また、やむを得ず欠席した場合には、休んだ回の例題や課題は次の授業までにすべて完成させて臨むこと。 タッチタイピング 練習ソフトウェア「Type Quick Profesional USB版」を用いた練習に取り組むこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(約80%) 提出課題(約10%) 平常点(約10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成 績 評 価 基 準
表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフの作成ができるか。 基本的な関数の使い方を理解しているか。 表計算ソフトとワープロソフトの連携処理ができるか。 タッチタイピングができるか。 10分間で350文字以上の日本語文章を入力する能力を身に付けているか。 (能力がないと判断した場合は、単位認定をしない)
テキスト、参考図書
『30時間でマスター Excel 2013』 実教出版 2014年 教材：『Type Quick Profesional USB版』 日本データパシフィック
その他(受講上の注意)
この授業は、Excel初心者を対象とした内容であるので、経験を有する者は情報活用bを受講すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用 a (Exercises in Information Literacy a)			担当教員	宮川 祐一、佐々木裕子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1153	2 単位	1年前期・2年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
オフィスソフトの1つであるWordを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
オフィスソフトWordに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験(Word2013)や、日本商工会議所の日商PC検定試験2級(文書作成)に合格できる能力レベルを目標としている。 文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できる。 さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できる。 既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。
授 業 の 計 画
第1回：文書処理に関する資格や検定試験概要、授業の進め方、実力診断用練習問題 第2回：文書の作成、書式設定 p.1～43 第3回：文章のオプション、印刷、保存 p.44～88 第4回：文字列、段落 p.89～135 第5回：文字列段落の並び替え、表とリスト p.136～186 第6回：参考資料の適用 p.187～209 第7回：オブジェクトの挿入と書式設定 p.210～248 第8回：総合練習問題 1 第9回：総合練習問題 2 第10回：総合練習問題 3 第11回：総合練習問題 4 第12回：総合練習問題 5 第13回：総合課題 1 第14回：総合課題 2 第15回：総合課題 3 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。 その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。 復習 特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。 テキスト付録の練習問題に取り組むこと。(これによって、着実にスキルは向上します)
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 課題(20%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)
成 績 評 価 基 準
限定した時間内(50分)で、文書作成ソフトウェアWordを使った文書編集や加工、設定変更などができるか。 関連する検定試験(日商PC検定 MOS試験)の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。

テキスト、参考図書
『MOS攻略問題集 Word 2013(模擬テストDVD-ROM付属)』 日経BP 2014年
その他(受講上の注意)
情報リテラシーa の受講を終えていることを前提とします。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用 b (Exercises in Information Literacy b)			担当教員	宮川 祐一、佐々木裕子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1154	2 単位	1年後期・2年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
オフィスソフトの1つであるExcelを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
オフィスソフトExcelに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験(Excel2013)や、日本商工会議所の日商PC検定試験2級(データ活用)に合格できる能力レベルを目標としている。 表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できる。 既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。 さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができる。
授 業 の 計 画
第1回：実力診断用練習問題(日商PC検定試験問題) 第2回：ワークシートやブックの作成、書式設定 p.1～57 第3回：ワークシートやブックのオプション、印刷・保存 p.58～105 第4回：セルやセル範囲の作成、書式設定 p.106～143 第5回：テーブルの作成 p.144～194 第6回：数式や関数の適用 p.195～236 第7回：グラフやオブジェクトの作成 p.237～267 第8回：総合練習問題1 第9回：総合練習問題2 第10回：総合練習問題3 第11回：総合練習問題4 第12回：総合練習問題5 第13回：総合課題1 第14回：総合課題2 第15回：総合課題3 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。 その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。 復習 特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。 テキスト付録の練習問題に取り組むこと。(これによって、着実にスキルは向上します)
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 提出課題(20%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)
成 績 評 価 基 準
限定した時間内(50分)で、表計算ソフトウェアExcelを使ったデータ編集や加工、設定変更などができるか。 関連する検定試験(日商PC検定 MOS試験)の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。

テキスト、参考図書
『MOS攻略問題集 Excel 2013(模擬テストDVD-ROM付属)』 日経BP 2014年
その他(受講上の注意)
情報リテラシーb の受講を終えていることを前提とします。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習 (Basic Seminar)			担当教員	久保 陽子、山本 雅代、森本 文人、 水上喜美子、片畑真由美、竹村 明子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1161	2 単位	1 年	演習		必修
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。
授 業 の 到 達 目 標
■本授業の内容や達成すべき目標について理解する。 ■学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。 ■履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。 ■大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。 ■附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成 第2回：専門分野の基礎学習 第3回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認 第4回：学修や研究に必要な文献検索方法(附属図書館利用法) 第5回：専門分野の基礎学習 第6回：専門分野の基礎学習 第7回：専門分野の基礎学習 第8回：専門分野の基礎学習 第9回：専門分野の基礎学習 第10回：専門分野の基礎学習 第11回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認 第12回：地域学習 第13回：専門分野の基礎学習 第14回：専門分野の基礎学習 第15回：専門分野の基礎学習 第16回：専門分野の基礎学習
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと。 復習として、授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次週の授業に臨むこと。
成 績 評 価 方 法
レポートまたはプレゼンテーション(50%) 平常点(50%) (平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
基礎的なアカデミック・スキル(学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法)が修得できているか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない
その他(受講上の注意)
■学生10名程度を1グループとして1名の担当教員を置く (この担当教員は、2年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う) ■授業は、原則としてグループ単位で行う。 ■授業の実施は、前期8回、後期8回を予定している
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

基礎演習 (Basic Seminar)			担当教員	島岡 升田 哉、加藤 優子、矢橋 知枝、 法継、大河 晴美
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HS-1161	2 単位	1 年	演習	必修
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目				
求める学習成果(教育目標)				
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力				

授 業 の 内 容
大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。
授 業 の 到 達 目 標
■本授業の内容や達成すべき目標について理解する。 ■学科の教育課程や教育制度、授業形態について説明を受け理解する。 ■履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。 ■大学での学び方を知るための講座、専門分野の基礎的な事柄についての演習を通して、自主学習を中心とした学習スタイルを確立し、学習に対する積極的な態度を身につける。 ■附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成 第2回：専門分野の基礎学習 第3回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認 第4回：学修や研究に必要な文献検索方法(附属図書館利用法) 第5回：専門分野の基礎学習 第6回：専門分野の基礎学習 第7回：専門分野の基礎学習 第8回：専門分野の基礎学習 第9回：専門分野の基礎学習 第10回：専門分野の基礎学習 第11回：学生生活についての担当教員による個人面談を行い、学習状況などを確認 第12回：地域学習 第13回：専門分野の基礎学習 第14回：専門分野の基礎学習 第15回：専門分野の基礎学習 第16回：専門分野の基礎学習
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍等を読み予備知識を得ておくこと。 復習として、授業時に配布された資料を見直す、または授業で取り上げられた事項を再考する等、理解したうえで次週の授業に臨むこと。
成 績 評 価 方 法
レポートまたはプレゼンテーション(50%) 平常点(50%) (平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
基礎的なアカデミック・スキル(学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法)が修得できているか。

テキスト、参考図書	
テキストは使用しない	
その他(受講上の注意)	
■学生10名程度を1グループとして1名の担当教員を置く (この担当教員は、2年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う) ■授業は、原則としてグループ単位で行う。 ■授業の実施は、前期8回、後期8回を予定している	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

キャリア・デザインⅠ			担当教員	植月 百枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1163	2単位	1年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
厳しい雇用環境のもと、企業が求めているのは高いビジネススキル(熟練した技術)をもった人材です。しかし、どれだけ優れた技術をもっていたとしても、それを支える心がなければ形だけのものになってしまいます。 この授業では、ビジネスで必要とされるマナーとルールをはじめ、仕事の基本、心のかよったコミュニケーションの方法などを学ぶとともに、ビジネス場面における電話応対、挨拶、ビジネス文書作成などの実践を取り入れ、ビジネス能力検定3級に合格できる能力レベルを目標としています。
授 業 の 到 達 目 標
・ 社会人のマナーやルールを理解する。 ・ 仕事における基本的な話し方、聞き方、伝え方を理解する。
授 業 の 計 画
第1回：キャリアと仕事へのアプローチ 第2回：仕事の基本となる8つの意識 第3回：コミュニケーションとビジネスマナーの基本 第4回：話し方ときき方のポイント 第5回：指示の受け方と、報告・連絡・相談 第6回：訪問と来客応対の基本マナー 第7回：ビジネス文書の基本と書き方 第8回：電話応対の基本と重要性 第9回：情報収集と効果的な活用法 第10回：会社を取り巻く環境と経済の基本 第11回：データの読み方、まとめ方 第12回：試験対策(模擬試験解答・解説) 第13回：ビジネスマナー実践 *挨拶(お辞儀)、電話応対、面接対応、敬語、報告・連絡① 第14回：ビジネスマナー実践 *挨拶(お辞儀)、電話応対、面接対応、敬語、報告・連絡② 第15回：ビジネスマナー実践 *挨拶(お辞儀)、電話応対、面接対応、敬語、報告・連絡③
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、テキストを熟読し、日頃から自分の成長を思い描き、キャリア形成について考えること。 復習として、授業で学んだ挨拶、お辞儀の仕方、敬語などの言葉づかいなどを実生活で実践すること。
成 績 評 価 方 法
授業中に実施する小テスト(50%)、平常点(50%) *平常点は授業への出席状況、受講態度、実践への取り組みなどを総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
・ ビジネスマナーの基礎知識を備えているか。 ・ 他者に敬意をはらい円滑なコミュニケーションをとることができるか。 ・ ビジネスにふさわしい言葉づかいを理解し積極的に実践できるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
『2015年版ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語文章表現 (Japanese Sentence Expression)			担当教員	大河 晴美、柚谷 英紀	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1162	1 単位	1 年前期・後期	演習		必修
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■ 自他の理解能力 ■ コミュニケーション能力 □ 情報収集・探索能力 ■ 社会・職業理解能力 □ 役割把握・認識能力 □ 計画実行能力 □ 選択能力 □ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
毎回、なんらかの文書を書くことを実践する。具体的には、文章作成の基本的ルール、文章構成、誤用文と推敲の方法、手紙などの形式、時事や日本文化についての小論文など。また、随筆の課題として、「ふくい風花随筆文学賞」への応募を考えている。
授 業 の 到 達 目 標
・与えられた課題に対して、自分の意見を組み立てた上で文章で表現し、相手を説得することができる。 ・さまざまな形式の表現に触れ、自分の考えを伝えるための作法や修辞法を会得する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：ノートの取り方 第3回：文章の構成とアウトライン(1) 第4回：文章の構成とアウトライン(2) 第5回：意見文を書く(1) 第6回：意見文を書く(2) 第7回：誤用文と推敲 第8回：修辞法と慣用句 第9回：随筆を書く(1) 第10回：随筆を書く(2) 第11回：手紙の書き方 第12回：レポートの作法(引用と注) 第13回：小論文を書く(1) 第14回：小論文を書く(2) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
返却した原稿をきちんと見直すこと。
成 績 評 価 方 法
随筆、小論文など課題作文(40%)、小テスト(20%)、毎回の提出物(20%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、コメント用紙の提出状況などを総合して判断する。)
成 績 評 価 基 準
作文は、構成や表記などの形式をまず重視し、加えて内容の充実度などを評価する。 文章表現のための基礎的な知識や作法を身につけているかを評価する。
テキスト、参考図書
西尾宣明編著『新版 日本語表現法「書く」「話す」「伝える」ための技法-』・樹村房・2013年
その他(受講上の注意)
文章表現は、実際に書くことによってのみ上達する。出席しても何も書かなければ?上達はないことを、肝に銘じておくように。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(ボランティア) (Fieldwork Practice (Volunteer))			担当教員	金田 明彦、谷 雅徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1164	2単位	1年～4年	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力■コミュニケーション能力■情報収集・探索能力■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力■計画実行能力■選択能力■課題解決能力					

授 業 の 内 容
本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。
授 業 の 到 達 目 標
それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。
授 業 の 計 画
地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。 4～7月 事前ガイダンスの実施と計画の提示 8～9月 現地にて研修 10～11月 事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報の収集
成 績 評 価 方 法
プログラムへの取組み(50%) レポート(20%) プレゼンテーション(30%)
成 績 評 価 基 準
課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。 ※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(国際交流) (Fieldwork Practice (International Exchange))			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1165	2 単位	1 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
[授業の形態・授業の計画] 本プログラムは、原則として「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に2週間の短期留学を実施する。語学学習を中心に、現地学校や日系企業の訪問、観光などの研修を実施し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。
授 業 の 計 画
4～8月 事前ガイダンスの実施と計画の立案・決定 9月 現地にて研修 10～11月 事後報告として、反省会・発表会の実施 1月下旬～3月中旬 次年度出発予定学生のための発表会等を行う。
授 業 外 の 学 習 方 法
準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。
成 績 評 価 方 法
事前ガイダンスへの取り組み(25%)、現地評価(50%)、事後のプレゼンテーションや課題レポートなど(25%)を総合評価する。
成 績 評 価 基 準
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
ALPより指示がある。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は6名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスと、本プログラムの参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 ※個人参加の海外語学研修および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、事前(海外語学研修は渡航の2ヶ月前)に担当教員または英語教育センターに問い合わせること。また、個人で参加する海外語学研修の期間については、夏期休暇期間または春期休暇期間とし、単位認定時期については、夏期休暇期間の場合は当該年度の後期に、春期休暇期間の場合は翌年度の前期に単位認定する。 ※単位認定については、参加する海外語学研修・国際交流等のプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学概論 I (Introduction to Psychology I)			担当教員	大森 慈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2101	2 単位	1 年前期	講義		必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 □計画実行能力		□情報収集・探索能力 □選択能力	
				■社会・職業理解能力 □課題解決能力	

授 業 の 内 容
心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問からはじめ、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。心理学の歴史を紹介し、心理学における主要なテーマといえる知覚や学習といった基礎的分野を理解する。
授 業 の 到 達 目 標
☒ 心の働きやシステムについて理解する ☒ 心理学の歴史や主要な人物および研究成果に関する知識を得る ☒ 心理学の基礎的分野における基本的な用語や内容の説明ができる
授 業 の 計 画
第1回：心理学とは 第2回：心理学の領域 第3回：心理学の歴史 第4回：感覚と知覚(1) 第5回：感覚と知覚(2) 第6回：生得的行動 第7回：初期経験 第8回：学習(1) 第9回：学習(2) 第10回：学習(3) 第11回：学習理論と行動療法 第12回：パーソナリティ(1) 第13回：パーソナリティ(2) 第14回：パーソナリティ(3) 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各回に関連する部分を読み、あらかじめ疑問点などをまとめておく。 復習として、授業時の板書や講義内容に基づいて各自が書き加えたノートを見直し、日常的な現象にあてはめて考え、理解を深める。
成 績 評 価 方 法
定期試験(90%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況、質問紙の提出状況などを総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
☒ 心の働きやシステムについて理解しているか ☒ 心理学の歴史や主要な人物および研究成果を知っているか ☒ 心理学の基礎的分野における基本的な用語や内容の説明ができるか
テキスト、参考図書
テキスト：『心理学の基礎』 今田寛・宮田洋・賀集寛共編 培風館 参考図書については適宜紹介する

その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学概論Ⅱ (Introduction to PsychologyⅡ)			担当教員	大森 慈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2102	2 単位	1 年後期	講義		必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 □計画実行能力		□情報収集・探索能力 □選択能力	
				■社会・職業理解能力 □課題解決能力	

授 業 の 内 容
心とは何か、心はどこにあるのか、という疑問に対し、人がどのように感じ、何を考え、どのように行動するのかを捉えることで、心の働きやシステムについて学ぶ。記憶や動機づけなど、心理学における主要なテーマに加え、ストレスや感情、さらに脳の働きを理解する。
授 業 の 到 達 目 標
☒ 心の働きやシステムについて理解を深める ☒ 心理学の研究における主要な人物および成果に関する知識を高める ☒ 心理学の基礎的または応用的分野における基本的な用語や内容の説明ができる
授 業 の 計 画
第1回：記憶と忘却(1) 第2回：記憶と忘却(2) 第3回：記憶と忘却(3) 第4回：動機づけ 第5回：欲求不満とストレス(1) 第6回：欲求不満とストレス(2) 第7回：欲求不満とストレス(3) 第8回：感情と情動(1) 第9回：感情と情動(2) 第10回：脳と心(1) 第11回：脳と心(2) 第12回：睡眠と覚醒(1) 第13回：睡眠と覚醒(2) 第14回：睡眠と覚醒(3) 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各回に関連する部分を読み、あらかじめ疑問点などをまとめておく。 復習として、授業時の板書や講義内容に基づいて各自が書き加えてノートを見直し、日常的な現象にあてはめて考え、理解を深める。
成 績 評 価 方 法
定期試験(90%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況、質問紙の提出状況などを総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
☒ 心の働きやシステムについて深く理解しているか ☒ 心理学の研究における主要な人物および成果を詳しく知っているか ☒ 心理学の基礎的または応用的分野における基本的な用語や内容の説明ができるか
テキスト、参考図書
テキスト：『心理学の基礎』 今田寛・宮田洋・賀集寛共編 培風館 参考図書については適宜紹介する

その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学研究法Ⅰ (Research Methods in PsychologyⅠ)			担当教員	吉田 和典	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2103	2 単位	1 年前期	講義		必修
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
授業中に実施する簡単な調査や実験を通じて、様々な主観的で直観的な心理現象を量的データとして客観的に分析する量的研究法の基礎的側面を概説する。
授 業 の 到 達 目 標
・心理学研究法の質的研究と量的研究の違いが理解できる。 ・質問紙を量的に分析できる。 ・心理学的尺度が作成できる。 ・基本的な統計的手法が使用できる。 ・基本的な心理学的実験法が理解できる。
授 業 の 計 画
第1回：心理学の研究とはⅠ 第2回：心理学の研究とはⅡ 第3回：心理学研究の歴史 第4回：量的研究と質的研究についてⅠ 第5回：量的研究と質的研究についてⅡ 第6回：質問紙による研究について 第7回：質問紙の作成と実施 第8回：心理尺度構成法の実施 第9回：データの信頼性と妥当性Ⅰ 第10回：データの信頼性と妥当性Ⅱ 第11回：実験法について 第12回：実験法実施(確率学習) 第13回：実験法実施(集中・分散学習) 第14回：実験法実施(迷路学習)Ⅰ 第15回：実験法実施(迷路学習)Ⅱ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、次回の内容について、参考図書などの関連箇所を調べておくこと。 復習として、毎回の授業内容をノート等にまとめ、調査や実験を実施した場合は、それらのデータを分析しておくこと。
成 績 評 価 方 法
調査・実験等のレポート5種類(70%)、平常点(30%) (平常点は、授業への参加、受講態度、授業期間での配布資料の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
・心理学研究法の量的研究が説明できるか。 ・質問紙を作成し、量的に分析できるか。 ・心理学的尺度が作成できるか。 ・相関やt検定など基本的な統計的手法が使用できるか。 ・基本的な心理学的実験法が実施できるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しなくて、その都度資料等を配布する。 参考図書：・「心理学研究法～データ収集・分析から論文作成まで～」大山正・岩脇三良・宮楚壽夫著、サイエンス社・「心理学研究法入門」南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編、東京大学出版会
その他（受講上の注意）
調査や実験課題を実施する週は必ず出席すること。欠席した場合は、その課題のレポートが提出できなくなります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学研究法Ⅱ (Research Methods in PsychologyⅡ)			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2104	2 単位	1 年後期	講義		必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
心理学における科学的＝実証的な方法論とは何か、その意義と限界を論じた上で、特に臨床心理学の諸研究を紹介しつつ、考える。
授 業 の 到 達 目 標
- 心理学における科学的＝実証的方法論の意義と限界を考えることができる。 - 心理学における自分の問題意識をあきらかにし、問題設定をおこない、研究のデザインを思い描くことができる。 - 他者の内界を研究する際、倫理的な配慮をすることができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：行動観察(幼児及び児童) 第3回：行動観察(思春期) 第4回：箱庭療法の実験的研究 第5回：箱庭療法の事例研究 第6回：描画テスト(星と波テスト)の研究 第7回：描画テスト(風景構成法)の研究 第8回：芸術療法の事例研究 第9回：個性記述的研究1 第10回：個性記述的研究2 第11回：心理療法の効果に関する基礎研究1 第12回：心理療法の効果に関する基礎研究2 第13回：研究の倫理 第14回：心理学の思想的背景 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
配布資料を見直し復習し、次の授業に臨んでください。その上で、将来卒業論文を書くことを念頭において、自分の日常的な思考や観察される現象において研究のヒントを探索し、問題意識を育むようにしてください。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
- 心理学における科学的＝実証的な方法論の意義と限界を理解できているか。 - 将来の卒業論文に発展しうるような問題意識を持ち、研究をデザインできるか。 - 他者の内界を研究するにあたっての倫理意識が持てているか。
テキスト、参考図書
テキストは特に使用しない。
その他(受講上の注意)
質問はメールでも受け付けます(nisimura@jindai.ac.jp)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理統計Ⅰ (Statistics for PsychologyⅠ)			担当教員	杉島 一郎、森本 文人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2107	2 単位	1 年前期	演習		必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☐コミュニケーション能力 ☒情報収集・探索能力 ☐社会・職業理解能力 ☐役割把握・認識能力 ☒計画実行能力 ☒選択能力 ☐課題解決能力					

授 業 の 内 容
心理統計法における記述統計を学ぶ。 心理学の実験や調査研究において必要となる統計的な基礎知識のうち、おもに尺度の水準と、データの整理や記述のしかたを中心とした記述統計の方法について学習する。授業中にできるだけ練習問題を取り入れて理解を深める。
授 業 の 到 達 目 標
・データの整理ができる。 ・統計的にデータの記述ができる。 ・尺度の概念を理解できる。 ・記述統計の概念を理解できる。 ・記述統計の計算ができる。
授 業 の 計 画
第1回：概説①(心理学における統計の意味) 第2回：概説②(心理学における統計の意味) 第3回：統計学の基礎①(変数の概念、色々な測定尺度) 第4回：統計学の基礎②(変数の概念、色々な測定尺度) 第5回：データ整理の方法①(度数分布とその図示法) 第6回：データ整理の方法②(度数分布とその図示法) 第7回：代表値と散布度① 第8回：代表値と散布度② 第9回：正規分布① 第10回：正規分布② 第11回：測定値の変換①(得点の標準化) 第12回：測定値の変換②(得点の標準化) 第13回：相関関係① 第14回：相関関係② 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の授業を受けた後、教科書やノート、配布資料を見直して復習し、理解を深めるようにしてください。また、練習問題を解くなど、計算やコンピュータ操作などのスキル向上を心がけて下さい。週2回ヘルプデスクを開設するので、先輩のSAにわからないところを相談できます。ぜひ活用してください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%)平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
・データの整理ができるか。 ・統計的にデータの記述ができるか。 ・尺度の概念を説明できるか。 ・記述統計の概念が説明できるか。 ・記述統計の計算ができるか。

テキスト、参考図書
『心理・教育のための統計法〈第3版〉』 山内光哉著 サイエンス社
その他(受講上の注意)
1年次後期に開講される「心理統計Ⅱ」と、2年次に開講される「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」は本授業で得られる基礎的知識が前提となる。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理統計Ⅱ (Statistics for PsychologyⅡ)			担当教員	杉島 一郎、水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2108	2 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☒ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
心理統計Ⅰ(記述統計)の内容をふまえて、さらに進んだ推測統計学の方法を解説し、演習します。具体的には、統計的仮説検定のうち、t 検定、分散分析の考え方について詳しく説明し、実際に自分でもデータの分析や検定ができるようにPCによる演習も行います。
授 業 の 到 達 目 標
統計的仮説検定の基本的な考え方を理解する。実際の仮説検定を行い、結果を理解する。
授 業 の 計 画
第1回：母集団と標本①(標本抽出、標準誤差) 第2回：母集団と標本②(標本抽出、標準誤差) 第3回：統計的仮説検定の考え方① 第4回：統計的仮説検定の考え方② 第5回：2つの平均値の差の検定①(t 検定) 第7回：2つの平均値の差の検定②(t 検定) 第8回：分散分析①(1要因、2要因) 第9回：分散分析②(1要因、2要因) 第10回：分散分析③(1要因、2要因) 第11回：分散分析④(1要因、2要因) 第12回：SPSSを用いたデータ分析① 第13回：SPSSを用いたデータ分析② 第14回：SPSSを用いたデータ分析③ 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
授業で解説した内容について、教科書で復習を行ってください。十分な予習を行うことも授業の理解を促します。また、心理統計Ⅰの内容の理解が前提となるので、復習をすることをすすめます。週2回ヘルプデスクを開設しますので、わからないことは先輩のSAに相談できます。ぜひ活用してください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
統計的仮説検定の基本的な考え方を説明することができるか。実際の仮説検定を行い、結果を解釈することができるか。
テキスト、参考図書
テキスト：『心理・教育のための統計法〈第3版〉』 山内光哉著 サイエンス社 参考図書：『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』 森敏昭・吉田寿夫編著 北大路出版 『統計学のはなし』 蓑谷千風彦著 東京図書 『SPSSにおける分散分析の手順』 遠藤健治著 北樹出版

その他(受講上の注意)
原則として「心理統計Ⅰ」の単位を履修している必要があります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

性格心理学 (Personality Psychology)			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABC-2125	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果（教育目標）					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
性格に関する諸理論を概観し、さまざまな個人差を理解するための枠組みについて学ぶ。その上で、自己や他者の性格をどのように理解し、対人関係の問題にどのように対処したらよいかを考える。
授 業 の 到 達 目 標
・ 性格心理学に関する基本的用語を説明できる。 ・ 性格に関する心理学研究について説明できる。 ・ 自分の性格について心理学的に考察し評価できる。
授 業 の 計 画
第1回：性格とは 第2回：性格の類型論① 第3回：性格の類型論② 第4回：性格の特性論① 第5回：性格の特性論② 第6回：脳と性格 第7回：性格の遺伝 第8回：ライフサイクルと性格 第9回：家族関係と性格 第10回：対人関係と性格 第11回：文化と性格 第12回：健康と性格 第13回：性格の病気：人格障害 第14回：性格の測定 第15回：まとめ 第16回：期末試験
授 業 外 の 学 習 方 法
授業終了時に、次の授業までにしてほしいことを指示する。 とくに指示がないときも、授業で聞いたことを、自分や自分の身の周りの体験と照らし合わせてゆっくり考えることが望ましい。 授業内容に関する質問がある場合は、積極的に研究室に来て質問すること。
成 績 評 価 方 法
学期末に実施する筆記試験(60%)と授業中に指示する課題・授業時の態度等(40%)をもとに評価する。
成 績 評 価 基 準
・ 性格心理学に関する基本的用語を説明できるか。 ・ 性格に関する心理学研究について説明できるか。 ・ 自分の性格について心理学的に評価できるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神分析論 (Psychoanalytic Theory)			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-AOO-2126	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
無意識を考えるフロイト以来の深層心理学を概説する。
授 業 の 到 達 目 標
・人間の心には意識できない無意識の部分があることを理解し、無意識の産物である夢や空想や神話を分析することができる。 ・自分とタイプの異なる他者あるいは異性を理解し、尊重する精神をもつことができる。 ・心を病んだ人々を理解し、その心に寄り添うことができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：フロイト 第3回：ユング 第4回：夢分析1 第5回：夢分析2 第6回：エディプス・コンプレックス 第7回：母娘コンプレックス 第8回：心の影 第9回：内なる異性 第10回：同性愛 第11回：自己愛 第12回：死の欲動 第13回：心の病理の精神分析的理解1 第14回：心の病理の精神分析的理解2 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
配布資料を見直して復習し、次の授業に臨んでください。その上で、講義で説明したことを、自分のことを振り返つつ、自分のことに重ね合わせ、理解を深めるようにしてください。できれば夢を記録し、分析してみてください。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
・精神分析やユング心理学の用語、概念を正しく理解し、夢や空想や神話を分析することができるか。 ・自分の心理傾向やタイプを理解し、他者の立場に立って、感じたり考えたりできるか。 ・心の病理を理解し、共に生きる者として、心を病む人に寄り添う姿勢を持つことができているか。
テキスト、参考図書
テキストは使用しない。
その他(受講上の注意)
質問はメールでも受け付けます(nisimura@jindai.ac.jp)。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学習心理学 (Learning Psychology)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABC-2129	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
学習による行動変容の法則を学び、臨床や教育、産業、日常生活に応用することを目指す。 学習とは経験により行動が変容する過程のことである。学校における勉強だけでなく、生活のあらゆる場面で私たちは学習し、自分の行動を変容させている。こうした行動変容は、環境に環境に存在する刺激との関係で法則化することができる。これまで明らかにされているさまざまな学習の方法について学び、日常生活に見られる色々な行動や、臨床的に問題のある行動、社会問題について理解を深め、社会において心理学が果たすべき意味を考えていく。
授 業 の 到 達 目 標
・ 種々の学習理論をその時代背景や社会的・臨床的問題とともに理解することができる。 ・ さまざまな行動について、学習理論による説明を試みることができる。 ・ 心理学が社会に対していかに貢献できるかを考えることができる。
授 業 の 計 画
第1回：学習とは 第2回：こころの概念と学習 第3回：生得的行動と学習された行動 第4回：ワトソンの行動主義と学習理論 第5回：古典的条件づけの基本 第6回：古典的条件づけで学習されること 第7回：新行動主義 第8回：オペラント条件づけの基本 第9回：強化スケジュール 第10回：強化子の役割と本質 第11回：行動変容と行動療法 第12回：回避(逃避)学習 第13回：学習理論の日常生活への応用 第14回：Learned Helplessness(あきらめの学習) 第15回：現代社会の諸問題と学習理論 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
毎回行うブリーフレポート(20%)、定期試験(80%)
成 績 評 価 基 準
・ 種々の学習理論をその時代背景や社会的・臨床的問題とともに説明することができるか。 ・ さまざまな行動について、学習理論による説明することができるか。 ・ 心理学が社会に対していかに貢献できるかを考えることができるか。

テキスト、参考図書
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。
その他(受講上の注意)
授業には積極的に参加し、指示された内容や自分の意見をブリーフレポートに書きこむようにしてください。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間関係論 a (Human Relations)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2101	2 単位	1 年前期	講義		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
自分と他人と関わることはどういうことかを、小レポートを書きながらじっくりと考えることで、具体的な企画や表現を実践する基礎となっていながらも、見過ごされがちなタイプの「自己理解・他者理解」について考察する。 身近な自他関係について、授業内で小レポートを書いてもらい、人間関係についてのテキストを読みながら、人間関係の横軸(友人・家族・世間)と縦軸(倫理や規範)について講義する。また、毎回の小レポートの書き方の指導を通じて、表現力の基礎を養う。また、後半なじんできたところでディスカッションなども取り入れる。
授 業 の 到 達 目 標
自分や他人との関わりをもつときに、特に意識していない要素(儀礼的無関心、距離の取り方、世間の圧力)などについて理解し、またそうした関わり全体を支配している、エートスや規範についても理解することを通じて、「自分」「他人」「関わり」という要素を掘り下げて考える。 この講義を通して、具体的な「企画や自己表現」の実践の土台となる自己や他者のより深い理解を目指す。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：人間の定義①～一般的な人間の定義の諸説 第3回：人間の定義②～「あいだ」を生きるものとしての人間～ 第4回：自分とはいったい何者なのだろうか 第5回：自己の多面性～ペルソナ・仮面 第6回：他人との距離感①～世間、世間体、人目 第7回：他人との距離感②～アクセサリや髪型が気になる理由 第8回：他人にどこまで口出しできるのか～広い意味での異文化 第9回：自分だけが得をしてはどうしていけないのか～エゴイズム 第10回：葛藤と対立の調停①～性悪説にもとづくルール 第11回：葛藤と対立の調停②～性善説にもとづくルール 第12回：葛藤と対立の調停③～人間本性の克服にもとづくルール 第13回：他者への気遣い～ケア 第14回：他者への気遣いの制度化～労働と感情労働 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで、授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。
成 績 評 価 方 法
平常点(50パーセント)、レポート(50パーセント) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況、内容を総合して判断する)

成 績 評 価 基 準
・「自己」「他人」「関わり」といった言葉を表層的にではなく、深く理解しているか。 ・日常特に意識していないが、人間関係を構成する基礎的な要素(儀礼的無関心、距離の取り方、世間の同調圧力、嫉妬、公平など)について理解しているか。
テキスト、参考図書
テキストは使用せず、毎回プリントを配布する。参考書については授業内で適宜示すが、授業初回ないし2回目に参考文献、参考映像一覧を配布する。
その他(受講上の注意)
授業中の私語については厳しく注意する。重ねて注意しても他の受講者の妨げになるようであれば、その回は欠席として扱うので留意されたい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション概論 a (Introduction to Communication a)			担当教員	山中 千恵	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aag-2101	2 単位	1 年前期	講義		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
コミュニケーション学の諸相を学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
社会学や言語学等さまざまな研究領域でコミュニケーションがどのように研究されて来たのかを学び、学際領域としてのコミュニケーション学について説明することができるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：コミュニケーションを学ぶとは？ 第2回・3回：動物のコミュニケーション 第4回・5回：言語の獲得と発達過程 第6回：ノン・バーバルコミュニケーション 第7回：自己と他者 第8回：役割 第9回：「私」を演じる・表現する 第10回：恋愛のコミュニケーション 第11回：ジェンダーとコミュニケーション 第12回：家族のコミュニケーション 第13回：差別と排除 第14回：異文化コミュニケーション 第15回：総括
授 業 外 の 学 習 方 法
講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購入するようにしてください。その上で、講義で説明したことを、自分の身の回りの出来事に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
中間、期末の達成確認テスト(70%)、平常点(30%) 平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
コミュニケーション学の基礎的知識をえ、それを説明することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
授業中に適宜紹介する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらおう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション概論b (Introduction to Communication b)			担当教員	山中 千恵	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aag-2111	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
コミュニケーション学の諸相を学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
社会学や言語学等さまざまな研究領域でコミュニケーションがどのように研究されて来たのかを学び、学際領域としてのコミュニケーション学について説明することができるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：前期の復習 第2回：「メディア」とはなにか1 第3回：「メディア」とはなにか2 第4回：マス・コミュニケーションの理論1 第5回：マス・コミュニケーションの理論2 第6回：マス・コミュニケーションの理論3 第7回：メディア・リテラシーを考える1 第8回：メディア・リテラシーを考える2 第9回：メディアがつくる記憶1 第10回：メディアがつくる記憶2 第11回：メディアがつくる記憶3 第12回：グローバル化するメディア産業1 第13回：グローバル化するメディア産業2 第14回：グローバル化するメディア産業3 第15回：まとめと達成度の確認
授 業 外 の 学 習 方 法
講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購入するようにしてください。その上で、講義で説明したことを、自分の身の回りの出来事に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
中間の達成確認テストと期末のレポート(70%)、平常点(30%) 平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
コミュニケーション学の基礎的知識をえ、それを説明することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
授業中に適宜紹介する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発基礎演習 (Basic Practice in Plannning and Development)			担当教員	富永 良史	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2111	2 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実地的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
新しいモノゴトを生み出すための、ココロとカラダの使い方を、多様な試行を通じて探索する。 狭い常識を打ち破り、視野を広げ、捕われずに柔軟に考えるための、試行錯誤の場。失敗から学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
1. 異なる価値観を持つ他者との対話から、新しい発想を生み出せる。 2. 発想したことを、すぐに試行／試作につなげ、そこから学びを生み出せる。 3. 自分の大学生活を、主体的に企画開発できる。
授 業 の 計 画
第1回：学ぶ意味を企画開発しなければならない 第2回：自分の手でジタバタと表現する 第3回：すべての力を抜いて、今、ここにいる 第4回：決まりきった感じ方をやめる、広げる 第5回：無縁なものを無限に組みあわせる 第6回：あれもこれもできないから、それができる 第7回：砂時計のように進む日常をふりかえる 第8回：仕事を選ぶのではなく、創り出す 第9回：考える前に、その場所に行って感じ取る 第10回：誰かの目線に重ねあわせ、発展させる 第11回：やってみなければわからないことは、やってみる 第12回：得たものと手放したものをふりかえる 第13回：新年にあたり、何を信念するのか 第14回：すべてから切り離された自由 第15回：あなたを企画開発する
授 業 外 の 学 習 方 法
授業で生まれた学び、ヒラメキは、「必ず」実行すること。アタマで理解できることは、この授業の成果ではない。ココロとカラダで結果を感じ取って、次の授業にその成果を持ち寄って欲しい。
成 績 評 価 方 法
授業毎のミニレポート(40%)、期末レポート(30%)、授業への参加意欲と貢献(30%)。 「座っているだけ」でも「出席」ではあるが、「参加、貢献」とはみなさない。
成 績 評 価 基 準
1. 自分の殻を破って他者と対話し、触発しあおうとしているか。 2. 思いついたことを「まず、やってみる」という試行力があるか。 3. 授業での学びを、自分の成長、変化、深化に結びつけようとしているか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
必要に応じてレジュメを配布する。

その他(受講上の注意)

この授業に、正解と不正解の区別はない。どんな発言、発想にも可能性がある。あらゆる常識ハズレを歓迎する。この授業の究極のルールは「バカバカしさを否定しない、面白い、そこから発展させる」。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会論 a (Contemporary Social Studies a)			担当教員	島岡 哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cfg-2101	2 単位	1 年前期	講義		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。 現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■ 自他の理解能力 □ コミュニケーション能力 ■ 情報収集・探索能力 □ 社会・職業理解能力 □ 役割把握・認識能力 □ 計画実行能力 □ 選択能力 ■ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
本講義のサブタイトルは、「越前学概論」である。本学が立地し、皆さんが大学生活を送るのが越前市という地域である。古くからの歴史を有した地域でもある越前の社会や文化の特性を、現代的視点から読み解き、理解することを目的とする。越前という地域の具体的事例の分析、考察を通して、人文・社会科学のさまざまな学問領域の考え方に触れる「アカデミック・ガイダンス」を行う。
授 業 の 到 達 目 標
この講義を通して、人文・社会科学の幅広さに触れ、各学問領域の基礎的スキルを獲得する。そのうえで、自己の地域社会を対象化し、分析できる基礎体力を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：「越前学概論」の持つ意味 ― 地域研究の意義と、実体論から認識論への転換 第2回：越前国の時代 ― 歴史学① 第3回：明治国家と越前地域のダイナミズム ― 歴史学② 第4回：「越前」エリアの変動・合併による認知マップの変化 ― 人文地理学 第5回：人々の暮らし ― 民俗学① 第6回：伝統産業の盛衰 ― 民俗学② 第7回：近代都市としての武生 ― 都市社会学 第8回：戦時下の生活から復興の時代へ ― 社会史① 第9回：高度成長期の暮らしと人々 ― 社会史② 第10回：地域づくり・地域おこしの時代へ ― 地域社会学① 第11回：中心市街地の形成と衰退 ― 地域社会学② 第12回：伝統文化と観光 ― 観光社会学 第13回：越前の表象と観光 ― 観光人類学 第14回：越前地域の家族と労働 ― 家族社会学 第15回：まとめと再考察 ― 観光と環境の社会理論にむけて 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義で提示した各学問領域における概念や理論の理解を、講義中に示した参考文献を読むことで深めていくこと。また、各学問領域の概念を用いて、日常生活世界を分析、考察できるようになるために、現代社会で起きている事象に関して積極的に調べ、考察すること。
成 績 評 価 方 法
各回の講義内に書いてもらうリアクション・ペーパー記載内容(出欠も兼ねる)が30%、定期試験70%で評価する。
成 績 評 価 基 準
各学問領域の考え方にに基づき、日常生活世界を対象化、分析、考察する力が身についているかどうか。
テキスト、参考図書
カバー範囲が広いため、テキストの指定はしない。そのかわり、講義中に、参考文献および論文を明示する。
その他(受講上の注意)
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会論b (Contemporary Social Studies b)			担当教員	島岡 哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2112	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
この講義のサブタイトルは、「社会学入門」である。社会学的思考(sociological thinking)の能力は、4 年間の学修の根幹の 1 つを成す。本講義を通して、基礎的な論理的思考方法を習得する。社会学は、高等学校までの社会科とは異なる。ミクロからマクロまで、社会学の理論を幅広く、しかもわかりやすく読み解きながら、近代・現代社会の具体的事例に当てはめてみる演繹的アプローチをとる。
授 業 の 到 達 目 標
現代社会分析には不可欠な「ロジカル・シンキング」を身につける。その一環としての基礎的な社会学的思考力を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：人文・社会科学の基礎的思考 ― 実体論と認識論 第2回：演技する人々① ― 「身体」を書き換える・「印象操作」 第3回：演技する人々② ― シンボリック相互作用論 第4回：社会化と逸脱① ― 規範(norm)とサンクション(sanction) 第5回：社会化と逸脱② ― 学校文化と逸脱行動、統制 第6回：行為と役割とは① ― レッテルを貼られる、自発的に服従する 第7回：行為と役割とは② ― 聖性を付与される、烙印(スティグマ)を押される 第8回：言語と意味の世界 ― 「物語」としての人生 第9回：「主婦」の誕生 ― 近代家族の社会学 第10回：「家族」関係の変容 ― 現代家族の社会学 第11回：ナチズムの映画技法と現代のメディア ― 現代文化の社会学① 第12回：音楽と、固定化された私たちの「耳」― 現代文化の社会学② 第13回：西洋近代の社会編成をめぐる ― 文化人類学 第14回：隠れたカリキュラム ― 教育社会学 第15回：「訴えてやる！」? ― 犯罪と法の社会学 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
講義内で取り上げた参考文献・論文等を読み、定期試験における論述問題に反映させる力を日々養っていくこと。
成 績 評 価 方 法
各回の講義内に書いてもらうリアクション・ペーパー記載内容(出欠も兼ねる)が30%、定期試験70%で評価する。
成 績 評 価 基 準
社会学的思考に基づき、日常生活世界を対象化する思考が身についているか、かつ、論じることができているかどうか。
テキスト、参考図書
カバー範囲が広いので、テキストの指定はしない。そのかわり、講義中に、参考文献および論文を明示する。
その他(受講上の注意)
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

異文化理解 (Cross-Cultural Understanding)			担当教員	加藤 優子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bde-2101	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。 次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
異文化コミュニケーション学の入門として、異文化理解に関わる事柄を学びながら、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションについて理解する。
授 業 の 到 達 目 標
・異文化コミュニケーション学の基礎を学ぶ。 ・異文化理解に関わる事柄について学ぶ。 ・上記の事柄に関し、グループ・トレーニングを通して経験的な理解を深める。
授 業 の 計 画
第1回：異文化コミュニケーションの世界 第2回：文化とは？ 第3回：なぜ人間はコミュニケーションをとるのか？ 第4回：グループ・トレーニング① 第5回：主なコミュニケーションモデル 第6回：非言語的コミュニケーション 第7回：異文化コミュニケーション 第8回：グループ・トレーニング② 第9回：コミュニケーションスタイルズ 第10回：ホフステードの文化次元 第11回：翻訳と通訳・異文化コミュニケーションと教育 第12回：グループ・トレーニング③ 第13回：異文化コミュニケーション能力と改善 第14回：グループ・トレーニング④ 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
グループ・トレーニングでは、予習が必要です。あらかじめ指定された課題を予習した上で、次の授業に臨んでください。各回の講義を受けた後は、当該部分の配布資料を見直して復習をしてください。その上で、講義で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
・異文化コミュニケーション学の基礎的な用語について説明することができるか。 ・異文化コミュニケーション現象を、学んだ知識に基づいて分析・説明することができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキストは使用しない。

その他(受講上の注意)
5分以上の遅刻3回で欠席1回とみなします。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

言語学概論 (Introduction to Linguistics)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdi-2111	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。 日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
一般言語学の基礎を学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
人間の言葉を研究対象とする言語学に関し、その研究手法を理解できる。
授 業 の 計 画
第1回：言語学とは 第2回：ことばの起源① 第3回：ことばの起源② 第4回：動物のことば① 第5回：動物のことば② 第6回：人間のことば① 第7回：人間のことば② 第8回：世界の言語① 第9回：世界の言語② 第10回：言語の変化① 第11回：言語の変化② 第12回：文字の発明① 第13回：文字の発明② 第14回：言語学の諸分野 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 授業内レポート(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
言語学の研究手法を用いて分析できるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
町田健他 『よくわかる言語学入門 ― 解説と演習(日本語教師トレーニングマニュアル)』 バベル・プレス 1995年 また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
遅刻3回で欠席1回とみなす。必ず国語辞書(電子辞書可)を持参すること。なお、私語等で他の受講生に迷惑をかける場合は退出を命じ、単位取得を認めないこともあるので、注意すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会言語学 (Sociolinguistics)			担当教員	加藤 和夫	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cfi-2111	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。 日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
わが国の言語学、日本語学分野での一大潮流となりつつある社会言語学とは、社会の中で生きる人間、ないしはその集団との関わりにおいて各言語現象、あるいは言語運用を捉えようとする学問である。授業では、日本語教育分野でも重要視されつつある社会言語学の内容について、現代日本語(受講生の多くの出身地である福井県の方言や全国諸方言を含む)の様々な事象を具体的に取り上げながら考察する。
授 業 の 到 達 目 標
日本語に存在する様々なバリエーションの背景にある社会的要因に気づくとともに、社会的存在としての言語を広い視野で客観的に観察し、豊かな人間関係を築くためのコミュニケーションストラテジーとしての言語機能をよく知り、使いこなすための知識、及びそれらの知識を背景としながら日本語を母語としない人たちに日本語を教えるための知識を身に付けることができる。
授 業 の 計 画
第1回：言葉選びの科学、理論言語学と社会言語学 第2回：社会言語学は面白い、言語共同体とアイデンティティ 第3回：言葉のバリエーション、地域方言と社会方言 第4回：方言の否定、方言の誇り、気づかれにくい方言 第5回：福井県方言の概要(1) 第6回：福井県方言の概要(2) 第7回：言葉とジェンダー 第8回：言葉と世代 第9回：親疎関係と言葉、敬語とポライトネス理論 第10回：場面と言葉、話題・機能と言葉 第11回：日本語の人称表現の特徴、人称表現によるキャラ立て 第12回：ダイグロシア状況、バイリンガル状況 第13回：言語決定論と言語相対論、言葉と文化 第14回：言葉の変化と乱れ、敬意逓減の法則 第15回：言語接触、国語と公用語、言語政策 第16回：試験
授 業 外 の 学 習 方 法
集中講義であることから、期間中の予習・復習の時間が限られるので、事前にテキストの内容や参考文献に目を通して、理解した点や疑問点をノートに整理しておくこと。
成 績 評 価 方 法
講義への積極的参加度(20%)と試験(80%)による総合評価。
成 績 評 価 基 準
講義内容を通じて社会言語学の研究内容や研究方法について理解し、日本語のバリエーションとその背景にある要因について説明することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
石黒 圭『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』 光文社新書 2013年

その他(受講上の注意)

集中講義であるので4日間を通して出席できる者のみが受講できる。受講後の質問等についてはメールで受け付ける。

kkatoh@ed.kanazawa-u.ac.jp

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語概論 (Introduction to the Japanese Language)			担当教員	天野 義廣	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdi-2101	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成をめざす。 日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
・日本語の特色を、外国語の場合と対照させながら、発音・語彙・表記法・文法などの分野にわたって紹介する。 ・各回とも原則として次の順序で展開する。 [出欠確認→当日取り上げる項目や学習目標の提示→資料プリントの配付→個々の新出事項の説明・課題についての解説・授業メモで出された質問や意見への回答など→次回の予告→「授業メモ」の記述(質問・感想・意見など)]
授 業 の 到 達 目 標
(1) 日本語の特色を様々な面から認識し、日本語が日本人の感受性、思考法、発想等にどのような影響を及ぼしているかについても事例を通して思考する。 (2) 上記の知見を今後のコミュニケーションや日本語教育に生かそうとする姿勢と技能を養う。
授 業 の 計 画
第1回：授業のねらいと進め方 第2回：世界の中の日本語 第3回：発音から見た日本語 その1 第4回：発音から見た日本語 その2 第5回：語彙から見た日本語 その1 第6回：語彙から見た日本語 その2 第7回：語彙から見た日本語 その3 第8回：表記法から見た日本語 その1 第9回：表記法から見た日本語 その2 第10回：文法から見た日本語 その1 第11回：文法から見た日本語 その2 第12回：文法から見た日本語 その3 第13回：地域方言と社会方言 第14回：日本人の言語表現 第15回：日本語はどうなるか 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
次回の授業で扱うテキストと配付プリントの範囲を予告する。事前にその部分のテキストを読み、プリントの課題に取り組んで内容の理解に努めておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%)・レポート(20%)・平常点(10%) 定期試験、レポート(2回)、平常点(出席状況、授業メモの内容、受講態度等)により評価する。
成 績 評 価 基 準
・授業で扱った範囲で、日本語学の基本的な用語の意味・用法を理解できているか。 ・授業で扱った範囲で、日本語の発音・語彙・表記・文法等の主な特色を説明できるか。 ・外国人学習者への日本語教育について、留意すべき指導項目や指導方法について理解できているか。

テキスト、参考図書
金田一春彦著『日本語』上・下(岩波書店 1988年) なおほぼ毎回、テキストに準拠した資料プリントを配付する。資料プリントには、テキストの用語・事項の分かりやすい説明や具体例・関連する記事や調査データなどを取り上げる。
その他(受講上の注意)
・ 予告範囲を予習してきていることを前提に授業を進める。 ・ 配付した資料プリントはバインダー等で一つにまとめ、毎回持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語表現(スピーキング) (Oral Expression in Japanese)			担当教員	植月 百枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-Abi-2101	1 単位	1 年前期・後期	演習	必修	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。 日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 □計画実行能力		■情報収集・探索能力 □選択能力	
				■社会・職業理解能力 □課題解決能力	

授 業 の 内 容
日本語表現の基礎「話す」・「きく」ことの基本を、講義と演習を繰り返すことにより理解し、体得していく。演習では、人前で明瞭な言葉と声で自分の意見や思いを的確に伝えられるようになることを目的に、自己紹介(自己PR)、スピーチ、グループ発表などを行う。
授 業 の 到 達 目 標
公の場で、「言葉」を使って自分の意見や思いを過不足なく的確に相手に伝え、相手の考えをきちんと理解して聴くことができるよう「スピーキング能力」、「コミュニケーション能力」、「会話力」を高めることを目標とする。
授 業 の 計 画
第1回：「話す」ということ 第2回：演習① 第3回：「きく」ということ(聞く、聴く、訊く) 第4回：演習② 第5回：話の材料の集め方・まとめ方 第6回：演習③ 第7回：心をつかむ話し方 第8回：演習④ 第9回：話す力をみがく(表現技術) 第10回：演習⑤ 第11回：公の場での話し合い・会議 第12回：演習⑥ 第13回：スピーチについて(卓話、報告、説明、発表) 第14回：「会話力」をみがく 第15回：演習⑦ 第16回：定期試験(スピーキング試験)
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、演習の課題発表の際には自分の考えをまとめ、声に出して練習しておくこと。 復習としては、授業時の内容をまとめ、次の授業で発表(スピーキング)できるようにしておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 演習(25%) 平常点(25%) *平常点は授業への参加状況、受講態度、演習への取り組み方等を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
公の場でのスピーキングにおいて、自分の考えや意見を、きき手にわかりやすく、的確、明瞭に伝えているか。 演習において、人の話を理解して心に受け入れ聴いているか。「言葉」の役割を理解し、積極的に他者とコミュニケーションをとり、会話力をみがいているか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキストは使用しない。(プリント資料配布)

その他(受講上の注意)

上記の授業計画は予定である。授業の進行状況によって変更することもある。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅠa (Oral CommunicationⅠa)			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bce-2101	1 単位	1 年前期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。 次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
A listening exercise and discussion question introduce the theme of the unit. These are followed by an introduction of useful expressions and relevant vocabulary. Students then role-play a model conversation utilizing the expressions and vocabulary. Each unit finishes with a group activity recycling the expressions and vocabulary.
授 業 の 到 達 目 標
Through role-plays, share-discuss activities, and situational tasks, students build on familiar chunks of colloquial English to communicate their own ideas, construct their own conversations, and stretch their oral language skills.
授 業 の 計 画
第1回：Introductions 第2回：Entertainment① 第3回：Entertainment② 第4回：Hobbies① 第5回：Hobbies② 第6回：Families① 第7回：Families② 第8回：Personality① 第9回：Personality② 第10回：Work① 第11回：Work② 第12回：Experiences① 第13回：Experiences② 第14回：Health① 第15回：Health② 第16回：Examination
授 業 外 の 学 習 方 法
Students are required to listen, repeat, and shadow the conversations provided on the CD which is included in the textbook as self-study.
成 績 評 価 方 法
Proactive In-class Participation - 30% Examination(Listening & Vocabulary) - 70%
成 績 評 価 基 準
Students will be evaluated on their comprehension and usage of the vocabulary and expressions introduced in the textbook and smoothness of their delivery in conversations.

テキスト、参考図書
Impact Conversation 1, Kristen Sullivan and Todd Beuckens, Pearson Longman、2009 ISBN 978-962-01-9933-2
その他(受講上の注意)
This course requires actively participating in pair-work and group exercises with a variety of partners.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅠb (Oral CommunicationⅠb)			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bce-2111	1 単位	1 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。 次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
A listening exercise and discussion question introduce the theme of the unit. These are followed by an introduction of useful expressions and relevant vocabulary. Students then role-play a model conversation utilizing the expressions and vocabulary. Each unit finishes with a group activity recycling the expressions and vocabulary.
授 業 の 到 達 目 標
Through role-plays, share-discuss activities, and situational tasks, students build on familiar chunks of colloquial English to communicate their own ideas, construct their own conversations, and stretch their oral language skills.
授 業 の 計 画
第1回：Introductions 第2回：Shopping① 第3回：Shopping② 第4回：Travel① 第5回：Travel② 第6回：Lifestyle① 第7回：Lifestyle② 第8回：Culture① 第9回：Culture② 第10回：Food① 第11回：Food② 第12回：Events① 第13回：Events② 第14回：Future① 第15回：Future② 第16回：Examination
授 業 外 の 学 習 方 法
Students are required to listen, repeat, and shadow the conversations provided on the CD which is included in the textbook as self-study.
成 績 評 価 方 法
Proactive In-class Participation - 30% Examination(Listening & Vocabulary) - 70%
成 績 評 価 基 準
Students will be evaluated on their comprehension and usage of the vocabulary and expressions introduced in the textbook and smoothness of their delivery in conversations.

テキスト、参考図書
Impact Conversation 1, Kristen Sullivan and Todd Beuckens, Pearson Longman、2009 ISBN 978-962-01-9933-2
その他(受講上の注意)
This course requires actively participating in pair-work and group exercises with a variety of partners.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英文法 a (English Grammar a)			担当教員	加藤 優子、フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bde-2101	2 単位	1 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。 次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
英文法を基礎から学び、英文の構成力・読解力を身に付け、正確にコミュニケーションするための英語力を身に付ける。
授 業 の 到 達 目 標
・各学習項目について理解できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：現在形と過去形1 第3回：現在形と過去形2 第4回：現在完了形と過去形1 第5回：現在完了形と過去形2 第6回：未来1 第7回：未来2 第8回：法的動詞1 第9回：法的動詞2 第10回：ifとwish1 第11回：ifとwish2 第12回：受動態1 第13回：受動態2 第14回：間接話法1 第15回：間接話法2 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等をまとめておいてください。講義を受けた後は、教科書の当該部分を見直して復習をしてください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%)、平常点(30%)(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
・各学習項目の理解ができているか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
Murphy, R. and Smalzer, W.R.『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』Cambridge University Press, 2010.
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
5 分以上の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英文法 b (English Grammar b)			担当教員	加藤 優子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2111	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
英文法を基礎から学び、英文の構成力・読解力を身に付け、正確にコミュニケーションするための英語力を身に付ける。
授 業 の 到 達 目 標
・各学習項目について理解できる。
授 業 の 計 画
第1回：疑問文と繰り返しを避ける助動詞 第2回：動名詞と不定詞 1 第3回：動名詞と不定詞 2 第4回：冠詞と名詞 1 第5回：冠詞と名詞 2 第6回：代名詞と限定詞 1 第7回：代名詞と限定詞 2 第8回：関係詞節 1 第9回：関係詞節 2 第10回：形容詞と副詞 1 第11回：形容詞と副詞 2 第12回：接続詞と前置詞 1 第13回：接続詞と前置詞 2 第14回：前置詞 第15回：句動詞 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ疑問点等をまとめておいてください。講義を受けた後は、教科書の当該部分を見直して復習をしてください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%)、平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
・各学習項目の理解ができているか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
Murphy, R. and Smalzer, W.R.『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』Cambridge University Press, 2010.
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
5 分以上の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と宗教 (Human Beings and Religion)			担当教員	都路 恵子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1212	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 全学共通科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際の知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
「仏教の人間観」で学んだ基本を、実際の自分の人生を形成する力にまで高める実践篇の授業です。徹底的に自分自身と向き合い(内観)、自分の人生を、死後の周りの人々への影響をも含めて考えます。又、自らの「心の声」を身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業を一致させて現実化することを体感する為、毎週様々な実践ワークの宿題を出します。 この「人間と宗教」の授業が、「本当に生きる」ことを目指す「仁愛兼済の生き方を育てる」授業の集大成となります。
授 業 の 到 達 目 標
・ 仏教の智慧を自分の生活の様々な場面において、応用実践できるようになる。 ・ 徹底的に自分と向き合い、自らの「心の声」を自分にも他人にも、明確に言葉で伝えることができるようになる。 ・ 執着を手放し、身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業を一致させて現実化する仕組みを体得する。 ・ 自分にとって最高の人生を生きるという覚悟を決める。
授 業 の 計 画
第1回：イントロ(1) 初回スピーチ：この授業を通して、何を学び、どのような成長がしたいのか？ 第2回：イントロ(2) 2年生以上の学生による「仏教の人間観」復習授業 第3回：ブッダ(1) 悟りの内容を理解する①：「心の声」に気付くノートワーク 第4回：ブッダ(2) 悟りの内容を理解する②：ありがとう日記をつけるワーク 第5回：ブッダ(3) 悟りの内容を理解する③：4週間後の自分に手紙を書く：身・口・意の三業リスト作り 第6回：ブッダ(4) 悟りの内容を理解する④：言葉を変えると現実が変わるワーク 第7回：ブッダ(5) 縁起・縁滅、業の在り方を知る1 第8回：ブッダ(6) 縁起・縁滅、業の在り方を知る2 第9回：ブッダ(7) 4週間後の自分への手紙・振り返りワーク 第10回：生き方としての仏教(1) 3週間後の自分に手紙を書くワーク 第11回：生き方としての仏教(2) 第12回：親鸞『教行信証』の世界 — アジャセ物語を通しての生き方の転換 第13回：まとめ(1) レポート提出 3週間後の自分への手紙・振り返りワーク 第14回：まとめ(2) 弔辞を書くワーク 第15回：まとめ(3) 最終スピーチ大会
授 業 外 の 学 習 方 法
・ 図書館2階の指定図書コーナーにある書籍など、興味のある本、授業中に紹介する仏教書などをどんどん読んでみる。 ・ 魅力的だと感じる人の生き方・働き方についての本やDVDなどを見るだけでなく、講演会や実際に会いに行き、話を聞くなど具体的に行動すること。 ・ 授業中に紹介する実践ワークに関しては、身・口・意の三業を一致させ続けて、現実化する感覚を体得するまで続けてみる。
成 績 評 価 方 法
レポート(40%)、いかに自分と向き合い、日々実践したか(30%)、平常点(30%) 平常点は、講義の聞き方、ワークなどへの参加態度、スピーチ内容、毎回の感想文等で総合的に判断します。

成 績 評 価 基 準
・ 仏教に対して、正しい理解ができているか。他者にも教えられるほど理解を深めているか。 ・ 仏教の智慧を自分の人生に応用実践できるよう、自分の中で深く解釈しているか。 ・ 自分自身と誠実に向き合い、どのように生きていきたいかという問いに対する答えを自分の中から導き出し、それを具体的に現実化できているか。
テキスト、参考図書
川村妙慶「あなたは、あなたのままでいい」(PHP) 鈴木章子「癌告知のあとで」(探究社) および、「和」、「礼讃抄」、プリントを使用。
その他(受講上の注意)
・ 15回無遅刻・無欠席の学生には、皆勤賞を差し上げます。(原則として全出席を求め、遅刻は認めません。毎回の授業が実践ワークを通して連続発展していく内容である為。) ・ 初回のガイダンスには、必ず出席のこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

仏教の思想 (Views of Buddhism)			担当教員	山田 恵文	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1211	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 全学共通科目					
求める学習成果（教育目標）					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）					
■ 自他の理解能力 ■ コミュニケーション能力 □ 情報収集・探索能力 □ 社会・職業理解能力 □ 役割把握・認識能力 □ 計画実行能力 □ 選択能力 □ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
今から約2500年前のインドに実在したブッダと、日本の鎌倉時代を生きた親鸞。この二人の思想のポイントを学ぶことを通して、私たち人間の課題を学び、「いかに生きるべきか」を問い尋ねていく。仏教の視点から自己理解と他者理解を深めることによって、豊かな人間関係を築くための人間力を涵養する。
授 業 の 到 達 目 標
ブッダと親鸞の生涯と、二人の基本的な思想を理解し説明することができる。 仏教の視点から学ぶ人間の課題を、自分自身の課題として考察し表現することができる。 豊かな人間関係のあり方を考察し、その創造に向けて努める姿勢を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：イントロダクション 第2回：ブッダに学ぶ① 人間の課題 第3回：ブッダに学ぶ② 四苦を考察する1 第4回：ブッダに学ぶ③ 四苦を考察する2 第5回：ブッダに学ぶ④ 悟りとは何か1 第6回：ブッダに学ぶ⑤ 悟りとは何か2 第7回：ブッダに学ぶ⑥ 苦を超える道1 第8回：ブッダに学ぶ⑦ 苦を超える道2 第9回：親鸞に学ぶ① 概説 第10回：親鸞に学ぶ② 人生の意義 第11回：親鸞に学ぶ③ 理想と現実1 第12回：親鸞に学ぶ④ 理想と現実2 第13回：親鸞に学ぶ⑤ 苦悩の根源 第14回：親鸞に学ぶ⑥ 救いとは何か 第15回：親鸞に学ぶ⑦ 共に生きる道 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
講義で学んだこと考えたことを、日常で経験する様々な出来事の中で確かめ、自己理解・他者理解に努めるようにすること。
成 績 評 価 方 法
定期試験(40%)平常点(40%)小レポート(20%)による総合評価。 (平常点は授業への参加状況、受講態度等で総合的に判断します。)
成 績 評 価 基 準
仏教思想に対する理解度と、講義で学んだ人間の課題を、自らの課題として考察できているかどうかを基準とする
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
『ブッダと親鸞』(東本願寺出版部)、『歎異抄』(東本願寺出版部) また、適宜プリントを用意する。

その他(受講上の注意)

授業時に小レポートの他、個人ワーク、グループワークを実施する予定であるので、積極的に取り組むこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

哲学の世界観 (Philosophical Thinking)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1223	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実証的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■役割把握・認識能力 □コミュニケーション能力 □計画実行能力 □情報収集・探索能力 □選択能力 □社会・職業理解能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
古代からの西洋の哲学・思想が生み出してきたさまざまなものの見方を紹介する。また、そうしたものの見方が現代に及ぼしている影響について講義する。
授 業 の 到 達 目 標
過去および現在の哲学独自の思考方法や批判的思考に慣れ親しむことを通じて、現代日本に生きる自分が歴史に制約された存在であることを認識すると同時に、大学生なら知っておくべき程度の、哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、その術語を習得する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションと「世界観」概念の説明 第2回：神話的世界観ではなぜ不十分なのか？(ミュートスからロゴスへ) 第3回：哲学的思考の発祥(プレソクラテス1) 第4回：哲学的思考の展開(プレソクラテス2) 第5回：ロゴス思想の展開と原子論へ(プレソクラテス3) 第6回：対話という方法の発明(ソクラテスのディアレクティケー1) 第7回：「知る」とはどういう営みか？(ソクラテスのディアレクティケー2) 第8回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論1) 第9回：何を知れば、物事を本当に知ったと言えるのか？(プラトンのイデア論2) 第10回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの目的論と全体論) 第11回：「机がわりの箱」は、机なのか、それとも箱なのか？(アリストテレスの存在論) 第12回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響1 第13回：宇宙観の変化が人間観・世界観に与えた影響2 第13回：身体は一種の機械なのか？(デカルトの心身二元論) 第14回：知識の源泉としての自我(デカルトの自我論・知識論) 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで、2 回目の授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する)
成 績 評 価 基 準
・哲学の基本的な用語や人名について、これを理解し、説明することができるか。 ・授業で扱う西洋思想の流れを理解しているか。

テキスト、参考図書

テキストはとくに使用せず、適宜プリントを配布する。

参考図書については2回目の授業で一覧を配布するが、安価かつ容易に入手できるものを以下に記載しておく。

- ・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書）岩波書店 2003
- ・伊藤邦武『物語 哲学の歴史』（岩波新書）岩波書店 2012
- ・熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』（岩波新書）岩波書店 2006
- ・熊野純彦『西洋哲学史 近世から現代へ』（岩波新書）岩波書店 2006

その他（受講上の注意）

毎回授業内で小レポートを書いてもらう。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つものはその場で注意するが、注意によっても改まらない場合、当日欠席扱いとするので注意されたい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

文学の世界 (The World of Literature)			担当教員	柚谷 英紀	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1224	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
近代文学に表現された〈異界〉を読む。〈異界〉とは人類学・民俗学の用語で「疎遠で不気味な世界のこと。亡霊や鬼が生きる世界」(『大辞林』)という意味である。ここでは日本近代文学作品に見られる〈異界〉の現れ方に着目して、作品を読み解く。そもそも『竹取物語』から現代の宮崎駿作品まで、日本の物語にはいつも〈異界〉が見られた。〈異界〉の概念を、幽鬼や怨霊に限ることなく、得体の知れない不気味なもの、名づけられないもの、われわれの安心して住めるこちら側に対して向こう側と考えたとき、それが、荒唐無稽なものだけではなく、身近な存在として我々の身の回りに立ち上がってくる。
授 業 の 到 達 目 標
・日本近代文学を実際に読むことを通して、日本の伝統的文化およびモダニズム文化に触れる。 ・日本文化における様々な〈異界〉について説明することができる。 ・文学作品を分析的に読むことができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 異界について 第2回：近代とは何か 夏目漱石「夢十夜」 第3回：分身論 村上春樹「鏡」・梶井基次郎「Kの昇天」 第4回：神隠し論 「龍潭譚」(1) 第5回：神隠し論 「龍潭譚」(2) 第6回：文明と異界 永井荷風「狐」 第7回：異界と他者 佐藤春夫「西班牙犬の家」 第8回：異人としての他者 芥川龍之介「奉教人の死」 第9回：誘惑論 夢野久作 「瓶詰の地獄」 第10回：メディアと無意識 江戸川乱歩「押絵と旅する男」 第11回：視線と自己 江戸川乱歩「眼羅博士」 第12回：コミュニケーションの陥穽 川端康成『水月』 第13回：未来の他者 堀晃『笑う闇』 第14回：0年代SFを読む 藤崎慎吾『星窪』 第15回：予備・まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として事前に配付したプリントの作品を読んでから出席するようにすること。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%)、毎回のコメントペーパー(50%)。コメントペーパーは何も書かなければ0点となります。
成 績 評 価 基 準
日本の文化における〈異界〉的なものの位置づけが説明することができるか。 自分で文学作品を方法意識をもって分析することができるか。 文学作品を真面目に鑑賞し、現実とリンクする問題を見つけて考察することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
講義の際にプリントして適宜配布する。

その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

歴史と地域文化 (History and Local Culture)			担当教員	久保 智康	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1225	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■ 自他の理解能力 ■ コミュニケーション能力 ■ 情報収集・探索能力 □ 社会・職業理解能力 □ 役割把握・認識能力 □ 計画実行能力 ■ 選択能力 □ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
地域の歴史・文化は、そこに住む人がかたち作っていくものである。と同時に、それは時代の経過とともにより豊かなものになり、次の世代へと受け継がれていくのが望ましい。すでに過去から蓄積された福井の地域文化を歴史の中にたずね、それを受け継ぎ発展させる具体的方策を考える。
授 業 の 到 達 目 標
・他者だけでなく自己も地域の歴史・文化をかたち作る主体であることを理解できる。 ・そのために地域の人々とコミュニケーションが積極的に行える。 ・地域の歴史・文化に関する情報収集・探索能力を養成する。
授 業 の 計 画
第1回：「地域文化」とは何か 第2回：越前・若狭という地域の成り立ち 第3回：行政的地域としての越前・若狭 第4回：いつから地域産業は始まったか 第5回：「仏教王国ふくい」の原像を求めて 第6回：山寺と霊山 第7回：道元と蓮如 第8回：「念仏王国」、越前 第9回：元祖地域ブランド、越前焼 第10回：道がつなぐ越前・若狭 第11回：一乗谷文化 第12回：天領と藩領、そして福井県へ 第13回：近世・近代の地域ブランド、赤瓦と笏谷石 第14回：琉球、沖縄と越前 第15回：地域に住むこと、離れること 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
高校での日本史履修は問わないが、中学で学んだ程度の歴史は復習しておくことを勧める。授業を受けて抱いた疑問は、終了後、あるいは次回授業の際に質問などをして解決すること。福井新聞など地元紙に常時目を通して、授業に関係しそうな記事をチェックしておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%) 平常点(20%) (平常点は授業への参加状況、受講態度等で総合的に判断します。)
成 績 評 価 基 準
地域の歴史・文化に関する過去・現在の事例に関して、自己の問題として認識し、具体的な関わり方を想定できるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布。

その他(受講上の注意)

できる限り前列の席で受講すること。画像を使用するが、漫然と見ているだけでなく、要点を極力ノートすること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人権と法 (Human Rights and Law)			担当教員	山下 秋子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1221	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果（教育目標）					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）					
☒ 自他の理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 選択能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
国民の基本的人権のあり方について、市民生活における契約、損害賠償、消費者、労働者、家族の様々な視点から整理する。
授 業 の 到 達 目 標
現代における多様な社会問題を取り上げ、相互に交錯する権利の実現を、いかにして法的解決に導くのかについて、基礎的知識を修得することを目的とする。
授 業 の 計 画
第1回：基本的人権の法的性格 第2回：自然人の権利能力と行為能力 第3回：人間らしく生きる権利(生存権)と人間らしく死ぬ権利(尊厳死) 第4回：法の下での平等と尊属殺規定 第5回：事例研究 死刑制度を考える 第6回：契約自由の原則と法規制 第7回：意思表示の取消と無効 第8回：無権代理と表見代理 第9回：婚姻の成立・効果 第10回：離婚 有責主義から破綻主義へ 第11回：親の権利・子の権利 嫡出推定 第12回：事例研究 代理契約の母と性同一性障害の父について考える 第13回：相続 相続人の権利と義務 法定相続 第14回：遺言 最後の意思表示 第15回：人権の尊重と法の支配について考える (総まとめ) 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受けた後で、テキストとノートの内容を見直して整理しておくこと。新聞などで時事問題や裁判ニュースなどをチェックしておくこと、講義への関心度が高まり、理解しやすくなります。
成 績 評 価 方 法
筆記試験(ノート持ち込み可)60% 小レポート30% 平常点10% (平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します。)
成 績 評 価 基 準
日常生活において起こる様々な事柄やニュースを的確に理解し、法的解決に導くことができるか。
テキスト、参考図書
田中敦子・大野正博編 『法学入門』 成文堂 2015年 1,600円
その他(受講上の注意)
集中講義ですので、体調に注意して欠席しないようにして下さい。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本国憲法 (The Japanese Constitution)			担当教員	山下 秋子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1222	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 人間学関連科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■役割把握・認識能力 □コミュニケーション能力 □計画実行能力 □情報収集・探索能力 □選択能力 □社会・職業理解能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
憲法の歴史を踏まえながら、憲法について判例を通して整理する。 平和主義については湾岸戦争以来の国際協調を軸として整理する。
授 業 の 到 達 目 標
法治国家における人間の生活は常に法律によって支配されているが、法律は憲法に違反して制定されてはならない。憲法は、個人の尊厳を達成するため国民が国家を規制する法である。これらの憲法に関する基礎知識を修得する。
授 業 の 計 画
第1回：憲法典の定義 第2回：日本国憲法成立の由来 第3回：ポツダム宣言の示した新秩序実現 第4回：戦争放棄 ― 集団自衛権と自衛隊海外派遣 第5回：象徴天皇と国事行為 第6回：基本的人権 新しい人権(プライバシー権) 第7回：基本的人権 表現の自由と公共の福祉・自主規制 第8回：事例研究 靖国神社公式参拝の問題点 第9回：国会中心立法・二院制(両院制)・衆議院の優越性 第10回：行政権内閣帰属の原則とその注意点 第11回：司法権の独立と独立制限 第12回：違憲審査制 違憲判決の具体的整理 第13回：事例研究 在日外国人に対する参政権の付与は必要か 第14回：地方自治の本旨 第15回：憲法改正 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受けた後で、テキストとノートの内容を見直して整理しておくこと。新聞などで時事問題や裁判ニュースなどをチェックしておくこと、講義への関心度が高まり、理解しやすくなります。
成 績 評 価 方 法
定期試験60% 小レポート30% 平常点10%(平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します。)
成 績 評 価 基 準
日常生活において起こる様々な事柄やニュースを法的に理解し、自分の言葉で他者に適切に説明することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
吉田仁美編 『スタート憲法』 成文堂 2013年
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
積極的に参加する意識をもって受講して下さい。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間と環境 B (Human Beings and the Environment B)			担当教員	西出 和彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1231	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実証的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☒ 選択能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
人間と人間を取り巻く環境(自然環境)との関係について学び、人間は環境とどのように関わりをもってきたのか、また、今後どのように関わっていったら良いかを考える。ペアワークやグループワークにより、ディスカッション力も身につける。
授 業 の 到 達 目 標
人間と人間を取り巻く環境(自然環境)について学び、その学んだことを根拠にして、自分の考えをまとめ、いろいろな人とディスカッションすることをとおして、その考えを深め表現することができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 人間と人間を取り巻く環境 第2回：自然のすがた 第3回：自然の中の人間 第4回：人間と関わりの深い生き物① 第5回：人間と関わりの深い生き物② 第6回：人間と関わりの深い生き物③ 第7回：自然とのふれあい① 第8回：自然とのふれあい② 第9回：自然とのふれあい③ 第10回：自然はそんなにヤワじゃない① 第11回：自然はそんなにヤワじゃない② 第12回：自然はそんなにヤワじゃない③ 第13回：沈黙の春を読む① 第14回：沈黙の春を読む② 第15回：人間は自然とどのように関われば良いのだろうか。 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
身の回りの環境問題に興味関心を寄せ、情報収集を行い、自分の考えをまとめる。
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
人間と人間を取り巻く環境について、自分の考えを述べることができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
必要に応じて提示する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
必要に応じて提出物を求める。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ふくい総合学 (General Studies of Fukui)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1232	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
様々な分野・専門領域における「ふくい」についての現況の課題や行政施策等の理解促進を目的とする授業です。本授業では特に「ふくい」の中の「越前市」に焦点をあて、市職員を招聘し、学生へ市計画等の事業の現状、将来構想、施策の特徴を講義し、「市を取り巻く状況」に始まり、「戦略的取組」「行政課題」や「今後の展望」などを取り上げます。 後半は、本学各学科各領域からの視点で越前市や地域との関連性について取り上げ、大学の立地自治体の特徴、文化の理解を深めてもらえるような内容となっています。
授 業 の 到 達 目 標
本学が立地する自治体である「越前市」の特徴や行政全般、さらには独自の文化等に対する理解が深まる。
授 業 の 計 画
第1回：「ふくい」総合学」趣旨説明＜総論＞越前市を取り巻く状況 第2回：戦略的取り組み＜まちづくり編＞コウノトリと里山の人たちとの共生、かこさとしさんと読書のまち宣言 第3回：戦略的取り組み＜福祉編＞検診を受けよう 新しい健康づくり、子どもの笑顔が輝く環境づくり 第4回：戦略的取り組み＜文化編＞国府が置かれた歴史あるまちづくり、たけふ菊人形63年のあゆみ 第5回：戦略的取り組み＜産業編＞越前市の産業活性化(産業活性化プラン・工芸の里構想) 第6回：戦略的取り組み＜環境編＞下水道事業で人と環境のネットワークづくり、もったいない！捨てないで資源回収しよう 第7回：行政課題(1)地域が支える災害に強いまちづくり、まちづくりと交通体系 第8回：行政課題(2)越前市の財政、越前市で暮らそう！～新生活を始めるなら中心市街地がおすすめ～ 第9回：行政課題(今後)オープンデータを利用したまち情報の発信、きくりんがちょっといいこと教えちゃうリン！～越前市の嬉しい情報をお届けします～ 第10回：行政課題(展望)市民協働プロセスの確立、市民交流・ネットワークづくり 第11回：心理学の視点から 第12回：コミュニケーション学の視点から 第13回：健康栄養学の視点から 第14回：子ども教育学の視点から 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
履修登録時に配付する各回の授業内容を事前に読み予習しておくこと。また、復習としては授業時の板書やプリントに基づいて各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
レポート(60%) 平常点(40%) (平常点は、授業時のリアクションペーパー、受講態度等を総合して判断する。)
成 績 評 価 基 準
「越前市の人とまち、その文化」というテーマで、「越前市の取組み」についての現況の課題や今後の施策内容等を理解できたか。

テキスト、参考図書
毎回プリントを配布。
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツC (Sports C)			担当教員	野田 政弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1233	1 単位	2 年後期	実技	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 環境・健康科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
青年期におけるスポーツ体験は、体力づくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を培う。健康の維持、体力の向上を図るとともに仲間づくりをととした生涯スポーツへの展開を、宿泊体験を伴うスキーをとおして行なう。
授 業 の 到 達 目 標
野外の自然に囲まれた環境に身を置くことによって、自然に親しみ多様で変化に富んだ魅力を知る。スキーの基礎理論および実技をとおして自然を理解し、安全かつ効果的に知識や技術を習得する。宿泊体験を伴う集団行動をとおして、他者理解や他者との人間関係を形成する。
授 業 の 計 画
2 年生の後期(2 月下旬)に集中形式(3 泊4 日)で行なう。 実習地は長野県梅池高原スキー場を予定。 第1 日：大学にて事前指導ガイダンス(実習の概要、用具・服装、スキー場の説明等) 第2 日：午前、大学からスキー場へ移動、到着後開講式、用具の確認 午後「班別講習①」(班分け、課題設定)、夜(ミーティング) 第3 日：午前「班別講習②」、午後「班別講習③」、夜(ミーティング) 第4 日：午前「班別講習④」、午後「班別講習⑤」、夜(ミーティング) 第5 日：午前「総合滑走」、午後スキー場から大学へ移動
授 業 外 の 学 習 方 法
事前にDVD、図書などの視聴覚資料でスキーやスキー場の情報を学習しておく。授業で習った技術をイメージして体の動きを確認する。
成 績 評 価 方 法
技術の習得(60%)、レポート(20%)平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
基本的な技術を習得できている。スキー場での安全確認ができている。用具を適切に管理できている。授業に積極的な態度で取り組んでいる。
テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配付する。
その他(受講上の注意)
天候により授業日程、内容を変更することがある。受講者が少数の場合は非開講(中止)とすることがある。諸経費(交通費・宿泊費・リフト券など)が別途必要となる。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱa (EnglishⅡa)			担当教員	紺渡 弘幸、ML スプリチャル、 加藤 優子、ME ハウカ、 バトラー田中 ポール、山口 和代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1241	1 単位	2 年前期	演習		必修
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容	
Following a 'Warm up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relative grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.	
授 業 の 到 達 目 標	
Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four 'core' skills of language learning. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.	
授 業 の 計 画	
第1回：Class Introduction 第2回：Unit 1 Lifestyles ① 第3回：Unit 1 Lifestyles ② 第4回：Unit 2 Leisure ① 第5回：Unit 2 Leisure ② 第6回：Unit 3 Getting along ① 第7回：Unit 3 Getting along ② 第8回：Review 第9回：Unit 4 Interests ① 第10回：Unit 4 Interests ② 第11回：Unit 5 Telling a story ① 第12回：Unit 5 Telling a story ② 第13回：Unit 6 Celebrations ① 第14回：Unit 6 Celebrations ② 第15回：Review 第16回：Examination	
授 業 外 の 学 習 方 法	
Before each unit students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the written assignments suggested in the textbook, and accessing the online 'Digibook'(listening activities and video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will have a TOEIC study component to do throughout the course.	

成 績 評 価 方 法
Outside-class Assignments - 25% Proactive In-class Participation - 25% Examination - 50%
成 績 評 価 基 準
Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
Breakthrough Plus 2 - Miles Craven - 2012 - Macmillan Publishers Limited - ISBN 978- 0 -230-43819- 4 & THE TOEIC TEST TRAINER Reading Supplement - Jefferey Hulihan, et al - 2007 - Thomson Learning - ISBN 978- 4 -902902-87- 7
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
At the start of each class a short time will be spent on preparation for the TOEIC. Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge(E-301) during the semester to familiarize the students with the latest available English study materials.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅱb (EnglishⅡb)			担当教員	紺渡 弘幸、ML スプリチャル、 加藤 優子、ME ハウカ、 バトラー田中 ポール、山口 和代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1242	1 単位	2 年後期	演習		必修
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容	
Following a 'Warm up' activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relative grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.	
授 業 の 到 達 目 標	
Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four 'core' skills of language learning. Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation such as talking about their daily lives and exchanging personal information. Listening practice will focus on listening for key words and specific information. Reading exercises will focus on the important skills of scanning for general understanding as well as reading for specific content. Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.	
授 業 の 計 画	
第1回：Class Introduction 第2回：Unit 7 Food & Drink ① 第3回：Unit 7 Food & Drink ② 第4回：Unit 8 Rules ① 第5回：Unit 8 Rules ② 第6回：Unit 9 Adventures ① 第7回：Unit 9 Adventures ② 第8回：Review 第9回：Unit 10 Health ① 第10回：Unit 10 Health ② 第11回：Unit 11 Comparisons ① 第12回：Unit 11 Comparisons ② 第13回：Unit 12 The Modern World ① 第14回：Unit 12 The Modern World ② 第15回：Review 第16回：Examination	
授 業 外 の 学 習 方 法	
Before each unit students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teachers; such as the written assignments suggested in the textbook, and accessing the online 'Digibook'(listening activities & video worksheets) to reinforce their in-class studies, as well as other assignments. Furthermore, students will have a TOEIC study component to do throughout the course.	

成 績 評 価 方 法
Outside-class Assignments - 25% Proactive In-class Participation - 25% Examination - 50%
成 績 評 価 基 準
Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
Breakthrough Plus 2 - Miles Craven - 2012 - Macmillan Publishers Limited - ISBN 978-0-230-43819-4 & THE TOEIC TEST TRAINER Reading Supplement - Jefferey Hulihan, et al - 2007- Thomson Learning - ISBN 978-4-902902-87-7
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
At the start of each class a short time will be spent on preparation for the TOEIC. Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge(E-301) during the semester to familiarize the students with the latest available English study materials.
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フランス語Ⅱa (FrenchⅡa)			担当教員	大竹口 麻里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1243	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際の知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容	
フランス語Ia・bで習得した初級文法を復習しながら様々な場面で使われる会話能力を養う。	
授 業 の 到 達 目 標	
フランス語で日常的な場面で使われる会話の習得を目指す。	
授 業 の 計 画	
第1回：第0課 発音のルール・あいさつをする／名前を聞く、言う 第2回：第1課 きみは日本人？ 国籍や職業をたずね、それに答える 第3回：第1課 きみは日本人？ 出身や学部をたずね、それに答える 第4回：第2課 きみはバイトをしているの？ さまざまな－e r 動詞を肯定、否定で使う 第5回：第2課 きみはバイトをしているの？ 否定疑問形でたずね、それに答える 第6回：第3課 スポーツは好き？ 「～すき？」をたずね、それにニュアンスをつけ答える 第7回：第3課 スポーツは好き？ 形容詞を使ってコメントする 第8回：第4課 どこでお昼食べるの？ 「どこで」「だれを」をたずねる 第9回：第4課 どこでお昼食べるの？ 質問の答えを展開させる 第10回：フランス映画鑑賞 第11回：第5課 兄弟姉妹はいる？ 「～をもっている／持っていない」を表現する 第12回：第5課 兄弟姉妹はいる？ 年齢や学年をたずね、それに答える 第13回：第6課 あなたのお姉さんはどんな感じですか？ 家族の名前や身分、職業をたずね、それに答える 第14回：第6課 あなたのお姉さんはどんな感じですか？ 人について好き、きらいを言う 第15回：これまでのまとめ 第16回：定期試験	
授 業 外 の 学 習 方 法	
毎回5問程度の書き取りを各回の授業の始めに行うので必ず勉強してくること。	
成 績 評 価 方 法	
定期試験50% 平常点50%(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。)	
成 績 評 価 基 準	
日常的な場面で使われるフランス語での会話ができるか。	
テ キ ス ト、参 考 図 書	
レナ・ジュンタ 清岡智比古 「ぜんぶ話して！」 白水社 2015年	
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)	
フランス語Ia・bで用いたプリントを持参すること。	
オ フ ィ ス ア ワ ー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

フランス語Ⅱb (FrenchⅡb)			担当教員	大竹口 麻里	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1244	1 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
前期に引き続き、フランス語Ia・bで習得した初級文法の復習をしながら、様々な場面で使われる会話能力を養う。
授 業 の 到 達 目 標
フランス語で日常的な場面で使われる会話の習得を目指す。
授 業 の 計 画
第1回：第7課 ふだん、夜は何している？ さまざまな活動について話す 第2回：第7課 ふだん、夜は何している？ 週末の過ごし方について話す 第3回：第8課 ふだん朝は何食べる 食事について話す 第4回：第8課 ふだん朝は何食べる c a と e n を使いわける 第5回：第9課 週末は、どこに行く？ よく行く場所について話す 第6回：第9課 週末は、どこに行く？ 移動手段について話す 第7回：フランス映画鑑賞① 第8回：フランス映画鑑賞② 第9回：第10課 お母さんによく電話する？ 習慣についてたずねる 第10回：第10課 お母さんによく電話する？ 代名動詞を使って習慣について話す 第11回：第11課 家を何時に出る？ 生活時間についてたずねる 第12回：第11課 家を何時に出る？ 計画についてたずねる 第13回：第12課 パリではどんな天気？ 行きたい場所についてたずねる 第14回：第12課 パリではどんな天気？ アドバイスを求める 第15回：これまでのまとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
毎回5問程度の書き取りを各回の授業の始めに行うので勉強してくること。
成 績 評 価 方 法
定期試験50% 平常点50%(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙等の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
日常的な場面で使われるフランス語での会話ができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
レナ・ジュンタ 清岡智比古 「ぜんぶ話して！」 白水社 2015年
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
フランス語Ia・bで用いたプリントを持参すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ⅱa (GermanⅡa)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1245	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
最初はドイツ語Ⅰでは習得していない文法知識からはじめ、その後簡単なドイツ語で書かれた童話を読みながら読解力を身につける。その回のテキスト内容に合わせて、文法事項をプリントで適宜補う。
授 業 の 到 達 目 標
現在完了、再帰動詞、分離動詞について理解し、それらを含め1年時点で学んだドイツ語をもとに、テキスト程度の簡単なドイツ語の文章を理解し、日本語に訳すことができるようになることをめざす。また、訳出は文脈によって多様な一種の創造であり、必ずしも辞書の文言をあてはめる、という機械的作業ではないことを理解する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションと1年次のドイツ語の復習 第2回：過去形(復習)と現在完了形1 第3回：現在完了形2 第4回：分離動詞と形容詞 第5回：再帰代名詞と再帰動詞 第6回：ブレーメンの音楽隊1－1 第7回：ブレーメンの音楽隊1－2 第8回：ブレーメンの音楽隊2－1 第9回：ブレーメンの音楽隊2－2 第10回：ブレーメンの音楽隊3－1 第11回：ブレーメンの音楽隊3－2 第12回：ブレーメンの音楽隊3－3 第13回：ブレーメンの音楽隊4 第14回：ブレーメンの音楽隊5 第15回：これまでのまとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
プリントによる練習問題やテキストの予習(単語調べ、訳の作成)を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせとその解説を行う。間違った問題は、必ず復習しておくこと。
成 績 評 価 方 法
平常点50%、定期試験50% (平常点は、毎回の出席、予習状況を総合して判断する)
成 績 評 価 基 準
・現在完了、再帰動詞、分離動詞について理解し応用できるか。 ・宿題をきちんとやり、当たった場合、その個所を訳出することができているかどうか。 ・テキストのドイツ語文とその構造を理解しているかどうか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
Stefan Wundt 本橋右京 『グリム童話で学ぶドイツ語 partⅡ』 郁文堂 2007年

その他(受講上の注意)

独和辞典および1年時に用いたテキストを持参すること。また、童話の読解に入ると、だれがいつ当たるかわからない。単語を辞書でよく調べ、きちんと日本語に直してくること。予習が大事である。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ドイツ語Ⅱb (GermanⅡb)			担当教員	橋本 武志	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1246	1 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
ドイツ語Ⅰaにつづいて、簡単なドイツ語で書かれた童話を読みながら読解力を身につける。その回のテキスト内容に合わせて、文法事項をプリントで適宜補う。
授 業 の 到 達 目 標
1 年時およびドイツ語Ⅰaで学んだ知識をもとに、テキスト程度の簡単なドイツ語の文章を理解し、日本語に訳すことができるようになることをめざす。また、訳出は文脈によって多様な一種の創造であり、必ずしも辞書の文言をあてはめる、という機械的作業ではないことを理解する。
授 業 の 計 画
第1回：ドイツ語Ⅱaの復習 第2回：代名詞、現在完了、分離動詞の復習 第3回：形容詞の格変化 第4回：盗賊の花嫁1－1 第5回：盗賊の花嫁1－2 第6回：盗賊の花嫁2－1 第7回：盗賊の花嫁2－2 第8回：盗賊の花嫁3－1 第9回：盗賊の花嫁3－2 第10回：盗賊の花嫁4－1 第11回：盗賊の花嫁4－2 第12回：盗賊の花嫁5－1 第13回：盗賊の花嫁5－2 第14回：盗賊の花嫁6 第15回：これまでのまとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
プリントによる練習問題やテキストの予習(単語調べ、訳の作成)を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせとその解説を行う。間違った問題は、必ず復習しておくこと。
成 績 評 価 方 法
平常点50%、定期試験50% (平常点は、毎回の出席、予習状況を総合して判断する)
成 績 評 価 基 準
・現在完了、再帰動詞、分離動詞について理解し応用できるか。 ・宿題をきちんとやり、当たった場合、その個所を訳出することができているかどうか。 ・テキストのドイツ語文とその構造を理解しているかどうか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
Stefan Wundt 本橋右京 『グリム童話で学ぶドイツ語 partⅡ』 郁文堂 2007年

その他(受講上の注意)

独和辞典および1年時に用いたテキストを持参すること。また、童話の読解に入ると、だれがいつ当たるかわからない。単語を辞書でよく調べ、きちんと日本語に直してくること。予習が大事である。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ⅱa (ChineseⅡa)			担当教員	ショウ ロ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1247	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
簡単な日常会話を聴くこと、話すことと、簡単な作文を書けることを重点において学習し、中国語の検定試験4級のレベルをめざす。(10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。)
授 業 の 到 達 目 標
1、四声を意識して正しく発音することができる。 2、常用語500語程度を使って、単文及び簡単な複文の中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。 3、100字程度の作文が書ける。 4、簡単な日常会話ができる。 5、簡単な依頼、買物、旅行の場面でのコミュニケーション能力を有する。
授 業 の 計 画
第1回：初級中国語の復習 第2回：反語文。積極的な姿勢を示す“来” 第3回：兼語文。介詞“跟～”。形容詞の重ね型 第4回：助動詞“会”(2)。存現文。複文“除了A、還B” 第5回：様態補語。副詞“再”と“又”。“快要～了” 第6回：複文“一边A、一边B”。複文“因為A、所以B” 第7回：第1回～第6回の復習 第8回：可能補語(1)。“没想到～”。動詞“像” 第9回：複文“一A、就B”。動詞“覺得” 第10回：指示代名詞。量詞“～宿”。 第11回：複合方向補語“～出来” 第12回：動詞“打算”。複文“即使A、也B” 第13回：複文“如果A、(就)B”。助動詞“願意”。 第14回：第8回～第13回の復習 第15回：第1回～第14回の復習とまとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配る。これを見直しながら復習し次の講義に臨むこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 課題練習の成績(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
1、四声を正しく発音することができるか。 2、単文及び簡単な複文の中国語訳と日本語訳ができるか。 3、100字程度の作文が書けるか。 4、簡単な依頼、買物、旅行の場面での事項確認や自分の意思を伝えられるか。

テキスト、参考図書
佐藤晴彦 監修 徐 送迎 著 『たのしくできる We Can! 中国語(中級)』 朝日出版社 2013年
その他(受講上の注意)
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

中国語Ⅱb (ChineseⅡb)			担当教員	ショウ　ロ	
講義コード	単　位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1248	1 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分>　人間学部学部共通科目　外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
少々長い会話聴く、話す、書くことを重点において学習し、中国語の検定試験3級のレベルをめざす。(10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。)
授 業 の 到 達 目 標
1、多音語、軽声を正しく発音することができる。 2、常用語500～1000語を使って、複文の中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。 3、200字程度の作文が書ける。 4、簡単な依頼、買物、旅行の場面での演習を通して、相手に自分の意思を正確に伝え、「会話力」を高めることを目標とする。
授 業 の 計 画
第1回：中国語Ⅱaの復習 第2回：介詞“為了～”と“為～”。助動詞“應該” 第3回：複文“既是A、又是B” 第4回：受身文“被～”。接続詞“可是” 第5回：“把”構文。“連A都(也)B” 第6回：複合方向補語“～起来”。助詞“地” 第7回：第1回～第6回の復習 第8回：複文“既A、又B”。動量補語“一下”。副詞“早就” 第9回：介詞“向～”。介詞“往～” 第10回：“就像～一樣”。助動詞“得”。動詞“建議”。 第11回：介詞“通過～” 第12回：複文“先A、然后B”。“還是～好”。副詞“才” 第13回：動詞“認為”。可能補語(2)。“對～來說” 第14回：第8回～第13回の復習 第15回：第1回～第14回の復習。中国語Ⅱabの学習成果の確認とまとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回講義の後、要点まとめの資料及び練習用プリントを配る。これを見直ししながら復習し次の講義に臨むこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 課題練習の成績(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
1、多音語、軽声を正しく発音することができるか。 2、少々長い中国語訳と日本語訳ができるか。 3、200字程度の作文が書けるか。 4、相手の話を聞き取れる、自分の意思を正確的に伝えられるか。
テキスト、参考図書
佐藤晴彦 監修 徐 送迎 著 『たのしくできる We Can! 中国語(中級)』 朝日出版社

その他(受講上の注意)
積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1249	4 単位	2 年～ 4 年	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実証的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 ■計画実行能力		■情報収集・探索能力 ■選択能力	
				■社会・職業理解能力 □課題解決能力	

授 業 の 内 容
本プログラムは、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外語学研修(8 週間プログラム)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に 8 週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校 American Language Program (ALP) における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
120時間以上の集中的な英語研修と約 8 週間のアメリカでの生活体験を通し、総合的な英語力(読む力・聞く力・話す力・書く力)を向上させることを目的とする。
授 業 の 計 画
第1回：全体説明会 第2回：面接 第3回：現地学校への申込み 第4回：宿泊申込み 第5回：持ち物に関する注意 第6回：ビザの取得 第7回：渡航手続き 第8回：アメリカでの生活における注意 第9回：入国・税関手続き 第10回：プログラム経験者との打ち合わせ 第11回：現地にて研修 第12回：反省会 第13回：単位認定の為の申請 第14回：事後報告発表会 第15回：レポート提出 第16回：次年度出発予定学生のための発表
授 業 外 の 学 習 方 法
準備期間においては、渡航に必要なビザの手続きを教員のサポートの元学生自ら行うこと。渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。
成 績 評 価 方 法
事前ガイダンスへの取り組み(25%)、現地評価(50%)、事後のプレゼンテーションや課題レポートなど(25%)を総合評価する。
成 績 評 価 基 準
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。 学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。 ※フラトン校から発行される成績表も評価に含まれる。
テ キ ス ト、参 考 図 書
ALPより指示がある。

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用 a (Exercises in Information Literacy a)			担当教員	宮川 祐一、佐々木 裕子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1153	2 単位	1 年前期・2 年 前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
オフィスソフトの1つであるWordを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
オフィスソフトWordに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験(Word2013)や、日本商工会議所の日商PC検定試験2級(文書作成)に合格できる能力レベルを目標としている。 文書作成ソフトを使い、基本的な文書を速やかに作成できる。 さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書を難なく作成できる。 既存の文書に対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。
授 業 の 計 画
第1回：文書処理に関する資格や検定試験概要、授業の進め方、実力診断用練習問題 第2回：文書の作成、書式設定 p.1～43 第3回：文章のオプション、印刷、保存 p.44～88 第4回：文字列、段落 p.89～135 第5回：文字列段落の並び替え、表とリスト p.136～186 第6回：参考資料の適用 p.187～209 第7回：オブジェクトの挿入と書式設定 p.210～248 第8回：総合練習問題1 第9回：総合練習問題2 第10回：総合練習問題3 第11回：総合練習問題4 第12回：総合練習問題5 第13回：総合課題1 第14回：総合課題2 第15回：総合課題3 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。 その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。 復習 特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。 テキスト付録の練習問題に取り組むこと。(これによって、着実にスキルは向上します)
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 課題(20%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)
成 績 評 価 基 準
限定した時間内(50分)で、文書作成ソフトウェアWordを使った文書編集や加工、設定変更などができるか。 関連する検定試験(日商PC検定 MOS試験)の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。

テキスト、参考図書
『MOS攻略問題集 Word 2013(模擬テストDVD-ROM付属)』 日経BP 2014年
その他(受講上の注意)
情報リテラシーa の受講を終えていることを前提とします。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報活用 b (Exercises in Information Literacy b)			担当教員	宮川 祐一、佐々木 裕子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1154	2 単位	1年後期・2年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実証的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 計画実行能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 選択能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
オフィスソフトの1つであるExcelを採り上げる。例題を基に、その機能や操作方法を理解し、大学生活やビジネス場面においても難なく活用できる能力を獲得することを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
オフィスソフトExcelに関する知識とその機能を深く理解し、一般社会においても十分な情報活用能力を発揮できるようにマイクロソフト社のOffice Specialist試験(Excel2013)や、日本商工会議所の日商PC検定試験2級(データ活用)に合格できる能力レベルを目標としている。 表計算ソフトを使い、基本的な表やグラフを速やかに作成できる。 既存の表やグラフに対しては、書式の変更や形式変換などの編集・加工ができる。 さらに、複雑な作表や図などを取り込んだビジネス文書への展開ができる。
授 業 の 計 画
第1回：実力診断用練習問題(日商PC検定試験問題) 第2回：ワークシートやブックの作成、書式設定 p.1～57 第3回：ワークシートやブックのオプション、印刷・保存 p.58～105 第4回：セルやセル範囲の作成、書式設定 p.106～143 第5回：テーブルの作成 p.144～194 第6回：数式や関数の適用 p.195～236 第7回：グラフやオブジェクトの作成 p.237～267 第8回：総合練習問題1 第9回：総合練習問題2 第10回：総合練習問題3 第11回：総合練習問題4 第12回：総合練習問題5 第13回：総合課題1 第14回：総合課題2 第15回：総合課題3 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 授業の計画に示すテキスト範囲について、例題を一通り事前に試行する。 その際、不明点・疑問点については、授業時間中に解決できるように努める。 復習 特に、新たに得られた知識について、習熟できるように例題を再度確認する。 テキスト付録の練習問題に取り組むこと。(これによって、着実にスキルは向上します)
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 提出課題(20%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)
成 績 評 価 基 準
限定した時間内(50分)で、表計算ソフトウェアExcelを使ったデータ編集や加工、設定変更などができるか。 関連する検定試験(日商PC検定 MOS試験)の合格者については、定期試験の合格と同等以上とする。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書

『MOS攻略問題集 Excel 2013(模擬テストDVD-ROM付属)』 日経BP 2014年
その他(受講上の注意)
情報リテラシーb の受講を終えていることを前提とします。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習 a (Information Processing Practicum a)			担当教員	宮川 祐一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1251	2 単位	2年前期・3年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。
授 業 の 到 達 目 標
一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目指す。 ただし、本授業においては、授業回数の都合上「ITパスポート試験」の小問のみを採り上げており、「ITパスポート試験」の中間については情報処理演習bにおいて採り上げる。 参考 IT パスポート試験シラバス http://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/syllabus_ip_ver2_0.pdf
授 業 の 計 画
テキストに従って進めるが、毎授業の30分間程度は演習課題(小問)を採り入れる。 第1回：第1章 企業と法務(1) 第2回：第1章 企業と法務(2) 第3回：第1章 企業と法務(3) 第4回：第2章 経営戦略 第5回：第3章 システム戦略 第6回：第4章 開発技術 第7回：第5章 プロジェクトマネジメント 第8回：第6章 サービスマネジメント 第9回：第7章 基礎理論(1) 第10回：第7章 基礎理論(2) 第11回：第7章 基礎理論(3) 第12回：第8章 コンピュータシステム(1) 第13回：第8章 コンピュータシステム(2) 第14回：第9章 技術要素(1) 第15回：第9章 技術要素(2) 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 次の単元の内容を教科書で事前に目を通しておくこと。 復習 重要語句などの確認をすること。 授業で採り上げた演習例題については、完全理解に努めること。 テキスト付録の過去問題(小問)を各自実行すること。 (延べ所要時間 約30時間以上)
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%) 中間試験(10%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成 績 評 価 基 準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。 ただし、この授業においては、ITパスポート試験の小問を対象とする。
テキスト、参考図書
テキスト 『ITパスポート試験 対策テキスト CBT試験対応 平成26-27年版』 FOM出版 2014年 参考図書 ITパスポート試験 書いて覚える学習ドリルCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠 FOM出版 2011年 ITパスポート試験 直前対策 1週間完全プログラムCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠 FOM出版 2011年 平成26年度 ITパスポート合格教本 CBT対応 技術評論社 2013年
その他(受講上の注意)
テキスト必携必須
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習 b (Information Processing Practicum b)			担当教員	宮川 祐一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1252	2 単位	2年後期・3年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。
授 業 の 到 達 目 標
一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目指す。 ただし、本授業においては、授業回数の都合上「ITパスポート試験」の中間を採り上げており、「ITパスポート試験」の小問については情報処理演習aにおいて採り上げる。 参考 IT パスポート試験シラバス http://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/syllabus_ip_ver2_0.pdf
授 業 の 計 画
テキストに従って進めるが、毎授業の60分間程度は演習課題(中間)を採り入れる。 第1回：第1章 企業と法務 第2回：第2章 経営戦略 第3回：第3章 システム戦略 第4回：第4章 開発技術 第5回：第5章 プロジェクトマネジメント 第6回：第6章 サービスマネジメント 第7回：第7章 基礎理論 第8回：第8章 コンピュータシステム 第9回：第9章 技術要素 第10回：CBT形式による過去問題研究(1) 第11回：CBT形式による過去問題研究(2) 第12回：Webベースの知識問題作成演習(1) 第13回：Webベースの知識問題作成演習(2) 第14回：Webベースの知識問題作成演習(3) 第15回：作成したWebベースの知識問題を検証 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 次の単元の内容を教科書等で事前に目を通しておくこと。 指示したITパスポート試験問題(過去問題)を解いて授業に臨むこと。 復習 重要語句などの確認をすること。 採り上げた演習例題については完全理解に努めること。 テキスト付録の過去問題(中間)を各自実行すること。 (延べ所要時間 約30時間以上)
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) CBT模擬テスト(20%) レポート課題(30%)

成 績 評 価 基 準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
テキスト、参考図書
テキスト 『ITパスポート試験 対策テキスト CBT試験対応 平成26-27年版』 FOM出版 2014年 参考図書 ITパスポート試験 書いて覚える学習ドリルCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠 FOM出版 2011年 ITパスポート試験 直前対策 1週間完全プログラムCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠 FOM出版 2011年 平成26年度 ITパスポート合格教本 CBT対応 技術評論社 2013年
その他(受講上の注意)
テキスト必携必須 前期の「情報処理演習a」を受講している者を前提としている。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(ボランティア) (Fieldwork Practice (Volunteer))			担当教員	金田 明彦・谷 雅徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1164	2単位	1年～4年	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力■コミュニケーション能力■情報収集・探索能力■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力■計画実行能力■選択能力■課題解決能力					

授 業 の 内 容
本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。
授 業 の 到 達 目 標
それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。
授 業 の 計 画
地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。 4～7月 事前ガイダンスの実施と計画の提示 8～9月 現地にて研修 10～11月 事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報の収集
成 績 評 価 方 法
プログラムへの取組み(50%) レポート(20%) プレゼンテーション(30%)
成 績 評 価 基 準
課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。 ※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(国際交流) (Fieldwork Practice (International Exchange))			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1165	2 単位	1 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実証的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムは、原則として「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に2週間の短期留学を実施する。語学学習を中心に、現地学校や日系企業の訪問、観光などの研修を実施し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。
授 業 の 計 画
4～8月 事前ガイダンスの実施と計画の立案・決定 9月 現地にて研修 10～11月 事後報告として、反省会・発表会の実施 1月下旬～3月中旬 次年度出発予定学生のための発表会等を行う。
授 業 外 の 学 習 方 法
準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。
成 績 評 価 方 法
事前ガイダンスへの取り組み(25%)、現地評価(50%)、事後のプレゼンテーションや課題レポートなど(25%)を総合評価する。
成 績 評 価 基 準
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
ALPより指示がある。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は6名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスと、本プログラムの参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 ※個人参加の海外語学研修および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、事前(海外語学研修は渡航の2ヶ月前)に担当教員または英語教育センターに問い合わせること。また、個人で参加する海外語学研修の期間については、夏期休暇期間または春期休暇期間とし、単位認定時期については、夏期休暇期間の場合は当該年度の後期に、春期休暇期間の場合は翌年度の前期に単位認定する。 ※単位認定については、参加する海外語学研修・国際交流等のプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学基礎実験Ⅰ (Basic Experiments in Psychology I)			担当教員	山本 雅代、水上喜美子、森本 文人、 青井 利哉、梶村 昌代
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2205	2 単位	2 年前期	実験	必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎				
求める学習成果(教育目標)				
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
☒ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力				

授 業 の 内 容
心理学が科学であることを理解し、心理的問題をどのように研究していくのか、といった心理学研究の基本的な方法について学ぶ。 受講者はグループごとに、ミューラリヤー錯視、両側性転移、認知的葛藤、記憶、単純接触効果などの様々な実験にあたる。(数名のグループに分かれ、順次すべての実験を体験する) 上記テーマについて先行研究などの情報収集を行い、各自で研究目的に従いデータを取り、収集したデータや情報の整理、分析、考察する方法を学ぶ。また、各実験ごとにレポートを提出する。これにより卒業論文を書く上で重要な科学論文の形式を習得することを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
1) 心理学における実験方法や実証方法を取得する。 2) 実験結果についての整理や考察ができるようになる。 3) 科学論文の執筆ができるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：課題1(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)① 第3回：課題1(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)② 第4回：課題1(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)③ 第5回：課題1(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)④ 第6回：課題1(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)⑤ 第7回：課題2(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)① 第8回：課題2(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)② 第9回：課題3(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)① 第10回：課題3(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)② 第11回：課題4(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)① 第12回：課題4(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)② 第13回：課題5(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)① 第14回：課題5(全5課題：ミューラリヤー・両側性転移・認知的葛藤・記憶・対人魅力)② 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
それぞれの実験について予習しておくことが望ましい。 実験レポートが訂正されたり、返却された場合には必ず見直し、復習してください。
成 績 評 価 方 法
実験終了後に提出する実験レポート、実験、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【実験レポート 60% 実験、授業への参加態度 40%】
成 績 評 価 基 準
それぞれの実験担当教員の指示に従ったレポート作成ができているか。 データを整理し、分析、自分なりの考察ができているか。 授業へ積極的に参加できているか。

テキスト、参考図書
(1)『心理学論文の書き方』 松井豊 河出書房新社 2010年 (2)『実験とテスト＝心理学の基礎(実習編)』 心理学実験市道研究会 培風館 1985年 その他、授業時プリント配布
その他(受講上の注意)
第1回目の授業(オリエンテーション)には必ず出席すること。 教員やTAの紹介、受講に際しての注意事項を行います。 各実験ごとに必ずレポート提出があります。各教員の指示に従って提出してください。またレポートの提出期限は必ず守ること。再提出等の指示がありますので掲示には注意して下さい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学基礎実験Ⅱ (Basic Experiments in PsychologyⅡ)			担当教員	大森 慈子、水田 敏郎、森本 文人、 青井 利哉、箕浦有希久	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-0BO-2206	2単位	2年後期	実習		選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		■計画実行能力		■社会・職業理解能力	
		■選択能力		■課題解決能力	

授 業 の 内 容
心理学における実験の意義を学習すると同時に、少人数グループで基本的な心理学実験をすることによって、実験に含まれる様々な問題にふれる。また、レポートの作成を繰り返すことによって、実験結果を科学的事実として報告する方法を習得する。
授 業 の 到 達 目 標
■心理学実験の基礎的技術を身につける ■実験データに対する分析方法や考察のしかたを理解する ■心理学における実験論文の書き方を習得する
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：課題1(認知的葛藤、または、両側性転移)① 第3回：課題1(認知的葛藤、または、両側性転移)② 第4回：課題1(認知的葛藤、または、両側性転移)③ 第5回：課題1(認知的葛藤、または、両側性転移)④ 第6回：課題2(概念識別、心的回転、触二点閾、または、係留効果)① 第7回：課題2(概念識別、心的回転、触二点閾、または、係留効果)② 第8回：課題2(概念識別、心的回転、触二点閾、または、係留効果)③ 第9回：課題2(概念識別、心的回転、触二点閾、または、係留効果)④ 第10回：課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)① 第11回：課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)② 第12回：課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)③ 第13回：課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)④ 第14回：課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)⑤ 第15回：課題3(虚偽検出・ラットの学習・短期記憶・尺度構成法の中から1つ選択)⑥
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各実験課題に関連する部分と関連図書を読み、あらかじめ疑問点などを考えておく 復習として、授業時の板書やプリントおよび添削して返却されたレポートを見直し、授業とレポート作成に臨む
成 績 評 価 方 法
3課題に対するレポート(60%) 平常点(40%) (平常点は、授業への参加状況と態度、課題への取り組み姿勢などを総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
■心理学実験の基礎的技術が身についているか ■実験データに対する分析方法や考察のしかたを理解しているか ■心理学における実験論文の書き方を習得しているか
テキスト、参考図書
テキスト：心理学実験指導研究会編「実験とテスト－実習編－」(培風館)

その他(受講上の注意)

- 心理統計Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験Ⅰの単位を修得していること
- 原則として、遅刻、欠席およびレポート提出の遅延は認めない

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理検査法Ⅰ (Psychological Assessment MethodsⅠ)			担当教員	森 俊之、吉水ちひろ、青井 利哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2209	2 単位	2 年後期	演習		必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
タイプの異なる 3 種の検査を体験する。3 グループに分かれ、3 人の教員のもとで 3 タイプの心理検査を交互に実習する。具体的に体験する検査や受講の仕方は、1 回目の授業で説明する。各検査とも、講義、実習、討議、レポート提出が課せられる。
授 業 の 到 達 目 標
・さまざまな心理検査の種類を理解し、それぞれの検査の効用と限界について説明できる。 ・課題として取り上げた心理検査について、実施手順や分析手順を理解し、一通り実施できる。 ・自分自身の性格を多角的に分析し、他者に説明できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：検査実施に関する一般的な説明 第3回：質問紙による心理検査(TEG、MAS等)の体験 ① 第4回：質問紙による心理検査(TEG、MAS等)の体験 ② 第5回：質問紙による心理検査(TEG、MAS等)の体験 ③ 第6回：質問紙による心理検査(TEG、MAS等)の体験 ④ 第7回：絵を見る心理検査(TAT,PFスタディ等)の体験 ① 第8回：絵を見る心理検査(TAT,PFスタディ等)の体験 ② 第9回：絵を見る心理検査(TAT,PFスタディ等)の体験 ③ 第10回：絵を見る心理検査(TAT,PFスタディ等)の体験 ④ 第11回：絵を描く心理検査(バウムテスト、HTP等)の体験 ① 第12回：絵を描く心理検査(バウムテスト、HTP等)の体験 ② 第13回：絵を描く心理検査(バウムテスト、HTP等)の体験 ③ 第14回：絵を描く心理検査(バウムテスト、HTP等)の体験 ④ 第15回：まとめ 第16回：期末試験
授 業 外 の 学 習 方 法
検査の実施、分析の作業は、授業時間だけでは足りないこともあり、その都度、次回までの作業の指示があるので、作業を遂行して次の授業に臨むこと。
成 績 評 価 方 法
検査毎に作成するレポート(20%×3)と学期末に行う筆記試験(40%)により評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。
成 績 評 価 基 準
・さまざまな心理検査の種類を理解し、それぞれの検査の効用と限界について説明できるか。 ・課題として取り上げた心理検査について、実施手順や分析手順を理解し、一通り実施できるか。 ・自分自身の性格について多角的に分析し、他者に説明できるか。
テキスト、参考図書
願興寺礼子・吉住隆弘編「心理検査の実施の初歩」(ナカニシヤ出版 2011年発行) そのほか、各検査毎に必要な資料を配付したり、参考図書を指示する。

その他(受講上の注意)

- ・実習を含むので、出席と熱心な受講態度を期待する。
- ・自分自身の性格等の自己開示が必要な場合がある。
- ・心理検査の学習者・実施者の倫理(授業時に説明)を守り、検査の知識を安易に使用しないこと。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理調査法 (Psychological Questionnaire Methods)			担当教員	早川 清一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-OBC-2211	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☐コミュニケーション能力 ☒情報収集・探索能力 ☐社会・職業理解能力 ☐役割把握・認識能力 ☐計画実行能力 ☐選択能力 ☐課題解決能力					

授 業 の 内 容
質問紙調査法について理解し、実際の調査を通じて、調査票の作成から統計解析ソフト(SPSS)での分析方法、レポートの書き方までを修得する。調査は2回行う。1回目は、既成の調査票を利用(大学生生活に関する調査)。2回目は、各自がテーマを決定し調査票を作成する(自由調査)。
授 業 の 到 達 目 標
自分で調査票を作成し、SPSSを利用して基本的な統計解析を行える知識を修得することを目標とする。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：質問紙調査法について 第3回：SPSSデータ入力法 第4回：SPSSの利用法1 第5回：SPSSの利用法2 第6回：大学生生活に関する調査の実施(実際のデータを用いて分析を行う) 第7回：自由調査の実施1(調査内容の決定) 第8回：自由調査の実施2(調査票の作成) 第9回：自由調査の実施3(調査票の作成) 第10回：調査票の回答 第11回：データ入力 第12回：データ解析 第13回：報告書の作成1 第14回：報告書の作成2 第15回：報告書の作成3
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の授業を受けた後で、eラーニングに掲載された当該部分に関連する資料を熟読し、理解を深めてください。
成 績 評 価 方 法
2回の理解度確認テストに合格していること、および2回のレポートが期限内に提出されていること。 1回目理解度確認テスト(10%)、2回目理解度確認テスト(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(50%)による評価。
成 績 評 価 基 準
S P S Sの基本的分析方法が理解できているか。さらに、調査の分析が正しく行われ、報告書が適切に作成されているか。
テキスト、参考図書
テキストは使用しない。eラーニングに授業内容に関連する論文等の資料を掲載している。また、授業で使ったパワーポイントおよび印刷資料も授業終了後に公開する、復習に利用してください。

その他(受講上の注意)

受講には原則として、1年次の「心理統計Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得していることが必要です。授業時間以外にも、解析、レポート作成等の学習が必要になります。真に、実力を付けたい学生のみ受講してください。3年前期の「多変量解析演習」を受講する予定の学生は必ず受講し単位を取得しておくこと。また、3年次に早川ゼミを希望する人も必ず受講してください。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理面接法 (Clinical Interviewing Methods)			担当教員	片畑真由美、水上喜美子、久保 陽子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-AOC-2212	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
心理面接法に関する基礎文献や最新文献を購読し、意見交換を行うことで体験的に心理面接について理解する。
授 業 の 到 達 目 標
①研究論文を読む力を身につける。②文献の内容を的確にまとめる力をつける。③心理面接法について基礎的かつ実践的な知識を身につける。④人の意見をきちんと聞き、自分の意見を言える能力を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：文献講読の仕方について 第3回：面接法についての解説① 第4回：面接法についての解説② 第5回：心理面接法各論(調査的面接法)① 第6回：心理面接法各論(インタビュー)② 第7回：心理面接法各論(傾聴と共感)③ 第8回：心理面接法各論(非言語的態度の影響)④ 第9回：心理臨床面接における原則について① 第10回：心理臨床面接における原則について② 第11回：心理臨床面接で起きるテーマ(初回面接)① 第12回：心理臨床面接で起きるテーマ(関係性の深まり)② 第13回：心理臨床面接で起きるテーマ(展開)③ 第14回：心理臨床面接で起きるテーマ(終結・中断について)④ 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
発表者：発表の準備を他のメンバーと協力して行う。不明な用語などは、自主的に調べて、質問に答えられるように準備する。またディスカッションにむけての話題提供をあらかじめ用意する。 参加者：批判的に文献を検討し、自分の意見をまとめておく。
成 績 評 価 方 法
授業への積極的参加(出席・態度・発言)50%、発表内容50%で総合的に評価する。 また演習形式の授業であるため、授業への欠席や遅刻などは厳重に減点を行う。
成 績 評 価 基 準
①研究論文を読み、内容をまとめることができるか、②心理面接法について基礎的かつ実践的な知識が身についているか。③人の意見をきちんと聞き、自分の意見を言えるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは、オリエンテーション時に示す。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
初回のオリエンテーション時にグループ分けをするので、受講者は必ず出席のこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学Ⅰ (Clinical PsychologyⅠ)			担当教員	片畑 真由美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-ABC-2221	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
臨床心理学の概説。臨床心理学の基礎知識や特有の視点について学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
臨床心理学の基礎的理論および心の病について理解し、自分でその内容について説明することができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：臨床心理学の歴史と成り立ちについて 第3回：臨床心理学の理論①（意識・無意識について） 第4回：臨床心理学の理論②（フロイトとユング） 第5回：臨床心理学の理論③（分析心理学について） 第6回：臨床心理学の理論④（心の考え方について） 第7回：身体と心 第8回：悩みと心の病① 第9回：悩みと心の病② 第10回：事例検討① 第11回：事例検討② 第12回：悩みと心の病③ 第13回：障害に対する援助① 第14回：障害に対する援助② 第15回：心理臨床の研究について 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の授業終了後、当該部分の配布資料を見直して重要な用語や概念について復習をしてください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%)、小レポート(10%)、授業参加態度(10%)
成 績 評 価 基 準
臨床心理学の基礎的理論および心の病について、用語や概念を理解し説明することができるか。
テキスト、参考図書
レジメや資料を配布する。
その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学Ⅱ (Clinical Psychology Ⅱ)			担当教員	佐藤 至子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-ABC-2222	2 単位	2 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
臨床心理学の概説。臨床心理学の基礎知識や特有の視点について学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
心理療法の基礎的理論および心的発達を理解し、自分でその内容について説明することができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：人の一生 第3回：臨床心理学と心的発達① 第4回：臨床心理学と心的発達② 第5回：臨床心理学と心的発達③ 第6回：事例検討① 第7回：事例検討② 第8回：心理療法とは 第9回：さまざまな心理療法① 第10回：さまざまな心理療法② 第11回：さまざまな心理療法③ 第12回：臨床心理士の仕事① 第13回：臨床心理士の仕事② 第14回：臨床心理士の仕事③ 第15回：心理臨床の専門性 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の授業終了後、当該部分の配布資料を見直して、重要な用語や概念について復習してください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%)、小レポート(10%)、授業参加態度(10%)
成 績 評 価 基 準
心理療法の基礎的理論および心的発達を理解し、自分でその内容について説明することができるか。
テキスト、参考図書
レジメや資料を配布する。
その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生涯発達心理学Ⅰ (Developmental PsychologyⅠ)			担当教員	竹村 明子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABC-2227	2単位	2年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
誕生から死に至るまでの人の一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学の多様な理論に基づき概観する。本講義では、前半に発達に関する多様な理論を概観する。そして、後半に誕生から児童期までの各発達段階の特徴と、関連する問題について学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・人間の生涯を通して展開される発達について理解する視点を獲得する。 ・誕生から児童期までの各発達段階の特徴と心理的問題を説明することができる。 ・多様な生き方を理解し、互いに認め合う態度を養成する。
授 業 の 計 画
第1回：生涯発達心理学とは 第2回：発達の主要理論 第3回：発達の規定要因(遺伝要因、環境要因、相互作用) 第4回：発達心理学の研究手法(発達メカニズムを解明する方法と発達過程を記述する方法) 第5回：乳児期の発達① (身体と運動機能) 第6回：乳児期の発達② (知覚能力) 第7回：乳児期の発達③ (愛着・親子の心の絆) 第8回：主な発達理論のまとめと中間試験 第9回：幼児期の発達① (言語とコミュニケーション) 第10回：幼児期の発達② (認知) 第11回：児童期の発達① (知能の個人差) 第12回：児童期の発達② (記憶と思考) 第13回：児童期の発達③ (社会性) 第14回：発達に関連する問題(自閉症スペクトラム障がい) 第15回：発達に関連する問題(学習障がい・注意欠陥多動性障がい) 第16回：期末試験とまとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、次回に学ぶ内容について関連する書籍・新聞・雑誌記事を読み、あらかじめ疑問点等をまとめて授業に臨むこと。また復習として、授業と配布するプリントに基づき、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
中間試験(30%) 期末試験(40%) 小レポート(30%)
成 績 評 価 基 準
・人間の生涯を通して展開される発達について、生涯発達の視点から理解しているか。 ・誕生から児童期における各発達の特徴と心理的問題を説明することができるか。 ・これまでの自分自身や他者の生き方をみつめ直し、生涯発達心理学の視点から考察できるか。
テキスト、参考図書
テキストは特に指定しない。講義の際にプリントを配布する。参考図書は、必要に応じて講義の中で紹介する。

その他(受講上の注意)

毎回の講義に小レポートの提出を課すので、必ず講義に出席し小レポートを提出すること。講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう、心がけてほしい。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生涯発達心理学Ⅱ (Developmental PsychologyⅡ)			担当教員	竹村 明子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-ABC-2228	2単位	2年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
誕生から死に至るまでの人の一生の歩みを生涯発達という観点から捉え、心理学の多様な理論に基づき概観する。本講義では、生涯発達心理学Ⅰで学んだ内容をふまえ、青年期から成人後期までの発達の特徴と、発達に関連する問題について学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・人間の生涯を通して展開される発達について理解する視点を獲得する。 ・青年期から成人後期までの各発達段階の特徴と心理的問題を説明することができる。 ・多様な生き方を理解し、互いに認め合う態度を養成する。
授 業 の 計 画
第1回：青年期から成人後期にかけての発達の特徴 第2回：青年期の発達① エリクソンの自我同一性理論 第3回：青年期の発達② 職業選択 第4回：成人初期の発達① セクシュアリティ 第5回：成人初期の発達② 結婚と子育て 第6回：成人中期の発達① 中年期危機とライフサイクル論 第7回：成人中期の発達② パーソナリティ 第8回：青年期から成人中期のまとめと中間試験 第9回：成人後期の発達① 高齢社会と老いのころ 第10回：成人後期の発達② 社会活動(引退と再出発) 第11回：成人後期の発達③ 認知(情報処理機能と記憶) 第12回：成人後期の発達③ 英知(生きる知恵) 第13回：成人後期の発達④ 死にゆくころ 第14回：発達に関連する問題 (認知症とうつ) 第15回：超高齢期のころ 第16回：まとめと期末試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、次回に学ぶ内容について関連する書籍・新聞・雑誌記事を読み、あらかじめ疑問点等をまとめて授業に臨むこと。また復習として、授業と配布するプリントに基づき、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
中間試験(30%) 期末試験(40%) 小レポート(30%)
成 績 評 価 基 準
・人間の生涯を通して展開される発達について、生涯発達の視点から理解することができるか。 ・青年期から成人後期における発達の特徴と心理的問題を説明することができるか。 ・これからの自分自身や他者の生き方をみつめ直し、生涯発達心理学の視点から考察できるか。
テキスト、参考図書
テキストは特に指定しない。講義の際にプリントを配布する。参考図書は、必要に応じて講義の中で紹介する。

その他(受講上の注意)

毎回の講義に小レポートの提出を課すので、必ず講義に出席すること。講義では、自分の意見をまとめ表現できるよう、心がけてほしい。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

認知心理学 (Cognitive Psychology)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABC-2230	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
知覚・記憶・言語・思考など、人間の認知に関するトピックについて学ぶ。認知心理学とは、環境との対応と環境に対する働きかけ、あるいは他者とのコミュニケーションといった、我々が生活していく上でその根幹となる機能について考えていく領域である。現象としてではなく、認知に関する理論や研究法について考察し、日常生活や社会における問題解決能力を身につけることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
・ 認知に関する理論について理解できる。 ・ 認知に関する研究法について考察することができる。 ・ 他者とのコミュニケーションを円滑にする方法を考えることができる。 ・ 認知に関する知識をもとに、日常生活や社会における問題を考えることができる。
授 業 の 計 画
第1回：認知心理学とは 第2回：知覚〔1〕 第3回：知覚〔2〕 第4回：注意 第5回：記憶〔1〕 記憶の基本過程 第6回：記憶〔2〕 短期記憶とワーキングメモリー 第7回：記憶〔3〕 長期記憶(意味記憶、エピソード記憶、手続記憶) 第8回：知識と記憶 第9回：スキーマとメタ記憶 第10回：言語の学習〔1〕 言語習得のメカニズム 第11回：言語の学習〔2〕 言語と思考 第12回：言語の理解 第13回：概念と推理 第14回：思考と問題解決 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
毎回行うブリーフレポート(20%)、定期試験(80%)
成 績 評 価 基 準
・ 認知に関する理論について説明することができるか。 ・ 認知に関する研究法について考察することができるか。 ・ 他者とのコミュニケーションを円滑にする方法を考えることができるか。 ・ 認知に関する知識をもとに、日常生活や社会における問題を考えることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用せず適宜プリントを配布する。
その他(受講上の注意)
授業には積極的に参加し、指示されたことや自分の考えをブリーフレポートに書きこんでください。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

生理心理学 (Psychophysiology)			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-OBC-2231	2 単位	2 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
人を含めた動物全般の心的活動には脳が大きくかかわっています。この授業では、様々な心理機能の基盤となる脳を中心とした生理学的メカニズムを理解するために、前半では脳や身体の基本構造と働きについて、後半では心的活動と関連の深い生理的活動について、そのアプローチ法とともに解説します。
授 業 の 到 達 目 標
脳の基本構造と働きについて理解する。生理心理学的アプローチの基本について理解する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション(授業の進め方と概要) 第2回：脳・神経系と心的活動 第3回：脳・神経系の基本構造 第4回：脳の構造 第5回：脳・神経系のはたらき 第6回：生理心理学とは 第7回：生理心理学で用いられる生体反応① 第8回：生理心理学で用いられる生体反応② 第9回：脳波－脳波の記録と分析－ 第10回：事象関連電位 第11回：その他の脳機能の測定① 第12回：その他の脳機能の測定② 第13回：生理心理学の応用①－虚偽検出－ 第14回：生理心理学の応用②－障害児教育への応用－ 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
脳の基本構造と働きについて説明することができるか。生理心理学的アプローチの基本について説明することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用しない。資料の取得方法については、その都度指示します。 参考図書：「新生理心理学」全3巻 宮田洋監修 北大路書房
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
身体と心の関係に対する基礎的な理解ができます。実験的な心理学研究に関心のある方には受講をすすめます。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業・組織心理学Ⅰ (Industrial and Organizational PsychologyⅠ)			担当教員	早川 清一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-AOC-2233	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
産業組織の中で働く人々の心理および行動について解説する。具体的には、リーダーシップ、職場適応、職業適性等について解説する予定である。さらに、日本の人間関係についても理解を深める。
授 業 の 到 達 目 標
産業組織の中で働く人々の心理、行動について理解できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：産業心理学の出発 第3回：モダンタイムス 第4回：生産方式の変化 第5回：リーダーシップ1 第6回：リーダーシップ2 第7回：リーダーシップ3 第8回：職場適応／職業適性 第9回：動作分析／職務分析 第10回：日本人論 第11回：日本の人間関係1 第12回：日本の人間関係2 第13回：日本の人間関係3 第14回：日本の人間関係4 第15回：労働観と宗教
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受けた後で、eラーニングに掲載された当該部分に関連する論文等の資料を熟読し、理解を深めてください。
成 績 評 価 方 法
中間レポート(30%) 期末レポート(70%)
成 績 評 価 基 準
産業組織の中で働く人々の心理および行動について、説明および考察することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用しない。eラーニングに、講義で使用するスライド資料および関連論文等を掲載している。また、講義で使用したパワーポイントも講義終了後に公開するので、復習に利用してください。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
定期試験の受験資格の要件「欠席数が、実施授業時間数の3分の1を超えていないこと」を確認するため、出欠は毎回とります。授業中の私語は厳禁です。3年次に、早川ゼミを希望する人は必ず受講してください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業・組織心理学Ⅱ (Industrial and Organizational PsychologyⅡ)			担当教員	早川 清一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-OOC-2234	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
産業組織の中で働く人々の心理および行動について解説する。具体的には、ストレス、ワークモチベーション、勤労観等について解説する予定である。
授 業 の 到 達 目 標
産業組織の中で働く人々の心理、行動について理解できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：ストレス1 第3回：ストレス2 第4回：ストレス3 第5回：ストレス4 第6回：ワークモチベーション1 第7回：ワークモチベーション2 第8回：ワークモチベーション3 第9回：教育訓練／人事考課 第10回：賃金管理 第11回：勤労観と雇用 第12回：ワーキング・プア1 第13回：ワーキング・プア2 第14回：就業条件管理 第15回：生きがい
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受けた後で、eラーニングに掲載された当該部分に関連する論文等の資料を熟読し、理解を深めてください。
成 績 評 価 方 法
中間レポート(30%) 期末レポート(70%)
成 績 評 価 基 準
産業組織の中で働く人々の心理および行動について、説明および考察することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用しない。eラーニングに、講義で使用するスライド資料および関連論文等を掲載している。また、講義で使ったパワーポイントも講義終了後に公開するので、復習に利用してください。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
定期試験の受験資格の要件「欠席数が、実施授業時間数の3分の1を超えていないこと」を確認するため、出欠は毎回とります。授業中の私語は厳禁です。3年次に、早川ゼミを希望する人は必ず受講してください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会心理学Ⅰ (Social PsychologyⅠ)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-ABC-2235	2 単位	2 年前期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。 社会心理学 I では、社会の中の個人に注目し、自己意識、自己概念がどのように形成され、また個人が他者をどのように認知、理解し、自己の行動を表出させるのか、といった問題について解説する。 授業ではできるだけ実社会で起こっている現象をとりあげ社会心理学的視点から理解していくことをめざす。
授 業 の 到 達 目 標
(1) 社会心理学における基本的な概念について理解する。 (2) 集団の中の個人の行動を理解する。 (2) 現実社会での個人の行動を理解し、研究と結び付けて考えることができる。
授 業 の 計 画
第1回：社会心理学について 第2回：自己意識 第3回：自己概念 第4回：自己呈示 第5回：没個性化 第6回：原因帰属 第7回：対人認知とステレオタイプ 第8回：対人魅力(1) 第9回：対人魅力(2) 第10回：対人魅力(3) 第11回：動機づけ 第12回：社会的動機 第13回：異文化交流ゲーム(1) 第14回：異文化交流ゲーム(2) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。 各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。
成 績 評 価 方 法
授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【小テスト60% 課題レポート30% 授業への参加態度10%】
成 績 評 価 基 準
社会心理学の基本的概念について説明できるか。 集団の中の個人の行動を理解できているか。 現実社会での個人の行動を理解し、研究と結び付けて考えることができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
授業中に適宜資料を配布する。

その他(受講上の注意)

基本的に講義形式ですが、より理解を深めるために必要に応じてVTRを使用したり、自己分析、異文化交流ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。
ゲームには出席することが望ましい。
ゲームは数時間を要する場合があります、実施日時については授業の状況をみてその都度調整変更する場合があります。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会心理学Ⅱ (Social PsychologyⅡ)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABC-2236	2単位	2年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
人間の社会的行動について心理学の立場から解説する。 社会心理学Ⅱでは、社会の中の個人、集団の中の個人に注目して授業を行う。 現実社会で起こる様々な人間行動について過去の実験や研究を紹介しながら解説していく。 主なテーマは、社会的動機、集団や群衆行動、リーダーシップ、援助行動、攻撃行動、同調と服従などである。 また特別講義として、模擬社会ゲームに参加してもらうこととする。模擬社会ゲームは社会でおこる様々な現象や構造を理解するゲームであり、これに参加することにより大学生活ではあまり遭遇しない社会、集団の概念を理解し、心理的葛藤、集団間葛藤等を体験し、問題解決能力を向上させることができる。このような社会生活に近い体験学習を通じ人間の行動に対する理解をより深め、社会や社会の中の一部である自己を探究し、自己成長することを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
1) 社会心理学における基本的な概念について理解する。 2) 集団葛藤やコミュニケーションスキルについて理解する。 3) 日常生活における対人間、集団間の心理学的法則について理解する。
授 業 の 計 画
第1回：状況の力とは 第2回：個人と集団 第3回：集団の凝集性 第4回：集団意思決定 第5回：リーダーシップ 第6回：同調と服従 第7回：囚人と看守実験について 第8回：流言 第9回：パニック 第10回：援助行動(1) 第11回：援助行動(2) 第12回：攻撃行動(1) 第13回：攻撃行動(2) 第14回：ゲーム理論 第15回：模擬社会ゲームについて
授 業 外 の 学 習 方 法
講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。 各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。
成 績 評 価 方 法
授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【小テスト60% 課題レポート30% 授業への参加態度10%】

成 績 評 価 基 準
社会心理学における基本的概念について説明できるか。 集団葛藤やコミュニケーションスキルについて説明できるか。 日常生活における対人間、集団間の心理学的法則について理解できているか。
テキスト、参考図書
授業中に資料配布。
その他(受講上の注意)
基本的に講義形式ですが、より理解を深めるために必要に応じてVTRを使用したり、簡単な討議や自己分析などを行うことがある。その際、レポート課題の提出を求める。 また特別講義として模擬社会ゲームを実施する。 ゲームには出席することが望ましい。 ゲームは数時間を要する場合があります、実施日時については授業の状況をみてその都度調整変更する場合があります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特別講義 (Topics in Psychology)			担当教員	水田 敏郎、早川 清一、西村 則昭、 大森 慈子、山本 雅代、吉田 和典、 三脇 康生、水上喜美子、森 俊之、 片畑真由美、久保 陽子、森本 文人、 吉水ちひろ、竹村 明子、杉島 一郎
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-F-2239	2 単位	2 年前期	講義	必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門				
求める学習成果(教育目標)				
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力				

授 業 の 内 容
心理学科の全教員が1回の持ち回りで講義を行うオムニバス形式の授業です。各専任教員が専門とする心理学の諸分野を解説します。
授 業 の 到 達 目 標
心理学の諸分野について理解を深める。様々なトピックスに触れる中で、心理学に対する関心を高める。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：各教員が専門とする内容① 第3回：各教員が専門とする内容② 第4回：各教員が専門とする内容③ 第5回：各教員が専門とする内容④ 第6回：各教員が専門とする内容⑤ 第7回：各教員が専門とする内容⑥ 第8回：各教員が専門とする内容⑦ 第9回：各教員が専門とする内容⑧ 第10回：各教員が専門とする内容⑨ 第11回：各教員が専門とする内容⑩ 第12回：各教員が専門とする内容⑪ 第13回：各教員が専門とする内容⑫ 第14回：各教員が専門とする内容⑬ 第15回：各教員が専門とする内容⑭
授 業 外 の 学 習 方 法
毎回担当教員が変わりますので、疑問や予め知っておきたい事項があるときには、時間外(オフィスアワーなど)を活用して、担当教員に質問などをするようにして、予習・復習につとめてください。
成 績 評 価 方 法
小レポート(50%) 平常点(50%) (毎回、授業後に小レポートが課されます。平常点は授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
各授業において担当教員の説明する心理学的トピックについて理解を深めることができたか。また、あわせて関心や疑問をもつことができたか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
使用しない
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
3年生から始まるゼミ(心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ)の担当教員や4年生の卒業研究のテーマを決めるうえで、重要な授業となります。週ごとに担当教員が変わるので、毎回出席してください。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

言語コミュニケーション論 (Verbal Communication)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Abg-2201	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。 現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
コミュニケーションにおける言語の役割について学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
円滑な人間関係を維持する上で、必要となる言語的要素について学ぶ
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：ことばと社会 第3回：方言(1) 第4回：方言(2) 第5回：呼称(1) 第6回：呼称(2) 第7回：対人関係の親密化(1) 第8回：対人関係の親密化(2) 第9回：自己開示(2) 第10回：自己開示(1) 第11回：自己呈示(1) 第12回：自己呈示(2) 第13回：ポライトネス理論(1) 第14回：ポライトネス理論(2) 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 授業内レポート(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
コミュニケーションにおいて、言語が果たす役割を説明することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用せず、適宜プリントを配布する
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
遅刻3回で欠席1回とみなす。必ず国語辞書(電子辞書可)を持参すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

非言語コミュニケーション論 (Nonverbal Communication)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Abg-2211	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。 現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
普段意識していないが、対人コミュニケーションにおいて私たちは、言語以外にもさまざまなチャンネルを使用しコミュニケーションしている。そのようなチャンネルをどのように受け取り、他者に対してどのように使用しているのか、またどのような状況でどのような効果があるのか、といった問題について論じる。 さらに、国際交流が深まる中、言語が使えない状況での非言語コミュニケーションが果たす役割は大きいと思われる。言葉が通じる場合でも、理解不足から上手にコミュニケーションがとれないといった状況も頻繁に遭遇する。講義では、このようなコミュニケーションの状況について、異文化交流ゲームを通じて、非言語体験、異文化接触の際の心理状況や行動、問題解決について考え、これを通じて自己理解、他者、集団理解していく。
授 業 の 到 達 目 標
1) 非言語コミュニケーションとは何かを理解する 2) 他者との相互関係の中で使用されるコミュニケーションを理解する 3) 現実社会で使用されている非言語情報を理解する
授 業 の 計 画
第1回：非言語コミュニケーションとは 第2回：言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションの違いⅠ 第3回：言語的コミュニケーションと非言語コミュニケーションの違いⅡ 第4回：対人認知と印象形成Ⅰ 第5回：対人認知と印象形成Ⅱ 第6回：表情 第7回：ジェスチャーと表情 第8回：視線Ⅰ 第9回：視線Ⅱ 第10回：プレゼンテーションと非言語コミュニケーション 第11回：空間把握 第12回：異文化コミュニケーションと非言語 第13回：異文化コミュニケーションゲームⅠ 第14回：異文化コミュニケーションゲームⅡ 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。 各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。
成 績 評 価 方 法
授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【小テスト60% 課題レポート30% 授業への参加態度10%】
成 績 評 価 基 準
非言語コミュニケーションについて基本的概念を理解できる。 積極的に他者とコミュニケーション行える。

テキスト、参考図書
授業中に資料配布
その他(受講上の注意)
基本的に講義形式ですが、より理解を深めるために必要に応じてVTRを使用したり、自己分析、異文化交流ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。 ゲームには出席することが望ましい。 ゲームは数時間を要する場合があります、実施日時については授業の状況をみてその都度調整変更する場合があります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

パーソナル・コミュニケーション論 a (Personal Communication a)			担当教員	谷 雅徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2202	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
パーソナルコミュニケーションを自己との対話と位置づけ、集中講義の形式を取る事で自分自身を徹底的に見つめ直す機会を作ります。その手段に書道を用います。もちろん字をうまく書く事を目的とはしません。自分がこうだと決めつけている形から抜け出し、自己を素直に表現する事を目的とします。限りなく演習に近い講義となります。
授 業 の 到 達 目 標
自分自身を見つめる能力。すなわち内省力を養います。囚われている自己を開放させる方法論を学びます。
授 業 の 計 画
授業を一緒に学ぶ上で仲間意識を高めます 第1回：自分てなんだろう 第2回：取り敢えず、紙に向かって書いてみる 第3回：自己紹介をかねて全員が話す1 第4回：紙、硯、筆の歴史を学ぶ(DVD鑑賞) 第5回：墨の歴史(DVD鑑賞) 自分を知り、さらに自身に対する考察を深める 第6回：内省書道1 第7回：内省書道2 第8回：内省書道3 第9回：内省書道4 第10回：内省書道5 形から抜け出す方法論を学びます 第11回：解放書道1 第12回：解放書道2 第13回：解放書道3 第14回：解放書道4 第15回：作品鑑賞、意見交換
授 業 外 の 学 習 方 法
講義で自分が感じ取った感覚を出来るだけその日のうちに思い返し、次の日の講義に向けて意識を持続させて下さい。
成 績 評 価 方 法
提出課題(40%)小レポート(30%)平常点(30%)「平常点は、授業への参加意欲、受講態度等を総合して判断します」
成 績 評 価 基 準
どれだけ自分を深く見つめる事が出来ているのか。どれだけ自分を素直に表現出来ているのかを判断基準とします。

テキスト、参考図書
現場で配布します。
その他(受講上の注意)
墨を扱うので出来るだけ汚れても良い服装で受講して下さい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

プレゼンテーション技法 a (Presentation Skills a)			担当教員	北神 慎司	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2201	2 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 計画実行能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 選択能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
Power Pointを用いて、プレゼンテーションのための技法を習得する演習を行う。その前段階として、図表をはじめとして、情報をわかりやすく伝えるための手段の一つであるビジュアライゼーション(視覚化)についての解説と絵集を行う。さいごに、まとめとして、グループによるプレゼンテーションと相互評価を実施する。
授 業 の 到 達 目 標
ビジュアライゼーションのスキルやPower Pointの基本的な操作スキルを習得するだけでなく、自らのアイデアと適切な情報収集によって、プレゼンテーションの企画立案を行い、説得的なコミュニケーションという位置づけにおいて、魅力あるプレゼンテーションを実現できる能力を養成する。
授 業 の 計 画
第1回：イントロダクション(プレゼンテーションとは?) 第2回：ビジュアル・コミュニケーションって何? 第3回：ビジュアル・コミュニケーションの概説(1) 第4回：ビジュアル・コミュニケーションの概説(2) 第5回：ビジュアライゼーション(視覚化)の演習(1) 第6回：ビジュアライゼーション(視覚化)の演習(2) 第7回：ビジュアル・デザインの演習(1) 第8回：ビジュアル・デザインの演習(2) 第9回：プレゼンテーションの企画とスライドの作成(1) 第10回：プレゼンテーションの企画とスライドの作成(2) 第11回：プレゼンテーションの企画とスライドの作成(3) 第12回：プレゼンテーション演習と評価(1) 第13回：プレゼンテーション演習と評価(2) 第14回：プレゼンテーション演習と評価(3) 第15回：プレゼンテーション演習と評価(4)
授 業 外 の 学 習 方 法
授業時に授業時間外に行うべき課題(予習・復習も含めて)について指示する。具体的に、予習については、次の授業で扱う内容について教科書の該当部分を読み、あらかじめ質問等を考えておくこと。また、復習については、パワーポイントの操作を含め、指示するビジュアライゼーションの練習課題等を行っておくこと。
成 績 評 価 方 法
課題等の提出物を30%、授業における発表を50%、平常点を20%として評価する。なお、平常点は、授業への参加状況・受講態度、授業中の発現等を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
ビジュアライゼーションの考え方を理解しそれを実践できること、Power Pointを操作することによって、プレゼンテーションのスライド(資料)を作成することができること、また、そのスライドを用いて、プレゼンテーションの評価項目に留意しながら、魅力あるプレゼンテーションを行うことができることについて、受講生の評価も考慮に入れつつ評価する。

テキスト、参考図書
ワイルマン、R.E.・井上智義・北神慎司・藤田哲也 『ビジュアル・コミュニケーション』 北大路書房 2002年
その他(受講上の注意)
授業の中では、グループワークも予定しているため、できるだけ、欠席をすることのないように留意されたい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

プレゼンテーション技法b (Presentation Skills b)			担当教員	本多 幸子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2211	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実地的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
本講義では、プレゼンテーションについて概説するとともに、多様な実例をもとにその技法を研究する。このため、対象、利用媒体など異なる環境におけるプレゼンテーションの映像的記録をもとに、それに伴う身体表現・音響などの特徴、効果について分析する。また、その結果についてのプレゼンテーションを学生自身で行い、相互に評価・検討を行う。本講義を通して、コミュニケーション能力や情報収集・探索能力を高めることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
本講義では、情報の視覚化・マルチメディア化を行い、パソコンを直接操作するデジタルプレゼンテーションの演習を通して、多様な情報の取り扱いと情報表現能力を身につけることができる。
授 業 の 計 画
第1回：わかりやすいプレゼンテーションのために 第2回：視覚情報の種類と選択 第3回：言語情報と視覚情報のバランス 第4回：Wordを活用した資料作成の方法(1) 第5回：Wordを活用した資料作成の方法(2) 第6回：Wordを活用した資料作成 第7回：Excelを活用した資料作成の方法(1) 第8回：Excelを活用した資料作成の方法(2) 第9回：Excelを活用した資料作成 第10回：Power Pointを活用した資料作成の方法(1) 第11回：Power Pointを活用した資料作成の方法(2) 第12回：Power Pointを活用した資料作成 第13回：プレゼンテーションの準備 第14回：プレゼンテーション 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受講後、配付資料を見直して復習すること。また、デジタルプレゼンテーションの発表に向けて、各自準備すること。
成 績 評 価 方 法
小レポート(30%)、平常点(50%)、発表(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。)
成 績 評 価 基 準
・ コミュニケーション能力や情報収集・探索能力を高めることができるか。 ・ パソコンを活用して、デジタルプレゼンテーションを行うことができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
なし

その他(受講上の注意)

遅刻や欠席はしないこと。教員との連絡方法については、授業時に指示する。
各授業ごとに仮題ビデオを鑑賞し、逐次そのテーマに添ったパワーポイントを作成して発表する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域経済論 (Regional Economics)			担当教員	小林 大祐	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Chh-2201	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系					
求める学習成果(教育目標)					
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
この講義では、産業化・都市化をテーマとして、地域社会における生活変容のプロセスを考察する。とりわけ経済という視点から福井(越前地域)をはじめとする地域社会の問題点を学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・ 経済が発展し産業化していくプロセスを地域間の人口移動との関連で理解する。 ・ 社会が都市化していくプロセスを理解する。 ・ 福井(越前地域)をはじめとする地域社会の特徴を理解する。
授 業 の 計 画
第1回：ガイダンス 第2回：経済発展と地域社会① 第3回：経済発展と地域社会② 第4回：経済発展と地域社会③ 第5回：人口集中と都市問題：都市社会学的視点① 第6回：人口集中と都市問題：都市社会学的視点② 第7回：スプロール化としての「郊外」化現象 第8回：「郊外」の社会経済的特徴 第9回：公共事業の功罪① 第10回：公共事業の功罪② 第11回：福井を取り巻く社会環境① 第12回：福井を取り巻く社会環境② 第13回：福井を取り巻く社会環境③ 第14回：福井を取り巻く社会環境④ 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
配布されたプリントなどの内容について、予め読んでおくこと。授業内容についても復習して、身近な福井の経済について理解を深めておくこと。
成 績 評 価 方 法
・ 期末レポート(60%) ・ 小課題の提出(40%)
成 績 評 価 基 準
・ 経済が発展し産業化していくプロセスを地域間の人口移動との関連で理解できているか。 ・ 社会が都市化していくプロセスを理解できているか。 ・ 福井(越前地域)をはじめとする地域社会の特徴を理解できているか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
一定のテキストは使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
なし

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

地域社会論 (Sociology of the Community)			担当教員	島岡 哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Chh-2211	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系					
求める学習成果(教育目標)					
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
本講義は、「地域」「環境」を大きなキーワードとし、社会変動の中でどのように地域社会が変容を遂げたのかについて学ぶ。取り扱うテーマは、民俗文化から近年のまちおこし、「共生社会」をめざしたボランティアの実践まで、多岐にわたる。自らが暮らし、生きてゆく地域を対象化してとらえるために、他の地域の事例と分析を主に扱う。本講義は、1 年次必修「現代社会論a(越前学概論)」で扱ったそれぞれの学問領域の考え方を、もう 1 段階レベルアップした形で、また、領域横断的な形で、地域社会の分析に適応・考察する内容となる。
授 業 の 到 達 目 標
地域特性を析出する力を身につけ、地域社会が抱える問題を対象化してとらえ、課題解決に資する力を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：ガイダンス ― 日常生活世界から地域文化を捉える 第2回：地域の多様性と社会構造 ― 大都市と過疎高齢化地域の二極化 第3回：地域の伝統文化の変貌 ― 京都・祇園祭の事例から 第4回：移住とむらおこし ― 「田舎暮らし」の事例から 第5回：レジャーとむらおこし ― 「バス釣り」の事例から 第6回：住環境とエコロジー ― リサイクル社会をめぐる 第7回：地域の伝統的景観の「保存」と環境の変容 ― 木屋町とミナミ 第8回：地域の遺産を観光に ― ツーリズム・観光・表象の現在 第9回：地域社会の危機と再生① ― 阪神・淡路大震災(1995) 第10回：地域社会の危機と再生② ― 日本海重油災害(1997) 第11回：地域社会の危機と再生③ ― 三重県東紀州水害と山津波、私の水害復興経験から(2004) 第12回：地域社会の危機と再生④ ― 東日本大震災(2011)、紀伊半島大水害(2011) 第13回：地域社会の危機と再生⑤ ― 長期的かつ多角的な復興支援、「減災」 第14回：地域「共生」社会を目指して ― ボランティアの多様な形、ユニバーサル・デザイン 第15回：地域環境学をさらに深めるために ― 3 年次への展開を目指して 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
講義中に示した文献・論文を読むことで地域特性の析出方法と他地域の事例を知ること。講義内で扱った自治体やNPOなどの地域の担い手が作るホームページ、ブログ等を適宜検索・閲覧し、理解を深めること。
成 績 評 価 方 法
リアクションペーパー記載の内容(出欠も兼ねる)20%、地域調査報告ミニレポート(20%)、定期試験60%。
成 績 評 価 基 準
地域特性を析出する力と、地域社会の抱える問題を調査、探索する力が身についているかどうか。それに基づき、実践的課題解決に向けての基礎的思考方法が身についているかどうか。
テキスト、参考図書
カバー範囲が広いため、テキストの指定はしない。そのかわり、講義中に、参考文献および論文を明示する。

その他(受講上の注意)
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デザイン文化論 (Design and Culture)			担当教員	佐野 寛	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Abb-2201	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系					
求める学習成果(教育目標)					
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
格差社会、大震災、原発事故後の日本と自分が住む地域の近未来をデザインの視点から考える。
授 業 の 到 達 目 標
世界経済のシステムが行き詰まり、貧富の格差が世界中で深刻化し、異常気象による災害が頻発して人間生活を脅かすようになっている。この講義は、そうした世界状況の現状をデザインおよび文化の視点から読み解いて、地域の文化的、経済的再生こそが、明るい未来を拓くという認識に到達することを目標とする。そのために、歴史を振り返り、IT革命以降の経済社会の激変と生活文化の関係を振り返り、スマホ、タブレット端末が人間生活を変える現実の行方はどうなっていくか、いくべきかを考えていく。そしてそうした現実変革に対しデザインに対するデザインの役割を、並行して考えていく。
授 業 の 計 画
第1回：始めに、現実を再認識し、グローバルな格差問題と、地域再生の緊急性について言う。 第2回：デザイン — 文化 — 人間(1) デザインの中に生まれ育ち生きる人間 第3回：デザイン — 文化 — 人間(2) デザインが造る生活環境 第4回：デザイン — 文化 — 人間(3) デザインのメッセージ 第5回：デザインと文化の流れ(1) 発明発見19世紀、戦争の20世紀、そしてITの21世紀へ 第6回：デザインと文化の流れ(2) メディアのコミュニケーション革命 第7回：広告の発展(1) 大量生産大量消費ビジネスの人間改造と地域文化の衰退 第8回：広告の発展(2) メディア革命／若者の大都市志向／地域の過疎化高齢化 第9回：広告の発展(3) 広告の手法(気にしない力／満足仮説／AIDMA／視聴率と多数決原理) 第10回：広告の発展(4) 広告の現在(マスメディアの衰退とメディアの多様化) 第11回：デザインと文化のこれから(1) IT革命と広告文明の崩壊1 大量生産大量消費の激変 第12回：デザインと文化のこれから(2) IT革命と広告文明の崩壊2 スマホ対マスメディア 第13回：デザインと文化のこれから(3) 世界と日本の問題1 地域環境／人口／水／食糧自給率 第14回：デザインと文化のこれから(4) 世界と日本の問題2 地産地消の真の意味 第15回：デザインと文化のこれから(5) 世界と日本の問題3 デザインの新使命と地域文化の復興
授 業 外 の 学 習 方 法
事前配布資料(コミュニケーション論)、参考図書(下記)と良く読んでおくこと。 参考図書(1)ハワード・ラインゴールド『スマートモブス』NTT出版 (2)佐野寛『メディア写真論』パロル舎 2000 (3)佐野寛『21世紀的生活』三五館 1996 (4)佐野山寛太『現代広告の読み方』文春新書 (5)佐野山寛太『追悼 広告の時代』洋泉社Y新書
成 績 評 価 方 法
レポート50%,平常点50%(平常点は、授業への参加状況、受講態度、レポートの提出等を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
社会問題(経済問題、格差社会、異常気象等)を認識し、明るい未来を拓く力(問題解決力)を身につけることができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
(1) 佐野寛「コミュニケーション」論(コピー夏期休暇前に配付)授業当日までに読んでおく。 (2) 世界人口図(当日配布)

その他(受講上の注意)
3日間の集中講義なので3日間の出席率が単位取得の条件になる。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

時事問題研究a (Research of Current Affairs a)			担当教員	四戸 友也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2201	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系					
求める学習成果(教育目標)					
日々起きるニュースを歴史的なつながりや国際的な結びつきなどの背景を理解する力をつけることが目標です。そうすることでメディアリテラシーが高まることになるようにしたい。このために基礎的な仕組みなども解説、実践的な知指揮を身に着け・専門分野に偏らない教養・知・文化を理解できるようになることを目指します。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 計画実行能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 選択能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
内外の主な出来事を正確に理解して、自分たちの生活や仕事にどう関わり、影響するかを把握できるような内容にしたい。ニュースへの関心と理解を深めることで時代や身の回りの変化への対応力がつくような内容にしていきたい。
授 業 の 到 達 目 標
・日々のニュースに関心を持つ。 ・ニュースの中身についての理解を深める。 ・政治や経済の仕組みを理解し、現在起きていることの意味を考える。 ・消費税を含め、税の仕組みを学び、自治体や国家の財政についても理解するようにする。 ・社会現象についても背景を考え、解決策を探る。 ・事件報道については警察、検察そして裁判までの仕組みを理解する。 ・近隣諸国の関係を含め、国際社会の現状認識を深める。 ・福井県内のニュースにも触れながら、県政の方向について学ぶ。 ・ニュースに登場する人を取り上げ、どのような人物かを知る。 *前期(時事問題研究aでは一週間単位で起きるニュース解説をしながら上記にあげたように基礎的な仕組みやことがらへの理解を深めるようにする。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション、時事問題理解への意義 第2回：国の予算と決定までの課程 第3回：選挙制度の変遷と定数は正 第4回：国際情勢と国の安全保障 第5回：エネルギー問題を考える 第6回：原発立地の歴史と課題 第7回：国際貿易とTPP 第8回：福井の経済構造と課題 第9回：日本経済の変遷と課題①第1回：オリエンテーション、新聞の読み行く方。時事問題理解への意義。 第10回：日本経済の変遷と課題② 第11回：地域を変える交通体系 第12回：観光について考える 第13回：地域の魅力発見と発信 第14回：近隣諸国との関係 第15回：国際スポーツ競技について考える。 第16回：試験 *第2回目以降は1週間単位のニュース報道を見ながら上記にあげたテーマを順不同に取り上げる。このため回ごとのテーマと授業内容が多少しずれることもある。
授 業 外 の 学 習 方 法
基本的には毎日、新聞を読むことやラジオ、テレビのニュース報道に接することを求めている。毎回一週間単位でのニュースレジメを配布するが、理解できないことや、どのような関連ニュースがあったかを授業の最初に質問していく。

成績評価方法
定期試験(70%)、小レポート(10%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。)
成績評価基準
・ ニュースに出てきたキーワードを理解しているか。 ・ 政治や経済の仕組みをどこまで理解したか。 ・ 景気の良い悪いとはどのようなことか。 ・ 大きな出来事についての背景や展開を理解できたか。 ・ 国際問題などで何が問題になっているのか。 ・ このほか、授業期間中起きたニュースを題材に授業で取り上げた内容について理解しているか。
テキスト、参考図書
特別なテキストは用意しないが、テーマごとに参考図書を提示する。 毎回ニュースレジメを用意し配布する。 *参考図書 「日経HR編集部」・「日経キーワード」・「日経HR」・「2013年」 「池上彰」・「池上彰のニュースそこからですか」・「文春新書」・「2012年」 「清原聖子・前嶋和弘」・「インターネットが変える選挙」・「慶応義塾大学出版会」・「2011年」 「日本新聞協会編集委員会」・「取材と報道」・「日本新聞協会」・「2009年」 「増田弘・土山実男」・「日米間系キーワード」・「有斐閣」・「2001年」 「新版 比較・選挙政治」・「ミネルヴァ書房」・「2004年」
その他(受講上の注意)
ニュースに接することを習慣づけるように心がける。そのため新聞、テレビ、ネットのほか雑誌、書籍にも触れ、関心を高めた問題はより深く考えるようにする。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

時事問題研究 b (Research of Current Affairs b)			担当教員	四戸 友也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2211	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系					
求める学習成果(教育目標)					
日々起きるニュースを歴史的な観点からその背景を探り、学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養を身に着ける。それによって身の回りに起きる出来事に対する対応力を高める。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容	
前期同様、日々起きるニュースの焦点を当てながら授業を進める。前期はニュースのテーマになっている事柄について仕組みから解説するが、後期ではニュースの流れを追う。そのニュースの発生した原点、つまりどこから、どのような原因で起きたかを分析しながらニュースは一過性でないことを学んでいく。	
授 業 の 到 達 目 標	
・日々の出来事、報道に関心を持てるようになる。 ・ニュースを歴史的な視点で見えていく。新聞で報道された事柄は発生モノ(事故・事件)は突然起きるが、通常のニュースには以前からくすぶっていたことが表に出てくる。そうした原点を調べることで当日のニュースが通過点であり、今後の展開を予想することも出来ることを学ぶ。 ・国際関係についても歴史的な寒天で考えることで理解を深める、 ・社説・論説など新聞によって異なる見方や主張をしているケースは多い。読み比べ、ニュースを多角的に読むことが出来るようにしたい。 ・二項対立の案件も多いが、第三の道を探るとの視点でニュースを読み解く努力が出来るか。 ・客観的なものの見方が出来るようになる。一方で、さまざまな情報を入手し自分の考え方を確立するような努力が出来るか。	
授 業 の 計 画	
第1回 オリエンテーション、後期の授業の進め方。時の話題を取り上げ、歴史的なものの見方を考える 第2回 経済動向の行方。経済ニュースを最近の流れから分析しながら検討してみる。 第3回 臨時国会の焦点。 第4回 オリンピックに向けて東京一極かが加速するのか。大阪はどうなる。福井は。 第5回 北陸新幹線について考える。整備新幹線の歴史と到達点。金沢開業で福井はどう変わるのか。 第6回 先送りされた消費税のアップ。(8%から10%)、国の財政事情。 第7回 少子高齢化社会と年金問題。地方は消滅するのか。 第8回 原発と沖縄がわが国の二大テーマ 第9回 福井県の産業構造について考えよう 第10回 選挙と政治について。(定数改正問題)世論調査とは。 第11回 日米関係の歴史と今 第12回 なぜ中国、韓国との関係はこじれるのか 第13回 国際化社会で日本の針路 第14回 注目企業と経営者 第15回 時事問題から考える歴史と未来。 第16回 定期試験	
授 業 外 の 学 習 方 法	
日常、新聞をはじめとしたメディアのニュースに疑問を持ちながら考える習慣を持ってもらいたい。「なぜこうなったのか」を考え、自分の関心を持ったニュースを追いかける楽しさを覚えてもらう。	
成 績 評 価 方 法	
定期試験(80%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。)	

成 績 評 価 基 準
・ 過去20年程度の景気動向の変化から経済の見方を理解できたか。 ・ 福井県内の企業動向から県内の産業構造の変化を学べたか。 ・ 原発と沖縄問題における 2 項対立の現状を理解できたか。 ・ ニュースから現在の日米関係を知り、その歴史的な見方を身につけることができたか。 ・ 中国、韓国、北朝鮮、ロシアという極東アジアとの関係について学べたか。 ・ 著名な企業経営者の考え方をどう捉えることができるか。 ・ 日々のニュースを日常生活にどう反映するか考えるようになったか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
毎回資料を配布する。 *参考図書 「日経HR編集部」・「日経キーワード」・「日経HR」・「2013年」 「池上彰」・「池上彰のニュースそこからですか」・「文春新書」・「2012年」紙 「池上彰」・「池上彰の政治の学校」・「朝日新書」・「2012年」 「津田大介」・「ウェブで政治を動かす」・「朝日新書」・「2012年」 「ゲラリーEクレイトン」・「アメリカの高校生が学ぶ経済学」・「WAVE出版」・「2011年」 「清原聖子・前嶋和弘」・「インターネットが変える選挙」・「慶応義塾大学出版会」・「2011年」 「別冊宝島編集部」・「1 時間でわかる『尖閣諸島・竹島』問題」・「宝島社」・「2012年」 「日本新聞協会編集委員会」・「取材と報道」・「日本新聞協会」・「2009年」 「増田弘・土山実男」・「日米間系キーワード」・「有斐閣」・「2001年」 「新版 比較・選挙政治」・「ミネルヴァ書房」・「2004年」
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
日常生活の中で新聞を読み、テレビやラジオ、ネットなどメディアに接し、ニュースに敏感になるよう努力する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語文法論 (Grammar of the Japanese Language)			担当教員	笹原 幸子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Abi-2201	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。 日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
日本語の文法を日本語教育という視点からとらえ、一つの外国語として客観的に観察しながら日本語の文法を学んでいく。さらに、日本語にどのような特徴があるかを他の言語と比較して把握する。また、外国人の日本語学習者がおかす誤用の原因を探るために日常使われている日本語を観察分析し、日本語の規則性を発見するという課題が与えられる。
授 業 の 到 達 目 標
・日本語教育から見た日本語の文法の捉え方が理解できるようになる。 ・言語としての日本語の特徴が分かるようになる。 ・日本語学習者の誤用原因を探るために、日常使っている日本語を観察、分析できるようになる。 ・日本語の基本的な文法知識を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：日本語教育の文法 外国語としての日本語文法 第2回：品詞 1 第3回：品詞 2 第4回：品詞 3 第5回：格助詞 1 第6回：格助詞 2 第7回：「は」と「が」 第8回：動詞の分類と活用 第9回：動詞の「て」形 第10回：ヴォイス 1 第11回：ヴォイス 2 第12回：アスペクト 1 第13回：アスペクト 2 第14回：テンス 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習としては、教科書の中の各講義の関連項目を読み、あらかじめ問題意識を持つようにしておく。復習としては、各講義で得た文法の知識を深めておくために、教科書の問題ページをしておく。課題や宿題が出された場合は次のクラスで発表できるように準備しておく。
成 績 評 価 方 法
試験(70%)、課題(20%)、平常点(10%)の割合で評価する。 (平常点は授業への参加状況と受講態度を総合して判断する)
成 績 評 価 基 準
・日本語の特徴が分かるようになったか。 ・日常使っている日本語を客観的に分析できるようになったか。 ・日本語の基本的な文法知識が身についたか。

テキスト、参考図書
野田尚史 『はじめての人の日本語文法』 くろしお出版 1991年
その他(受講上の注意)
講義内容などに関する質問は授業中およびe-mailで受け付ける。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英文講読 a (English Reading a)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bce-2201	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。 次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。
授 業 の 到 達 目 標
1. 多読(reading for pleasure)のための適切な本を選択できる。 2. 望ましい読書習慣を理解し、身につける。 3. 多様なリーディング・ストラテジーを理解し、読みの目的に応じて使用できる。 4. 英文パラグラフのトピックを把握できる。 5. パラグラフのメイン・アイディアを把握できる。
授 業 の 計 画
第1回：Orientation 第2回：Reading for Pleasure ① 第3回：Reading for Pleasure ② 第4回：Previewing, Scanning ① 第5回：Previewing, Scanning ② 第6回：Skimming ① 第7回：Skimming ② 第8回：Review 第9回：Using Vocabulary Knowledge for Effective Reading, Storytelling ① 第10回：Using Vocabulary Knowledge for Effective Reading, Storytelling ② 第11回：Finding Topics, Thinking in English ① 第12回：Finding Topics, Thinking in English ② 第13回：Discovering Topics of Paragraphs, Understanding Main Ideas ① 第14回：Discovering Topics of Paragraphs, Understanding Main Ideas ② 第15回：Consolidation 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
1. テキストの予習・復習を行うとともに、自分に適した多読用の英語の本を選んで読む。 2. 語彙ノートを作成し、未知語を辞書で調べて整理し、語彙力を高める。 3. NetAcademyのStandard CourseのReading Section を用いて自学自習する。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、課題(25%)、平常点(25%) (平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。)

成 績 評 価 基 準
1. 多読のための適切な本を選択し、望ましい読書習慣を心がけて読むことができたか。 2. 多様なリーディング・ストラテジーを、読みの目的に応じて使用できるか。 3. 英文パラグラフのトピックを把握できるか。 4. パラグラフのメイン・アイディアを把握できるか。
テキスト、参考図書
『MORE READING POWER』 Mikulecky, B.S., and L. Jeffries. Addison-Wesley Publishing Company. 他に随時プリント、NetAcademy を使う。
その他(受講上の注意)
なるべく多く英語を読むように心がけ、望ましい読書習慣を身につけてもらいたい。主体的な学習を期待する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英文講読 b (English Reading b)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bce-2211	1 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。 次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
小説、エッセイ、評論文、英字新聞や雑誌の記事、マニュアルなど多様な素材を用いて、英米文学や日常生活に必要な情報から文化論、環境問題、社会問題、教育問題など幅広いトピックをとりあげながら、読解力を養成する。
授 業 の 到 達 目 標
1. 明示的に書かれていない内容を推測しながら読むことができる。 2. 新聞記事の見出しの規則や構成を理解し、必要な情報を読み取ることができる。 3. 速読の方法を理解し、英文を速読できる。 4. パラグラフの構成パターンを理解し、読む際に認識できる。 5. 内容を正確に深く精読できる。
授 業 の 計 画
第1回：Orientation 第2回：Making Inferences, News Reporting ① 第3回：Making Inferences, News Reporting ② 第4回：Reading Faster ① 第5回：Reading Faster ② 第6回：Identifying Patterns of Organization ① 第7回：Identifying Patterns of Organization ② 第8回：Review 第9回：Intensive Reading ① 第10回：Intensive Reading ② 第11回：Intensive Reading ③ 第12回：Intensive Reading ④ 第13回：Summarizing ① 第14回：Summarizing ② 第15回：Consolidation 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
1. テキストの予習・復習を行うとともに、興味のある新聞記事を選択し、継続的に読む。 2. 語彙ノートを作成し、未知語を辞書で調べて整理し、語彙力を高める。 3. NetAcademyのStandard CourseのReading Section を用いて自学自習する。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、課題(25%)、平常点(25%) (平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。)

成 績 評 価 基 準
1. 明示的に書かれていない内容を推測しながら読むことができるか。 2. 新聞記事の見出しの規則や構成を理解し、必要な情報を読み取ることができるか。 3. 速読の方法を理解し、英文を少なくとも120WPM以上の自分の目標スピードで読めるか。 4. パラグラフの構成パターンを理解し、読む際に認識できるか。 5. 内容を正確に深く精読できるか。
テキスト、参考図書
『MORE READING POWER』 Mikulecky, B.S., and L. Jeffries. Addison-Wesley Publishing Company. 他に随時プリント、英字新聞記事、NetAcademy を使う。
その他(受講上の注意)
なるべく多く英語を読むように心がけ、望ましい読書習慣を身につけてもらいたい。主体的な学習を期待する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

L L 演習 a (Computer and Language Laboratory Practice a)			担当教員	加藤 優子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2201	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 選択能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
リスニング・ディクテーションの訓練を通し、平易な内容の英語文を正確に聞き取る力を鍛え、英語によるコミュニケーション能力を身につけることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
・音声記号を理解できる。 ・平易な英語を、書き取ることができる。 ・平易な英語を、より正確な発音で話すことができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：Unit 1 音声の知識 1 Flowers 第3回：Unit 2 音声の知識 2 Dolphins 第4回：Unit 3 音声の知識 3 The Learning Tower of Pisa 第5回：Unit 4 音声の知識 4 Cosmetics 第6回：Unit 5 音声の知識 5 Sakhalin Dogs Stranded at the South Pole 第7回：Unit 6 音声の知識 6 A Train Journey 第8回：Unit 7 音声の知識 7 Charley the Paleontologist 第9回：Unit 8 音声の知識 8 Crows 第10回：Unit 9 音声の知識 9 Near Miss 第11回：Unit 10 音声の知識 10 Husband, John and Wife, Barbara 第12回：Unit 11 音声の知識 11 Anna and the London Taxi Driver 第13回：復習問題 1 Mysterious Stones 1 第14回：復習問題 2 Mysterious Stones 2 第15回：復習問題 3 発音記号 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の演習後に、リスニングの課題を出します。これを宿題とし、次の演習時に提出してください。また、ネットアカデミーなどのウェブ教材を利用し、リスニングの練習を習慣づけてください。
成 績 評 価 方 法
定期試験 60%、課題 30%、平常点 10% (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
・音声記号を理解できるか。 ・平易な英語を、書き取ることができるか。 ・平易な英語を、より正確な発音で話すことができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
都築正善『英語のイージーリスニングとディクテーション』朝日出版社、2010年。 その他適宜プリントを使用する。

その他(受講上の注意)

5 分以上の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

L L 演習 b (Computer and Language Laboratory Practice b)			担当教員	加藤 優子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2211	1 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 言語系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
ノーマルスピードの英語のリスニング・ディクテーションの訓練を通し、英語文を正確に聞き取る力を鍛え、英語によるコミュニケーション能力を身につけることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
・ ノーマルスピードの英語を、書き取ることができる。 ・ ノーマルスピードの英語を、話すことができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：Listening and Dictation Training 1 第3回：Listening and Dictation Training 2 (小テスト1) 第4回：Listening and Dictation Training 3 (小テスト2) 第5回：Listening and Dictation Training 4 (小テスト3) 第6回：Listening and Dictation Training 5 (小テスト4) 第7回：Listening and Dictation Training 6 (小テスト5) 第8回：Listening and Dictation Training 7 (小テスト6) 第9回：Listening and Dictation Training 8 (小テスト7) 第10回：Listening and Dictation Training 9 (小テスト8) 第11回：Listening and Dictation Training 10 (小テスト9) 第12回：Listening and Dictation Training 11 (小テスト10) 第13回：Listening and Dictation Training 12 (小テスト11) 第14回：Listening and Dictation Training 13 (小テスト12) 第15回：復習問題 1 発音記号 (小テスト13)
授 業 外 の 学 習 方 法
学期中に2回、課題を出します。これを宿題とし、次の演習時に提出してください。また、様々なウェブ教材を利用し、リスニングの練習を習慣づけてください。
成 績 評 価 方 法
小テスト 65%、課題20%、平常点 15% (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
・ ノーマルスピードの英語を、書き取ることができるか。 ・ ノーマルスピードの英語を、話すことができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
授業中に適宜紹介します。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
5 分以上の遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発論 (Study of Planning and Development)			担当教員	富永 良史	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aaa-2201	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実践的なプランを構築する能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		■計画実行能力		■選択能力	
				■社会・職業理解能力	
				■課題解決能力	

授 業 の 内 容
新しいモノゴトを生み出すための、ココロとカラダの使い方を、多様な試行を通じて探索する。 狭い常識を打ち破り、視野を広げ、捕われずに柔軟に考えるための、試行錯誤の場。失敗から学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
1. 先入観や常識にとらわれることなく、モノゴトをあるがままに感じ取る。 2. 問題を解決する手段として、新しいモノゴトを、他者との対話／触発を通じて企画する。 3. 自分の現実を動かす／変えるための企画開発力(自分のスタイル)を育む。
授 業 の 計 画
第1回：15週間の成長を見通す(オリエンテーション：学び方の約束) 第2回：これまでに、何がどのように企画開発されてきたのか 第3回：自分の感性と思考のクセを知る／とにかく企画する 第4回：日常に隠れた問題を見いだす 第5回：ヒラメキをカタチにして試してみる 第6回：どんな人が集えばヒラメキが生まれるのか 第7回：新しい発想とは古い発想の組みあわせに過ぎない 第8回：発想するための環境を創り出す 第9回：アイデアの数こそが質を高める 第10回：見る位置、時間の流れを変えて考える 第11回：極端に、異端に描く 第12回：企画とは物語を生み出すこと／ヒット商品の物語 第13回：あなたの物語を描く(1) 第14回：あなたの物語を描く(2) 第15回：互いの物語を聴きあう
授 業 外 の 学 習 方 法
授業外でのヒラメキを記録する「企画メモ」の作成を求める。ヒラメキの蓄積が発想を生むことを体感するためにも、授業の素材としても活用される。具体的作成方法は開講後に説明する。
成 績 評 価 方 法
授業毎のミニレポート(40%)、期末レポート(30%)、授業への参加意欲と貢献(30%)。 「座っているだけ」でも「出席」ではあるが、「参加、貢献」とはみなさない。
成 績 評 価 基 準
1. 借り物でない自分のコトバ、シンボルで表現できるか。 2. 身の回りの現実から、自分なりの問題を取り出し、解決としての企画に表現できるか。 3. 他者との対話から学び、独りよがりでない思考ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
必要に応じてレジュメを配布する。

その他(受講上の注意)

自分を成長させたい「熱望」を持って参加して欲しい。難しい知識を扱う授業ではないが、深く広く柔らかく思考し「続ける」ためには、主体的な意欲＝熱望が支えとなる。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発演習 (Practice in Planning and Development)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aaa-2211	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実地的なプランを構築する能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
コラボレーションによる企画立案からその実施計画の策定およびプレゼンテーションによる他者評価を元に実施する企画の遂行と終了後の評価検証を行い、今後の企画立案の際の配慮についての考察を行う。
授 業 の 到 達 目 標
チームワークによる自他の創造性を高めあい、斬新かつ発展性のある企画の実現ができる。他者とのコミュニケーションが円滑に行える。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションと「社会人基礎力」および授業との関係性の解説 第2回：イベント企画のケーススタディ 第3回：イベント企画のためのミーティング(ブレンストーミング) 第4回：イベント企画のためのミーティング(実施企画候補の絞り込み) 第5回：イベント企画のためのミーティング(企画書を元にした企画のブラッシュアップ) 第6回：イベント企画のためのミーティング(企画実施のための実施要領の作成) 第7回：企画案プレゼンテーションと相互評価 第8回：イベント企画の実施と相互評価(1) 第9回：イベント企画の実施と相互評価(2) 第10回：イベント企画の実施と相互評価(3) 第11回：イベント企画の実施と相互評価(4) 第12回：イベント企画の実施と相互評価(5) 第13回：イベント企画の実施と相互評価(6) 第14回：イベント企画の実施と相互評価(7) 第15回：総括とレポート提示
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報や使用物・場所等の準備など
成 績 評 価 方 法
課題への取組み(50%) 課題成果(30%) 最終レポート(20%)
成 績 評 価 基 準
チームにおいて各自が率先して参画し、自他の提案・調整が出来、相互信頼において企画を実践にいたらしめることができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
ワークショップ形式によるチームワークを尊重するため、「企画開発基礎演習」「企画開発論」の受講を推奨する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法 I a (Communication Techniques I a)			担当教員	四戸 友也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2203	2 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
ニュース原稿やサイドストーリーの書き方や目的によって異なる文章表現の仕方について学ぶ。その結果、柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、ニュースを新聞という形で表現する方法を習得してもらう。こうしたことを通じ、文章作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☒ 選択能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容	
コミュニケーションとは何かを考え、その伝える「道具」としてのメディアの伝え方について学ぶ。話し方、会話の基本や文章の書き方。文章には目的に応じてさまざまな種類があり、時と場合によつての使い分けを理解する。具体的には新聞に掲載されているニュース原稿とコラム原稿に触れ、実際に書いてみる。以下に正しく自分の意思を相手に伝えられるかを試しながら学んでいく。	
授 業 の 到 達 目 標	
・ コミュニケーションの基本、すなわち意思伝達についてのさまざまな方法について学ぶ。 ・ 話すための方法、どのような注意が必要かを理解する。 ・ 簡潔に伝える文章の書き方の要点を学ぶ。 ・ 取材の方法。 ・ 新聞などニュース原稿の書き方の基本。 ・ 固有名詞への注意と配慮。 ・ 新聞原稿と放送原稿との違い。 ・ 主観記事と客観記事。 ・ インタビューの仕方。 ・ 写真はどのように撮るか。 ・ 新聞紙面の作り方。 ・ 文章で伝える。物語はどのように構成されているか。 ・ 詩、短歌で気持ちを表現する。	
授 業 の 計 画	
第1回 言葉とコミュニケーション、誤解を生まない話し方。(会話がコミュニケーションの基本) 第2回 話し言葉と書き言葉 (相手によって話し方は変わる。敬語の使い方、手紙の書き方や依頼文について考える) 第3回 文章の書き方。簡潔に伝える。ニュース原稿の書き方。(5W1Hを盛り込む)。 第4回 ニュース原稿と雑感、サイド記事との違いについて。心の奥まで入り込む。 第5回 コラムとは。コラムはどう書く。社説、論説との違い。 第6回 比喩の使い方 (ものごとを身近な事柄に例えると理解が早い。使い方を間違えると誤解やひんしゆくを買う) 第7回 自己紹介をする。インタビューについて。(受け方としかた) 第8回 分かりやすく「報告」する。レポートの書き方。 第9回 リスクコミュニケーションについて。不始末や不利な立場でのコミュニケーションはどうする。 (企業などの不祥事をいかに伝え、信頼を取り戻すか) 第10回 プロパガンダについて。 第11回 物語を構成する。書いてみる。 第12回 写真をどのように撮るか。 第13回 演習・新聞を作る。書く、見出しをつける、レイアウト・編集する。 第14回 演習・新聞を作る② 第15回 読ませる文章を書こう。(テーマの絞り方、エピソードの使い方、普遍化する) 第16回 定期試験 (順番は入れ替わることがあります)	

授 業 外 の 学 習 方 法 新聞のコラムを書き写し、どのようなことが伝わってきたかを書いてもらう。 小説などの短編を読み、構成について考える。 身近な家族、友人で「何かをした人(毎日散歩をしているでもよい)をテーマにインタビューして原稿にする」 ーなどの課題を出します。
成 績 評 価 方 法 定期試験(50%)、小レポート、授業中の課題(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。)
成 績 評 価 基 準 ・主観記事と客観記事の区別が出来るか。 ・話し言葉と書き言葉遣いを理解しているか。 ・文章の種類と書き方を理解できたか。 ・テーマに沿った文章を作成できたか。 ・比喩を使いながら文章を書くことが出来るか。 ・きちんと相手に理解できるように自己紹介が出来るか。 ・写真やイラストなどで表現する意味が理解できたか ・個人情報を守ることと固有名詞を扱う意味について理解できたか。
テキスト、参考図書 特定のテキストは使用しない。(毎回プリント資料を配布する) *参考図書 「三谷宏治」・「一瞬で大切なことを伝える技術」・「かんき出版」・「2012年」 「斉藤孝」・「コミュニケーション力」・「岩波新書」・「2012年」 「野口悠紀雄」・「『超』文章法」・「中公新書」・「2002年」 「内藤国夫」・「インタビュー入門」・「みき書房」・「1978年」 「新将命」・「コミュニケーションの教科書」・「講談社」・「2013年」 「樺島忠夫」・「文章術」・「角川oneテーマ」・「2002年」 「外岡秀俊」・「情報のさばき方」・「朝日新書」・「2006年」 「西村良平」・「らくらく編集術」・「日本エディタースクール出版部」・「2000年」
その他(受講上の注意) 日常的に新聞を読み、小説などにも親しむように心がけることが必要。
オ フ ィ ス ア ワ ー 教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法 I b (Communication Techniques I b)			担当教員	小林 逸雄	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2213	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
コミュニケーションツールの普及とIT化の反面、人間関係は希薄化する。価値観の多様化を補うためにはやはりナマの言葉による関係が大切である。 母音の言語といわれる日本語の明瞭化を通して理論と実践を重ね、豊かな伝達・表現法を学び、高まる職業能力の要求度に応える。
授 業 の 到 達 目 標
・ 明瞭な発音(言葉)と説得力のあるトークで、思いや考えを伝えられる(伝達力) ・ 相手の反応をどこまで理解し要約できる(聴受・理解力) ・ 話して伝え、読んで伝え、フリートークでどこまで伝えきれる・納得させられる(説得力) ・ 話の組み立てができる。(起承転結、序破急、構成力)
授 業 の 計 画
第1回：言葉とコミュニケーション～ことばは記号である。ことばは人間の最大の発明。ことばとコミュニケーション。何を表現し何を伝えるのか。～ 第2回：ビジネス・コミュニケーション①～組織の一員として役割を果たすためのコミュニケーション、タテ・ヨコ・ナナメの関係をどう作るか。関係はWITH～ 第3回：ビジネス・コミュニケーション②～避けて通れぬ敬語について、敬語は何故必要か、敬語に対する国民意識～ 第4回：ビジネスにおける話の聞き方～・話は聞くか聴くか・話を聞くマナー～ 第5回：敬語のビデオ学習～「あなたの敬語は大丈夫？」NHK・クローズアップ現代から～ 第6回：面接における自己表現～企業が求める人間像、面接とは何か、人間はメディアである、表情・視線・態度・服装、エントリーシート～ 第7回：自己表現(面接演習)～自己分析(知識、協調性、忍耐力、発想力、表現力、創造力、適性、個性、欠点、短所)～ 第8回：エントリーシートを書いてみよう～エントリーシート(志望書)とは何か、客観的に自分を見つめられるか～ 第9回：自己分析を発表する～自分で書いたエントリーシートを前で発表する。面接の実技・演習を実施する。～ 第10回：読んで伝える～人前で発表するものを自分で書いてみる。何故、文やメモにまとめるか要領よくまとめるコツ。起承転結。～ 第11回：話すように読む～朗読・ナレーション、テーマを決めてフリートーク、詩を読む、天気予報を読む。～ 第12回：インタビューとは何か～相手の話を引き出す事。会話の基本はインタビューだ。耳を傾けながら話を展開していく。～ 第13回：自己紹介とは何か～社会人・職業人にとっては毎日が自己紹介。人間関係の始まりは自己紹介から。自己紹介の中身はどうする。～ 第14回：自己紹介はスピーチだ～名前と人柄を知ってもらうためのスピーチと思え。自己紹介の組立、TPOで準備する。～ 第15回：実技テスト～いくつかテーマを決めて、その中から一つを選び、実技をやってもらう。～ 第16回：定期試験(筆記試験)

授業外の学習方法
講義と演習の中身は社会人・職業人の仕事に直結するものなので、前回のおさらい(まとめ)をしながら進めていく。したがって復讐が大事。授業2～3回に1回の割合でレポート課題を課し、次週フィードバックする。講義をどれだけ集中して聴き演習に活かすかが大事になる。
成績評価方法
定期試験は記述式とする。テキスト・レジュメによる講義と演習が中心となるが、演習のまとめとして実技テストを第15回の時間に行う。レポート課題は5回と平常点は受講態度を重視する。 定期試験(50%) 小レポート(25%) 平常点(25%)
成績評価基準
・ 講義の項目(テーマによるトーク・敬語の使い方・自分について話すことができるか。 ・ 自己紹介能力・朗読・スピーチが身についているか。 ・ 注意された部分の修正能力が備わっているか。 ・ レポートによる講義集中力(どの程度ノートを取っているか)が身についているか。 ・ インタビュー(相手の話を聞き出す)力は備わっているか。
テキスト、参考図書
加瀬次男 著 『コミュニケーションのための日本語・音声表現』 学文社
その他(受講上の注意)
30分以上の遅刻は平常点よりレスカウントする。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

マス・コミュニケーション論 a (Study of Mass Communication a)			担当教員	小林 逸雄	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2204	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
・1951年から放送が果たしてきた情報文化活動の歴史と国民の暮らしとの関係を理解する。 ・未来は過去の始まり とするメディアのアーカイブス能力を学び、未来を考える能力を培う。
授 業 の 到 達 目 標
・放送史上、エポックメイキングな出来事とその時々時代の背景は、おおよそ説明できる能力。 ・放送が使命とする働きと暮らしの関係について凡そ説明、解説できる能力。
授 業 の 計 画
第1回：序章～「マスコミ」と「ジャーナリズム」の言葉と概念を講義する。～ 第2回：放送前史～1945年太平洋戦争終結(敗戦)からラジオ予備免許へ、そしてラジオ放送の事業化。～ 第3回：民間放送ラジオの誕生～開設方針と電波3法の施行、14地区16社に予備免許。～ 第4回：民法ラジオの第一声～1951年9月1日午前6時30分中部日本放送から。東京より名古屋が何故早かったのか。～ 第5回：福井における民間放送の開局～昭和25年6月1日電波3法施行から2年後27年7月20日福井放送開局、全国で15番目。～ 第6回：昭和20年代 福井の時代背景～昭和23年大地震、福井における3人の技術者、金井兼造、勝田善之進、杉本正久の夢。～ 第7回：テレビ開局と街頭テレビ～テレビの父 高柳健次郎、先行した正力テレビ構想。～ 第8回：メディアは「今」にこだわる～アーカイブスを問われ始めたメディア、過去の検証から未来を語る。～ 第9回：福井県民待望のテレビ～宣伝効果を疑問視していた広告主、北陸地区における地域文化の向上はテレビだ！～ 第10回：放送ネットワークの形成～カラー化で進んだ番組の充実とネットワークの形成、テレビは時代の表現者。～ 第11回：アーカイブスは時代の要請か～番組・語録保存の歴史、テレビは現代社会最大の記憶装置。～ 第12回：国際化と報道の強化～ラジオ・テレビは競争から棲み分けへ、激動する社会と報道活動の成熟～ 第13回：マスメディアとパーソナルメディア～80年代の大事件やビッグイベントとテレビ、経済成長は価値観の多様化をもたらした。～ 第14回：高度情報化社会と人間関係～情報化社会とは、情報化がもたらす人と人との関係は、モノ化する人間、関係の24時間化。～ 第15回：放送と通信の融合～境目がなくなる放送と通信、多チャンネル化する視聴環境、加速する情報の消費。～ 第16回：定期試験(筆記試験とする)
授 業 外 の 学 習 方 法
NHKのニュース、全国紙の企画ものについて視聴し、何をどの程度理解したか。また2～3回の講義と受講ノートに基づいてレポート課題を5回程度課す。各回終了時、次回講義の中身を予告する。レポートについては、次回必ずフィードバックする。
成 績 評 価 方 法
定期試験は記述式とし、講義を真剣に聴いていたかどうか質問力に重点を置く。レポートで理解の程度をはかり受講態度を含めて平常点とする。 定期試験(60%) 小レポート(25%) 平常点(15%)

成 績 評 価 基 準
・ 福井におけるラジオとテレビの開設について説明できるか ・ ラジオからテレビへ移行する棲み分けについて説明できるか ・ 経済成長とテレビのカラー化について数字を示しながら説明できるか
テキスト、参考図書
テキストは使用しない。講義はレジュメと配布資料が中心。参考図書はその都度指示する。
その他(受講上の注意)
講義をしっかりと聴いていれば質問したいことがあるはず。質問力も平常点に反映させる。質問歓迎。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

マス・コミュニケーション論b (Study of Mass Communication b)			担当教員	四戸 友也	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2214	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
幕末から現代までのメディアの変化を学ぶことで多角的なもの見方を身につけるようにする。これによって柔軟な発想力と企画力を身につけることを目指す。同時にメディアが報道機関として認められるために、ジャーナリズムとしての機能を保つ必要があることを学び、ジャーナリズムの正しい意味を理解する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☒コミュニケーション能力 ☒情報収集・探索能力 ☐社会・職業理解能力 ☒役割把握・認識能力 ☐計画実行能力 ☐選択能力 ☐課題解決能力					

授 業 の 内 容
現代におけるマスコミュニケーションについて考える。不特定多数の大衆(マス)を対象にさまざまな情報を提供してきたマスコミ。伝える手段としてのメディアの発展・進化とともにその形態は変貌を遂げてきた。わが国のマスメディアは150年前の明治維新前後から誕生し、数々の戦争で部数を拡大してきた。発生から拡大そして影響力を強める中で、政府の規制を受けてきた歴史でもある。150年間のメディアの歴史を追いながらメディアの特性を考えていく。ラジオ・テレビの普及から、インターネットの登場でメディア界は何度目かの革新の時代を迎えている。現代そして未来へと発展していくメディアとマスコミュニケーションの未来について考えていく。
授 業 の 到 達 目 標
・新聞などメディアがどのように生まれてきたかを考え理解する。 ・メディアからさまざまな産業が生まれたことも知る。 ・地域限定型のメディアが印刷技術の進歩でマスコミュニケーション化していく過程でメディアそのものの産業として存在価値を高めていくことを学ぶ。 ・マスコミュニケーションの発達によって社会的な貢献が評価されるようになった。同時にさまざまな問題や権力による介入、規制が行なわれるようになったことを学ぶ。 ・現在のマスコミとして存在する新聞、テレビなどに日常的に接するように慣れるか。 ・インターネットへの展開と課題についても理解する。 ・SNSと既存メディアの関係について理解する。 ・インターネットを利用したメディアとの接し方について考えてみる。
授 業 の 計 画
第1回：ジャーナリズムとメディア。 第2回：マスコミで報じられる情報とジャーナリズム 第3回：明治期のメディア、相次ぐ新聞の発刊 第4回：戦争と新聞(メディア) 第5回：通信社の誕生と役割 第6回：関東大震災と新聞、東日本大震災との比較してみる 第7回：ラジオの誕生と新聞 第8回：普通選挙の実施、2・26事件、満州事変などと新聞／太平洋戦争とメディア、権力(政府)による介入と規制 第9回：紙の規制と1県1紙体制の構築 第10回：GHQによるメディア政策、共同、時事通信の誕生 第11回：テレビの誕生と新聞、広告業の発展 第12回：公害報道などキャンペーン、調査報道 第13回：権力の監視機能としてのマスコミとジャーナリズム 第14回：インターネットの登場と既存メデ 第15回：マスコミ化するSNS 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
日常から新聞、テレビのニュース報道に関心もち、それが社会にどのような影響を与えているかを考える習慣をつけていくことが大切。またネットのニュースのほかブログやツイッターなどSNSが社会にどのような影響を与えているのかを考えながらあらゆるメディアと接する努力をする。

成績評価方法
定期試験(80%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、質問用紙等の状況を総合的に判断します。)
成績評価基準
・メディアの発展過程を理解できたか。 ・メディアの発展は巨大なマスコミを生み出した。技術進歩がマスコミを変えてきたことを理解する。 ・ジャーナリズムへの理解と、マスメディアの権力監視機能について学べたか。 ・通信社機能とはなにか。その役割は。 ・マスコミの特性を学び、報道される情報をどう受け止めることができたか(リテラシーを身につける) ・新聞、ラジオ、テレビ、インターネットへのメディアの進化を理解できたか。
テキスト、参考図書
毎回レジメを配布する *参考図書 「春原昭彦」・「日本新聞史」・「新泉社」・「2007年」 「山口正康」・「新聞の歴史をたどる」・「自費出版」・「2003年」 「山本文雄編」・「日本マスコミュニケーション史」・「1976年」 「山口功二ら編」・「メディア学の現在」・「世界思想社」・「2001年」 「鈴木みどりほか」・「メディア社会の歩き方」・「世界思想社」・「2004年」 「浪田陽子・福岡良明編」・「はじめてのメディア研究」・「世界思想社」・「2012年」 「小林恭子」・「英国メディア史」・「中央公論社」・「2011年」 「小黒純ほか編」・「超入門ジャーナリズム」・「晃洋書房」・「2010年」 「天野勝文ほか編」・「新現代マスコミ論のポイント」・「学文社」・「2008年」 「田村紀雄・林利隆編」・「新版ジャーナリズムを学ぶひとのために」・「世界思想社」・「1999年」 「小黒純、李相哲、西村敏雄、松浦哲郎著」・「超入門ジャーナリズムー101の扉」・「晃洋書房」・「2010年」 「天野勝文、松岡新児、植田康夫著」・「新現代マスコミ論のポイント」・「学文社」・「2008年」
その他(受講上の注意)
日々、新聞やテレビ、雑誌などに触れるようにする。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジュアル・コミュニケーション論 a (Theory of Visual Communication a)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2205	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実地的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
コミュニケーションとビジュアル・デザインに関する知識を元に、その伝達手段(メディア)の歴史や社会との関わりなどの考察を通して、人間の行動や環境に与える影響を考える。
授 業 の 到 達 目 標
コミュニケーションに関して、ビジュアル・デザインの位置づけを説明することができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションとデザインに関する基本的事項の解説 第2回：ビジュアル・コミュニケーションのためのメディア史(古代～中世) 第3回：ビジュアル・コミュニケーションのためのメディア史(近代～現代) 第4回：モダンデザイン史概説 第5回：我が国におけるデザイン史概説 第6回：デザイン史のまとめとしてのプレゼンテーション 第7回：コミュニケーションとビジュアル・デザイン(メディア広告) 第8回：コミュニケーションとビジュアル・デザイン(メディア広告) 第9回：コミュニケーションとビジュアル・デザイン(公共) 第10回：コミュニケーションとビジュアル・デザイン(公共) 第11回：コミュニケーションとビジュアル・デザイン(サインとシンボル) 第12回：コミュニケーションとビジュアル・デザイン(文字とロゴ) 第13回：コミュニケーションとビジュアル・デザイン(文字とロゴ) 第14回：コミュニケーションとビジュアル・デザイン(ピクトグラムとアイコン) 第15回：総括とレポート提示
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報や現況の実態調査など
成 績 評 価 方 法
課題への取組み(50%) 課題成果(30%) 最終レポート(20%)
成 績 評 価 基 準
身の回りの環境において、コミュニケーションの成立のためのビジュアル・デザインの効果の是非について観察および考察ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
必要に応じて授業内で配布します。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
授業時以外においても、生活環境での現状調査を伴う
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジュアル・コミュニケーション論b (Theory of Visual Communication b)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2215	2単位	2年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実地的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
コミュニケーションとビジュアル・デザインに関する知識を元に、自己、他者、集団、組織の情報の受発信についてその内容と表現について実践をもとに試行する。
授 業 の 到 達 目 標
ビジュアル・コミュニケーションに関して、ビジュアル・デザインの位置づけを説明することができ、新たな提案ができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションとビジュアル・コミュニケーションに関する基本的概念の確認 第2回：ビジュアル・ソースの抽出(1) 第3回：ビジュアル・ソースの抽出(2) 第4回：デジタル・データへの変換 第5回：カラーリング・バリエーション(1) 第6回：カラーリング・バリエーション(2) 第7回：テクスチャー・バリエーション(1) 第8回：テクスチャー・バリエーション(2) 第9回：シェイプ・バリエーション(1) 第10回：シェイプ・バリエーション(2) 第11回：シェイプ・バリエーション(3) 第12回：ビジュアル・ソースを元にした表現(1) 第13回：ビジュアル・ソースを元にした表現(2) 第14回：ビジュアル・ソースを元にした表現(3) 第15回：ビジュアル・ソースを元にした表現(4)
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報収集や現況の実態調査など
成 績 評 価 方 法
課題への取り組み(50%) 課題成果(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
身の回りの環境において、コミュニケーションの成立のためのビジュアル・デザインの効果を踏まえた考察と表現ができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
授業時以外においても、生活環境での現状調査を伴う。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デジタル・デザイン a (Digital Design a)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2206	2 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実地的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 選択能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
ビジュアル・コミュニケーションのための表現ツールとしてパーソナル・コンピュータ(マッキントッシュ)を駆使したデザイン手法のスキルを教示する。
授 業 の 到 達 目 標
デジタルの特性を把握し、アプリケーションの操作入力法、加工・デザイン手法、出力法に関する基礎的スキルを獲得する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションと設備・機器解 第2回：Illustratorの基本操作を元にした国旗やピクトグラム之作図① 第3回：Illustratorの基本操作を元にした国旗やピクトグラム之作図② 第4回：Illustratorの基本操作を元にした国旗やピクトグラム之作図③ 第5回：Illustratorの基本操作を元にしたマップ之作図① 第6回：Illustratorの基本操作を元にしたマップ之作図② 第7回：Illustratorの基本操作を元にしたマップ之作図③ 第8回：Photoshopの基本操作 第9回：Photoshopの基本操作(画像入力と加工)① 第10回：Photoshopの基本操作(画像入力と加工)② 第11回：テーマに基づくビジュアルツールの課題制作① 第12回：テーマに基づくビジュアルツールの課題制作② 第13回：テーマに基づくビジュアルツールの課題制作③ 第14回：テーマに基づくビジュアルツールの制作(中間提出) 第15回：データ整理と保存 (進行状況により変更の場合あり)
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報や素材の収集および課題の制作
成 績 評 価 方 法
課題への取組み(50%) 課題成果(50%)
成 績 評 価 基 準
OSやアプリケーションの特性を理解し、それを活かした作業が行えることができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキストは使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
収容定員最大50名。2回以上の連続欠席は、理解不能となる一番の原因となる。課題制作のための進行スケジュールを厳守する。授業時以外にかなりの時間がトレーニングのために必要となる

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デジタル・デザインb (Digital Design b)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2216	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☒ 選択能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
ビジュアル・コミュニケーションのための表現ツールとしてパーソナル・コンピュータ(マッキントッシュ)を駆使し、「デジタル・デザインa」で獲得したスキルをさらに向上すべく、作業精度向上とモーション・グラフィックによる映像・動画表現につなげる。
授 業 の 到 達 目 標
デジタルの特性を把握し、高い作業性と効率を獲得し、マルチメディアによる表現・デザインができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションと課題テーマ説明および課題導入 第2回：Illustratorの発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック① 第3回：Illustratorの発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック② 第4回：Illustratorの発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック③ 第5回：Illustratorの発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック④ 第6回：Illustratorの発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック⑤ 第7回：Illustratorの発展トレーニング(シンボルマーク作図)および作業能力チェック⑥ 第8回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開① 第9回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開② 第10回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開③ 第11回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開④ 第12回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開⑤ 第13回：Keynote利用によるスライド作成およびモーショングラフィックスへの展開⑥ 第14回：iMovieによる映像・音響編集 第15回：プレゼンテーション
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報や素材の収集および課題の制作
成 績 評 価 方 法
課題への取り組み(50%) 課題成果(50%)
成 績 評 価 基 準
OSやアプリケーションの特性を理解し、それを活かした作業が行えることができるか。テーマに即したコンテンツを作成できるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
「デジタル・デザインa」履修者に限る。最大50名定員。人数オーバーの場合は、「デジタル・デザインa」の成績上位者を優先する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語音声学 (English Phonetics)			担当教員	フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bde-2201	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。 次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 計画実行能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 選択能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
この授業では、英語の発音のメカニズムを理解し、英語の子音・母音、話し言葉における音の変化、アクセント、リズム、イントネーションの基礎的な知識を得るとともに、正しい発音でコミュニケーションをとることができ、また、聞き取りができることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
1. 子音・母音の発音のメカニズムを理解し、発音記号を読み、正しく発音ができる。 2. 話し言葉における音の変化を理解し、発音ができるとともに、聞き取ることができる。 3. アクセント・リズム・イントネーションについて理解し、意図することを正しいアクセント・リズム・イントネーションで発話することができ、発話される英文の意味がわかる。
授 業 の 計 画
第1回：現代英語の標準発音 第2回：つづり字と発音、音素 第3回：子音(1) 第4回：子音(2) 第5回：子音(3) 第6回：母音(1) 第7回：母音(2) 第8回：母音(3) 第9回：音の連続 第10回：音の連続 第11回：アクセント 第12回：リズム 第13回：イントネーション 第14回：イントネーション 第15回：Review 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
授業で使用するテキストをよく読み、予習・復習をすること。復習として、テキストに付属するCDをよく聞き、あとにつけて何度も読む練習をし、モデルの発音と同じような発音ができることを確認する。復習課題として出る音声課題などを、毎週、E-learning上に提出し、教員によるfeedbackを確認すること。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、課題(25%)、小テスト(25%)
成 績 評 価 基 準
1. 子音・母音の発音のメカニズムを理解し、発音記号を読み、正しく発音ができるか。 2. 話し言葉における音の変化を理解し、発音ができるとともに、聞き取ることができるか。 3. アクセント・リズム・イントネーションについて理解し、意図することを正しいアクセント・リズム・イントネーションで発話することができ、発話される英文の意味がわかるか。

テキスト、参考図書
『初級英語音声学』 竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子 大修館書店 2013年
その他(受講上の注意)
英和辞書あるいは英英辞書を必ず持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英作文演習 a (English Writing a)			担当教員	フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2202	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
パラグラフ・ライティングに焦点を当て、意図することを読み手に効果的に伝える基本的なパラグラフ構成を学習する。このプロセスにはペア・グループでの学習も含まれ、様々な言語活動を通して、ライティングにおける流暢さと正確さを追及する。
授 業 の 到 達 目 標
1. 意図することを読み手に効果的に伝える基本的なパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができる。 2. 10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語程度で書くことができる。 3. 簡単な日本語の随筆から1文程度を、書き手の意味することを伝える文に英訳できる。
授 業 の 計 画
第1回：Introduction 第2回：1 The Topic Sentence(1) 第3回：1 The Topic Sentence(2) 第4回：2 Supporting Sentences(1) 第5回：2 Supporting Sentences(2) 第6回：3 The Concluding Sentence(1) 第7回：3 The Concluding Sentence(2) 第8回：4 Descriptive Paragraphs(1) 第9回：4 Descriptive Paragraphs(2) 第10回：5 Narrative Paragraphs(1) 第11回：5 Narrative Paragraphs(2) 第12回：6 Expository Paragraphs(1) 第13回：6 Expository Paragraphs(2) 第14回：Review 1 第15回：Review 2
授 業 外 の 学 習 方 法
1. 予習では、テキストの語彙等について、わからないところを辞書などで調べておくこと。 2. 復習として、授業で書いたパラグラフで添削を受けたものを書き直し、E-learningに提出すること。 3. 毎週、E-learning上で“My Opinion Forum”に参加し、授業で学習したパラグラフ・ライティングの方法を確認しながら自分の考えを80語ぐらいの英文で述べ、また、他の学生の意見に英文でコメントを述べること。
成 績 評 価 方 法
授業での言語活動20%、毎時間の小テスト20%、課題30%、期末レポート30%
成 績 評 価 基 準
1. 意図することを読み手に効果的に伝える基本的なパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができるか。 2. 10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語程度で書くことができるか。 3. 簡単な日本語の随筆の一文を、書き手の意味することを伝える文に英訳できるか。

テキスト、参考図書
"Writing to Communicate 1-Paragraphs-" C. Boardman. Pearson/Longman. 2008. 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』R. Murphy. Cambridge. 2013.
その他(受講上の注意)
英和辞書、和英辞書、英英辞書を必ず持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英作文演習 b (English Writing b)			担当教員	フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-Bcc-2212	1 単位	2 年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
英作文演習aで学習したことを更に発展させ、パラグラフ・ライティングで、意図することを読み手に効果的に伝えるパラグラフ構成を学習する。このプロセスにはペア・グループでの学習も含まれ、様々な言語活動を通して、ライティングにおける流暢さと正確さを追及する。
授 業 の 到 達 目 標
1. 意図することを読み手に効果的に伝えるパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができる。 2. 10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語から100語程度で書くことができる。 3. 簡単な日本語の随筆の一節を、書き手の意味することを伝える文に英訳できる。
授 業 の 計 画
第1回：Introduction 第2回：7 Unity(1) 第3回：7 Unity(2) 第4回：8 Coherence(1) 第5回：8 Coherence(2) 第6回：9 Cohesion(1) 第7回：9 Cohesion(2) 第8回：10 Process(1) 第9回：10 Process(2) 第10回：11 Reasons and Results(1) 第11回：11 Reasons and Results(2) 第12回：12 Opinion(1) 第13回：12 Opinion(2) 第14回：Review 1 第15回：Review 2
授 業 外 の 学 習 方 法
1. 予習では、テキストの語彙等について、わからないところを辞書などで調べておくこと。 2. 復習として、授業で書いたパラグラフで添削を受けたものを書き直し、E-learningに提出すること。 3. 毎週、E-learning上で“My Opinion Forum”に参加し、授業で学習したパラグラフ・ライティングの方法を確認しながら自分の考えを80語以上の英文で述べ、また、他の学生の意見に英文でコメントを述べる。
成 績 評 価 方 法
授業での言語活動20%、毎時間の小テスト20%、課題30%、期末レポート30%
成 績 評 価 基 準
1. 意図することを読み手に効果的に伝えるパラグラフ構成を理解し、そのようなパラグラフを書くことができるか。 2. 10分間で、与えられたテーマについて、意図することを読み手に正確に伝えるパラグラフを80語から100語程度で書くことができるか。 3. 簡単な日本語の随筆の一節を、書き手の意味することを伝える文に英訳できるか。

テキスト、参考図書
"Writing to Communicate 1 -Paragraphs-" C. Boardman. Pearson/Longman. 2008. 『マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)』R. Murphy. Cambridge. 2013.
その他(受講上の注意)
英和辞書、和英辞書、英英辞書を必ず持参すること。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅡa (Oral Communication Ⅱa)			担当教員	ME ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2203	1 単位	2 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
The course adopts a bottom-up approach to learning, inspiring students to think creatively and critically about a wide range of issues and ideas presented in simple, straightforward English. Vocabulary support is provided before the reading. After the reading, there are comprehension exercises followed by critical thinking, Q&A writing and a class discussion.
授 業 の 到 達 目 標
The purpose of this course is to allow students to share personal opinions and ideas on a range of interesting topics. In pairs and groups, students will try out new language and build confidence in communicating their opinions and ideas. However, communication is not just a matter of expressing one's own opinions and ideas; listening to others and reacting to what they are saying are equally important.
授 業 の 計 画
第1回：Exchanging opinions in English: An Introduction 第2回：The Beauty of the Seasons / Travel in Japan ① 第3回：The Beauty of the Seasons / Travel in Japan ② 第4回：The History of the Hamburger / Fast Food and Health ① 第5回：The History of the Hamburger / Fast Food and Health ② 第6回：Liquid Candy / The Importance of English ① 第7回：Liquid Candy / The Importance of English ② 第8回：Mid-term Examination 第9回：How the Internet Evolved / Shopping on the Internet ① 第10回：How the Internet Evolved / Shopping on the Internet ② 第11回：The Secret of Happiness / The Happiest Country in the World ① 第12回：The Secret of Happiness / The Happiest Country in the World ② 第13回：Do Aliens and UFOs Exist? / Ghosts ① 第14回：Do Aliens and UFOs Exist? / Ghosts ② 第15回：Review 第16回：Final Examination
授 業 外 の 学 習 方 法
Information regarding homework and out-of-class preparation will be given at the beginning of the course.
成 績 評 価 方 法
Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25% Mid-term Examination - 25% Final Examination - 50%
成 績 評 価 基 準
Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final examinations.

テキスト、参考図書
Life Topics: A Critical Thinking Approach to English Proficiency Takashi Shimaoka and Jonathan Berman NAN'UN-DO ISBN 978-4-523-17689-3
その他(受講上の注意)
Self-motivation and effort are very important for successful completion of this course.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オーラル・コミュニケーションⅡb (Oral Communication Ⅱb)			担当教員	ME ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2213	1 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
The course adopts a bottom-up approach to learning, inspiring students to think creatively and critically about a wide range of issues and ideas presented in simple, straightforward English. Vocabulary support is provided before the reading. After the reading, there are comprehension exercises followed by critical thinking, Q&A writing and a class discussion.
授 業 の 到 達 目 標
The purpose of this course is to allow students to share personal opinions and ideas on a range of interesting topics. In pairs and groups, students will try out new language and build confidence in communicating their opinions and ideas. However, communication is not just a matter of expressing one's own opinions and ideas; listening to others and reacting to what they are saying are equally important.
授 業 の 計 画
第1回：Free Music ① 第2回：Free Music ② 第3回：The Dangers of Credit Cards ① 第4回：The Dangers of Credit Cards ② 第5回：Artificial Insemination / Gene Therapy ① 第6回：Artificial Insemination / Gene Therapy ② 第7回：Plastic Surgery 第8回：Mid-term Examination 第9回：Young Men: No Girls, No Money ① 第10回：Young Men: No Girls, No Money ② 第11回：Women in College ① 第12回：Women in College ② 第13回：Old Media and New Media ① 第14回：Old Media and New Media ② 第15回：Review 第16回：Final Examination
授 業 外 の 学 習 方 法
Information regarding homework and out-of-class preparation will be given at the beginning of the course.
成 績 評 価 方 法
Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25% Mid-term Examination - 25% Final Examination - 50%
成 績 評 価 基 準
Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final examinations.

テキスト、参考図書
Life Topics: A Critical Thinking Approach to English Proficiency Takashi Shimaoka and Jonathan Berman NAN'UN-DO ISBN 978-4-523-17689-3
その他(受講上の注意)
Self-motivation and effort are very important for successful completion of this course.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英米文化論 (Anglo-American Cultural Studies)			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2211	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
Following small-group and whole-class discussions of basic aspects of intercultural communication, participants will be tasked with applying their knowledge to historical and cultural comparisons of British, American, and Japanese societies. Supplemental examples from other sources(i.e., books and films) will be given to further understanding.
授 業 の 到 達 目 標
When people of different cultural backgrounds interact, their encounter is influenced by their respective culturally rooted values, perceptions, and styles of speaking. This preparatory course will introduce various aspects of these influences in order to foster an appreciation of the importance of intercultural communication in today's borderless world.
授 業 の 計 画
第1回：Meaning of Culture 第2回：Meaning of Culture 第3回：Stereotypes 第4回：Stereotypes 第5回：Verbal Communication 第6回：Non-verbal Communication 第7回：Diversity 第8回：Perception 第9回：Perception 第10回：Communication Styles 第11回：Communication Styles 第12回：Beliefs and Values 第13回：Beliefs and Values 第14回：Culture Shock 第15回：Culture Shock 第16回：Examination
授 業 外 の 学 習 方 法
Students will be tasked with researching information about each topic via newspapers, magazines and the Internet in preparation for discussions on each aspect brought up in classes.
成 績 評 価 方 法
Oral Reports - 20% Written Reports - 40% Examination - 40%
成 績 評 価 基 準
Students will be evaluated on the basis of the amount of additional information they share with the class in discussion groups, and oral and written reports. Also, a written examination will be given.

テキスト、参考図書
Culture in Action: Cultural Activities for Cultural Awareness. Juri Abe, Reiko Nebashi, Yumi Sasaki, & Joseph Shaules. Nan'un-do Publishing Co., Ltd. 1998
その他(受講上の注意)
Without preparation and solely relying on others' research, one cannot fully participate in this course, thereby placing a burden on others' learning. This course is not a series of lectures. Proactive participation is most important!
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族の人間関係 (Human Relations in the Family)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cgg-2201	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
「家族」について、さまざまな視点から考える。また、多様な家族のあり方を知る。
授 業 の 到 達 目 標
「家族」はあまりに身近な存在であるがために、自分の知る「家族」だけが、当たり前のものだと考えがちである。しかし「家族」は普遍的なものではなく、時代や社会によって大きく異なり、また同じ社会の中でもさまざまである。授業を通じて、家族の歴史や家族のあり方の多様性を理解することをめざす。またさまざまなライフイベント(結婚・育児・離婚など)に関する制度や法律について適切に理解することをめざす。
授 業 の 計 画
第1回：イントロダクション：「家族」とは何か？ 第2回：「近代家族」の誕生 第3回：ジェンダー：男は仕事、女は家庭？ 第4回：結婚①：結婚とは何か 第5回：結婚②：結婚すること・しないこと、未婚化・晩婚化 第6回：子どもを巡る論点：少子化／リプロダクティブヘルス・ライツ 第7回：家事の歴史 第8回：育児①：母親の育児／父親の育児 第9回：育児②：育児の社会化 第10回：少子高齢社会の介護 第11回：数字からみる福井の家族の生活 第12回：家族と暴力：ドメスティック・バイオレンス(DV)、児童虐待 第13回：貧困とジェンダー 第14回：離婚と再婚：シングルマザー／シングルファザー、ステップファミリー 第15回：まとめ：社会の中の家族、家族をめぐる「選択」 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
授業中に適宜紹介する参考図書を読んでほしい。また授業ではさまざまな事例を紹介するが、授業後に、インターネットや文献を検索し、他の事例を調べたり、確認したりしてほしい。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、平常点(50%) ※平常点は受講態度、小テスト、授業への参加状況等を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
現在の家族に関する制度や法律について正しく理解できているか。 家族の多様性や歴史的な変化を正しく理解し、具体的な事例を用いて説明することができるか。
テキスト、参考図書
テキストは指定しない。 参考図書として、落合恵美子『21世紀家族へ(第3版)』有斐閣(2004年)、 牟田和恵編『家族を超える社会学：新たな生の基盤を求めて』新曜社(2009年)など。

その他(受講上の注意)

他の受講生に迷惑をかける行為は禁じる。
受講生の関心に応じて、「授業の計画」に提示した内容から若干変更する可能性がある。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会の人間関係 (Human Relations in Society)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2212	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会心理学的観点から、個人と社会の関係、集団との関係について理解する。
授 業 の 到 達 目 標
1) 社会と個人を理解する。 2) 集団の中の人間関係を理解する。 3) 現実社会の問題と人間行動について理解する。
授 業 の 計 画
第1回：イントロダクション 第2回：動物から学ぶ人間関係 第3回：社会的動物としての人間 第4回：社会的環境と学習 第5回：アイデンティティの発達 第6回：青年期の人間関係 第7回：動機づけと社会的動機 第8回：態度 第9回：態度変容 第10回：集団と個人 第11回：リーダーシップ 第12回：援助行動 第13回：人間関係とストレス 第14回：人間関係とサポート 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。 各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。
成 績 評 価 方 法
授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【小テスト60% 課題レポート30% 授業への参加態度10%】
成 績 評 価 基 準
人間関係の成り立ちについて理解できる。 集団の中の人間の心理を理解できる。
テ キ ス ト、参 考 図 書
授業中に資料を配布する

その他(受講上の注意)

基本的に講義形式ですが、より理解を深めるために必要に応じてVTRを使用したり、自己分析、ゲームを実施する。その際、レポート課題の提出を求めることがある。

ゲームには出席することが望ましい。

ゲームは数時間を要する場合があります、実施日時については授業の状況をみてその都度調整変更する場合があります。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会学概論 a (Introduction to Sociology a)			担当教員	八木 秀夫	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2202	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会学の基礎である「社会的相互作用」、その相互作用の過程で生まれる「社会システム」の特徴を学び、社会システム論の方法に基づいて、乳幼児期、児童期、青年期、壮年期、高齢期の問題を考えていく。また社会学のキイ・コンセプトについて必要に応じて解説する。
授 業 の 到 達 目 標
社会システム論の方法を通して社会の成立と変容過程を理解する。 それぞれのライフステージにおける社会学的問題と課題を理解する。
授 業 の 計 画
第1回：社会的相互作用の特徴 第2回：社会システムの成立 第3回：社会システム論の基本概念 第4回：社会学の研究領域 第5回：社会学の学問的特徴(1) 第6回：社会学の学問的特徴(2) 第7回：乳幼児期の問題と課題(1) 第8回：乳幼児期の問題と課題(2) 第9回：児童期の問題と課題(1) 第10回：児童期の問題と課題(2) 第11回：青年期の問題と課題(1) 第12回：青年期の問題と課題(2) 第13回：壮年期の問題と課題 第14回：高齢期の問題と課題 第15回：おわりに
授 業 外 の 学 習 方 法
e-learningで毎回の授業内容を確認し、そこにアップロードされた資料を読んでおくこと。 資料の内容の理解度を確認するために小テストを行うこともある。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50点)、小テスト(30点)、平常点(20点) 平常点は、授業への参加状況、受講態度、クイズの解答状況を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
社会事象に対する客観的認識とそれに対する自らの判断ができているか。 社会システム論の方法を通して社会の成立と変容過程を理解しているか。 それぞれのライフステージにおける社会学的問題と課題を理解しているか。

テキスト、参考図書

テキスト：使用しない

参考図書：基本的にはその都度、授業で紹介する。

また参考図書には現在入手困難なものもある。

社会学概論書：

バーガー＝ルックマン『日常世界の構成』新曜社 1977

P.L.バーガー/B.バーガー『バーガー社会学』学研 1976

P.L.Berger, Invitation to Sociology Doubleday & CO, 1963

R.ニスベット『現代社会学入門1-4』講談社学術文庫 1994

R.ニスベット『社会学的発想の系譜』アカデミア 1975

J.G.Miller Living System McGraw-Hill Book Company, 1978

専門書

M.モース『社会学と人類学1』弘文堂 1982

E.ゴッフマン『スティグマの社会学』せりか書房 1970

E.ゴッフマン『行為と演技』誠信書房 1974

E.エリクソン『自我同一性』誠信書房 1973

E.エリクソン『洞察と責任』誠信書房 1973

R.リフトン『日本人の死生観』岩波新書1977

R.リフトン『現代、死にふれて生きる』誠信書房

R.リフトン『終わりなき現代史の課題』誠信書房

E.フロム『正気の社会』1958 現代思想社

E.フロム『生きるということ』1957 現代思想社

R.パットナム『孤独なボウリング』柏書房 2006

その他 授業中に紹介

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会学概論 b (Introduction to Sociology b)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2213	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
この授業では、社会における平等や格差の問題を取り上げ、それらを通じて社会的な考え方を身につけることをめざす。前半では、格差の問題と関連の深い社会階層論やジェンダー論について学ぶ。後半では、社会における格差や不平等について具体的に掘り下げて論じることで、現代社会に対する理解を深めていく。
授 業 の 到 達 目 標
・社会階層論やジェンダー論の基本的な内容を理解することができる。 ・現代社会の格差の構造について社会的に説明することができる。
授 業 の 計 画
第1回：ガイダンス：社会的に考える 第2回：格差とは何か 第3回：結果の格差と機会の格差 第4回：社会階層論① 第5回：社会階層論② 第6回：ジェンダー論① 第7回：ジェンダー論② 第8回：教育における格差 第9回：資本と所得の格差 第10回：雇用における格差：日本的雇用慣行 第11回：雇用における格差：流動化する雇用 第12回：若年非正規雇用問題 第13回：世代間移動／世代間格差 第14回：ライフスタイルの格差 第15回：子どもの貧困
授 業 外 の 学 習 方 法
・授業中に紹介した文献や参考図書を読んで、授業内容を復習すること。 ・ニュースやテレビ番組で取り上げられる平等や格差の問題に関心を持ち、その背後にあるメカニズムについても理解を深めること。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(60%) 平常点・課題提出(40%) (平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します)
成 績 評 価 基 準
・社会階層論やジェンダー論の基本的な内容を理解できているか。 ・現代社会の格差について適切に論じることができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
授業中に適宜紹介する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
他の受講生に迷惑をかける行為は禁じる。 受講生の関心や授業進度に応じて、「授業の計画」に提示した内容から変更する可能性がある。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査法 I (Social Research Methods I)			担当教員	小林 大祐	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Chh-2202	2 単位	2 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ コミュニケーション能力 ☐ 計画実行能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 選択能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の目的と歴史、社会調査の倫理、社会調査の方法の様々な分類について、実例を交えて学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
・ 社会調査の目的について理解する。 ・ 対象に応じて、適切な手法を選択できるようになること。 ・ 官庁統計やデータアーカイブなどの統計資料を利用できるようになること。
授 業 の 計 画
第1回：講義概要 第2回：社会調査の目的と歴史 第3回：社会調査の倫理 第4回：社会調査の種類と特性(1) 国勢調査や官庁統計 第5回：社会調査の種類と特性(2) 質的研究 第6回：社会調査の種類と特性(3) 質問紙調査 第7回：質的研究の実際例(1) インタビュー調査 第8回：質的研究の実際例(2) 参与観察 第9回：質的調査の意義と限界 第10回：質問紙調査の流れ(1) 問題意識と仮説構成 第11回：質問紙調査の流れ(2) 調査票作成 第12回：質問紙調査の流れ(3) 実査と分析 第13回：質問紙調査の意義と限界 第14回：社会調査の応用例 第15回：まとめと社会調査の課題 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
指定された教科書の各回の内容について、予め読んでおくこと。また該当箇所について授業内容および教科書を復習しておくこと。
成 績 評 価 方 法
・ 定期試験(50%) ・ 小テスト・小課題提出(50%)
成 績 評 価 基 準
・ 社会調査の目的について理解できているか ・ 対象に応じて、適切な手法を選択できるようになっているか。 ・ 官庁統計やデータアーカイブなどの統計資料を利用できるようになっているか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
『入門・社会調査法』（第二版）轟・杉野編 法律文化社 2013年

その他(受講上の注意)

この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、標準カリキュラムのA科目に対応するものである。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査法Ⅱ (Social Research MethodsⅡ)			担当教員	小林 大祐	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Chh-2203	2 単位	2 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☒ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差、サンプリングの諸方法、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法(調査票の配布・回収法、調査データの整理などを学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・ 調査票調査の手順を理解する。 ・ 調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解する。 ・ 適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得する。 ・ 無作為抽出の意義を理解する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：アンケート調査の流れ(1) 第3回：アンケート調査の流れ(2) 第4回：データ収集法(1) 第5回：データ収集法(2) 第6回：データ収集法(3) 第7回：問いを立てる、仮説を構成する 第8回：サンプリング(1) ランダム・サンプリングがなぜ必要か 第9回：サンプリング(2) サンプリングと調査票の配布から回収まで 第10回：調査票作成の基礎(1) 質問文の形式と選択肢の構成 第11回：調査票作成の基礎(2) ワーディング 第12回：調査データの作成：コーディング、データ・クリーニング 第13回：データ分析(1) 記述統計 第14回：データ分析(2) クロス表分析 第15回：報告書の作成 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
指定された教科書の各回の内容について、予め読んでおくこと。また該当箇所について授業内容および教科書を復習しておくこと。
成 績 評 価 方 法
・ 定期試験(50%) ・ 小テスト・小課題提出(50%)
成 績 評 価 基 準
・ 調査票調査の手順を理解できているか。 ・ 調査票調査におけるデータ収集法の違いについて理解できているか。 ・ 適切な質問と回答選択肢を作成するための方法を習得しているか。 ・ 無作為抽出の意義を理解できているか。

テキスト、参考図書	
『入門・社会調査法』（第二版）轟・杉野編 法律文化社 2013年	
その他（受講上の注意）	
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、標準カリキュラムのB科目に対応するものである。	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

現代社会研究Ⅰ (Studies of Contemporary SocietyⅠ)			担当教員	島岡 哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2203	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
本講義は、社会学、民俗学、人類学、メディア論などの学問領域と知見に基づいて編まれた社会科学の邦語文献購読である。卒業研究を見据えて、全14章からなるテキストを丁寧に読み解きながら、テーマ探しと論理的思考のトレーニングを行う。毎回の講義時間内に、各論考に基づいた論述を課す。
授 業 の 到 達 目 標
社会科学の理論を実践的に応用した論文群を解説しながら、日常生活世界を読み解くための情報収集・探索能力を身につける。次に、社会学の根源的問いでもある、他者とは何か、社会とは何かについて、理論的に考える力をつける作業を通して、自他の理解能力を高めることをめざす。
授 業 の 計 画
第1回：流動化する愛 — 「電車男」と告白 第2回：お笑い — 男の世界での女性の語られ方 第3回：心理ブーム — 感情のコントロール 第4回：田舎暮らし — 「住」の選択 第5回：贈り物 — こめられた意味 第6回：旅と観光 — 旅のあり方の変容 第7回：習い事 — バレエ教室を事例に 第8回：民話 — 猿退治伝説の再生 第9回：盆踊り — 賑わいの創出と対象化 第10回：地域社会とメディア — ケータイ「圏外」地域と情報化 第11回：子供と遊び — 子供の世界における「集団」 第12回：「お客様」社会 — 「客」と暴力 第13回：ラジオと高齢者 — 「ラジオ深夜便」 第14回：文化の遺産化 — 彷徨える「文化財」? 第15回：まとめと再考察 — 社会学的思考のための11のヒント
授 業 外 の 学 習 方 法
講義内に解説した内容をテキスト本体に書き込んでいくこと。教科書はきれいに取っておくものではない。教科書の各論考に加え、最新の研究を紹介しつつ購読をすすめる。時代背景の変化なども考慮しつつ、理解を深めること。
成 績 評 価 方 法
毎回配布するリアクション・ペーパーへの論述記載内容(出欠も兼ねる)70%、レポート試験30%
成 績 評 価 基 準
毎回の講義内に演習形式でおこなうリアクション・ペーパーを用いた論述を繰り返すことで、社会科学の概念を適切に使い、事例を分析し、論証する力が付いていっているかどうか。
テキスト、参考図書
『現代文化の社会学入門』 小川伸彦・山泰幸編著 ミネルヴァ書房 2007年
その他(受講上の注意)
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査方法論 (Social Data Analysis)			担当教員	織田 暁子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Chh-2212	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☐コミュニケーション能力 ☒情報収集・探索能力 ☐社会・職業理解能力 ☐役割把握・認識能力 ☐計画実行能力 ☒選択能力 ☒課題解決能力					

授 業 の 内 容
この講義では、量的なデータを読み、正しく理解するために必要な統計学の知識について、基礎から説明していく。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた、さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を学ぶことで、官庁統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読めるようにする。
授 業 の 到 達 目 標
・必要に応じて、官庁統計を探し、それを読みこなせるようになる。 ・基礎的な統計量について理解できるようになる。 ・データをグラフなどを用いて要約できるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：統計データとはなにか 第3回：統計データの入手方法 官庁統計を利用する 第4回：統計データの読み方(1) 単純集計・度数分布 第5回：統計データの読み方(2) 基本統計量：代表値・分散・標準偏差 第6回：小テスト 第7回：統計データをグラフにする(1) 円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフ 第8回：統計データをグラフにする(2) ヒストグラム、散布図 第9回：小テスト 第10回：関連性を探る(1) クロス集計表 第11回：関連性を探る(2) 相関係数 第12回：小テスト 第13回：相関係数と因果関係 みかけの相関に騙されないために 第14回：質的データのまとめ方 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
授業中に出された課題に取り組むこと。また、参考書やレジュメを読んで十分に復習すること。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 平常点・小テスト・課題提出(50%) (平常点は授業への参加状況・受講態度を総合的に判断します)
成 績 評 価 基 準
・必要に応じて、適切な官庁統計を探しているか。また、それを読みこなせているか。 ・基礎的な統計量について理解できているか。 ・データをグラフなどを用いて要約できるようになっているか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
『社会調査のための統計データ分析』 廣瀬毅士・寺島拓幸 オーム社 2010年

その他(受講上の注意)

この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、講義カリキュラムのC科目に対応するものである。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会統計学 (Social Statistics)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Chh-2213	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☒ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会調査などの統計的データをまとめたり分析したりするために必要な基礎的統計学を学ぶ。まず推測統計の論理として確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用、抽出法の理論を学び、その後変数間の関連を表す統計量として、クロス表の統計量、相関係数、回帰分析についての基礎を学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・ 統計的データをまとめることができる。 ・ 推測統計に必要な知識と方法を理解している。 ・ 変数間の関係性を表す統計量の知識と方法をを持っている。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：記述統計と推測統計との違い 第3回：部分から全体を推測する 社会を知るための諸条件 第4回：確率分布について(1) 二項分布・ポアソン分布 第5回：確率分布について(2) 正規分布・t分布 第6回：確率分布について(3) カイ二乗分布・F分布 第7回：推定の論理(1) 中心極限定理 第8回：推定の論理(2) 信頼区間 第9回：推定の論理(3) 帰無仮説の考え方 第10回：検定の論理(1) t検定 第11回：検定の論理(2) カイ二乗検定 第12回：相関係数 第13回：回帰分析 第14回：回帰係数の検定 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の授業を受けた後、教科書やノート、配布資料を見直して復習し、理解を深めるようにしてください。また、練習問題を解くなど、計算やコンピュータ操作のスキル向上を心がけて下さい。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、授業中の小レポートと受講態度(50%)
成 績 評 価 基 準
・ 統計的データをまとめることができるか。 ・ 推測統計に必要な知識と方法を理解しているか。 ・ 変数間の関係性を表す統計量の知識と方法をを持っているか。
テキスト、参考図書
『これならわかる統計学』 美濃哲郎 著 ムイスリ出版 2005年

その他(受講上の注意)

社会調査士資格に必要なD科目である。
数学的知識を必要とするが、全員あまり数学的知識を持っていないものとして授業を進める。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

データ解析法a (Qualitative Data Analysis a)			担当教員	山中 千恵	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cgh-2211	2 単位	2 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
質的調査法を学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
質的データの収集や分析方法を理解したうえで、実際にインタビュー調査を企画し、実施、報告をおこなうことができる。
授 業 の 計 画
第1回：質的調査とはなにか 第2回：調査の倫理 第3回：質的調査の手法(1) インタビュー調査 第4回：質的調査の手法(2) 参与観察法 第5回：質的調査の手法(3) 会話分析 第6回：質的調査の手法(4) 内容分析(活字メディア) 第7回：質的調査の手法(5) 内容分析(映像メディア) 第8回：中間試験 第9回：インタビューをおこなう(1) インタビューを企画する 第10回：インタビューをおこなう(2) 対象者を決める 第11回：インタビューをおこなう(3) インタビューをおこなう 第12回：調査結果をまとめる(1) 第13回：調査結果をまとめる(2) 第14回：質的データの問題点と質的調査の限界 第15回：報告会
授 業 外 の 学 習 方 法
講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購入する。インタビューの実施にあたっては、班のメンバーと協力しながら、自主的にこれをすすめていく。
成 績 評 価 方 法
中間テスト(55%)および発表、レポート(40%)と平常点(5%)による。 平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
質的調査法を理解し、インタビュー調査を企画、実施、報告できるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
特になし
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本の言語文化a (Japanese Language and Culture a)			担当教員	大河 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2204	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
明治期の日本文学とそれを原作とした映画を取り上げ、表現・内容の分析と比較を行う。文字表現による文学、映像・音声表現による映画の特性に注目しながら、言語と文化のかかわりやその変化について考察する。
授 業 の 到 達 目 標
- 各作品の表現・内容と文化的・社会的背景の関係が理解できる。 - 近代と現代の共通点・相違点を考え、日本の言語・文化について認識を深める。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：森鷗外と「舞姫」 第3回：小説「舞姫」(1) 第4回：小説「舞姫」(2) 第5回：映画「舞姫」(1) 第6回：映画「舞姫」(2) 第7回：泉鏡花と「外科室」 第8回：小説「外科室」 第9回：映画「外科室」 第10回：夏目漱石と「夢十夜」 第11回：小説「夢十夜」(1) 第12回：小説「夢十夜」(2) 第13回：映画「ユメ十夜」(1) 第14回：映画「ユメ十夜」(2) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習：授業時に配付した資料とテキストの該当部分を確認し、課題を行うこと。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)
成 績 評 価 基 準
課題：各作品の表現・内容や文化的・社会的背景等が理解できているか。 期末レポート：各自が選んだ作品とテーマについて、十分に考察し、説得力のある結論が出せているか。
テキスト、参考図書
森鷗外『舞姫・うたかたの記 他三篇』 岩波文庫 1981年 夏目漱石『文鳥・夢十夜』 新潮文庫 2002年 ※泉鏡花「外科室」については、プリントを配付する。
その他(受講上の注意)
授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと・考えたことをノート欄に記入すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本の言語文化 b (Japanese Language and Culture b)			担当教員	大河 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2214	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
大正・昭和期の日本文学とそれを原作とした映画を取り上げ、表現・内容の分析と比較を行う。文字表現による文学、映像・音声表現による映画の特性に注目しながら、言語と文化のかかわりやその変化について考察する。
授 業 の 到 達 目 標
- 各作品の表現・内容と文化的・社会的背景の関係が理解できる。 - 近代と現代の共通点・相違点を考え、日本の言語・文化について認識を深める。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：小林多喜二と「蟹工船」 第3回：小説「蟹工船」(1) 第4回：小説「蟹工船」(2) 第5回：映画「蟹工船」(1) 第6回：映画「蟹工船」(2) 第7回：宮沢賢治と「銀河鉄道の夜」 第8回：童話「銀河鉄道の夜」(2) 第9回：映画「銀河鉄道の夜」(1) 第10回：映画「銀河鉄道の夜」(2) 第11回：太宰治と「ヴィヨンの妻」 第12回：小説「ヴィヨンの妻」 第13回：映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」(1) 第14回：映画「ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～」(2) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習：授業時に配付した資料とテキストの該当部分を確認し、課題を行うこと。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)
成 績 評 価 基 準
課題：各作品の表現・内容や文化的・社会的背景等が理解できているか。 期末レポート：各自が選んだ作品とテーマについて、十分に考察し、説得力のある結論が出せているか。
テキスト、参考図書
小林多喜二『蟹工船』・新潮文庫・1954年 宮沢賢治『新編 銀河鉄道の夜』・新潮文庫・1989年 太宰治『ヴィヨンの妻』・新潮文庫・1950年
その他(受講上の注意)
授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと・考えたことをノート欄に記入すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲ a (English Ⅲ a)			担当教員	ME ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1341	1 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.
授 業 の 到 達 目 標
The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.
授 業 の 計 画
第1回：Introductions 第2回：The Greater Mekong Sub-region：A New Era for Cambodia ① 第3回：The Greater Mekong Sub-region：A New Era for Cambodia ② 第4回：Singapore Playing Cupid：The Problem of Birthrate Decline ① 第5回：Singapore Playing Cupid：The Problem of Birthrate Decline ② 第6回：Energy-hungry Nepal：Urban Area ① 第7回：Energy-hungry Nepal：Urban Area ② 第8回：Mid-term Examination / East Timor Now：Medical Situation ① 第9回：East Timor Now：Medical Situation ② 第10回：Born This Way in Thailand：Gender Identity ① 第11回：Born This Way in Thailand：Gender Identity ② 第12回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Getting People out of the Slums ① 第13回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Getting People out of the Slums ② 第14回：Vietnam's Cultural Revival：Nha Nhac Court Music ① 第15回：Vietnam's Cultural Revival：Nha Nhac Court Music ② 第16回：Final Examination
授 業 外 の 学 習 方 法
Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.
成 績 評 価 方 法
Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25% Mid-term Examination - 25% Final Examination - 50%
成 績 評 価 基 準
Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final evaluations.
テキスト、参考図書
English from NHK World TV Akira Morita, Yukinobu Satake, et al. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE ISBN978- 4 -7773-6471- 8

その他(受講上の注意)
Active participation in class is essential for success in this course.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語Ⅲ b (English Ⅲb)			担当教員	ME ハウカ	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1342	1 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given.
授 業 の 到 達 目 標
The focus of the course is on developing reading and discussion skills. Students will learn about the world around them and then engage in thoughtful discussions in an effort to deepen their international understanding.
授 業 の 計 画
第1回：Introductions 第2回：The Greater Mekong Sub-region：Labor Situation in Cambodia ① 第3回：The Greater Mekong Sub-region：Labor Situation in Cambodia ② 第4回：Singapore Playing Cupid：Matchmaking Agency ① 第5回：Singapore Playing Cupid：Matchmaking Agency ② 第6回：Energy-hungry Nepal：Problems of Rural Areas ① 第7回：Energy-hungry Nepal：Problems of Rural Areas ② 第8回：Mid-term Examination / East Timor Now：Mobile Clinics ① 第9回：East Timor Now：Mobile Clinics ② 第10回：Born This Way Thailand：Professional Transgender Women ① 第11回：Born This Way Thailand：Professional Transgender Women ② 第12回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Supporting New Life ① 第13回：Gawad Kalinga Project in the Philippines：Supporting New Life ② 第14回：Vietnam's Cultural Revival：Perserving Cultural Assets ① 第15回：Vietnam's Cultural Revival：Perserving Cultural Assets ② 第16回：Final Examination
授 業 外 の 学 習 方 法
Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.
成 績 評 価 方 法
Proactive In-class Participation, Homework and Assignments - 25% Mid-term Examination - 25% Final Examination - 50%
成 績 評 価 基 準
Students will be evaluated on their contributions during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the mid-term and final examinations.
テキスト、参考図書
English from NHK World TV Akira Morita, Yukinobu Satake, et al. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE ISBN978-4-7773-6471-8

その他(受講上の注意)
Active participation in class is essential for success in this course.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1249	4 単位	2 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実証的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 ■計画実行能力		■情報収集・探索能力 ■選択能力	
				■社会・職業理解能力 □課題解決能力	

授 業 の 内 容
本プログラムは、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外語学研修(8 週間プログラム)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に8 週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校 American Language Program (ALP) における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
120時間以上の集中的な英語研修と約8 週間のアメリカでの生活体験を通し、総合的な英語力(読む力・聞く力・話す力・書く力)を向上させることを目的とする。
授 業 の 計 画
第1回：全体説明会 第2回：面接 第3回：現地学校への申込み 第4回：宿泊申込み 第5回：持ち物に関する注意 第6回：ビザの取得 第7回：渡航手続き 第8回：アメリカでの生活における注意 第9回：入国・税関手続き 第10回：プログラム経験者との打ち合わせ 第11回：現地にて研修 第12回：反省会 第13回：単位認定の為の申請 第14回：事後報告発表会 第15回：レポート提出 第16回：次年度出発予定学生のための発表
授 業 外 の 学 習 方 法
準備期間においては、渡航に必要なビザの手続きを教員のサポートの元学生自ら行うこと。渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。
成 績 評 価 方 法
事前ガイダンスへの取り組み(25%)、現地評価(50%)、事後のプレゼンテーションや課題レポートなど(25%)を総合評価する。
成 績 評 価 基 準
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。 学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。 ※フラトン校から発行される成績表も評価に含まれる。
テ キ ス ト、参 考 図 書
ALPより指示がある。

その他（受講上の注意）

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の実講登録手続きを要しない。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習 a (Information Processing Practicum a)			担当教員	宮川 祐一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1251	2 単位	2年前期・3年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。
授 業 の 到 達 目 標
一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目指す。 ただし、本授業においては、授業回数の都合上「ITパスポート試験」の小問のみを採り上げており、「ITパスポート試験」の中間については情報処理演習bにおいて採り上げる。 参考 IT パスポート試験シラバス http://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/syllabus_ip_ver2_0.pdf
授 業 の 計 画
テキストに従って進めるが、毎授業の30分間程度は演習課題(小問)を採り入れる。 第1回：第1章 企業と法務(1) 第2回：第1章 企業と法務(2) 第3回：第1章 企業と法務(3) 第4回：第2章 経営戦略 第5回：第3章 システム戦略 第6回：第4章 開発技術 第7回：第5章 プロジェクトマネジメント 第8回：第6章 サービスマネジメント 第9回：第7章 基礎理論(1) 第10回：第7章 基礎理論(2) 第11回：第7章 基礎理論(3) 第12回：第8章 コンピュータシステム(1) 第13回：第8章 コンピュータシステム(2) 第14回：第9章 技術要素(1) 第15回：第9章 技術要素(2) 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 次の単元の内容を教科書で事前に目を通しておくこと。 復習 重要語句などの確認をすること。 授業で採り上げた演習例題については、完全理解に努めること。 テキスト付録の過去問題(小問)を各自実行すること。 (延べ所要時間 約30時間以上)
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%) 中間試験(10%) 平常点(10%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度等)

成 績 評 価 基 準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。 ただし、この授業においては、ITパスポート試験の小問を対象とする。
テキスト、参考図書
テキスト 『ITパスポート試験 対策テキスト CBT試験対応 平成26-27年版』 FOM出版 2014年 参考図書 ITパスポート試験 書いて覚える学習ドリルCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠 FOM出版 2011年 ITパスポート試験 直前対策 1週間完全プログラムCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠 FOM出版 2011年 平成26年度 ITパスポート合格教本 CBT対応 技術評論社 2013年
その他(受講上の注意)
テキスト必携必須
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

情報処理演習 b (Information Processing Practicum b)			担当教員	宮川 祐一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
HS-1252	2 単位	2年後期・3年後期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部学部共通科目 情報科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実地的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☐コミュニケーション能力 ☒情報収集・探索能力 ☐社会・職業理解能力 ☐役割把握・認識能力 ☐計画実行能力 ☐選択能力 ☐課題解決能力					

授 業 の 内 容
大学はもちろんのこと、一般社会における情報システムの利用者として必要な情報化推進能力を得る。
授 業 の 到 達 目 標
一般企業などにおける情報システムの利用者側としての必要な知識技能を主に習得し、業務の情報化を推進できる幅広い活用能力の獲得を目指す。 本授業では、情報処理技術者試験の一つである「ITパスポート試験」に合格できるレベルの知識と技能を獲得することを目指す。 ただし、本授業においては、授業回数の都合上「ITパスポート試験」の中間を採り上げており、「ITパスポート試験」の小問については情報処理演習aにおいて採り上げる。 参考 IT パスポート試験シラバス http://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/syllabus_ip_ver2_0.pdf
授 業 の 計 画
テキストに従って進めるが、毎授業の60分間程度は演習課題(中間)を採り入れる。 第1回：第1章 企業と法務 第2回：第2章 経営戦略 第3回：第3章 システム戦略 第4回：第4章 開発技術 第5回：第5章 プロジェクトマネジメント 第6回：第6章 サービスマネジメント 第7回：第7章 基礎理論 第8回：第8章 コンピュータシステム 第9回：第9章 技術要素 第10回：CBT形式による過去問題研究(1) 第11回：CBT形式による過去問題研究(2) 第12回：Webベースの知識問題作成演習(1) 第13回：Webベースの知識問題作成演習(2) 第14回：Webベースの知識問題作成演習(3) 第15回：作成したWebベースの知識問題を検証 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習 次の単元の内容を教科書等で事前に目を通しておくこと。 指示したITパスポート試験問題(過去問題)を解いて授業に臨むこと。 復習 重要語句などの確認をすること。 採り上げた演習例題については完全理解に努めること。 テキスト付録の過去問題(中間)を各自実行すること。 (延べ所要時間 約30時間以上)
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) CBT模擬テスト(20%) レポート課題(30%)

成 績 評 価 基 準
ITパスポート試験に合格できるレベルの知識と技能を獲得できたか。
テキスト、参考図書
テキスト 『ITパスポート試験 対策テキスト CBT試験対応 平成26-27年版』 FOM出版 2014年 参考図書 ITパスポート試験 書いて覚える学習ドリルCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠 FOM出版 2011年 ITパスポート試験 直前対策 1週間完全プログラムCBT試験対応 シラバスVer2.0準拠 FOM出版 2011年 平成26年度 ITパスポート合格教本 CBT対応 技術評論社 2013年
その他(受講上の注意)
テキスト必携必須 前期の「情報処理演習a」を受講している者を前提としている。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(インターンシップ) (Fieldwork Practice (Internship))			担当教員	升田 法継、水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1361	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際の知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		■計画実行能力		■選択能力	
				■社会・職業理解能力	
				■課題解決能力	

授 業 の 内 容
本授業は、主として「福井県インターンシッププログラム」(3年生対象)に沿って、民間企業や各種団体、自治体等における就業体験(原則として5日間)を夏期休業中に行う。インターンシップ参加者(福井県外での参加者含む)は、事前の本学教員および主催者によるガイダンスや面接等を受講し、事後の報告会等に参加することを義務づけ、就業意識の高揚をねらう。
授 業 の 到 達 目 標
民間企業や各種団体・自治体等で就業体験(実習)を行い、以後の学習・研究のための動機付けを得ること、また社会人・職業人となるための自己認識、自己啓発につなげること。
授 業 の 計 画
●出願・調整期間 4月上旬：インターンシップガイダンス 4月中旬：志望動機書提出 4月下旬：面接(5月上旬 結果発表) 5月中旬：インターンシップ説明会 5月下旬：エントリーシート締切 6月上旬：仁愛大学インターンシップ事前研修会 7月中旬：研修先等の決定 7月下旬：主催者による事前研修会 ●研修・就業体験期間 7月中旬～：研修先と事前打合せ 8月上旬～9月末：企業・団体にて就業体験 ●レポート提出 10月末：テーマ：インターンシップで学んだこと
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、インターンシップ参加までに受入先企業・団体の企業概要や事業内容について事前に調べておくこと。就業体験中は、その日の実習で気づいたことや体験したことを見直して次の日に臨むこと。
成 績 評 価 方 法
インターンシップ先の評価(35%)、レポート(30%)、平常点(35%) 平常点は事前研修(ガイダンス・面接を含む)の参加状況、参加意欲(志望動機)等を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
インターンシップ先の研修において、期待される行動・態度がとれているか。 就業体験をとおして、今後自己に必要な学習・研究について明確化することができているか。 民間企業や各種団体等での就業体験によって、自己の就業意識を向上することができたか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
使用しない。

その他(受講上の注意)

※受講希望者には、「志望動機書」の提出および面接を行い、就業意欲を認めたうえで実施する。
※授業計画は、協力団体などの都合により、前後したり変更する場合がある。
※第1回キャリアガイダンスにおいてスケジュールなどについて説明するので、必ず出席すること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(ボランティア) (Fieldwork Practice (Volunteer))			担当教員	金田 明彦・谷 雅徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1164	2単位	1年～4年	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力■コミュニケーション能力■情報収集・探索能力■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力■計画実行能力■選択能力■課題解決能力					

授 業 の 内 容
本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。
授 業 の 到 達 目 標
それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。
授 業 の 計 画
地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。 4～7月 事前ガイダンスの実施と計画の提示 8～9月 現地にて研修 10～11月 事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報の収集
成 績 評 価 方 法
プログラムへの取り組み(50%) レポート(20%) プレゼンテーション(30%)
成 績 評 価 基 準
課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。 ※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(国際交流) (Fieldwork Practice(International Exchange))			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1165	2 単位	1 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 ■計画実行能力		■情報収集・探索能力 □選択能力	
				■社会・職業理解能力 □課題解決能力	

授 業 の 内 容
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムは、原則として「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に2週間の短期留学を実施する。語学学習を中心に、現地学校や日系企業の訪問、観光などの研修を実施し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。
授 業 の 計 画
4～8月 事前ガイダンスの実施と計画の立案・決定 9月 現地にて研修 10～11月 事後報告として、反省会・発表会の実施 1月下旬～3月中旬 次年度出発予定学生のための発表会等を行う。
授 業 外 の 学 習 方 法
準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。
成 績 評 価 方 法
事前ガイダンスへの取り組み(25%)、現地評価(50%)、事後のプレゼンテーションや課題レポートなど(25%)を総合評価する。
成 績 評 価 基 準
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
ALPより指示がある。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は6名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスと、本プログラムの参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 ※個人参加の海外語学研修および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、事前(海外語学研修は渡航の2ヶ月前)に担当教員または英語教育センターに問い合わせること。また、個人で参加する海外語学研修の期間については、夏期休暇期間または春期休暇期間とし、単位認定時期については、夏期休暇期間の場合は当該年度の後期に、春期休暇期間の場合は翌年度の前期に単位認定する。 ※単位認定については、参加する海外語学研修・国際交流等のプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理検査法Ⅱ (Psychological Assessment MethodsⅡ)			担当教員	水上喜美子、吉水ちひろ、青井 利哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-F-2310	2 単位	3 年前期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学基礎					
求める学習成果(教育目標)					
心理学の研究方法や基礎的知識を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 □計画実行能力		■情報収集・探索能力 □選択能力	
				■社会・職業理解能力 □課題解決能力	

授 業 の 内 容
この授業では、心理検査の背景理論や実施方法について学習した後、実際に検査者と被検者の双方を体験していく。このような体験をする中で、心理検査を正しく理解するだけでなく、その効用と限界の認識、さらに倫理性をわきまえた態度を身につけていく。また、一定の決められた実施法や解釈の仕方などを習得する中で、新たな自分への気づきや他者理解へと繋げることを目的とする。
授 業 の 到 達 目 標
・ 検査の実施に際して、実施要領に従って正しく施行できる。 ・ 心理検査を用いるときの注意事項について説明することができる。 ・ アセスメントの際に心理検査を利用することの効用だけでなく、その限界や誤用がもたらす弊害についても考えることができる。
授 業 の 計 画
この授業では、心理検査について正しい理解やとらえ方ができるようになるために、オムニバス形式で様々な心理検査を学んでいく。 第1回：オリエンテーション 第2回：質問紙法検査①（YG性格検査、東大式エゴグラムなど） 第3回：質問紙法検査②（YG性格検査、東大式エゴグラムなど） 第4回：質問紙法検査③（YG性格検査、東大式エゴグラムなど） 第5回：質問紙法検査④（YG性格検査、東大式エゴグラムなど） 第6回：描画法検査①（風景構成法、動的家族画など） 第7回：描画法検査②（風景構成法、動的家族画など） 第8回：描画法検査③（風景構成法、動的家族画など） 第9回：描画法検査④（風景構成法、動的家族画など） 第10回：知能検査①（ウェクスラー知能検査など） 第11回：知能検査②（ウェクスラー知能検査など） 第12回：知能検査③（ウェクスラー知能検査など） 第13回：知能検査④（ウェクスラー知能検査など） 第14回：まとめ① 第15回：まとめ②
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、授業で取り上げられる心理検査に関連する頁や関連する書籍などを読み、基本的な事柄について理解しておくこと。復習としては、授業で体験した心理検査を通して、考えたことや感じたことをまとめておくこと。また、授業時間だけでは作業が終わらないこともあり、その際には、残った作業を遂行して次の授業に臨むこと。
成 績 評 価 方 法
授業への参加状況や受講態度(20%)、検査ごとに作成する課題レポート(20%×3)、確認テスト(20%)などから総合的に評価する。実習を伴うため、出席状況や受講態度が悪い場合は、厳しく減点する。

成 績 評 価 基 準 ・心理検査の実施に際して、実施要領に従って正しく施行できるか。 ・心理検査を用いるときの注意事項について説明することができるか。 ・心理検査を利用することの効用だけでなく、その限界や誤用がもたらす弊害についても考えることができるか。
テキスト、参考図書 願興寺礼子・吉住隆弘(編)「心理検査の実施の初歩」(ナカニシヤ出版 2011年発行) そのほか、各検査毎に必要な資料を配布したり、参考図書を指示する。
その他(受講上の注意) ・実習を含むので出席と熱心な実習態度を期待する。 ・実習にあたって同グループの友人等に対して自己開示が必要な場合がある。 ・検査の知識を安易に使用しないこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー 教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神医学Ⅰ (PsychiatryⅠ)			担当教員	三協 康生	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-ABC-2323	2 単位	3 年前期	講義	選択	
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
精神医学は日本が近代化される中で構築された。そこには日本の近代化の遅れが投影されている。その歴史を学び改善をする方向性について、外国のシステムを参考にしながら考える。具体的な病気についても、重い病気を中心に学ぶが、それが軽症化してきている現代社会の特徴についても考える。
授 業 の 到 達 目 標
精神医療の政策にたいして、その内容を吟味できるようになり、どの位の経済的な支出をしていくのか、政治的な判断を大人として下して、実際に、選挙で投票する際の指標に出来るようになることを目指す。
授 業 の 計 画
第1回：精神病院の様子を紹介 第2回：近代精神医学の歴史 日本1 第3回：近代精神医学の歴史 日本2 第4回：近代精神医学の歴史 ヨーロッパ1 第5回：近代精神医学の歴史 ヨーロッパ2 第6回：精神障害と犯罪 第7回：統合失調症1 第8回：統合失調症2 第9回：統合失調症3 第10回：制度を使った精神療法 第11回：気分障害（躁鬱病）1 第12回：気分障害2 第13回：気分障害3（若者の鬱） 第14回：派遣労働とニート問題 第15回：パニック障害 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
精神医療に関係する新聞記事、ネット情報を集める。本を読みたい人は、まず医療の歴史に関する本を図書館で探すといよい。好みに応じて読める本を読むことでよい。病気に関しては、病名が本の題名になっている本を探すといよい。簡単に見つかる。
成 績 評 価 方 法
レポートも期末テストと同時に提出。期末テスト70%レポート30%で評価する。 テストにはかならずテキストを持ち込むこと。持ち込まないと、テストは受けられない。
成 績 評 価 基 準
歴史を踏まえて日本の精神医療がどのように成立したか説明し、他国と比較でき、これからの姿を各自で考えられるか。

テキスト、参考図書

多賀茂 三協康生「医療環境を変える－制度を使った精神療法の実践と思想」京都大学学術出版会2008年
テキストの購入方法：

下記ページにアクセスをして、「買い物かごに入れる」→「配送先：JAPAN」→「購入手続きに進む」の順番で手続を行い、申し込み画面にて「氏名」、「住所」、「クーポンコード」等を入力すると、書籍代金が割引されます。

<http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784876987511>

クーポンコード：T100765(有効期限2015/5/31)

なお、学内でのテキスト販売にて購入の場合は定価(5,985円)になります。

その他(受講上の注意)

欠席は3回までしか認めない。公式の用事がある場合は欠席に数えない。証明書を提出すること。まずこれをクリアしたらテストを受けられる。

私語は一切禁じる。二度注意されたら自ら教室を去ること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神医学Ⅱ (PsychiatryⅡ)			担当教員	三協 康生	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-AOO-2324	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 □計画実行能力		■情報収集・探索能力 □選択能力	
				■社会・職業理解能力 ■課題解決能力	

授 業 の 内 容
精神医学1は原因がわからない重病について学んだが、精神医学2ではその原因が現代社会で問題になっている病について学ぶ。災害や職場や学校での暴力から生じる病について学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
現代はハラスメント社会とも呼ばれる状況にある。この外的なトラウマと精神分析的な精神的なトラウマの関係はフロイトですら明確には出来なかった。この二つのトラウマについて考え、各自の意見をこの問題に持てるようになり、ハラスメント社会を生き抜く方法を考える、
授 業 の 計 画
第1回：PTSDとは何か1 第2回：PTSDとは何か2 第3回：PTSDとは何か3 第4回：PTSDとは何か4 第5回：PTSDとは何か5 第6回：解離と多重人格1 第7回：解離と多重人格2 第8回：人格障害1 第9回：人格障害2 第10回：社会的ひきこもり(摂食障害の説明も含む)1 第11回：社会的引きこもり2 第12回：社会的引きこもり3 第13回：東北大震災特講 第14回：性同一性障害 第15回：今、個人でできることは何だろうか？ブラック企業にご注意を 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
PTSDやハラスメントに関する本を図書館で読むこと。自分がバイトさきなどで経験したことを分析して考察することも出来る。
成 績 評 価 方 法
平常点20パーセント 期末テスト50パーセント レポート30パーセント (平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
ハラスメント社会を深く理解し、それを切り抜ける方法を身につける。
テキスト、参考図書
就労と教育システムに関して：大野正和『自己愛化する仕事』大野正和 1労働調査会 2011年 (レポートを書くとき必ず必要) 参考書 PTSDへのアートセラピーに関して：三協康生他『アート×セラピー潮流』フィルムアート社 2002年
その他(受講上の注意)
私語は厳禁とする。二度注意を受けたら自から教室を去ること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABO-2332	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
心理学の教育への応用を通じて、こころの発達とこころのありかたの問題点を探る。 教育心理学は、子どもの発達と自己形成の支援を行うものである「教育」について、心理学の視点から研究する学問である。そのため、発達や学習、人間関係に関する基礎理論をもとに、それぞれの子どもの最適な各教科の教授法や指導法を考え、学校や社会での人との関わりを促す方法を構築していくためにはどうすれば良いかを学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・発達や学習、障害に関する基本的な考え方を理解する。 ・心理学的知見の教育への応用を考えられる。 ・現代の教育における問題点について、具体的に考えることができる。 ・教育のみならず、さまざまな分野において、心理学の基礎理論を応用して考えることができるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：教育心理学とは 第2回：教育心理学の課題と研究方法 第3回：発達Ⅰ－情緒的発達 第4回：発達Ⅱ－社会的発達 第5回：発達Ⅲ－認知的発達 第6回：学習Ⅰ－学習理論 第7回：学習Ⅱ－学習理論の応用 第8回：教授法Ⅰ 第9回：教授法Ⅱ 第10回：教育評価 第11回：知能 第12回：適応と障害 第13回：集団の理解 第14回：現代の教育の問題 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
毎回行うブリーフレポート(20%)、定期試験(80%)
成 績 評 価 基 準
・発達や学習、障害に関する基本的な考え方を説明することができるか。 ・心理学的知見の教育への応用について説明できるか。 ・現代の教育における問題点について、具体的に解決法を考えることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用せず適宜プリントを配布する。
その他(受講上の注意)
授業には積極的態で参加し、自分の考えをブリーフレポートに書き表すようにしてください。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

家族心理学 (Family Psychology)			担当教員	竹村 明子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-ABC-2337	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
講義の前半では、家族の成り立ちや、家族の機能、家族の発達について概観していく。講義の後半では、家族をとりまく問題として、少子化、高齢化、家庭と仕事の関係などを取り上げ、現代社会における家族について検討をしていく。
授 業 の 到 達 目 標
・ 家族の機能や家族内で展開される人間関係の特徴について説明することができる。 ・ 現在社会の家族が抱える問題について分析し、心理学的視点から考察することができる。
授 業 の 計 画
第1回：家族とは 第2回：家族の心理 第3回：家族の起源・進化 第4回：家族のライフコースと発達段階 第5回：家族アセスメントの方法 第6回：家族関係への心理臨床的介入 第7回：中間試験と主要理論のまとめ 第8回：恋愛と結婚 晩婚化・非婚化 第9回：結婚生活と夫婦関係 第10回：中年期と老年期の夫婦関係 第11回：親子の歴史と少子化 第12回：子どもの発達 第13回：親としての発達 第14回：中年期の親と青年期の子ども 第15回：老年期の親と中年期の子ども 第16回：期末試験とまとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、次回に学ぶ内容について関連する書籍・新聞・雑誌記事を読み、あらかじめ疑問点等をまとめて授業に臨むこと。また復習として、授業と配布するプリントに基づき、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
中間試験(30%) 期末試験(40%) 小レポート(30%)
成 績 評 価 基 準
・ 家族の機能や家族内で展開される人間関係の特徴について、心理学用語を用いて説明することができるか。 ・ 現在社会の家族が抱える問題について分析・考察し、自分の意見を適切に表現できるか。
テキスト、参考図書
テキストは特に指定しない。講義の際にプリントを配布する。参考図書は、必要に応じて講義の中で紹介する。

その他(受講上の注意)

毎回の講義に小レポートの提出を課すので、必ず講義に出席すること。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

スポーツ心理学 (Sport Psychology)			担当教員	野田 政弘	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-OBC-2338	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 基幹科目 心理学専門					
求める学習成果（教育目標）					
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
スポーツ心理学は応用科学としてスポーツ行動における心理学的事象を解明し、それらに対処できるようにすることを目的としたものである。スポーツ全般における心理学的な諸問題を取りあげ今日までの研究成果に基づいて学習する。
授 業 の 到 達 目 標
運動の制御機構、運動と学習、競技心理、スポーツと臨床などについて理解できる。
授 業 の 計 画
第1回：スポーツ心理学とは 第2回：スポーツと発達 第3回：運動の制御機構① 第4回：運動の制御機構② 第5回：運動の学習と指導① 第6回：運動の学習と指導② 第7回：スポーツにおける動機づけ 第8回：スポーツの社会心理 第9回：運動による健康の増進 第10回：競技心理① 第11回：競技心理② 第12回：メンタルトレーニング① 第13回：メンタルトレーニング② 第14回：スポーツ臨床① 第15回：スポーツ臨床② 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、身の回りにおけるスポーツや運動に観察される事象にあてはめて理解を深める。
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%)、平常点(20%)。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
運動の制御機構、運動と学習、競技心理、スポーツと臨床などについて説明できる。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキストは使用しない。参考図書 中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著「よくわかるスポーツ心理学」ミネルヴァ書房 2012、荒木雅信編著「これから学ぶスポーツ心理学」大修館書店 2011
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
スポーツや運動に関するできごとや情報に積極的に関心を向けること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理療法論 I (Theory of Psychotherapy I)			担当教員	森 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABC-2351	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
さまざまな心理療法の考え方について学ぶとともに、そうした考え方を参考に自分自身の心の健康をめざすための方略について考える。
授 業 の 到 達 目 標
・ 代表的な心理療法の背景にある基本的な考え方を理解する。 ・ 自分自身の心の健康法について考える。
授 業 の 計 画
第1回：心理療法とは 第2回：無意識を理解する(精神分析的心理療法)① 第3回：無意識を理解する(精神分析的心理療法)② 第4回：クライアントを尊重する(来談者中心療法)① 第5回：クライアントを尊重する(来談者中心療法)② 第6回：行動を変える(行動療法)① 第7回：行動を変える(行動療法)② 第8回：認知を変える(認知行動療法) 第9回：身体をリラックスさせる(自律訓練法) 第10回：人間関係を分析する(交流分析) 第11回：自己を表現する(芸術・表現療法) 第12回：家族で解決する(家族療法) 第13回：集団で解決する(集団療法) 第14回：日本生まれの心理療法を考える(森田療法・内観療法) 第15回：まとめ 第16回：期末試験
授 業 外 の 学 習 方 法
授業の終わりに、次の授業までにしておいてほしいことを指示する。 とくに指示がない場合も、複数の心理療法の説明の中で共通することはないか、自分なりに考えること。また、心の健康にとって何が大切かを自分なりに考えること。 授業内容に関する質問等がある場合は、積極的に研究室に来て質問すること。
成 績 評 価 方 法
学期末に実施する筆記試験(60%)と、授業中に指示する課題や授業中の態度(40%)から、評価する。
成 績 評 価 基 準
・ 代表的な心理療法の背景にある基本的な考え方を理解し、説明できるか。 ・ 自分自身の心の健康法について考えることができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
教科書は指定しない。適宜、補助資料を配付する。 参考書は授業中、随時、紹介する。

その他(受講上の注意)	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

心理療法論Ⅱ (Theory of PsychotherapyⅡ)			担当教員	久保 陽子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-AOC-2352	2 単位	3 年後期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。意識と無意識の関係などから心の原理を理解し、さまざまな心の病について学習し、心理療法の特徴やその違いについて理解を深める。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
子どもから中年期までの心理療法について学習する。また、心の病について学習し、それぞれの心理療法について理解する。
授 業 の 到 達 目 標
子どもから中年期までの心理療法の特徴や経過を理解すること。また、心の病について学習し、それぞれの病における心理療法について理解を深める。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション…心理療法を学ぶ 第2回：受理面接…見立ての重要性 第3回：治療構造と記録をとること 第4回：子どもの心理療法…遊戯療法 第5回：遊戯療法の経過 第6回：思春期の心理療法…関わりの難しさ 第7回：イメージ療法 第8回：青年期の心理療法…自己の確立と葛藤 第9回：中年期の心理療法…人生後半への転換点 第10回：神経症の心理療法の経過(転換性障害) 第11回：神経症の心理療法の経過(抑うつ状態) 第12回：人格障害の心理療法とその経過 第13回：スーパーヴィジョンについて 第14回：面接の終結について 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
毎回、授業後に質問を受け付けます。次回授業において質問への回答を含めた授業を行いますので、復習として前回の授業内容を見直しておくこと。
成 績 評 価 方 法
中間レポート(30%) + 最終レポート(30%) + 平常点(40%) (平常点は授業への出欠・受講態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
子どもから中年期の心理療法の特徴を理解し、説明できるか。また、授業でとりあげた心の病における心理療法について理解できているか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
必要に応じて授業中に資料配布する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
私語厳禁。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

アイデンティティ心理学 (Identity Psychology)			担当教員	西村 則昭	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-AOC-2353	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
「本当の自分」とは何か、深層心理学の立場から考える。
授 業 の 到 達 目 標
・「本当の自分」とか「本当の幸福」が何か、自ら論理的(心理学的＝哲学的)に考え、イメージとしても思い描くことができる。 ・本来の自己と非本来の自己、性別など、アイデンティティの問題について自ら考えたことに基づいて、自分の将来像や人生設計を構築することができる。 ・アイデンティティの問題が心の病理と本質的な繋がりのあることを理解し、心を病んだ人の気持ちを理解し、寄り添うことができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：ラカンの鏡像段階 第3回：ラカンの現実界 第4回：話す主体はどのように成立するか 第5回：幻想 第6回：欲望 第7回：離人症 第8回：解離性障害 第9回：摂食障害(拒食) 第10回：摂食障害(過食) 第11回：境界性パーソナリティ障害 第12回：本来の自己とは何か 第13回：女性とは何か 第14回：宗教的アイデンティティ 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
配布資料を見直して復習し、次の授業に臨んでください。その上で、講義で説明したことを、自分の日常的な思考や観察される現象と重ね合わせ、理解を深めるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
・深層心理学の考え方を自ら思索し直しつつ、「本当の自分」や「本当の幸福」を思索できるか。 ・その上で、自分の将来像や人生設計を構築し、その意義を論理的(心理学的＝哲学的)に説明することができるか。 ・心を病む人におけるアイデンティティの問題が何かを理解し、その心に寄り添う姿勢を持つことができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用しない。プリント資料を配布する。

その他(受講上の注意)
質問はメールでも受け付けます(nisimura@jindai.ac.jp)。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

犯罪心理学 (Criminal Psychology)			担当教員	廣井 亮一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-AOC-2354	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
メディアを通して毎日のように「非行少年」のことが報じられているにもかかわらず、私たちは、「犯罪少年」と「非行少年」の相違すら知らず、彼らを自分とは違うモンスターのように見ているのではないだろうか。少年非行は、その時代に生きる青少年と家族・学校・社会の関係性の歪みを鋭く反映したものであり、同時代を生きる君たち自身の変容に他ならないのである。 本講義では、家裁調査官と非行少年の関わり(NHKドラマ「少年たち3」)を通して、非行少年について十分に理解したうえで、彼らの援助について考察する。さらに、加害者臨床の視点から「いじめ問題」「ストーカー問題」などの理解とアプローチを考察する。
授 業 の 到 達 目 標
・非行少年や犯罪者を十分に理解して、彼らの更生の援助ができる。 ・人と人との関係性を修復することができる。
授 業 の 計 画
第1回：非行少年とは。非行・犯罪を捉える基本的視座。 第2回：少年非行の現状。 第3回：家庭裁判所と家裁調査官について。少年たち3(第一話)「オヤジ狩り」をもとに解説。 第4回：少年非行の歴史的推移－その1(戦後～1983年まで)。非行形態の変化。 第5回：少年非行の歴史的推移－その2(1983年～現在)。少年たち3(第二話)「なぐられる人」をもとに解説。 第6回：現代型いじめの理解と対応 第7回：暴力問題と攻撃性の4類型 第8回：少年たち3(第三話)「再逮捕」をもとに解説。 第9回：加害者臨床(その1)－動機不可解な殺人事件の鑑定事例をもとに 第10回：加害者臨床(その2)－ストーカー殺人事件をもとに 第11回：加害者臨床と非行臨床 第12回：少年たち3(第四話)「父の記憶」/攻撃性と依存性について 第13回：少年たち3の第1話～第4話をもとにレポート作成 第14回：少年たち3(第五話)「最終審判」/受講生のレポートを基に解説 第15回：確認テスト(授業の理解度の確認、少年3について)と総まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、テキストの各回に関連する該当頁を読んでおくこと。 復習として、テキストを再読し、配布された資料で再確認すること。
成 績 評 価 方 法
確認テスト(50%)、レポート(30%)、平常点(20%) 平常点は、受講マナー、授業の取り組み等を総合的に判断
成 績 評 価 基 準
個々の非行少年や犯罪者に応じた更生の援助ができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキスト：廣井亮一編 家裁調査官が見た現代の非行と家族 ― 司法臨床の現場から 創元社 2015年 参考書：廣井亮一著『司法臨床入門 [第2版]』日本評論社 2012年、廣井亮一編著『加害者臨床』日本評論社 2012年

その他(受講上の注意)

*テキストは講義と確認テストに使用するので、各自必ず準備すること。確認テストでは、テキストの現物のみ持ち込み可(コピー等は不可)。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理演習 (Clinical Psychology Training)			担当教員	森 俊之、片畑真由美、久保 陽子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABO-2355	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
3 クラスに分かれ、いずれかの教員の指導のもと、ペアまたは少人数のグループで、いろいろな対話や表現を体験する。これらの体験を通して、自己理解・他者理解を促すとともに、傾聴などカウンセリングの基本的態度を身に付ける。
授 業 の 到 達 目 標
カウンセリングにおける話の聴き方の基本を理解する。 自分自身のコミュニケーションの特徴について理解する。 ものの捉え方や考え方、コミュニケーションの仕方などの多様性について考える。 他者と円滑にコミュニケーションできる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：自他理解のためのグループ体験① 第3回：自他理解のためのグループ体験② 第4回：自他理解のためのグループ体験③ 第5回：自他理解のための表現体験① 第6回：自他理解のための表現体験② 第7回：傾聴のための基本技法①：ノンバーバルな関わり 第8回：傾聴のための基本技法②：言葉の繰り返し、言い換え、要約 第9回：傾聴のための基本技法③：感情の明確化と反映 第10回：傾聴のための基本技法④：質問 第11回：傾聴のための基本技法⑤：焦点化、その他の技法 第12回：傾聴の実践：ロールプレイ① 第13回：傾聴の実践：ロールプレイ② 第14回：傾聴の実践：ロールプレイ③ 第15回：まとめ ※第2回以降については担当教員により若干異なる。 詳細については第1回目のオリエンテーションの際に説明する。
授 業 外 の 学 習 方 法
授業時に、随時、次の授業までにきてほしい課題を指示する。
成 績 評 価 方 法
授業中に課す課題(60%)と授業への参加態度(40%)で評価する。 授業への参加態度については、演習活動への積極性や授業中の発言の内容などから総合的に評価する。 授業への出席を重視し、欠席は厳しく減点する。
成 績 評 価 基 準
カウンセリングにおける話の聴き方の基本について説明できるか。また、それを模擬的に実践できるか。 自分自身の考え方やコミュニケーションなどの特徴について説明できるか。 考え方やコミュニケーションの仕方の多様性について考えられるか。 他者と円滑にコミュニケーションが行えるか。

テキスト、参考図書
授業時に資料を配付する。 そのほか、参考書については、授業時に随時、紹介する。
その他(受講上の注意)
授業の中で状況に応じて、自分の感じたことや考えたことについて他者に話してもらうことがある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

比較心理学 (Comparative Psychology)			担当教員	吉田 和典	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-OBO-2361	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
動物の様々な行動や認知機能(知覚、記憶、思考、推論、言語、心の理論など)を比較分析した最近のトピックスを紹介しながら、人の知性や行動の起源について概説する。
授 業 の 到 達 目 標
- 様々な認知機能(知覚、記憶、思考、推論、言語、心の理論など)について、動物と人との相違点や類似点などその特徴を進化論的に説明できる。 - 動物研究の重要性が理解できる。
授 業 の 計 画
第1回：比較心理学とは 第2回：比較心理学の研究方法 第3回：比較心理学の歴史 第4回：動物の学習過程 第5回：動物の感覚の特徴 第6回：動物の知覚過程 第7回：動物の学習について 第8回：動物の記憶能力Ⅰ 第9回：動物の記憶能力Ⅱ 第10回：動物の思考過程Ⅰ 第11回：動物の思考過程Ⅱ 第12回：動物の概念形成 第13回：動物のコミュニケーションの特徴 第14回：動物の社会的認知 第15回：動物の心の理論 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、次回の講義内容について、参考図書などの関連箇所を調べておくこと。 復習として、毎回の講義内容をノート等にまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%)、平常点(30%) (平常点は、授業への参加、受講態度等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
- 様々な認知機能(知覚、記憶、思考、推論、言語、心の理論など)について、動物と人との相違点や類似点などその特徴を進化論的に説明できるか。 - 動物研究の重要性が理解できるか。
テキスト、参考図書
テキストは使用しなくて、その都度資料を配布する。 参考図書：・「比較認知科学への招待～こころの進化学～」藤田和生著 ナカニシヤ出版 ・「心の進化～人間性の起源をもとめて～」松沢哲郎・長谷川寿一編 岩波書店

その他(受講上の注意)	
特になし	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

神経心理学 (Neural Psychology)			担当教員	森本 文人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-ABO-2362	2 単位	3 年後期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
様々な心的活動と神経系の機能との関連性について、身近な医療臨床場面で見られる症状や身近な知覚・認知の例(錯覚など)、あるいは最新の脳科学および実験心理学の知見を通して概観する。
授 業 の 到 達 目 標
脳の基礎的な構造および、局在論に基づいた心的機能と脳の関連について基礎的な知識を獲得する。高次脳機能障害として扱われる代表的な症例を理解し、それらを神経系(脳機能)の機能不全として捉え、その視点に基づいて説明できる。
授 業 の 計 画
臨床神経心理学および認知神経心理学と呼ばれる神経系と心理過程の関連を探求する分野の各種トピックについて、各回で取り上げ紹介する。 第1回：オリエンテーション 第2回：脳外観 第3回：全体論と局在論 第4回：脳神経科学研究法 脳機能測定法 第5回：神経系の構造 ニューロン 第6回：視覚神経系 第7回：聴覚神経系 第8回：半側空間無視 第9回：だまされる脳 第10回：錯覚と神経系 第11回：高次脳機能障害 第12回：認知症 第13回：失行 言語障害 第14回：記憶障害 第15回：事象関連電位を用いた認知心理学実験 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義終了後、スライドおよび板書に基づいてその内容を各自で整理しておくこと。講義で扱うトピックは日々の生活の中に溢れているため、身近な日常を通してさらなる理解を深められるように心構えしておくこと。また、脳科学および医療臨床における最新の知見は、メディアなど取り上げられることも多いため、それらにアンテナを張って、貪欲に知識を得る心構えを日常的にしておくことが望ましい。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合評価する)
成 績 評 価 基 準
大脳生理学、実験心理学および医療臨床場面での症例などを通して得られた知見である脳機能の局在性について、理解し説明することができる。高次脳機能障害の代表的な症例について、神経系における機能不全の視点から説明することができる。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特殊実験Ⅰ (Experiments in PsychologyⅠ)			担当教員	水田 敏郎、大森 慈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-OBO-2363	2 単位	3 年前期	実験		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
心理学における実験的研究の全過程について実習を行う。実験に関連した文献研究、問題設定、実験計画と準備ならびに実行、さらに分析と結果に対する考察すべてを行う。その中で、実験装置の取り扱い方や、各種刺激づくりを学生自らが体験する。
授 業 の 到 達 目 標
自ら進んで課題を設定する。実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができる。実験結果に対して理論的に考察をすることができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：心理学実験および生理心理学実験総説① 第3回：心理学実験および生理心理学実験総説② 第4回：心理学実験および生理心理学実験総説③ 第5回～14回：グループに分かれての実験実習 テーマは以下のAまたはB A. 中枢系反応を用いたヒトの心的活動の捕捉 B. 自律系反応を用いたヒトの心的活動の捕捉 ※いずれのテーマについても、おおむね第5～10回が課題設定、文献研究、実験準備。 第11回以降で予備実験ならびに本実験。同時並行で分析ならびに考察の議論を進める。 第15回：まとめ(研究発表会または研究レポートの考察の議論)
授 業 外 の 学 習 方 法
実験心理学に関する論文や卒業研究などに触れることで、課題設定の方向性や具体的な実験方法について知ることができます。
成 績 評 価 方 法
レポート(60%) 平常点(40%) (平常点は、授業の参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
自ら進んで課題を設定することができるか。実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができるか。実験結果に対して理論的に考察をすることができるか。
テキスト、参考図書
テキストは使用しないが、実験実習マニュアルを配布する。 参考図書：「新生理心理学」全3巻 宮田洋監修 北大路書房
その他(受講上の注意)
原則として、心理統計Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。少人数グループでの活動が多くなります。個人の役割が明確になるので、責任感をもって課題に取り組んでください。実験実験は長時間におよぶこともあります。授業時間以外にも各グループごとに協力してデータ整理などを行い、時間を有効に活用する必要があります。人間の生理学的メカニズムについて学習しておくことが望ましい。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特殊実験Ⅱ (Experiments in PsychologyⅡ)			担当教員	吉田 和典、森本 文人	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-OBO-2364	2 単位	3 年後期	実験		選択
＜科目区分＞ 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力 ☐ 社会・職業理解能力					

授 業 の 内 容
心理学における実験的研究の全過程について実習を行う。具体的には、人の様々な状態での生体反応の測定や動物(ラット)の様々な行動観察を通じて、実験に関連した文献研究、問題設定、実験計画と準備ならびに実行、さらに分析と結果に対する考察すべてを行う。
授 業 の 到 達 目 標
・自ら進んで課題が設定できる。 ・実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができる。 ・人の生体反応(脳波や誘発電位など)を測定・分析できる。 ・動物の様々な行動を客観的に分析できる。 ・実験結果に対して理論的に考察することができる。 ・関連文献を適切に購読できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：人での生理心理学実験総説 第3回：動物での生理心理学実験総説 第4回～14回：グループに分かれての実験実習 テーマは以下のAまたはB A. 事象関連電位を用いた人の心的活動の捕捉 B. 動物(ラット)の活動リズムと脳内機構との関連 第15回：まとめ(研究発表会または研究レポートに関する質疑応答)
授 業 外 の 学 習 方 法
実験心理学や生理心理学に関連する文献や卒業研究などを参考に、課題設定の方向性や具体的な実験方法について調べておくこと。 得られた実験データは、その都度、ノートにまとめたりパソコンなどに入力しておくこと。
成 績 評 価 方 法
実験レポート(60%)、平常点(40%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
・自ら進んで課題が設定できるか。 ・実験に必要な事項を理解し、計画を立案しそれに基づき実行することができるか。 ・人の生体反応(脳波や誘発電位など)を測定・分析できるか。 ・動物の様々な行動を客観的に分析できるか。 ・実験結果に対して理論的に考察することができるか。
テキスト、参考図書
テキストは使用しないが実験実習マニュアルを配布する。 参考図書：「新生理心理学」全3巻 宮田洋監修 北大路書房

その他(受講上の注意)

実験は長時間に及ぶこともあります。授業時間以外にも各グループごとに協力してデータ整理などを行い、時間を有効に活用する必要があります。また、人や動物の生理学的メカニズムについて学習しておくことが望ましい。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

高齢者心理学 (Psychology of Aging)			担当教員	水上 喜美子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABC-2365	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
高齢者の心理を理解するために、社会的側面や身体機能などについても知識を深め、高齢者と関わる上で必要な知識を習得することを目的とする。また、高齢期は身体的な老化やもの忘れなど自己像を喪失するだけでなく、人間関係や社会的役割などの喪失も体験する「喪失の時期」であるとも言われている。このような喪失体験に対して、どのような心理的な援助ができるのかについても考えていく。
授 業 の 到 達 目 標
・生涯発達における高齢期の位置づけと課題を理解する。 ・高齢期における加齢の変化について理解し、自分や自分の身近な人の「老い」について考えることができる。
授 業 の 計 画
講義形式ですすめる。必要に応じて視聴覚教材を用いながら、高齢期の心理的特徴と行動について学んでいく。 第1回：オリエンテーション 第2回：高齢社会とエイジズム 第3回：生涯発達と高齢期 第4回：加齢による変化① 身体機能 第5回：加齢による変化② 記憶・知能・知恵 第6回：加齢による変化③ 人格 第7回：高齢期の人間関係① 家族・きょうだい 第8回：高齢期の人間関係② 友人・近隣 第9回：高齢期の心理的問題① 死 第10回：高齢期の心理的問題② 性 第11回：高齢期の心理的問題③ うつ・不安 第12回：高齢期の心理的問題④ 認知症 第13回：高齢者に対する心理的援助① 第14回：高齢者に対する心理的援助② 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
授業の計画を参考に、次回の授業テーマについて、関連のある書籍や論文などに目を通すことが望ましい。 また、日常生活の中で、高齢者に関するニュースなどに関心を持つだけでなく、身近な高齢の方々と接する機会を大切にしたい。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%)、平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度などから総合的に判断します)
成 績 評 価 基 準
・生涯発達における高齢期の位置づけと課題を理解できたか。 ・高齢期における加齢の変化について理解し、説明できるか。 ・自分や自分の身近な人の「老い」について考えることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
その他(受講上の注意)
授業の進行状況によって、授業計画に変更を加える可能性もある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

消費者心理学 (Consumer Psychology)			担当教員	山本 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-OBC-2371	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
私たちは毎日何気なく消費行動を行っている。一方で企業は、どのようなモノやサービス、状況であれば消費行動が行われるのか研究し、戦略を練る。消費者マインドがどのような法則に従って変動するのか、企業はそれをどのように捉えようとしているのか、社会心理学や行動経済学等の視点を取り入れながら解説する。講義では消費者行動の基礎的な知識を習得するとともに、国内外における企業のマーケティング戦略をとりあげながら応用について学んでいくこととする。
授 業 の 到 達 目 標
1) 消費者心理学における基本的な概念を理解する。 2) 消費行動や意思決定について理解する。 3) 消費者リスクについて理解する。 4) 実社会における企業戦略について理解する。
授 業 の 計 画
第1回：消費者心理について 第2回：行動経済と心理学 第3回：消費者の意志決定(1) 第4回：消費者の意思決定(2) 第5回：消費者の意思決定(3) 第6回：消費者の意思決定(4) 第7回：消費者の態度(1) 第8回：消費者の態度(2) 第9回：消費者の動機 第10回：口コミと消費行動 第11回：インターネット上の消費行動 第12回：企業戦略と悪徳商法 第13回：広告と消費行動 第14回：消費ゲーム 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
講義中に紹介した問題について自主的に復習すること。 各講義後に手書きノートを作るなどすることが望ましい。
成 績 評 価 方 法
授業中に実施する小テスト、課題レポート、授業への参加態度等を総合的に判断し評価する。 【小テスト60% 課題レポート30% 授業への参加態度10%】
成 績 評 価 基 準
消費者行動についての基本的概念が理解できる。 消費者リスクについて説明できる。 実社会における企業戦略を分析できる。

テキスト、参考図書	
授業中に資料を配布する	
その他(受講上の注意)	
基本的に講義形式。より理解を深めるため、必要に応じてVTRなどの考察、実際の消費行動についての分析、グループ討議を行うことがある。その際、レポート課題の提出を求めることがある。	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

対人心理学 (Interpersonal Psychology)			担当教員	大森 慈子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABC-2372	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会動物であるヒトが生活していくうえで欠かせない人間関係における心理、すなわち、心の対人的側面について学ぶ。対人認知、対人行動、他者存在といった主要なテーマに加え、発達過程や文化的な問題まで、さまざまな先行研究や実験例を概観しながら理解を深める。
授 業 の 到 達 目 標
☒ 人間関係における心理について理解を深める ☒ 心理学の対人的な領域に関する主要な人物および成果の知識を得る ☒ 心理学の対人的分野における基本的な用語や内容の説明ができる
授 業 の 計 画
第1回：対人心理学とは 第2回：対人認知と印象形成(1) 第3回：対人認知と印象形成(2) 第4回：コミュニケーションと対人行動(1) 第5回：コミュニケーションと対人行動(2) 第6回：コミュニケーションと対人行動(3) 第7回：感情と表情(1) 第8回：感情と表情(2) 第9回：視線行動(1) 第10回：視線行動(2) 第11回：対人距離とタッチ(1) 第12回：対人距離とタッチ(2) 第13回：他者存在と自己呈示(1) 第14回：他者存在と自己呈示(2) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、次週に学ぶべき内容について関連する書籍などを読み、予備知識を得ておく 復習として、講義内容に基づいて各自が記したノートを見直し、日常的な現象にあてはめて考え、理解を深める
成 績 評 価 方 法
期末レポート(60%) コメントペーパー(20%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、質問紙の提出状況などを総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
☒ 人間関係における心理について理解しているか ☒ 心理学の対人的な領域に関する主要な人物および研究成果を知っているか ☒ 心理学の対人分野における基本的な用語や内容の説明ができるか

テキスト、参考図書
テキストは使用しない 参考図書については適宜紹介する
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

多変量解析演習 (Multivariate Statistical Analysis)			担当教員	早川 清一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-OBC-2373	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
多変量解析(因子分析、重回帰分析)を理解し、実際の調査データを統計解析ソフト(SPSS)で分析し、報告書の作成を行います。報告書作成のための調査は2回行います。1回目は既成の調査票を利用(セクハラ調査)。2回目は各自がテーマを決定し調査票を作成する(オリジナル調査)。
授 業 の 到 達 目 標
調査票を作成し、SPSSを利用して多変量解析(因子分析、重回帰分析)を行える知識を修得することを目標とする。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション「因子分析とは？」 第2回：学術論文「介護肯定感がもつ負担軽減効果」の概要と把握 第3回：学術論文「日本版セクシャル・ハラスメント可能性尺度の検討」の概要と把握 第4回：因子分析の説明1 第5回：「日本版セクシャル・ハラスメント可能性尺度の検討」の説明1(因子分析部分) 第6回：「日本版セクシャル・ハラスメント可能性尺度の検討」の説明2(因子分析部分) 第7回：重回帰分析の説明 第8回：「日本版セクシャル・ハラスメント可能性尺度の検討」の説明3(重回帰分析部分) 第9回：セクハラ調査のレポートの作成 第10回：オリジナル調査の調査票作成 第11回：オリジナル調査の調査票印刷 第12回：オリジナル調査の調査票回答、データ入力 第13回：オリジナル調査のデータ分析(多変量解析) 第14回：オリジナル調査のレポートの作成 第15回：オリジナル調査のレポートの提出
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の授業を受けた後で、eラーニングに掲載された当該部分に関連する資料を熟読し、理解を深めてください。
成 績 評 価 方 法
1回目小レポート(10%)、2回目小レポート(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(50%)による評価
成 績 評 価 基 準
SPSSの多変量解析(因子分析・重回帰分析)が理解でき、報告書が適切に作成されているか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用しない。eラーニングに授業内容に関連する論文等の資料を掲載している。また、授業で使ったパワーポイントおよび印刷資料も授業終了後に公開するので、復習に利用してください。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
受講には、2年次の「心理調査法」の単位を取得していることが必要です。授業時間以外にも、解析、レポート作成等の学習が必要になります。真に、多変量解析をマスターしたい学生のみ受講してください。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業カウンセリングⅠ (Industrial CounselingⅠ)			担当教員	久保 陽子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-AOC-2374	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☒役割把握・認識能力 ☐コミュニケーション能力 ☐計画実行能力 ☐情報収集・探索能力 ☐選択能力 ☒社会・職業理解能力 ☒課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会における産業カウンセリングの役割を学び、カウンセリングの理論と技法について学習する。特に、うつ病については、視聴覚教材の具体例を通して、身近な問題として理解を深める。
授 業 の 到 達 目 標
産業カウンセラーの役割について、実社会において位置づけ、説明することができる。また、職場におけるメンタルヘルスを理解し、特にうつ病については身近な疾患として認識し、適切な対応をすることができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：産業カウンセリングの歴史と発展 第3回：産業カウンセリングの現状と課題 第4回：産業カウンセラーの役割と活動 第5回：産業カウンセラーの活動と倫理 第6回：カウンセリングの基礎理論 第7回：カウンセリングの実践 第8回：キャリア・カウンセリング+中間レポート 第9回：パーソナリティ理論 第10回：心理アセスメント 第11回：職場におけるメンタルヘルス 第12回：職場におけるうつ病① 第13回：職場におけるうつ病② 第14回：職場における復職支援 第15回：まとめ+最終レポート
授 業 外 の 学 習 方 法
毎回、授業後に質問を受け付けます。次回授業において質問への回答を含めた講義行いますので、復習として前回の授業内容を見直しておくこと。予習としては、経済状況や家族問題など社会とも深く関わる内容なので、日々社会の動向について関心をもって臨むこと。
成 績 評 価 方 法
中間レポート(30%) + 最終レポート(30%) + 平常点(40%) (平常点は授業への出席・受講態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
産業カウンセリングの役割について説明することができるか、また、うつ病に対する知識や対応のしかたについて理解できているか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
必要に応じて授業中に資料配布する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
私語厳禁。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業カウンセリングⅡ (Industrial Counseling Ⅱ)			担当教員	吉水　ちひろ	
講義コード	単　位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-AOC-2375	2単位	3年後期	講義		選択
<科目区分>　人間学部心理学科専門科目　応用科目　産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
産業カウンセリングの実際や職場のメンタルヘルス対策について学習する。
授 業 の 到 達 目 標
産業カウンセリングの実際を理解し、カウンセラーとして、組織の中のキーパーソンとして、具体的な提案や対応ができる。職場のメンタルヘルス対策について具体的に説明ができる。
授 業 の 計 画
第1回：職場におけるメンタルヘルス対策①－産業場面での事例 第2回：職場におけるメンタルヘルス対策②－システムづくり 第3回：職場におけるメンタルヘルス対策③－ケアの進め方 第4回：家族への対応 第5回：連携とコンサルテーション 第6回：自殺の予防とその対応 第7回：メンタルヘルスに関する教育・研修 第8回：産業カウンセリングの実際①－面接相談の基本 第9回：産業カウンセリングの実際②－演習 第10回：産業カウンセリングの実際③－初回面接・アセスメント 第11回：産業カウンセリングの実際④－面接のプロセス 第12回：職場の人間関係づくり①－アサーティブネス・コミュニケーションⅠ 第13回：職場の人間関係づくり②－アサーティブネス・コミュニケーションⅡ 第14回：職場の人間関係づくり③－演習 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習としては、前期の産業カウンセリングⅠでの関連する内容や、前回の授業内容を復習しておくこと。復習としては、社会情勢、職場環境、メンタルヘルス等に関する情報に関心を持ち、授業で学んだ知識や経験に関連付けて知識を整理し理解を深めること。
成 績 評 価 方 法
中間レポート(30%)＋期末レポート(30%)＋平常点(40%) (平常点は授業の参加状況・受講態度、質問カードの提出状況などで総合的に判断します。)
成 績 評 価 基 準
産業カウンセリングの実際について理解し説明できるか。 職場のメンタルヘルス対策を理解し適切な提案が考えられるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
必要に応じて授業中に資料配布する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
特になし。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特別演習 I (Special Psychology Seminar I)			担当教員	大森 慈子、杉島 一郎、西村 則昭、 早川 清一、水田 敏郎、森 俊之、 吉田 和典、水上喜美子、山本 雅代、 片畑真由美、久保 陽子、三脇 康生、 竹村 明子、森本 文人、吉水ちひろ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2381	2 単位	3 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力				

授 業 の 内 容
卒業研究の準備段階として、学生自ら研究課題を設定することを目標にして演習を行います。テーマの設定に必要な文献や図書を精読し、発表や議論などを行います。(配属先のゼミの担当教員によって演習内容は異なります。)
授 業 の 到 達 目 標
自らの研究課題を設定する。研究課題に関連する文献などを適切に講読できる。
授 業 の 計 画
第1回～30回：各担当教員の進め方に沿って取り組んでいく
授 業 外 の 学 習 方 法
研究課題の設定のために必要と思われる、本演習以外の授業を履修する。
成 績 評 価 方 法
レポートや発表(50%) 平常点(50%) (レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。
テキスト、参考図書
担当教員から指示されます。
その他(受講上の注意)
担当教員から指示されます。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネスコミュニケーション研究 (Business Communication)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aaa-2301	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 人間関係・コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実践的なプランを構築する能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
情報通信媒体を介したバーチャルコミュニケーションが著しく拡大している今日において、ますます対面のコミュニケーション能力の重要性が問われる時代となっている。授業では、実社会において自身の個性や資質をより活かせるようにするための実践的なコミュニケーション能力の向上を狙いとする。
授 業 の 到 達 目 標
・ コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができる。 ・ 他者とのコミュニケーションが円滑に行える。
授 業 の 計 画
授業では、集団・組織におけるコミュニケーションパターンを学ぶとともに、コミュニケーション能力を高めるためのアプローチ方法について考えていく。 第1回：オリエンテーション 第2回：「はたらく」ということ 第3回：自己分析① 第4回：自己分析② 第5回：自己分析③ 第6回：コミュニケーションとは 第7回：対話、説得、異文化コミュニケーション 第8回：聞き方、話し方 第9回：会議におけるコミュニケーション 第10回：顧客対応、交渉 第11回：職場・リーダーシップのコミュニケーション 第12回：組織のコミュニケーション① 第13回：組織のコミュニケーション② 第14回：組織現場のコミュニケーションを肌で感じる 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。 また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。
成 績 評 価 方 法
レポート(40%)、課題に対する活動内容及び提出物(30%)、平常点(30%) ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断
成 績 評 価 基 準
・ コミュニケーション能力を高めるための視点や要件について説明することができるか。 ・ 他者とのコミュニケーションが円滑に行えるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキストは使用しない。参考図書は必要に応じて紹介する。

その他(受講上の注意)

前向きな姿勢での参画を望みます。
また、授業計画は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本文化論 (Japanese Culture)			担当教員	大河 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cfi-2301	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 基幹科目 社会・文化系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。 日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
近代以降に書かれた小説・詩をもとに、〈日本〉について考える。近代国家構築のプロセスや風景の発見、戦前・戦後の〈日本〉の姿、現在の〈日本〉の多様性などへの理解を通して、〈日本〉の歴史・文化を批評的に捉える眼を養う。
授 業 の 到 達 目 標
・各作品の表現・内容と文化的・社会的背景の関係が理解できる。 ・近代と現代の共通点・相違点を考え、自己の〈日本〉観を見直し、認識を深める。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：森鷗外 「普請中」 第3回：国木田独歩 「武蔵野」(1) 第4回：国木田独歩 「武蔵野」(2) 第5回：太宰治 「十二月八日」 第6回：中島敦 「マリヤン」 第7回：牛島春子 「祝という男」(1) 第8回：牛島春子 「祝という男」(2) 第9回：金鍾漢 「幼年」「辻詩 海」「合唱について」「くらいまつくす」 第10回：野坂昭如 「火垂るの墓」(1) 第11回：野坂昭如 「火垂るの墓」(2) 第12回：小島信夫 「アメリカン・スクール」(1) 第13回：小島信夫 「アメリカン・スクール」(2) 第14回：目取真俊 「水滴」 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習：授業時に配付した資料とテキストの該当部分を確認し、課題を行うこと。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)
成 績 評 価 基 準
課題：各作品の表現・内容や文化的・社会的背景等が理解できているか。 期末レポート：各自が選んだ作品とテーマについて、十分に考察し、説得力のある結論が出せているか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編『文学で考える<日本>とは何か』・双文社出版・2007年
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
授業で使用するPowerPointの資料を配付するので、気づいたこと・考えたことをノート欄に記入すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発研究a (Research of Planning and Development a)			担当教員	谷 雅徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
CO-Aaa-2302	2 単位	3 年前期	演習	選択	
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実地的なプランを構築する能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容	
ピタゴラススイッチならぬ「スタコラススイッチ」なる装置をグループワークで作る。他者とのコミュニケーションを図りながら、理屈先行ではなく、実際に手を動かし、作りながら考えることで、最初に誰も想像出来なかった装置を作り出す。簡単に言えば、考え方を実際に動かしてみようという演習になる。集中して装置製作に取り組めるように、隔週、2コマ連続の演習とする。	
授 業 の 到 達 目 標	
最初にイメージしていた通りに装置が動かなかった場合、そこに固執し、思考を停滞させたり、あるいは強引にイメージした通りに動かそうとするのではなく、その状況にあった柔軟な考え方で、全く別のアプローチが出来る能力を養う。また、他者との協力を計る為、自分の意見を押しさえつける事で、他者との関係を良好に保とうとする、ネガティブな調整能力を身につけるのではなく、自分も生かし、他人も生せる新しいポジティブな方法を見つけ、実施する事で、自分や他者の新たな可能性を発見出来る能力を養う。従って、この演習は事前に決めた計画を忠実にその通り実行するという典型的な目的遂行能力を養うのではなく、失敗を恐れず、皆の意見を取り入れ、なんでもやってみる、試してみる、という創発的な考え方が出来るようなクリエイティブ能力を養う事を目的とする。	
授 業 の 計 画	
第1回：オリエンテーション 第2回：グルーピング及びグループワーク演習1 第3回：グループワーク演習2及び「ピタゴラススイッチ」DVD鑑賞 第4回：装置設計ミーティング 第5回：装置製作① 第6回：装置製作② 第7回：装置製作③ 第8回：装置製作④ 第9回：装置製作⑤ 第10回：中間発表 第11回：装置製作⑥ 第12回：装置製作⑦ 第13回：装置製作⑧ 第14回：最終調整 第15回：装置発表	
授 業 外 の 学 習 方 法	
他者とのコミュニケーションが課題を成功させる重要なポイントになります。同じグループになった人たちと出来るだけ授業外でもコミュニケーションをとるようにして下さい。	
成 績 評 価 方 法	
発表(40%)、小レポート(30%)、平常点(30%) (平常点は、出席状況、授業への参加意欲、受講態度等を総合して判断します。)	

成 績 評 価 基 準
他者と円滑なコミュニケーションを図り、課題を成功させるように努力しているか。自分自身のグループ内での役割を把握し、行動しているか。口だけではなく、積極的に手を動かし、考えたことを実際に試してみようとしているか。 課題である装置の完成度評価は学生同士の相互評価を基準にします。
テキスト、参考図書
適宜、プリントを配布する。
その他(受講上の注意)
隔週2コマずつの授業になります。一回休むと2コマ休んだ事になるので注意して下さい。 またグループワークが中心になります。それぞれが自分の役割を把握して自主的に授業に取り組むようにして下さい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

企画開発研究 b (Research of Planning and Development b)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aaa-2311	2 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実践的なプランを構築する能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
地域の課題の抽出を元に、その解決策をチームワークにおいて企画・立案・実践・検証を行う。最終成果物を学外にアウトプットする。
授 業 の 到 達 目 標
最終成果物を実際に地域社会に発信し、評価に値するコンテンツが提供できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションと課題テーマ説明および課題導入 第2回：地域の課題についての現況と特性の明確化 第3回：地域課題の明確化および「学生発」のコンテンツ企画プランニング 第4回：プロジェクト単位による編集・企画ミーティング 第5回：テーマ別のチーム編成 第6回：チーム別企画ディスカッション 第7回：チーム単位の企画プレゼンテーション 第8回：プロジェクト単位による編集・企画ミーティング 第9回：取材、編集作業および進捗状況報告 第10回：取材、編集作業および進捗状況報告 第11回：プロジェクト単位による編集・企画ミーティング 第12回：デジタル・コンテンツの作成および制作マニュアルの作成 第13回：デジタル・コンテンツの作成および制作マニュアルの作成 第14回：デジタル・コンテンツの作成および制作マニュアルの作成 第15回：プレゼンテーション
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に対する、取材・素材収集など
成 績 評 価 方 法
課題への取り組み(50%)、最終成果物(50%)
成 績 評 価 基 準
個人やチームにおいて自分の出来ること(得意なこと)を見いだし、企画・提案に寄与できるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
使用しない
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
「デジタル・デザイン」「メディア制作a」履修生が望ましい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法Ⅱa (Communication TechniquesⅡa)			担当教員	柚谷 英紀	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2301	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
コミュニケーションの技術を高めるために、自分で考えたこと、調べたことなど様々な内容に形式を与える練習をします。 文章表現や口頭発表、電子機器を使ったプレゼンテーションなどを行います。 個人発表、グループ発表などさまざまな形があります。
授 業 の 到 達 目 標
・課題に関する自分のアイデアを説明して、他者を説得することができる。 ・道具のない口頭発表、文章表現、電子機器などの道具を用いた発表など、さまざまな様式での表現ができる。 ・オリジナルの文章やコンテンツを計画的に製作することができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 協調性と社交性 第2回：ネーミング・コピー論(1) 第3回：ネーミング・コピー論(2) 第4回：ビブリオ・バトルとは何か 第5回：ビブリオ・バトルⅠ 第6回：説得力とは何か 第7回：説得力のある表現 第8回：ビブリオ・バトルⅡ 第9回：地域文化の紹介コンテンツの制作(1) 第10回：地域文化の紹介コンテンツの制作(2) 第11回：地域文化の紹介コンテンツの制作(3) 第12回：地域文化の紹介コンテンツの制作(4) 第13回：ビブリオ・バトルⅢ 第14回：書評を書く 第15回：総括(予備)
授 業 外 の 学 習 方 法
様々な形での発表があるので、担当者は責任をもって発表の準備をする。
成 績 評 価 方 法
毎回の小レポートや発表、創作作品の提出(60パーセント)、地域紹介コンテンツとオリジナル散文(40パーセント)。
成 績 評 価 基 準
マルチメディアを用いた発表や文章による表現によって、自分の構想や意見を説得力をもって相手につたえることができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用しないが、適宜プリントを配布する。

その他(受講上の注意)

表現の上達のためには、他人から批評される機会を持つことが大切です。
学友からの批評こそが飛躍のチャンスであることを肝に銘じて下さい。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション技法Ⅱb (Communication TechniquesⅡb)			担当教員	谷 雅徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2311	2単位	3年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
この演習では、感じたり考えたりした事を即実践出来る場を作り、提供します。実際に行動する事で理論上ではなく感覚でその事を理解して貰います。具体的には様々な方法でコミュニケーションを体験してもらいます。
授 業 の 到 達 目 標
高圧的な大人達から命令され、仕方がないからやろう。では、仮に単位は取れたとしても、あまり自分にとっては良い事ではありません。あくまでも自分が主体となって、自分自身の為に、本当の意味で社会に必要なスキルを学び取って欲しい。簡単に言うと、好き嫌いに関係なく誰とでも円滑なコミュニケーションが取れるようになる能力を養う事を目的とします。
授 業 の 計 画
第1回：講座ガイダンス 「コミュニケーションってなんだろう」 第2回：コミュニケーションに関する映像を見て、技法を見つける1-1 第3回：コミュニケーションに関する映像を見て、技法を見つける1-2 第4回：コミュニケーションに関する映像を見て、技法を見つける2-1 第5回：コミュニケーションに関する映像を見て、技法を見つける2-2 第6回：コミュニケーション実践1-1 第7回：コミュニケーション実践1-2 第8回：コミュニケーション実践2-1 第9回：コミュニケーション実践2-2 第10回：コミュニケーション実践3-1 第11回：コミュニケーション実践3-2 第12回：コミュニケーション実践4-1 第13回：コミュニケーション実践4-2 第14回：教員との個別対話1-1 第15回：教員との個別対話1-2
授 業 外 の 学 習 方 法
本講義で習得した、技法を実際の社会(家族間の会話、アルバイト先等)で出来るだけ実践する努力をして下さい。
成 績 評 価 方 法
課題レポート提出(50%)小レポート(30%)平常点(20%)「平常点は、授業への参加意欲、受講態度等を総合して判断します」
成 績 評 価 基 準
自分のコミュニケーションに施ける弱点をしっかりと意識できているのか。それらを踏まえ積極的に他者とのコミュニケーションをとっているのか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
必要に応じて現場で配布します。

その他(受講上の注意)	
特になし。	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

地域メディア論 (Study of Local Media)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Abb-2301	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
東京一極集中が進行する一方で各地域は産業衰退及び人口減少により「元気がない」と言われて久しい。こうした中、メディアを活用して地域の再生を図ろうとする動きが活発だ。授業では、地域メディアの学びを通じて、コミュニティのあり方や地域の活性化について考えることのできる人材の養成を図る。
授 業 の 到 達 目 標
・地域メディアを活用した地域活性化の可能性・展望について分析することができる。 ・調査の目的と方法について説明することができる。また、調査を実施することができる。
授 業 の 計 画
授業では、地域メディアの現状を学ぶとともに、地域メディアの今後の可能性や展望について考えていく。 第1回：オリエンテーション 第2回：地域メディアとは 第3回：まちづくり・まちおこし① 第4回：まちづくり・まちおこし② 第5回：地域メディアの担い手 第6回：調査について 第7回：調査方法 第8回：地域メディアの現場を肌で感じる 第9回：メディア制作(検討) 第10回：メディア制作(ディスカッション) 第11回：メディア制作(設計) 第12回：メディア制作(作成/MS Power Point) 第13回：メディア制作(発信) 第14回：メディア制作(発信) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。 また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。
成 績 評 価 方 法
レポート(40%)、課題に対する活動内容及び提出物(30%)、平常点(30%) ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断
成 績 評 価 基 準
・地域メディアを活用した地域活性化の可能性・展望について分析することができるか。 ・調査の目的と方法について説明することができる。また、調査を実施することができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
テキストは使用しない。参考図書は必要に応じて紹介する。

その他(受講上の注意)

前向きな姿勢での参画を望みます。
また、授業計画は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア・コミュニケーション論 (Study of Media Communication)			担当教員	升田 法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2312	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
情報社会と呼ばれる今日では、様々なメディアが私たちの生活に深く入り込み、日常のコミュニケーションを通じて、社会のあり様を大きく変えている。授業では、情報が溢れかえる時代において、物事の本質を問う力、考える力、表現する力の向上を狙いとする。
授 業 の 到 達 目 標
・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができる。 ・メディアと社会の変容について分析することができる。また、自身の意見をもち考えを述べることができる。
授 業 の 計 画
授業では、メディアとコミュニケーションや社会の変容という側面から、社会の諸問題及び社会との関わりについて考察するとともに、社会と繋がっていくために必要なコミュニケーションのあり方を考えていく。 第1回：オリエンテーション 第2回：メディアの軌跡① ―電話― 第3回：メディアの軌跡② ―新聞、映画― 第4回：メディアの軌跡③ ―ラジオ、テレビ― 第5回：メディアの軌跡④ ―インターネット・PC― 第6回：メディアの軌跡⑤ ―ニューメディア― 第7回：メディア・リテラシー① ―メディアと編集― 第8回：メディア・リテラシー② ―リアルとバーチャルコミュニケーション― 第9回：メディア・リテラシー③ ―共食・言語と共感・信頼― 第10回：メディア制作(検討) 第11回：メディア制作(ディスカッション) 第12回：メディア制作(設計) 第13回：メディア制作(作成/ MS Power Point) 第14回：メディア制作(発信) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、各回授業の終わりに、次回授業に向けての予習ポイントを提示するので、あらかじめ疑問点を考えておくなどし、問題意識をもって授業に出席するようにして下さい。 また、復習として、各回授業時の板書や配付プリントを基に要点を整理・再確認するなどし、次回授業に臨んで下さい。
成 績 評 価 方 法
レポート(40%)、課題に対する活動内容及び提出物(30%)、平常点(30%) ※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断
成 績 評 価 基 準
・メディア理論に関して、その要諦と社会的意味の位置づけを説明することができるか。 ・メディアと社会の変容について分析することができるか。また、自身の意見をもち考えを述べることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。参考図書は必要に応じて紹介する。
その他(受講上の注意)
前向きな姿勢での参画を望みます。 また、授業計画は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、前後したり変更する場合があります。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア制作 a (Media Studies a)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Abb-2302	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 選択能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
デジタル・メディアを使用し、コミュニケーションとメディアに関する知識と基本的スキルを元に、各種のメディアでの表現に応用できるスキルを会得する。
授 業 の 到 達 目 標
コミュニケーション・メディアに関しての基本的な知識とスキルを用いて様々なメディアでの表現ができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションと各種メディアの特性の確認 第2回：紙メディアでの展開手法(テーマ設定、編集検討) 第3回：紙メディアでの展開手法(取材、撮影) 第4回：紙メディアでの展開手法(編集、デザインデータ制作) 第5回：紙メディアでの展開手法(アウトプット) 第6回：音メディアでの展開手法(アプリケーション操作法) 第7回：音メディアでの展開手法(テーマ設定、編集検討) 第8回：音メディアでの展開手法(取材、録音) 第9回：音メディアでの展開手法(編集とアウトプット) 第10回：映像メディアでの展開手法(アプリケーション操作法) 第11回：映像メディアでの展開手法(テーマ設定、編集検討) 第12回：映像メディアでの展開手法(取材、撮影) 第13回：映像メディアでの展開手法(編集) 第14回：映像メディアでの展開手法(編集) 第15回：映像メディアでの展開手法(アウトプット)
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報や素材の収集など
成 績 評 価 方 法
課題への取組み(50%) 課題成果(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
三つのメディア(紙、音、映像)を利用しての制作プロセスの把握と、デジタル・ツールの効果的・効率的な運用ができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
「デジタル・デザイン」受講(履修済みまたは、並行して受講)が望ましい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア制作b (Media Studies b)			担当教員	野尻 昌明	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Abb-2311	2 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☐コミュニケーション能力 ☐情報収集・探索能力 ☐社会・職業理解能力 ☐役割把握・認識能力 ☐計画実行能力 ☐選択能力 ☐課題解決能力					

授 業 の 内 容
発信したいコミュニケーションはどのメディアにふさわしいのかを検証。各メディア特性を確認しながらメディアを制作し、効果を学ぶ。最終的にデジタルメディアに集結するコミュニケーションを企画、制作する。
授 業 の 到 達 目 標
コミュニケーション・メディアに関する制作能力を高める。コミュニケーションが目的とするベクトルを把握しながら表現能力を会得する。
授 業 の 計 画
第1回：プロフェッショナルが扱う各種メディアの特性の確認 【考え方を企画書にまとめる】 第2回：コンセプトの制作実践(クライアント設定、マネジメント、ブレインストーミング、テーマ設定、編集検討) 第3回：コンセプトの制作実践(コピーライト、撮影) 【平面メディアの制作】 第4回：表現企画の制作実践(コピーライト、編集、デザインデータ制作) 第5回：表現企画の制作実践(コピーライト、アウトプット～製本～保存) 第6回：メディアの制作実践(クライアント設定、マネジメント、メディア設定、コピーライト、メディア特性の復習) 第7回：メディアの制作実践(テーマ設定、編集検討、コピーライティング～企画書によるプレゼンテーション) 【音メディアの制作】 第8回：webメディアの制作実践(映像制作>音メディア、コピーライト) 第9回：webメディアの制作実践(映像制作>音メディア、ディレクション、サウンド&音声編集とアウトプット) 第10回：webメディアの制作実践(映像制作>マネジメント、メディア設定、メディア特性の復習)※撮影準備 【映像メディアの制作】 第11回：webメディアの制作実践(映像制作>制作確認のためのブレインストーミング、テーマ設定、編集検討) 第12回：webメディアの制作実践(映像制作>企画、スケジュール設定、絵コンテ制作～初期プレゼンテーション)※撮影準備 第13回：webメディアの制作実践(コピーライト、撮影、編集～MA：サウンド&ナレーション追加) 第14回：webメディアの制作実践①(アウトプット、レビュー試写、改善点修復作業～納品、全員総評) 第15回：webメディアの制作実践②(総評) (進行状況により変更の場合あり)
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報(時事、映画、小説、雑誌、資料文献、web、テレビ、ラジオ、自分ニュース等)や素材の収集など。
成 績 評 価 方 法
企画中間プレゼンテーション(50%) 最終制作プレゼンテーション(40%) 平常点(10%)(平常点は、授業への参加状況・受講態度を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
コミュニケーション・メディアに関する制作能力を高めることができたか。 コミュニケーションが目的とするベクトルを把握しながら表現能力を会得することができたか。

テキスト、参考図書
使用しない。
その他(受講上の注意)
メディア制作a(3年前期)を履修した者に限る。原則として、チーム編成にて作業を進行する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジュアル・コミュニケーション演習 a (Practice in Visual Communication a)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Abb-2303	2 単位	3 年前期	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果（教育目標）					
テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
コミュニケーションとビジュアル・デザインに関する知識を元に、地域の情報の受発信についてその内容と表現について実践をもとに試行・研究し、対外的にアウトプットすることまでを行う。
授 業 の 到 達 目 標
コミュニケーションに関して、ビジュアル・デザインの位置づけを説明することができ、効果的かつ新たな提案ができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションとビジュアル・コミュニケーション・デザインに関する基本的概念の確認 第2回：自己を伝える(プロフィールとコンセプトメイキング) 第3回：自己を伝える(ビジュアル表現) 第4回：自己を伝える(プレゼンテーション) 第5回：他者を伝える(ヒアリングとコンセプトメイキング) 第6回：他者を伝える(ビジュアル表現) 第7回：他者を伝える(プレゼンテーション) 第8回：組織を伝える(ヒアリングとコンセプトメイキング) 第9回：組織を伝える(ビジュアル表現) 第10回：組織を伝える(プレゼンテーション) 第11回：情報を伝える(観察とニーズ) 第12回：情報を伝える(観察とシーズ) 第13回：情報を伝える(コンセプトメイキング) 第14回：情報を伝える(ビジュアル表現) 第15回：情報を伝える(プレゼンテーション)
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報や素材の収集など
成 績 評 価 方 法
課題への取り組み(50%) 課題成果(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
身の回りの環境において、コミュニケーションの成立のためのビジュアル・デザインの効果を踏まえた考察と表現ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
授業時以外においても、生活環境での現状調査を伴う。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジュアル・コミュニケーション演習b (Practice in Visual Communication b)			担当教員	金田 明彦	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Abb-2312	2 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
テキスト、画像、映像、図などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
コミュニケーションとビジュアル・デザインに関する知識を元に、地域の情報の受発信についてその内容と表現について実践をもとに試行・研究し、対外的にアウトプットまでを行う。
授 業 の 到 達 目 標
コミュニケーションに関して、ビジュアル・デザインの位置づけを説明することができ、効果的かつ新たな提案ができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションとビジュアル・コミュニケーションに関する基本的概念の確認 第2回：ビジュアル・ソースの抽出(1) 第3回：ビジュアル・ソースの抽出(2) 第4回：デジタル・データへの変換 第5回：カラーリング・バリエーション(1) 第6回：カラーリング・バリエーション(2) 第7回：テクスチャー・バリエーション(1) 第8回：テクスチャー・バリエーション(2) 第9回：シェイプ・バリエーション(1) 第10回：シェイプ・バリエーション(2) 第11回：シェイプ・バリエーション(3) 第12回：ビジュアル・ソースを元にした表現(1) 第13回：ビジュアル・ソースを元にした表現(2) 第14回：ビジュアル・ソースを元にした表現(3) 第15回：ビジュアル・ソースを元にした表現(4)
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報の収集や現況の実態調査など
成 績 評 価 方 法
課題への取組み(50%) 課題成果(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
身の回りの環境において、コミュニケーションの成立のためのビジュアル・デザインの効果を踏まえた考察と表現ができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
必要に応じて授業内で配布します。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
授業時以外においても、生活環境での現状調査を伴う。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス能力論 (Study of Business Skills)			担当教員	吉田 史朗	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aaa-2303	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ実際的なプランを構築する能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会人として求められる原則、基本的な姿勢について学習し、コミュニケーションの基礎から応用までを体得します。
授 業 の 到 達 目 標
自分自身を分析し、自分の得意領域を把握し、他者とのコミュニケーションが主体的に行えることを目指します。
授 業 の 計 画
第1回：伝える技術 第2回：「巻き込み力」がコミュニケーション力 第3回：「地球村」の時代＝今皆はグローバル時代に生きている 第4回：就職先は韓国企業？中国企業？ 第5回：自分のプロファイリングを(前期のSWOT分析を応用しよう) 第6回：得意に帆を揚げる＝得意技を自覚しブラッシュアップ 第7回：「1：2.903」ロサダ・ライン＝成功が先か幸福が先か 第8回：「3人の石切工」の話＝理想は高く、仕事は楽しく 第9回：「好奇心」旺盛に、「ネットワーク」を活かして＝成功の秘訣 第10回：「人気の歯医者さん」をプロデュースしてみよう＝ブルーオーシャンの話 第11回：お客様との関係づくりがマーケティング＝福井の企業はB to Bビジネスが多い 第12回：夢をかなえるマーケティング＝野心のあるチャレンジを期待する 第13回：自分を売り込む＝就活に学ぶマーケティングのポイント 第14回：ソフトバンク「しろ企画」＝巻き込み力の天才たち 第15回：成果＝能力×情熱×考え方＝「人生の方程式」
授 業 外 の 学 習 方 法
授業中にいろんなショートレポートを書きます。そのテーマについて、日々の生活の中で振り返って考えてください。
成 績 評 価 方 法
授業中の小レポート＝講師とのQ&A回数と質(50%)、企画演習のレポート(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
コミュニケーションの定義について説明できるか。 マーケティングの手法を使って基礎的な企画ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
オリジナルのマーケティングテキスト(プリント)を準備する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
授業中の私語(友達との会話など)、スマートフォンは禁止します。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス能力研究 (Research of Business Skills)			担当教員	吉田 史朗	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aaa-2312	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
マーケティング力を磨くことを目標にしています。自分の得意技を見出し、それを強みとして伝えるための研究をします。
授 業 の 到 達 目 標
・ビジネススキルとしてのマーケティングの「4つのp」を説明できる。 ・「SWOT分析」「ポジショニング」を活用できる。
授 業 の 計 画
人脈作りはこの教室から 第1回：エントリーシートを完成しよう① 第2回：社会人として必要な習慣 第3回：マーケティングということ。「モノ」から「コト」へ＝欲しいモノからやりたいコトへ 第4回：マーケティングの基本を学ぼう＝4つのP 第5回：コーラを1000円で売る方法を考えよう 第6回：ポッキーが売れている理由はなに？＝お客様は誰だ？ 第7回：自分を知ろう＝SWOT分析 自分の強み弱み、チャンス、不安？ 第8回：自分の位置を知ろう＝ポジショニング 第9回：化粧品ってどこを狙って企画するの？ 第10回：「掃除ロボット」はなぜ売れるのか？ 第11回：値段を決める＝コストと価格 第12回：エントリーシートを完成しよう② 第13回：知ってもらふ手段を考えよう＝コミュニケーション戦略 第14回：デザインについて考えよう＝デザインはコミュニケーションだ 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
授業中にいろんなショートレポートを書きます。そのテーマについて、日々の生活の中で振り返って考えてください。
成 績 評 価 方 法
授業中の小レポート(50%)、自己SWOT分析の完成(30%)、平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
マーケティングスキルを使って、自分のSWOTを分析できるか。 マーケティングの要素を説明することができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
オリジナルのマーケティングテキスト(プリント)を準備する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
授業中の私語(友達との会話など)、スマートフォンは禁止します。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語学研究Ⅱ（談話分析） （English LinguisticsⅡ）			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2402	2 単位	3年前期・4年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果（教育目標）					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
英語における談話分析を学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
英語の発話を談話分析的手法を用いて理解する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：歴史的背景 第3回：談話と構造（1） 第4回：談話と構造（2） 第5回：談話と構造（3） 第6回：談話と社会的行動（1） 第7回：談話と社会的行動（2） 第8回：談話と社会的行動（3） 第9回：談話と文法（1） 第10回：談話と文法（2） 第11回：談話と文法（3） 第12回：談話と語彙（1） 第13回：談話と語彙（2） 第14回：談話と語彙（3） 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
期末レポート（50％） 授業内レポート（30％） 平常点（20％） （平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）
成 績 評 価 基 準
英語の発話を、談話分析的手法で分析することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。
そ の 他（受 講 上 の 注 意）
遅刻3回で欠席1回とみなす。必ず英和辞書（電子辞書可）を持参すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語文章表現法 a (Essay Writing a)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2301	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
書くプロセスを重視したコミュニケーション・ライティングにより、メッセージを効果的にわかりやすく読み手に伝えるライティングの力を養成する。
授 業 の 到 達 目 標
1. Process writing の方法を理解し、英文を書く際に用いることができる。 2. パラグラフの構成を理解し、それを踏まえて英文を書くことができる。 3. パラグラフの展開の方法を理解し、それを活用して英文を書くことができる。 4. 記述パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。 5. プロセスパラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。 6. 意見パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。
授 業 の 計 画
第1回：Introduction: Process Writing ① 第2回：Introduction: Process Writing ② 第3回：Pre-Writing: Getting Ready to Write ① 第4回：Pre-Writing: Getting Ready to Write ② 第5回：The Structure of a Paragraph ① 第6回：The Structure of a Paragraph ② 第7回：The Development of a Paragraph ① 第8回：The Development of a Paragraph ② 第9回：Descriptive and Process Paragraphs ① 第10回：Descriptive and Process Paragraphs ② 第11回：Descriptive and Process Paragraphs ③ 第12回：Opinion Paragraphs ① 第13回：Opinion Paragraphs ② 第14回：Opinion Paragraphs ③ 第15回：Consolidation 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
テキストの予習・復習に加えて、与えられた課題について作文を書く。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、課題(25%)、平常点(25%) (平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。)
成 績 評 価 基 準
1. Process writing の方法を理解し、英文を書く際に用いることができるか。 2. パラグラフの構成を理解し、それを踏まえて英文を書くことができるか。 3. パラグラフの展開の方法を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。 4. 記述パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。 5. プロセスパラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。 6. 意見パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。

テキスト、参考図書	
『Writing Essays』 Zemach、D. E. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE 2011 他に随時プリントを使う。	
その他(受講上の注意)	
なるべく多く英文を書いて、書くことに対する抵抗が少なくなるよう努力してもらいたい。主体的な学習を期待する。	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

英語文章表現法 b (Essay Writing b)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2311	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
書くプロセスを重視したコミュニケーション・ライティングにより、メッセージを効果的にわかりやすく読み手に伝えるライティングの力を養成する。
授 業 の 到 達 目 標
1. 比較・対比パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。 2. 問題・解決パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。 3. エッセイの構成を理解し、それを活用して英文を書くことができる。 4. アウトラインの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができる。 5. 効果的なイントロダクション・コンクルージョンの書き方を理解し、それを活用して英文を書くことができる。 6. 文章の統一性やまとまりに留意して、英文を書くことができる。
授 業 の 計 画
第1回：Comparison / Contrast Paragraphs ① 第2回：Comparison / Contrast Paragraphs ② 第3回：Problem / Solution Paragraphs ① 第4回：Problem / Solution Paragraphs ② 第5回：The Structure of an Essay ① 第6回：The Structure of an Essay ② 第7回：Outlining an Essay ① 第8回：Outlining an Essay ② 第9回：Introductions and Conclusions ① 第10回：Introductions and Conclusions ② 第11回：Unity and Coherence ① 第12回：Unity and Coherence ② 第13回：Essays for Examinations ① 第14回：Essays for Examinations ② 第15回：Consolidation 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
テキストの予習・復習に加えて、与えられた課題について作文を書く。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、課題(25%)、平常点(25%) (平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。)
成 績 評 価 基 準
1. 比較・対比パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。 2. 問題・解決パラグラフの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。 3. エッセイの構成を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。 4. アウトラインの書き方を理解し、それを用いて英文を書くことができるか。 5. 効果的なイントロダクション・コンクルージョンの書き方を理解し、それを活用して英文を書くことができるか。 6. 統一性やまとまりのある英文を書くことができるか。

テキスト、参考図書	
『Writing Essays』 Zemach、D. E. MACMILLAN LANGUAGEHOUSE 2011 他に随時プリントを使う。	
その他(受講上の注意)	
英文を書くことに習熟し、主張が明確で論理的なエッセイをスムーズに書くことができるように努力してもらいたい。主体的な学習を期待する。	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

メディア英語研究 a (Media English a)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2302	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
メディアに関わる英語とその文化的背景を学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
メディアに関わる英語に関し、その言語特徴および文化的背景を理解する能力を養成する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：観光① 第3回：観光② 第4回：観光③ 第5回：社会① 第6回：社会② 第7回：社会③ 第8回：文化① 第9回：文化② 第10回：文化③ 第11回：文化④ 第12回：環境① 第13回：環境② 第14回：環境③ 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 授業内レポート(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
メディア英語の言語的特徴と文化背景に基づき、英文を分析的に理解することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
村尾純子他 『世界を読むメディア英語入門2015』 金星堂 2015年 また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

メディア英語研究 b (Media English b)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2311	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		□計画実行能力		□選択能力	
				■課題解決能力	
■社会・職業理解能力					

授 業 の 内 容
メディアに関わる英語とその文化的背景を学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
メディアに関わる英語に関し、その言語特徴および文化的背景を理解する能力を養成する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：科学技術① 第3回：科学技術② 第4回：科学技術③ 第5回：健康① 第6回：健康② 第7回：健康③ 第8回：経済① 第9回：経済② 第10回：経済③ 第11回：医療① 第12回：医療② 第13回：医療③ 第14回：医療④ 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 授業内レポート(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
メディア英語の言語的特徴と文化背景に基づき、英文を分析的に理解することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
村尾純子他 『世界を読むメディア英語入門2015』 金星堂 2015年 また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英米文学研究 a (English and American Literature a)			担当教員	原口 治	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2312	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容	
イギリス文学の主要「四分野(=小説、詩、演劇、批評)」の著名な作品の解説及び原典(抜粋)を精読することで、英語文学の鑑賞を行なう。また、作品の政治、文化的背景等の知識を深めることで、イギリス文学および文化研究の基礎的能力を育成する。なお、DVDやVTR等の視聴覚、音声教材等も出来る限り利用する。	
授 業 の 到 達 目 標	
文学作品における登場人物等の研究を通して、自他の個性の多様性を理解する。また、この理解力をもとに、多様な集団・組織の中でのコミュニケーション能力の育成を目指す。さらに、課題作成や定期試験により、様々な情報の収集および選択能力の養成を図る。以上のプロセスにより、一定の自己成長を果たしていくことを本講義の到達目標とする。	
授 業 の 計 画	
第1回：テキストP1 ～P343	本講義のガイダンス、図書館ガイダンス
第2回：テキストP217～P240	イギリス小説(I)・『プライドと偏見』、『オリヴァー・テュイスト』
第3回：テキストP217～P240、P270～P292	イギリス小説(II)・『嵐が丘』、『ダロウェイ夫人』
第4回：テキストP270～P292	イギリス小説(III)・『ハワーズ・エンド』、『虹』
第5回：テキストP95～P138	イギリス小説(IV)・『フランケンシュタイン』
第6回：テキストP196～P216	イギリス詩(I)・ワーズワス、キーツ(ロマン派詩人)
第7回：テキストP140～P160	イギリス詩(II)・ブレイク、ロバート・バーンズ
第8回：テキストP2～P29	イギリス詩(III)・『ベオウルフ』、『カンタベリー物語』 『サー・ガウエンと円卓の騎士』
第9回：テキストP117～P127	イギリス詩(IV)・ミルトン
第10回：テキストP293～P308	イギリス演劇(I)・『ピグマリオン』、『マイフェアレディ』
第11回：テキストP60～P73	イギリス演劇(II)・演劇創世記
第12回：テキストP293～P308	イギリス演劇(III)・『真面目が肝心』
第13回：テキストP258～P292	イギリス批評(I)・E. M. フォースター
第14回：テキストP258～P269	イギリス批評(II)・マッシュューアーノルド
第15回：テキストP1～P343	本講義のまとめ、定期試験準備
第16回：定期試験	
授 業 外 の 学 習 方 法	
予習として、上記の「授業の計画」で指定したテキストの範囲を読み、あらかじめ疑問点等を各自のノートにまとめておくこと。また、復習としては、課題作成と定期試験準備に重点を置いて、各自のノートに講義内容をまとめておくこと。	
成 績 評 価 方 法	
定期試験 70% 課題(講義内容に関する任意のテーマについてのもの、計2回) 30(1課題につき15%) % 以上を総合的に評価し、60%以上の評価の場合に限り、本講義履修単位の習得とする。	
成 績 評 価 基 準	
文学作品における登場人物等の研究を通して、自他の個性の多様性を理解しているか。 イギリス文学に関する様々な情報の収集および選択能力の向上が図れているか。	

テキスト、参考図書
秋篠 憲一(他)・『イギリス文学への招待』・朝日出版社・1999年
その他(受講上の注意)
特になし
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語コミュニケーションa (English Communication a)			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2303	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 □計画実行能力		■情報収集・探索能力 □選択能力	
				■社会・職業理解能力 □課題解決能力	

授 業 の 内 容
This course covers a detailed, step-by-step study of the process of debate. Students are systematically guided in acquiring the necessary skills for actively offering opinions and strongly defending them, as well as questioning the validity of others' opinions. Furthermore, to excel at debate students must have good listening skills. Listening exercises are emphasized throughout the course.
授 業 の 到 達 目 標
Debate techniques are indispensable in daily life as a tool for thinking about an issue from all sides. Also, learning to debate gives students the ability to question all sources of information. Participants will be able to firmly state an opinion, give a logical reason for the opinion, and a valid support for that opinion.
授 業 の 計 画
第1回：Agreeing or Disagreeing with an Opinion 第2回：Debate Resolutions 第3回：Reasons for Opinions 第4回：Brainstorming & Question-Making 第5回：Supporting Your Opinion 第6回：Organizing Your Opinion 第7回：Refuting Opinions 第8回：“Tennis Debates” & Critiquing 第9回：Challenging Supports 第10回：Organizing Refutations 第11回：Mini-Debates & Editorial Response 第12回：Flowing a Model Debate 第13回：Flowing a Complete Debate 第14回：Holding a Debate 第15回：Holding a Debate 第16回：Examination
授 業 外 の 学 習 方 法
Students will be required to search newspapers, magazines, the Internet and other sources for information to support their opinions and refute those of others.
成 績 評 価 方 法
Outside-class Assignments - 25% In-class Debates(第14回 & 第15回 Classes) - 25% Examination(Listening & Writing) - 50%
成 績 評 価 基 準
Students will be evaluated not only on the reasons and supports for their own opinions, but also on the refutations of others' opinions, reasons, and supports.
テ キ ス ト、参 考 図 書
Discover Debate: Basic Skills for Supporting and Refuting Opinions. Michael Lubetsky, Charles LeBeau, and David Harrington. Language Solutions Incorporated. 2000

その他(受講上の注意)
Students must be fully prepared and proactively participate in each in-class activity.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語コミュニケーション b (English Communication b)			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2313	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 □計画実行能力		■情報収集・探索能力 □課題解決能力	
		■選択能力		■社会・職業理解能力	

授 業 の 内 容
Students will read stories concerning dilemmas in intercultural communication, analyze what happened, and brainstorm possible explanations for the misunderstandings. They must do further reading on the cultural background of the stories and determine explanations for the misunderstandings.
授 業 の 到 達 目 標
The goal of the course is to offer students reading practice, discussion and speaking practice, and an opportunity to employ critical-thinking as a means for improving intercultural communication problem-solving skills.
授 業 の 計 画
第1回：Introductions 第2回：American Tourists ① Reading 第3回：American Tourists ② Discussion 第4回：The Homestay ① Reading 第5回：The Homestay ② Discussion 第6回：Software and Bosses ① Reading 第7回：Software and Bosses ② Discussion 第8回：Helping Out ① Reading 第9回：Helping Out ② Discussion 第10回：Making Copies ① Reading 第11回：Making Copies ② Discussion 第12回：The New Student ① Reading 第13回：The New Student ② Discussion 第14回：The Report ① Reading 第15回：The Report ② Discussion 第16回：Examination
授 業 外 の 学 習 方 法
After each reading section, students will be tasked with researching information via newspapers, magazines and the Internet on intercultural topics in order to participate in discussions and report on those discussions in writing and orally.
成 績 評 価 方 法
Oral Reports - 30% Written Reports - 30% Examination (Written) - 40%
成 績 評 価 基 準
Students will be evaluated on their analyses of the intercultural dilemmas and their creativity in approaching solutions to those dilemmas.
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
Culture Riddles: America, Joseph Shaules and Haruko Katsura, Nan' un-do Publishing Co., Ltd. 1998, ISBN 4-523-17324-9

その他(受講上の注意)
Much outside-class preparation is necessary in order to fully participate in this course.
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語聴解技法a (English Listening Comprehension Techniques a)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2302	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		□計画実行能力		■選択能力	
				■社会・職業理解能力	
				■課題解決能力	

授 業 の 内 容
高度な英語の聴解力を養成する
授 業 の 到 達 目 標
B B C (英国放送協会)のニュースを題材にし、高度な英語の聴解力・表現力を養成する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：Unit 1 The Queen : Patron of the Arts ① 第3回：Unit 1 The Queen : Patron of the Arts ② 第4回：Unit 2 Finding British Food in France ① 第5回：Unit 2 Finding British Food in France ② 第6回：Unit 3 Facebook and Free Speech ① 第7回：Unit 3 Facebook and Free Speech ② 第8回：実践演習1 第9回：Unit 4 The Stonehenge Site ① 第10回：Unit 4 The Stonehenge Site ② 第11回：Unit 5 Muslim Dress ① 第12回：Unit 5 Muslim Dress ② 第13回：Unit 6 The Death of the Book? ① 第14回：Unit 6 The Death of the Book? ② 第15回：実践演習 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 授業内レポート(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
英語のニュースを聴いて理解できるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
Dominic Cheetham他 『BBC Seeing the World through the News 1』 金星堂 2014年 また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
遅刻3回で欠席1回とみなす。必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語聴解技法 b (English Listening Comprehension Techniques b)			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2312	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
高度な英語の聴解力を養成する
授 業 の 到 達 目 標
B B C (英国放送協会)のニュースを題材にし、高度な英語の聴解力・表現力を養成する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：Unit 7 A Day Trip to Derry? ① 第3回：Unit 7 A Day Trip to Derry? ② 第4回：Unit 8 Bringing Back the Bees ① 第5回：Unit 8 Bringing Back the Bees ② 第6回：Unit 9 At Home with Dementia ① 第7回：Unit 9 At Home with Dementia ② 第8回：実践演習 3 第9回：Unit 10 At Home with Dementia ① 第10回：Unit 10 At Home with Dementia ② 第11回：Unit 11 The Price of Parking ① 第12回：Unit 11 The Price of Parking ② 第13回：Unit 12 Space : Next Step or Dead End? ① 第14回：Unit 13 Space : Next Step or Dead End? ② 第15回：実践演習 4 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ辞書で未知語を調べておく。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 授業内レポート(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
英語のニュースを聴いて理解できるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
Dominic Cheetham他 『BBC Seeing the World through the News 1』 金星堂 2014年 また、必要に応じて適宜ハンドアウトを配布する
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス英語研究a (Studies on Business English a)			担当教員	澤崎 敏文	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2313	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☐役割把握・認識能力 ☒コミュニケーション能力 ☐計画実行能力 ☒情報収集・探索能力 ☐選択能力 ☐社会・職業理解能力 ☒課題解決能力					

授 業 の 内 容
ペア、グループなど多様な学習形態を取り入れて、ビジネス(経営、SWOT分析、Positioning分析、Marketing Mix等のマーケティング)について英語で学ぶスタイルをとる。LMSやインターネット等を授業教材として活用し、学生主体の活動を中心に行う。
授 業 の 到 達 目 標
英語でビジネスケースを読み、それらを経営的な観点から分析することができる。 分析した課題に対応した解決策を考え、自分の考えを英語で表現することができる。 職務上でのやり取り・議論を英語でスムーズに行うことができる。
授 業 の 計 画
第1回：Introduction / Business English 第2回：Business Case 1: Analysis and discussion 第3回：Business Case 1: SWOT Analysis 第4回：Business Case 1: Short presentation 第5回：Business Case 2: Analysis and discussion 第6回：Business Case 2: Segmentation and Targeting / Positioning 第7回：Business Case 2: Short presentation 第8回：Review / Skills for Negotiation 第9回：Business Case 3: Analysis and discussion 第10回：Business Case 3: Marketing Mix / Four Ps. 第11回：Business Case 3: Short presentation 第12回：Review / Skills for Negotiation 第13回：Discussion for Business Presentation 第14回：Business Presentation 1 第15回：Business Presentation 2
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、教科書の各回の内容を事前に読み、内容を理解したうえで、分析シート(Analysis)を提出。授業終了後は各自の意見等を提案要旨(Executive Summary)としてまとめ、LMSにて提出してもらいます。単語、熟語等の学習は予習、復習として実施すること。
成 績 評 価 方 法
授業への積極的参加および授業毎の発表内容20% レポートおよび小テスト等の課題 50% 最終発表30%
成 績 評 価 基 準
英語でのビジネス事例を読み、ビジネス的な考え方に基づいた自分の意見を英語で表現できるか。
テキスト、参考図書
『Moving ahead in the 21st Century: 12 Forward-looking Companies』 松柏社 2009年
その他(受講上の注意)
授業進行・授業外学習にLMS(Learning Management System)を利用します。課題の提出、教員への連絡は随時このLMSにて行う予定です。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語プレゼンテーション技法a (Presentation Skills a)			担当教員	フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2303	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		■計画実行能力		■選択能力	
				■社会・職業理解能力	
				■課題解決能力	

授 業 の 内 容
効果的な英語でのプレゼンテーションの仕方を、Physical Message(ジェスチャー、声の調子、アイコンタクトなどで伝えるメッセージ)、Visual Message(パワーポイントなど視覚的なものを用いて伝えるメッセージ)に焦点を当て、学習する。講義と共に、講義で理解したことを様々なペア・グループでのプレゼンテーションで実践練習する。
授 業 の 到 達 目 標
1. 効果的なPhysical Messageの伝え方について理解し、実践できる。また、自己及び他者の評価ができる。 2. 効果的なVisual Messageの伝え方について理解し、実践できる。また、自己及び他者の評価ができる。
授 業 の 計 画
第1回：Introduction 第2回：The Three Messages in a Speech 第3回：Posture and Eye Contact 第4回：Informative Speech 1 第5回：Informative Speech 2 第6回：Gestures 第7回：Layout Speech 1 第8回：Layout Speech 2 第9回：Voice Inflection 第10回：Demonstration Speech 1 第11回：Demonstration Speech 2 第12回：The Visual Message 1 第13回：The Visual Message 2 第14回：The Visual Message 3 第15回：Performance of Country Comparison Speech
授 業 外 の 学 習 方 法
1. 毎回、次回の授業のスピーチ課題が出るので、授業で学んだ技法を実践できるように準備してくる。 2. TEDtalksなど、インターネットなどで優秀なプレゼンテーションが配信されているので、毎日視聴し、スキルアップの参考とする。
成 績 評 価 方 法
授業での言語活動20%、プレゼンテーション40%、レポート40%
成 績 評 価 基 準
1. 効果的なPhysical Messageの伝え方について理解し、実践できるか。また、自己及び他者の評価ができるか。 2. 効果的なVisual Messageの伝え方について理解し、実践できるか。また、自己及び他者の評価ができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
David Harrington & Charles LeBeau著(2009) "Speaking of Speech(New Edition)" MACMILLAN.
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
英和辞書、和英辞書、英英辞書を必ず持参する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語プレゼンテーション技法b (Presentation Skills b)			担当教員	フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2314	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
効果的な英語でのプレゼンテーションの仕方を、前期に学習したPhysical Message(ジェスチャー、声の調子、アイコンタクトなどで伝えるメッセージ)、Visual Message(パワーポイントなど視覚的なものを用いて伝えるメッセージ)を利用しながら、さらにStory Message(言葉で伝えるメッセージ)に焦点を当て、学習する。講義と共に、講義で理解したことを様々なペア・グループでのプレゼンテーションで実践練習する。
授 業 の 到 達 目 標
1. 効果的なPhysical Message、Visual Messageの伝え方について更に理解を深め、実践し、自己及び他者の評価ができる。 2. 効果的なStory Messageの伝え方について理解し、実践し、自己及び他者の評価ができる。 3. 良いチーム・ワークでプレゼンテーションを計画し、組み立て、発表できる。自己及び他者の評価ができる。
授 業 の 計 画
第1回：Introduction 第2回：The Story Message 第3回：The Introduction 1 第4回：The Introduction 2 第5回：The Body 1 第6回：The Body 2 第7回：The Body 3 第8回：The Conclusion 1 第9回：The Conclusion 2 第10回：The Conclusion 3 第11回：Putting it all together 第12回：Preparing a group presentation 1 第13回：Preparing a group presentation 2 第14回：Preparing a group presentation 3 第15回：Performance of group presentations
授 業 外 の 学 習 方 法
1. 毎回、次回の授業のスピーチ課題が出るので、授業で学んだ技法を実践できるように準備してくる。 2. TEDtalksなど、インターネットなどで優秀なプレゼンテーションが配信されているので、毎日視聴し、スキルアップの参考とする。
成 績 評 価 方 法
授業での言語活動20%、プレゼンテーション40%、レポート40%
成 績 評 価 基 準
1. 効果的なPhysical Message、Visual Messageの伝え方について更に理解を深め、実践し、自己及び他者の評価ができるか。 2. 効果的なStory Messageの伝え方について理解し、実践し、自己及び他者の評価ができるか。 3. 良いチーム・ワークでプレゼンテーションを計画し、組み立て、発表できる。自己及び他者の評価ができるか。

テキスト、参考図書

David Harrington & Charles LeBeau著(2009) "Speaking of Speech(New Edition)." MACMILLAN.
 Carmine Gallo 著(2010) "The Presentation Secrets of Steve jobs - How to Be Insanely Great in Front of Any Audience." McGraw Hill.

その他(受講上の注意)

英和辞書、和英辞書、英英辞書を必ず持参する。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会研究Ⅱ (Studies of Contemporary Society Ⅱ)			担当教員	島岡 哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cgg-2301	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
本講義のサブタイトルは、「現代社会への文化人類学的アプローチ」とする。グローバルな視点から、日本社会およびそれぞれの地域社会をとらえる力を身につける。現代社会は、近代の社会編成の上に成り立っている。そこで、西洋近代の学としてのルーツを持っていた文化人類学の理論枠組みを用いて、世界史的(※西洋中心主義の歴史ではない)視点から物事を把握できる力の養成と、論理的思考のトレーニングを行う。
授 業 の 到 達 目 標
グローバルな視点から、あるいはグローバルな視点から、日本社会や地域社会を把握し、捉えなおす力を身につける。
授 業 の 計 画
第1回：文化人類学とは？―「フクイ・シルク」から「西洋近代の相対化」まで 第2回：本講義を理解するために①―西洋近代の二元論の確認 第3回：本講義を理解するために②―基礎的な世界史の確認 第4回：「グローバル」＝「ユニバーサル」？―帝国から国民国家へ、そしてボーダレス化へ 第5回：環境問題における「グローバル」とは？―身体の復権 第6回：ハイブリッド・モダニティ―言説が持つ権力性への「抵抗」と「流用」 第7回：「ディアスポラ」という「共同体」―西洋近代との「交渉」 第8回：「サバルタン」とは誰か？―語りえない位置におかれた人々 第9回：英語帝国主義と格差社会 第10回：情報戦争―監視社会の成立 第11回：情報都市と世界都市―9・11テロ以前／以後の世界 第12回：マクドナルド化する社会？―グローバル化とトランスナショナルカルチャーをめぐって 第13回：ヘリテージ・ツーリズムの現在―記憶の選択と忘却、コメモレーション 第14回：オリエンタリズム 第15回：オクシデンタリズム 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
文化人類学と社会学は近接領域であるため、本講義でも、1年次から学んできた社会学の概念が多く出てくる。その際には、1～2年次の講義で学んだ概念の理解を踏まえて、もう1段階ハイレベルでの理論的理解を確実にできるようにすること。 また、未翻訳の英語論文を使用することもあるため、適宜図書館にて、辞典類にあたりながら理解の促進につとめること。
成 績 評 価 方 法
リアクション・ペーパー記載内容(出欠も兼ねる)が30%、定期試験70%。
成 績 評 価 基 準
グローバルな視点から現代社会を理解する力、人類学が対象としてきたマイノリティの人たちへの理解や、西洋近代社会が作り出した権力編成への理解などを、評価の基準とする。
テキスト、参考図書
特定のテキストは指定しない。文化人類学の文献の中から、日本語で読めて入手可能なもの、入門書の文体でわかりやすいものを、講義中に紹介する。

その他(受講上の注意)
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床社会学 (Sociology of Social Problems)			担当教員	宝月 誠	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cgg-2311	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■役割把握・認識能力					
□コミュニケーション能力 □計画実行能力					
□情報収集・探索能力 □選択能力					
□社会・職業理解能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
臨床社会学の実践として社会の「逸脱現象」をとりあげ、それへの「社会的対応」のあり方を考える。
授 業 の 到 達 目 標
「逸脱」が何かを説明できる。「逸脱」と「社会」との関係を分析できる。逸脱への対応の仕方を構想できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション：講義の方針と計画 第2回：デュルケームの視点：臨床社会学の原点 第3回：逸脱の研究の4つの視点：構造論・相互作用論・行為者論・状況論 第4回：現代社会と逸脱の事例：企業逸脱の世界 第5回：構造論(1)：社会解体論 第6回：構造論(2)：アノミー論 第7回：相互作用論(1)：差異的接触論 第8回：相互作用論(2)：ラベリング論 第9回：逸脱への社会的対応の事例：精神病の世界 第10回：行為者論(1)：合理的選択論 第11回：行為者論(2)：セルフ・コントロール論 第12回：状況論：日常生活論 第13回：逸脱の事例：詐欺とギャングの世界 第14回：逸脱への社会的対応の事例：刑罰と矯正施設の世界 第15回：まとめ：逸脱への社会的対応の在り方
授 業 外 の 学 習 方 法
配布資料を丁寧に読み、紹介する文献にできるだけ目を通すこと。授業での議論のために、疑問や論点を考えておくこと。
成 績 評 価 方 法
最終レポート(50%) 小レポート(25%) 平常点(25%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
逸脱現象が何であるのかを的確に理解し、逸脱への対処方法を広い視点で構想できるのか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
積極的に各自の意見を表明して、授業に主体的に参加してほしい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

データ解析法 b (Quantitative Data Analysis b)			担当教員	白川 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Chh-2301	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 選択能力 ☒ 課題解決能力 ☐ 社会・職業理解能力					

授 業 の 内 容
社会学的データ分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する。分散分析や単回帰分析そして重回帰分析を中心に、その考え方と実際の使い方を学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・データのタイプに応じて、適切な分析手法を選択できるようになる。 ・多変量解析の考え方を理解できるようになる。 ・多変量解析の基礎的な手法を、コンピューターソフトを用いて実践出来るようになる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：復習(1) — 尺度水準、記述統計量 第3回：復習(2) — 検定の考え方 第4回：多変量解析の考え方：変数をコントロールするとは、どういうことか？ 第5回：分散分析の考え方 第6回：分散分析の演習 第7回：単回帰分析の考え方 第8回：単回帰分析の演習 第9回：重回帰分析の考え方 第10回：重回帰分析の演習(1) — 独立変数が2つの場合 第11回：重回帰分析の演習(2) — 独立変数が3つ以上の場合 第12回：カテゴリカル・データの間の連関を探る 第13回：3重クロス集計表の考え方 第14回：3重クロス集計表の演習 第15回：外的基準を置かない多変量解析 — 因子分析、主成分分析 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の授業において配付された資料を見直した上で、次の回の授業に臨むようにして下さい。講義で学んだことを実際の、社会現象の説明に応用できるか考えるようにして下さい。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 平常点(50%) (平常点は提出物・小テストを総合的に判断します)
成 績 評 価 基 準
・データのタイプに応じて、適切な分析手法を選択できているか。 ・多変量解析の考え方を理解できているか。 ・多変量解析の手法を、コンピューターソフトを用いて実践出来ているか。
テキスト、参考図書
一定のテキストは使用しない。参考文献は授業中に指示を与える。
その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査演習a (Practice in Social Research a)			担当教員	島岡 哉、山中 千恵、白川 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cgh-2302	2 単位	3 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。 社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 計画実行能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☒ 選択能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施(調査票の配布・回収)、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成までを通して行く。
授 業 の 到 達 目 標
・社会調査の企画と実施ができるようになる。 ・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できるようになる。 ・統計ソフトを使いこなせるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーションとグループ決定 第2回：グループごとにテーマについての話し合い(1) 第3回：グループごとにテーマについての話し合い(2) 第4回：テーマについてのグループ発表 第5回：テーマについての文献レビュー 第6回：仮説構成(1) 第7回：仮説構成(2) 第8回：仮説の発表 第9回：質問作成(1) 第10回：質問作成(2) 第11回：質問案発表 第12回：質問紙の作成(1) 第13回：質問紙の作成(2) 第14回：実査準備(1) 第15回：実査
授 業 外 の 学 習 方 法
グループでの議論などによって浮き彫りとなった課題について、文献研究などを自発的かつ積極的に行う必要があるし、他のグループに比べて進捗が遅い場合は、授業時間以外にも作業などをしてもらう。
成 績 評 価 方 法
平常点(100%) (平常点はグループでの活動への積極性や発表の評価等を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
・社会調査の企画と実施ができるようになっているか。 ・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できているか。 ・統計ソフトを使いこなせているか。
テキスト、参考図書
授業開始時に各教員から指示がある。

その他(受講上の注意)

この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、標準カリキュラムのG科目に対応するものである。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会調査演習 b (Practice in Social Research b)			担当教員	島岡 哉、山中 千恵、白川 俊之	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cgh-2311	2 単位	3 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。 社会調査の知識と技術の修得によって、データを自分で収集する力、データを分析する力、分析結果を効果的に伝える力を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☒ 役割把握・認識能力 ☒ 計画実行能力 ☒ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施(調査票の配布・回収)、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成までを通して行っていく。
授 業 の 到 達 目 標
・社会調査の企画と実施ができるようになる。 ・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できるようになる。 ・統計ソフトを使いこなせるようになる。 ・自分の主張を論理的に報告書にまとめられるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：実査① 第2回：実査② 第3回：コーディング・データ整理① 第4回：コーディング・データ整理② 第5回：コーディング・データ整理③ 第6回：データ分析① 第7回：データ分析② 第8回：データ分析③ 第9回：データ分析④ 第10回：データ分析⑤ 第11回：報告書作成① 第12回：報告書作成② 第13回：報告書作成③ 第14回：報告書作成④ 第15回：報告書作成⑤
授 業 外 の 学 習 方 法
実査を成功させるために必要な準備について、授業時間以外にも作業などをしてもらう。データ分析においても、限られた授業時間で効率的に分析を進められるように、授業前に入念な準備を行ってもらう。
成 績 評 価 方 法
平常点(100%) (平常点はグループでの活動への積極性や発表や報告書の評価等を総合して判断します)
成 績 評 価 基 準
・社会調査の企画と実施ができるようになっているか。 ・仮説を立て、それを適切な手順と方法で検証できているか。 ・統計ソフトを使いこなせているか。 ・自分の主張を論理的に報告書にまとめられているか。

テキスト、参考図書
授業開始時に各教員から指示がある。
その他(受講上の注意)
この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する、「社会調査士」資格に必要な、標準カリキュラムのG科目に対応するものである。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代文化研究 (Contemporary Cultural Studies)			担当教員	山中 千恵	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cff-2302	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
ポピュラー文化ミュージアムとは何かを考える。
授 業 の 到 達 目 標
文化社会学、観光社会学、ミュージアム研究の理論を理解し、実際に自分でも調査をおこなってみることで知識を活用できるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：ガイダンス 第2回：ポピュラー文化とは何か 第3回：ポピュラー文化ミュージアムを研究する上での課題 第4回：フィールドワークの方法 第5回：フィールドワークの報告の仕方 第6回：ポピュラー文化ミュージアムの事例 1 第7回：ポピュラー文化ミュージアムの事例 2 第8回：ポピュラー文化ミュージアムの事例 3 第9回：ポピュラー文化ミュージアムの事例 4 第10回：ポピュラー文化ミュージアムの事例 5 第11回：ポピュラー文化ミュージアムの事例 6 第12回：受講生によるフィールドレポート 1 第13回：受講生によるフィールドレポート 2 第14回：受講生によるフィールドレポート 3 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購入する。その上で、自分でも調査をすすめ、それを報告できるよう自主的にまとめていく。
成 績 評 価 方 法
授業内の報告(40%)、レポート(40%)、平常点(20%)で評価する。 平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
文化社会学、観光社会学、ミュージアム研究の理論を理解し、実際に自分でも調査をおこなってみることで知識を活用できるようになったか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキスト 石田佐恵子、村田麻里子、山中千恵2013『ポピュラー文化ミュージアム』ミネルバ書房 参考書 伊藤遊、谷川竜一、村田麻里子、山中千恵2014『マンガミュージアムに行こう』岩波書店 他は授業内で適宜指示。

その他(受講上の注意)

私語等、講義を妨害する学生には退出してもらおう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

比較文化研究 (Comparative Culture Studies)			担当教員	山中 千恵	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cgg-2312	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
大韓民国及び東アジアにおける社会・文化的グローバル化について考える。
授 業 の 到 達 目 標
大韓民国の社会・文化背景について理解したうえで、東アジアにおけるグローバル化という現象を分析することができる。
授 業 の 計 画
第1回：韓国の概要 第2回：韓国の歴史を知る(1) 第3回：韓国の歴史を知る(2) 第4回：韓国の歴史を知る(3) 第5回：韓国の歴史を知る(4) 第6回：「集合的記憶」としての歴史 第7回：韓国の文化政策(1) 第8回：韓国の文化政策(2) 第9回：韓国の文化政策(3) 第10回：韓国の文化政策(4) 第11回：グローバル化とはなにか 第12回：グローバル化する日韓社会(1) 第13回：グローバル化する日韓社会(2) 第14回：グローバル化する日韓社会(3) 第15回：まとめと達成度の確認
授 業 外 の 学 習 方 法
講義後ノートを見直して復習し、講義内でしめされた専門用語を図書館等で調べ、取り上げられた文献を購読するようにしてください。その上で、講義で説明したことを、自分の身の回りの出来事に当てはめて考え、理解を深めるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
小レポート(80%)と平常点(20%)による。 平常点は授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
大韓民国の社会・文化背景について理解したうえで、東アジアにおけるグローバル化という現象を分析することができるか。
テキスト、参考図書
適宜指示
その他(受講上の注意)
私語等、講義を妨害する学生には退出してもらう。単位を与えない場合もある。受講生の理解度によって授業計画には変更を加える可能性がある。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

言語心理学 (Psycholinguistics)			担当教員	杉島 一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cgi-2311	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。 日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
人間がコミュニケーションや思考を行う際に用いる言語について心理学的観点から考察する。われわれは、コミュニケーションや記録のためだけでなく、思考や発想などさまざまな目的で言語を用いている。この言語というものを人間はどのように用い、受け取っているのだろうか。情報伝達という観点から、言語の利用を科学的にとらえていく。そのため、計量的・数量的に言葉をとらえたり、「理解」という観点から、あるいは記憶のしやすさといった認知的側面から言語を考えていく。この授業では、過去の知見を知識として得るだけではなく、さまざまな研究例や方法論を手掛かりに、現在のわれわれをとりまく言語環境について考えていく。
授 業 の 到 達 目 標
・情報伝達という観点から言語について理解することができる。 ・計量的・数量的に言葉をとらえる方法を身につけることができる。 ・理解や記憶のしやすさといった認知的側面から言語をとらえることができる。 ・さまざまな研究例や方法論をもとに、われわれをとりまく言語環境について考えることができる。
授 業 の 計 画
第1回：ことばとは何か？ 第2回：「わかりやすさ」を考える 第3回：言語の有契性・恣意性 第4回：言語と記憶 第5回：言語処理とワーキングメモリ1 第6回：言語処理とワーキングメモリ2 第7回：言語と思考 第8回：言葉の習得(母語の獲得) 第9回：言葉の習得(第2言語習得) 第10回：言語理解 第11回：「意味」とは何か 第12回：意味理解のメカニズム 第13回：言外の意味 第14回：ことばが失われた場合 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。
成 績 評 価 方 法
ブリーフレポート(20%)、定期試験(80%)
成 績 評 価 基 準
・情報伝達という観点から言語について説明することができるか。 ・計量的・数量的に言葉をとらえる方法を説明することができるか。 ・理解や記憶のしやすさといった認知的側面から言語をとらえることができるか。 ・さまざまな研究例や方法論をもとに、われわれをとりまく言語環境について考えることができるか。

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
その他(受講上の注意)
授業には積極的態で参加し、ブリーフレポートに指示されたことや自分の考えを書くようにしてください。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅰa (Special Seminar in CommunicationⅠa)			担当教員	金田明彦、紺渡弘幸、MLスプリチャル、 八木秀夫、大河晴美、加藤優子、島岡哉、 矢橋知枝、山中千恵、升田法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Zzz-2301	2単位	3年前期	演習		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		■計画実行能力		■選択能力	
				■社会・職業理解能力	
				■課題解決能力	

授 業 の 内 容
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、専門的な知識を深める。
授 業 の 到 達 目 標
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むことができるだけの専門的な知識をつける。
授 業 の 計 画
概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマを考慮した指導に従って取り組む。 4～5月 演習のテーマについて基礎的知識を確認するための研究・実践 6～8月 演習のテーマについて専門的知識を深めるための研究・実践
授 業 外 の 学 習 方 法
担当の教員から適宜指示があります。
成 績 評 価 方 法
平常点(100%) 平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。
成 績 評 価 基 準
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むことができるだけの専門的な知識をつけられているか。
テキスト、参考図書
必要に応じて指示する。
その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習 I b (Special Seminar in Communication I b)			担当教員	金田明彦、紺渡弘幸、MLスプリチャル、 八木秀夫、大河晴美、加藤優子、島岡哉、 矢橋知枝、山中千恵、升田法継	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Zzz-2311	2 単位	3 年後期	演習		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		■計画実行能力		■選択能力	
				■社会・職業理解能力	
				■課題解決能力	

授 業 の 内 容
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、専門的な知識を深めるなかで、受講生自身の研究・実践テーマの方向性を定める。
授 業 の 到 達 目 標
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むテーマを大まかに決定し、更に専門的に理解する。
授 業 の 計 画
概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマを考慮した指導に従って取り組む。 9～11月 演習のテーマについて専門的知識を深めるための研究・実践 12～2月 受講生自身のテーマについて基礎的に理解をするための研究・実践
授 業 外 の 学 習 方 法
担当の教員から適宜指示があります。
成 績 評 価 方 法
平常点(100%) 平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。
成 績 評 価 基 準
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むテーマを大まかに決定し、更に専門的に理解できているか。
テキスト、参考図書
担当教員から適宜指示されます。
その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

海外語学研修 (Language Study Abroad)			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1249	4 単位	2 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 外国語科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実証的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □役割把握・認識能力		■コミュニケーション能力 ■計画実行能力		■情報収集・探索能力 ■選択能力	
				■社会・職業理解能力 □課題解決能力	

授 業 の 内 容
本プログラムは、カリフォルニア州立大学フラトン校における「仁愛大学海外語学研修(8週間プログラム)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に8週間の短期留学を実施する。フラトン校見学、フラトン校語学学校American Language Program(ALP)における語学研修、現地学生との交流、観光などの企画実施を含み、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
120時間以上の集中的な英語研修と約8週間のアメリカでの生活体験を通し、総合的な英語力(読む力・聞く力・話す力・書く力)を向上させることを目的とする。
授 業 の 計 画
第1回：全体説明会 第2回：面接 第3回：現地学校への申込み 第4回：宿泊申込み 第5回：持ち物に関する注意 第6回：ビザの取得 第7回：渡航手続き 第8回：アメリカでの生活における注意 第9回：入国・税関手続き 第10回：プログラム経験者との打ち合わせ 第11回：現地にて研修 第12回：反省会 第13回：単位認定の為の申請 第14回：事後報告発表会 第15回：レポート提出 第16回：次年度出発予定学生のための発表
授 業 外 の 学 習 方 法
準備期間においては、渡航に必要なビザの手続きを教員のサポートの元学生自ら行うこと。渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。
成 績 評 価 方 法
事前ガイダンスへの取り組み(25%)、現地評価(50%)、事後のプレゼンテーションや課題レポートなど(25%)を総合評価する。
成 績 評 価 基 準
学外における自主的な活動や体験をとおして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。 学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。 ※フラトン校から発行される成績表も評価に含まれる。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
ALPより指示がある。

その他（受講上の注意）

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(ボランティア) (Fieldwork Practice (Volunteer))			担当教員	金田 明彦・谷 雅徳	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1164	2単位	1年～4年	演習		選択
＜科目区分＞ 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力■コミュニケーション能力■情報収集・探索能力■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力■計画実行能力■選択能力■課題解決能力					

授 業 の 内 容
本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。担当教員や活動支援団体による説明会への参加をもとに受講の意思を明らかにし、プログラムへの参加とする。
授 業 の 到 達 目 標
それぞれが今後学ぶ、または学んでいることの社会的意義を見いだすことができる。学生間はもとより地域社会で仕事や生活をしている社会人とのコミュニケーションが円滑に行える。
授 業 の 計 画
地域社会からのニーズを元にプログラムを立てるため、その解決すべき課題を元に授業計画を設定する。 4～7月 事前ガイダンスの実施と計画の提示 8～9月 現地にて研修 10～11月 事後報告として、レポート・プレゼンテーション等の実施
授 業 外 の 学 習 方 法
課題に関連する情報の収集
成 績 評 価 方 法
プログラムへの取組み(50%) レポート(20%) プレゼンテーション(30%)
成 績 評 価 基 準
課題について、的確な視点を持ち、その解決に向けて自身の考察による提案ができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
使用しない。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスなどを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。 ※個人参加のボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験等も対象とする場合があるので、受講希望者は、事前に科目担当者へ問い合わせること。 ※単位認定については、参加するボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションのプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習(国際交流) (Fieldwork Practice(International Exchange))			担当教員	ML スプリチャル	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
HS-1165	2 単位	1 年～ 4 年	演習		選択
<科目区分> 人間学部学部共通科目 修学基礎・キャリア形成科目					
求める学習成果(教育目標)					
建学の精神に基づく人間性の涵養、学部教育の基盤として必要な学芸と実際的な知識の修得および大学生としての基礎的能力を養う。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■ 自他の理解能力 ■ コミュニケーション能力 ■ 情報収集・探索能力 ■ 社会・職業理解能力 □ 役割把握・認識能力 ■ 計画実行能力 □ 選択能力 □ 課題解決能力					

授 業 の 内 容
〔授業の形態・授業の計画〕 本プログラムは、原則として「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」の参加者を受講者として実施する。受講者への事前授業を10回程度行い、夏期休暇中に2週間の短期留学を実施する。語学学習を中心に、現地学校や日系企業の訪問、観光などの研修を実施し、以後の学修・研究のための動機付けを得ることを目指す。
授 業 の 到 達 目 標
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得する。本科目では、原則として、「仁愛大学海外短期研修プログラム(2週間)」への参画体験演習を行い、以後の学修・研究のための動機付けを得ること、また優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。
授 業 の 計 画
4～8月 事前ガイダンスの実施と計画の立案・決定 9月 現地にて研修 10～11月 事後報告として、反省会・発表会の実施 1月下旬～3月中旬 次年度出発予定学生のための発表会等を行う。
授 業 外 の 学 習 方 法
準備期間においては、渡航先の国の文化や基本的情報について学ぶこと。さらに、英語教育センター等で英会話の練習を積むこと。
成 績 評 価 方 法
事前ガイダンスへの取り組み(25%)、現地評価(50%)、事後のプレゼンテーションや課題レポートなど(25%)を総合評価する。
成 績 評 価 基 準
学外における自主的な活動や体験をととして、通常の講義や演習で得られない視点や考察点を体得できたか。学修・研究のための動機付けを得て、優れた社会人となるための自己認識を深めることができたか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
ALPより指示がある。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
仁愛大学海外短期研修の最小催行人数は6名とする。よって受講生が少ない場合、非開講とすることがある。本科目の履修登録については、担当教員等が行うガイダンスと、本プログラムの参加をもって履修登録とするため、通常の履修登録手続きを要しない。 ※個人参加の海外語学研修および国内における外国人との国際交流などの企画体験等も対象とする場合があるので、事前(海外語学研修は渡航の2ヶ月前)に担当教員または英語教育センターに問い合わせること。また、個人で参加する海外語学研修の期間については、夏期休暇期間または春期休暇期間とし、単位認定時期については、夏期休暇期間の場合は当該年度の後期に、春期休暇期間の場合は翌年度の前期に単位認定する。 ※単位認定については、参加する海外語学研修・国際交流等のプログラム終了後、担当教員より課される課題等を全て提出し、単位認定するにあたり適当であると認めた場合のみとする。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学校臨床心理学 (Clinical Psychology in Schools)			担当教員	廣澤 愛子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
PS-ABO-2456	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 臨床系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
学校現場で生じている問題のうち、臨床心理学的支援が有効に働く課題について、その実態と支援の在り方を学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
学校現場における有効な臨床心理学的支援を、他者と議論し、情報を収集し、自ら主体的に考えることができる。
授 業 の 計 画
第1回：臨床心理学とは ―理論的背景― 第2回：臨床心理学とは ―グループワークを通して― 第3回：学校における臨床心理学的支援の実際その1 ―特別支援教育に係わる支援の在り方― 第4回：特別支援教育に係わる支援についてのグループディスカッション 第5回：グループごとのプレゼンテーション① 第6回：学校における臨床心理学的支援の実際その2 ―いじめに係わる支援の在り方― 第7回：いじめについてのグループディスカッション 第8回：グループごとのプレゼンテーション② 第8回：学校における臨床心理学的支援の実際その3 ―保護者支援について― 第9回：保護者支援についてのグループディスカッション 第10回：グループごとのプレゼンテーション③ 第11回：学校現場でも活用できる心理技法の紹介 ―体験実習を通して― 第12回：心理技法の実際 ―その使い方と有効性― 第13回：心理技法についてのグループディスカッション 第14回：グループごとのプレゼンテーション④ 第15回：総括
授 業 外 の 学 習 方 法
講義を受けた後で、当該部分の配布資料を見直し、次時の授業に臨んでください。授業の積み重ねの中で、自分なりの考えや観点を生成していくことを心がけてください。
成 績 評 価 方 法
小レポート(40%)+ディスカッション(30%)+プレゼンテーション(30%)
成 績 評 価 基 準
他者と議論し、的確に情報を収集し、それらを踏まえて主体的に考え、課題解決に導くことができているか。さらに、その解決策を他者に分かりやすく提示することができるか。
テキスト、参考図書
テキストは使用せず、適宜、授業の中で紹介するか、講師がレジュメを配布する。
その他(受講上の注意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

障害者心理学 (Psychology of the Disabled)			担当教員	水田 敏郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-ABC-2466	2 単位	4 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 行動・支援系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
感覚障害や知的障害、肢体不自由など様々な障害の概念について解説する。また、特に最も発生率の高い知的障害について分類や障害メカニズムについて解説し、心理的な特徴とその支援の方法について述べる。
授 業 の 到 達 目 標
障害の概念、定義について理解することができる。様々な障害について特定の基準をもとに分類することができる。知的障害の心理的な諸特徴と支援の方法について理解することができる。
授 業 の 計 画
第1回：ガイダンス 第2回：障害の概要と定義 第3回：知的障害のアセスメント① 第4回：知的障害のアセスメント② 第5回：感覚の発達と障害 第6回：知覚の発達と障害① 第7回：知覚の発達と障害② 第8回：学習の発達と障害 第9回：言語の発達と障害① 第10回：言語の発達と障害② 第11回：運動の発達と障害① 第12回：運動の発達と障害② 第13回：知的障害以外の発達障害 第14回：障害と支援 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、問題意識をもって授業に臨んでください。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況、質問用紙の提出状況などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
障害の概念、定義について説明することができるか。様々な障害について特定の基準をもとに分類することができるか。知的障害の心理的な諸特徴と支援の方法について説明することができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
講義資料は適宜配布する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会福祉概論 (Survey of Social Welfare)			担当教員	元村 妙子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分	
PS-ABC-2476	2 単位	4 年前期	講義	選択	
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 産業・社会系					
求める学習成果(教育目標)					
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐自他の理解能力 ☐役割把握・認識能力 ☐コミュニケーション能力 ☐計画実行能力 ☒情報収集・探索能力 ☐選択能力 ☒社会・職業理解能力 ☐課題解決能力					

授 業 の 内 容
社会保障および、社会福祉とは何かについて考える。現代社会において、福祉は、医療・教育とともに、私たちのよりよい生活に必要な分野である。その福祉の理念やあゆみ、実践と政策の連関など仕組みと方法を解説し、基礎的な理解を深める。
授 業 の 到 達 目 標
ソーシャルワーク実践と福祉政策の関連性を理解することができる。 社会保障の基礎的な枠組みを理解することができる。 社会福祉の専門職と対象者観について理解を深める。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 福祉とはその語源を探る、学習の仕方の説明等 第2回：社会福祉の援助と専門職 第3回：福祉の視点 他者を援助するとは 第4回：社会福祉の援助と専門技術(1) 第5回：社会福祉の援助と専門技術(2) 第6回：事例から考える児童・家庭福祉 第7回：要保護児童の自立支援 第8回：分野ごとの相談機関と施設 第9回：障がい者の自立支援 第10回：高齢者に対する制度と施設・サービス 第11回：社会福祉のあゆみ 東洋と西洋 第12回：社会保障の形成と現代社会 第13回：日本の社会保障(1) 年金・労働保険 第14回：日本の社会保障(2) 介護保険・公的扶助・社会手当 第15回：日本における公的扶助制度とその運用
授 業 外 の 学 習 方 法
日々変化する社会福祉の政策、社会保険の政策動向に関心を向けて、新聞メディア等に注目しておく。 講義で配布するプリントや適宜紹介する参考文献をよみ、福祉とは何かについて、自身の理解を深めること。
成 績 評 価 方 法
レポート試験(60%) 小レポート(40%)
成 績 評 価 基 準
社会福祉および社会保障の理念と政策・実践の連関を理解することができるか。 ソーシャルワーク実践と福祉政策の関連性を理解することができるか。 社会保障の基礎的な枠組みを理解することができるか。 社会福祉の専門職と対象者観について理解を深めるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
山縣文治・岡田忠克編著『よくわかる社会福祉』(第10版)(ミネルヴァ書房)2014年

その他(受講上の注意)
授業の進行順が変更になることもある。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理学特別演習Ⅱ (Special Psychology SeminarⅡ)			担当教員	大森 慈子、杉島 一郎、西村 則昭、 早川 清一、水田 敏郎、森 俊之、 吉田 和典、森本 文人、水上喜美子、 山本 雅代、片畑真由美、久保 陽子、 竹村 明子、吉水ちひろ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2482	4 単位	4 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力				

授 業 の 内 容
卒業研究の計画・実行段階として、心理学特別演習Ⅰで学生自らが設定した課題の解決にむけて、それらを遂行するために考えられる様々なアプローチ方法を立案します。さらに、それらの中から実行が妥当かつ可能なものを選択・吟味していきます。その際に、必要な文献や図書を精読し、発表や議論などを行います。(担当教員によって演習内容は異なります。)
授 業 の 到 達 目 標
自ら設けた研究課題に向けて、研究のアプローチ方法を吟味し選択する能力を身につける。研究を実施できる。研究課題に関連する文献などを適切に講読できる。
授 業 の 計 画
第1回～30回：各担当教員の進め方に沿って取り組んでいく
授 業 外 の 学 習 方 法
特別演習Ⅰ同様、各受講生の課題解決に向けて必要と思われる本演習以外の授業を履修し、または以前に受講した授業で関連のある内容について全般的に復習する。
成 績 評 価 方 法
レポートや発表(50%) 平常点(50%) (レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
自ら設けた研究課題に向けて、研究のアプローチ方法を立案し選択する能力を身につけることができたか。研究を実施できたか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できたか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
担当教員から指示されます。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
担当教員から指示されます。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	大森 慈子、杉島 一郎、西村 則昭、 早川 清一、水田 敏郎、森 俊之、 吉田 和典、森本 文人、水上喜美子、 山本 雅代、片畑真由美、久保 陽子、 竹村 明子、吉水ちひろ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
PS-ABC-2483	6 単位	4 年通年	演習	必修
<科目区分> 人間学部心理学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究				
求める学習成果(教育目標)				
教育、福祉、医療現場での心理臨床の理論と実践のしかたを習得する。 人の心や行動を科学的に分析する方法や支援する方法を習得する。 組織や集団における行動の原理を理解し、実社会における人間関係の心理について学ぶ。				
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)				
☐ 自他の理解能力 ☐ コミュニケーション能力 ☐ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☐ 課題解決能力				

授 業 の 内 容
心理学特別演習Ⅰ・Ⅱを通して学生自らが設定した研究テーマや計画をもとに、研究を進めて卒業論文に仕上げます。
授 業 の 到 達 目 標
心理学研究として適切な課題の設定を行う。妥当な研究の方法を選択する能力を身につける。結果の分析能力とそれらに対して考察する力を身につけ、レポート(論文)としてまとめ発表することができる。
授 業 の 計 画
担当教員の指導に従って取り組んでいきますが、おおむね以下のようなスケジュールになります。 4～5月 課題・研究計画の立案と決定 6～8月 研究の実行 9～10月 結果の分析 11～12月 考察や論文のまとめ 1月下旬～2月上旬 卒業研究発表会 ※卒業研究発表会に関しては全学生が同じスケジュールで行われますが、それまでのスケジュールは配属先のゼミにより異なることがあります。
授 業 外 の 学 習 方 法
担当の教員から適宜指示されます。
成 績 評 価 方 法
論文(50%) 平常点(40%) 発表(10%) (平常点は卒業研究と発表への参加・取り組み状況や、取り組む態度などを総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
心理学研究として適切な課題が設定されているか。妥当な研究の方法を選択する能力が身についているか。結果の分析能力とそれらに対して考察する力を身につけ、レポート(論文)としてまとめ発表することができるか。
テキスト、参考図書
担当教員から指示されます。
その他(受講上の注意)
心理学の様々な専門分野から自らがテーマや方法を決めて研究を進めます。4年間の集大成ともいえる研究となります。全力で取り組んでください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

デザイン運用論 (Design Production and Management)			担当教員	二口 誠一郎	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Aab-2401	2単位	4年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 企画・表現系					
求める学習成果(教育目標)					
柔軟な発想力と企画力を身につけるとともに、企画した内容を実行するための、有効かつ实际的なプランを構築する能力を育成する。 テキスト、画像、映像、図、音響、などの素材の特性を活かし、マルチメディアを媒介としたコンテンツ作成能力や表現力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 ■計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
ブランディング・プロデュース 「思考と技術」 様々な商品やサービスが氾濫する市場において、競合する製品やサービスとの差別化を明確にするマーケティング戦略は極めて重要な技術や考え方です。本講座では4年生を対象に、卒業後あらゆる職場でプロとして活躍するために必要な課題解決思考の整理方法やアイデア具現化などを身近なテーマに基づき検証します。
授 業 の 到 達 目 標
現在の日本、そして世界は急激な構造変化の時代の渦中にあります。この時代を生き残るには「変化をチャンス」と捉えられる思考をもたねばなりません。自らが変化の兆しを見つけ、その変化を活かすための考え方や技術を身近な事例を通じて学びます。
授 業 の 計 画
第1回：講座ガイダンス 「ブランディングとプロデュース概論」 第2回：セルフ・プレゼンテーション1 第3回：セルフ・プレゼンテーション2 第4回：大学のブランド戦略を考える1 第5回：大学のブランド戦略を考える2 第6回：会社のブランド戦略を考える(企業研究)1 第7回：会社のブランド戦略を考える(企業研究)2 第8回：商品のブランド戦略を考える1 第9回：商品のブランド戦略を考える2 第10回：地域のブランド戦略を考える1 第11回：地域のブランド戦略を考える2 第12回：ライフプランニング1 第13回：ライフプランニング2 第14回：ライフプランニング3 第15回：ブランディング戦略総括
授 業 外 の 学 習 方 法
本講座では受講者自身が各講座のテーマに沿った課題や変化の発見に対し、自らの意見や考えを述べるのが基本です。インターネット検索による安易な情報に頼らず、受講前に講義テーマに対する自分自身の考えを整理して事業に臨んで下さい。
成 績 評 価 方 法
小レポート&テーマ別プレゼンテーション(70%)→「セルフ」「大学」「会社」「商品」「地域」「ライフプラン」の6テーマ 平常点(30%)→授業への取組みと理解度(各講座時のテーマに対する事前調査、自己分析力を質問形式で確認)

成 績 評 価 基 準
【小レポート&プレゼン評価】 ・テーマに関する独自の視点や意見を反映させているか否か(独自思考力) ・プレゼン資料として客観的なデータや資料にもとづく課題分析できているか(情報分析力) ・独自の考えやアイデア構想力が反映できているか(アイデア・発想力) ・自らの考えや意見を情報機器を使って分かり易く伝えることが出来ているか(表現力・デザイン力) 【平常点評価】 ・社会人として自立できる意欲を持ち、熱意を持って講義に参加しているか(発言数とその内容)
テキスト、参考図書
必要に応じてレジュメを配布する。
その他(受講上の注意)
自己資質を高める意欲、就職後のキャリアアップに挑戦する気概と熱意のある学生の参加を期待します。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語学研究Ⅱ（談話分析） （English LinguisticsⅡ）			担当教員	矢橋 知枝	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2402	2単位	3年前期・4年 前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果（教育目標）					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
英語における談話分析を学ぶ
授 業 の 到 達 目 標
英語の発話を談話分析的手法を用いて理解する。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：歴史的背景 第3回：談話と構造(1) 第4回：談話と構造(2) 第5回：談話と構造(3) 第6回：談話と社会的行動(1) 第7回：談話と社会的行動(2) 第8回：談話と社会的行動(3) 第9回：談話と文法(1) 第10回：談話と文法(2) 第11回：談話と文法(3) 第12回：談話と語彙(1) 第13回：談話と語彙(2) 第14回：談話と語彙(3) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、各回に関連する資料を読み、あらかじめ疑問点を考えておくこと。また復習としては授業時の板書やハンドアウトに基づいて、各自のノートに授業内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%) 授業内レポート(30%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)
成 績 評 価 基 準
英語の発話を、談話分析的手法で分析することができるか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは使用せず、適宜ハンドアウトを配布する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
遅刻3回で欠席1回とみなす。必ず英和辞書(電子辞書可)を持参すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英米文学研究 b (English and American Literature b)			担当教員	原口 治	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bdd-2401	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
言語としての英語について、深い知識を身につけるとともに、異文化理解能力を高め、国際感覚豊かな人材の育成を目指す。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
イギリス文学史上最も著名な作家と言っても過言ではない、ウィリアム・シェイクスピアの作品の原典(抜粋)を味読することで、英語文学の鑑賞を行なう。また、作品の政治、文化的背景等の知識を深めることで、イギリス文学および文化研究の基礎的能力を育成する。なお、DVDやVTR等の視聴覚、音声教材等も出来る限り利用する。
授 業 の 到 達 目 標
文学作品における登場人物等の研究を通して、自他の個性の多様性を理解する。また、この理解力をもとに、多様な集団・組織の中でのコミュニケーション能力の育成を目指す。さらに、課題作成や定期試験により、様々な情報の収集および選択能力の養成を図る。以上のプロセスにより、一定の自己成長を果たしていくことを本講義の到達目標とする。
授 業 の 計 画
第1回：テキストP 3～P 174 本講義のガイダンス、図書館ガイダンス 第2回：テキストP 22～P 23・P 24～P 25・P 74～P 75 『ロミオとジュリエット』 第3回：テキストP 14～P 16 『お気に召すまま』 第4回：テキストP 40～P 41 『マクベス』 第5回：テキストP 54～P 61 『ジュリアス・シーザー』 第6回：テキストP 78～P 82・P 62～P 65 『ハムレット』 第7回：テキストP 102～P 103 『オセロ』 第8回：テキストP 32～P 33・P 72～P 73 『ヴェニスの商人』 第9回：テキストP 22～P 23・P 34～37 『恋の骨折り損』、『ヘンリー 4 世第 1 部』 第10回：テキストP 44～P 47 『ヘンリー 5 世』 第11回：テキストP 92～P 93 『十二夜』 第12回：テキストP 66～P 69・P 82～P 83 『リヤ王』 第13回：テキストP 114～P 115・P 118～P 119 『ソネット集』 第14回：テキストP 168～P 171 『あらし』、『夏の夜の夢』 第15回：テキストP 3～P 174 本講義のまとめ、定期試験準備 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として、上記の「授業の計画」で指定したテキストの範囲を読み、あらかじめ疑問点等を各自のノートにまとめておくこと。また、復習としては、課題作成と定期試験準備に重点を置いて、各自のノートに講義内容をまとめておくこと。
成 績 評 価 方 法
定期試験 70% 課題(講義内容に関する任意のテーマについてのもの、計 2 回) 30(1 課題につき15%) % 以上を総合的に評価し、60%以上の評価の場合に限り、本講義履修単位の習得とする。
成 績 評 価 基 準
文学作品における登場人物等の研究を通して、自他の個性の多様性を理解しているか。 イギリス文学に関する様々な情報の収集および選択能力の向上が図れているか。

テキスト、参考図書
荒井 良雄(他)・『シェイクスピア名セリフ集』 朝日出版社 2013年
その他(受講上の注意)
特になし
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

ビジネス英語研究 b (Studies on Business English b)			担当教員	澤崎 敏文	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bcc-2401	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 英語コミュニケーション系					
求める学習成果(教育目標)					
英語でのプレゼンテーション力やディスカッション力を高め、メッセージをグローバルに発信できるコミュニケーション能力を育成する。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
☐ 自他の理解能力 ☒ コミュニケーション能力 ☒ 情報収集・探索能力 ☐ 社会・職業理解能力 ☐ 役割把握・認識能力 ☐ 計画実行能力 ☐ 選択能力 ☒ 課題解決能力					

授 業 の 内 容	
ペア、グループなど多様な学習形態を取り入れて、ビジネス(経営、SWOT分析、Positioning分析、Marketing Mix等のマーケティング)について英語で学ぶスタイルをとる。LMSやインターネット等を授業教材として活用し、学生主体の活動を中心に行う。	
授 業 の 到 達 目 標	
英語でビジネスケースを読み、それらを経営的な観点から分析することができる。 分析した課題に対応した解決策を考え、自分の考えを英語で表現することができる。 職務上でのやり取り・議論を英語でスムーズに行うことができる。	
授 業 の 計 画	
第1回：Introduction / Business English 第2回：Business Case 1: Analysis and discussion 第3回：Business Case 1: Value Chain / Basic of Accounting 第4回：Business Case 1: Short presentation 第5回：Business Case 2: Analysis and discussion 第6回：Business Case 2: Marketing Mix and Product Portfolio Management 第7回：Business Case 2: Short presentation 第8回：Review / Skills for Negotiation 第9回：Business Case 3: Analysis and discussion 第10回：Business Case 3: Strategy for a new emerging market 第11回：Business Case 3: Short presentation 第12回：Review / Skills for Negotiation 第13回：Discussion for Business Presentation 第14回：Business Presentation 1 第15回：Business Presentation 2	
授 業 外 の 学 習 方 法	
予習として、教科書の各回の内容を事前に読み、内容を理解したうえで、分析シート(Analysis)を提出。授業終了後は各自の意見等を提案要旨(Executive Summary)としてまとめ、LMSにて提出してもらいます。単語、熟語等の学習は予習、復習として実施すること。	
成 績 評 価 方 法	
授業への積極的参加および授業毎の発表内容20% レポートおよび小テスト等の課題 50% 最終発表30%	
成 績 評 価 基 準	
英語でのビジネス事例を読み、ビジネス的な考え方に基づいた自分の意見を英語で表現できるか。	
テ キ ス ト、参 考 図 書	
『Moving ahead in the 21st Century: 12 Forward-looking Companies』 松柏社 2009年	
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)	
授業進行・授業外学習にLMS(Learning Management System)を利用します。課題の提出、教員への連絡は随時このLMSにて行う予定です。	

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会特論Ⅰ (Advanced Lectures in SociologyⅠ)			担当教員	八木 秀夫	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cgg-2401	2 単位	4 年前期	講義		選択
＜科目区分＞ 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 □情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 □課題解決能力					

授 業 の 内 容
第二次世界大戦以前の日本社会を理解するとともに、それが敗戦とそれに続く連合国の占領下、米国文化の影響を受け日本社会や日本人がどのように変化し、あるいは変化しなかったか、さらには最近のテクノロジーの発展の影響を世代論的観点から論じる。
授 業 の 到 達 目 標
第二次世界大戦以前の日本社会の特徴を知り、それが戦後の民主主義化の中でどのように変化しあるいは変化しなかったか、さらには、最近のテクノロジーの発達によって日本および世界にどのような変化をもたらされたかを理解し、現代の日本社会の取り組むべき課題を明らかにする。
授 業 の 計 画
第1回 世代論の特徴 第2回 日本社会と世代論 第3回 戦前における日本人の秩序意識 第4回 第二次世界大戦の敗戦と米国文化(1) 第5回 第二次世界大戦の敗戦と米国文化(2) 第6回 戦前と戦後の日本社会(1) 第7回 戦前と戦後の日本社会(2) 第8回 戦前と戦後の日本社会(3)/米国の世代(1) 第9回 米国の世代(2) 第10回 米国の世代(3) 第11回 日本の世代(1) 第12回 日本の世代(2) 第13回 日本の世代(3) 第14回 現代社会の課題 第15回 おわりに
授 業 外 の 学 習 方 法
e-learningで毎回の授業内容を確認し、そこにアップロードされた資料を読んでおくこと。
成 績 評 価 方 法
中間期レポート(40点)、最終レポート(40点)、平常点(20点) 平常点は、授業への参加状況、受講態度、クイズの解答状況を総合して判断する。
成 績 評 価 基 準
最近のテクノロジーの発達によって日本および世界にどのような変化をもたらされたかを理解し、現代の日本社会の取り組むべき課題が理解できているか。

テキスト、参考図書
テキスト:使用しない 参考図書： 神島二郎『近代日本の精神構造』岩波書店 1961 村上・公文・佐藤『文明としてのイエ社会』中央公論 1979 D.リースマン『孤独な群衆』みすず書房1961 J.ダワー『敗北を抱きしめて』岩波書店 2001 岩波書店編『記録・沖縄「集団自決」裁判』 2012 W. Strauss Generations Perennial 1991 D. Tapscott Growing up Digital McGraw-Hill 1998 D. Buckingham After the Death of Childhood Polity 2000 『国民生活白書』内閣府 (平成20年度以前) その他、授業中に紹介する
その他(受講上の注意)
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

現代社会特論Ⅱ (Advanced Lectures in SociologyⅡ)			担当教員	島岡 哉	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Cfg-2401	2 単位	4 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 現代社会系					
求める学習成果(教育目標)					
思想と歴史を段階的かつ学際的に学ぶことによって、実践知・専門知のみに偏らない教養・知・文化理解を獲得する。 現代社会の情報の洪水のなかで、自分なりに課題を析出し、明らかにしていくための、グローバルな視点を育てる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 □コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 □社会・職業理解能力 □役割把握・認識能力 □計画実行能力 □選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
本学科の卒業論文執筆をにらみ、近代・現代社会を分析、考察、記述するための論理的思考力および論理的表現力を、さまざまな事例をもとに考察する実践的な論理学講義である。論文を書くとは、事例や着想は面白いがそれをどのように論証し、表現し、検証するのかについて、学生1人1人が悩みながら執筆する行為である。そこで、論理学の基礎トレーニングをくり返し、実際の論文でその論理がどのように用いられ、表現されているのか、論文の構成はどうなっているのかを学び、卒業論文に活かすことを目的とする。
授 業 の 到 達 目 標
論理学の基礎を習得し、論文を執筆できること。その論文が反証可能性を備えた内容になっていること。
授 業 の 計 画
第1回：主体、客体、対象化 第2回：目的と手段、因果関係 第3回：上位—下位概念、価値判断排除 第4回：意識と無意識、部分と全体 第5回：接続関係と構造 第6回：議論の組み立て 第7回：論証の構造と評価 第8回：演繹と推測、価値評価 第9回：否定、条件構造 第10回：推論の技術、包含関係 第11回：論証構造及び表現のチェック 第12回：先行研究の論理と自説の展開の整合性のチェック 第13回：批判的に読む①—卒業論文口頭試問に向けて 第14回：批判的に読む②—卒業論文口頭試問に向けて 第15回：論理学的思考を日常生活に生かすには—社会人としての第1歩を踏み出すにあたって
授 業 外 の 学 習 方 法
受講生の卒業論文のテーマを鑑みつつ、講義内で取り扱う先行研究(論文)を選ぶこともあるので、論文の巻末に示された参考文献リストに示された論考を、積極的かつ批判的に読んでいくこと。次に、講義内容を論文にどのように応用するのかを考えること。講義内容の復習→論文への応用可能性の検討→講義→さらに論文の応用可能性の検討、この繰り返しにより、卒業論文のクオリティを高める結果を生むことを期待する。
成 績 評 価 方 法
講義中に行う論理学実践演習(リアクションペーパー、出欠を兼ねる)60%、学期末レポート40%
成 績 評 価 基 準
論理学の基礎に基づき、論文執筆を遂行すること。毎回の論理学実践演習時の記載内容とその理解・定着度。
テ キ ス ト、参 考 図 書
なし。参考図書等は授業中に指示する。
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
真摯に学ぶ学生に対して、悪影響を与える学生には、単位を与えない。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅱa (Special Seminar in CommunicationⅡa)			担当教員	金田明彦、紺渡弘幸、MLスプリチャル、 八木秀夫、大河晴美、加藤優子、島岡哉、 山中千恵、升田法継、フッド晴美、 小林大祐	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Zzz-2401	2 単位	4 年前期	演習		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		■計画実行能力		■選択能力	
				■社会・職業理解能力	
				■課題解決能力	

授 業 の 内 容
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、適切な研究・実践課題設定を行う。
授 業 の 到 達 目 標
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための適切な研究・実践課題設定を行えるようになる。
授 業 の 計 画
概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマを考慮した指導に従って取り組む。 4～5月 受講生自身のテーマについて理解を深めるための研究・実践 6～8月 受講生自身のテーマについて適切な分析を進めるための研究・実践
授 業 外 の 学 習 方 法
担当の教員から適宜指示があります。
成 績 評 価 方 法
平常点(100%) 平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。
成 績 評 価 基 準
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための適切な研究・実践課題設定を行えるようになっているか。
テキスト、参考図書
担当教員から適宜指示されます。
その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

コミュニケーション特別演習Ⅱb (Special Seminar in CommunicationⅡb)			担当教員	金田明彦、紺渡弘幸、MLスプリチャル、 八木秀夫、大河晴美、加藤優子、島岡哉、 山中千恵、升田法継、フッド晴美、 小林大祐	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Zzz-2411	2単位	4年後期	演習		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力 ■コミュニケーション能力 ■情報収集・探索能力 ■社会・職業理解能力 ■役割把握・認識能力 ■計画実行能力 ■選択能力 ■課題解決能力					

授 業 の 内 容
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、分析や実践の結果を考察しまとめる。
授 業 の 到 達 目 標
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための分析や実践の結果を考察し、まとめられるようになる。
授 業 の 計 画
概ね以下の通りだが、各担当教員の演習テーマを考慮した指導に従って取り組む。 9～11月 受講生自身のテーマについて分析結果の考察を行う。 12～2月 受講生自身のテーマについて説得的に伝えられるようにまとめる。
授 業 外 の 学 習 方 法
担当の教員から適宜指示があります。
成 績 評 価 方 法
平常点(100%) 平常点は演習への取り組み状況やその態度などから総合的に判断します。
成 績 評 価 基 準
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、卒業研究で取り組むための分析や実践の結果を考察し、まとめられるようになっているか。
テキスト、参考図書
担当教員から適宜指示されます。
その他(受講上の注意)
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	金田明彦、紺渡弘幸、MLスプリチャル、 八木秀夫、大河晴美、加藤優子、島岡哉、 山中千恵、升田法継、フッド晴美、 小林大祐	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Zzz-2402	6 単位	4 年通年	演習		必修
<科目区分> 人間学部コミュニケーション学科専門科目 応用科目 特別演習・卒業研究					
求める学習成果(教育目標)					
各系で身につけた能力を演習のなかでより深め、卒業研究につなげる。					
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)					
■自他の理解能力		■コミュニケーション能力		■情報収集・探索能力	
■役割把握・認識能力		■計画実行能力		■選択能力	
				■社会・職業理解能力	
				■課題解決能力	

授 業 の 内 容
コミュニケーション学特別演習Ⅰ・Ⅱを通して学生が自ら設定した研究テーマや計画をもとに、研究を進めこれまでの研究や実践の集大成とします。
授 業 の 到 達 目 標
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、適切な課題設定を行えるようになる。設定した課題について分析研究や実践を行うための方法を適切に選択できるようになる。分析や実践の結果を考察し、まとめることが出来るようになる。
授 業 の 計 画
概ね以下の通りだが、担当教員による学生個人の進み具合を考慮した指導に従って取り組む。 4～5月 研究・実践のテーマと研究計画の決定 6～8月 研究・実践の実行 9～10月 結果の分析考察 11～12月 卒業研究の仕上げ 1～2月 口頭試問
授 業 外 の 学 習 方 法
担当の教員から適宜指示があります。
成 績 評 価 方 法
卒業研究成果物(60%) 口頭試問(20%) 平常点(20%) 平常点は卒業研究への取り組み状況やその態度などを総合的に判断します。
成 績 評 価 基 準
英語コミュニケーション、企画・表現、現代社会に関して、適切な課題設定を行ええているか。設定した課題について分析研究や実践を行うための方法を適切に選択されているか。分析や実践の結果を考察し、まとめることが出来ているか。
テキスト、参考図書
担当教員から適宜紹介されます。
その他(受講上の注意)
4年間の研究・実践の集大成となるものなので、しっかりとした計画をもとに研究を進めることが重要になります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2201	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
教員とは、どのような役割を期待され、どのような環境で、どのような仕事をしているのか。本授業では、この問題に主に社会的・法的見地から考察する。また、様々な教師像を事例研究を通して考察することにより、受講生各自がよりよい教職像を展望するとともに、よりよい教職像に近づくために何をすべきかを模索する機会としたい。
授 業 の 到 達 目 標
教職の意義と役割を法的、社会的な見地から説明できる。 教員の職務内容を法的な見地から説明できる。 よりよい教職像を自分なりに展望することができる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：教師はどのような仕事をしているのか 第3回：よい教師とはどのような教師なのか 第4回：教師像の諸相 ― 聖職者、労働者、専門家 ― 第5回：教師の権力と権威 第6回：教師の愛と暴力 第7回：どうすればよい教師になれるのか 第8回：教員養成制度について 第9回：教員養成の歴史 第10回：教員に求められる専門性とは何か 第11回：教員を取り巻く法律、制度(1) ― 身分について ― 第12回：教員を取り巻く法律、制度(2) ― 服務について ― 第13回：教員を取り巻く法律、制度(3) ― 任用について ― 第14回：教員を取り巻く法律、制度(4) ― 研修について ― 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
「よい教師とはどのような教師か?」「教職課程とは何のためにあるのか?」という問いを常に抱きながら学習することが求められる。具体的には、図書館にある教職に関する書物(教職経験者が書いた本や教職の使命について書いた本など)を最低3冊は読破する必要がある。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%) 平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況と、授業時の課題の内容をもとに判断する。)
成 績 評 価 基 準
教職の意義と役割を法的、社会的な見地から説明できるか。 教員の職務内容を法的な見地から説明できるか。 よりよい教職像を自分なりに展望することができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
プリントを配布する。

その他(受講上の注意)	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2111	2 単位	1 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容	
私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、西洋、日本それぞれの教育の歴史、とりわけ学校の歴史を概観することを通じて、教育の理念について考察を深める機会とする。今日の学校教育とはまったく異なる教育のあり方に目を向けることにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。そのうえで、学校教育の役割や意義を体系的に理解することが本授業の目標となる。	
授 業 の 到 達 目 標	
西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができる。 教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できる。 学校教育の役割や意義を体系的に説明することができる。	
授 業 の 計 画	
第1回：オリエンテーション 第2回：ヨーロッパにおける学校の歴史 第3回：すべての者に教育を コメニウスについて 第4回：子どもの発見 ルソーについて 第5回：自律という問題 ペスタロッチ、カント、ヘルバルトについて 第6回：一斉教授成立史 モントリオール・システムについて 第7回：教育における自由とは何か デューイについて 第8回：日本における塾と学校の歴史 第9回：日本における義務教育制度成立史 第10回：「教育を受ける権利」について 第11回：教育における平等とは何か 第12回：個性とは何か 第13回：人権と教育 第14回：教育行政のしくみ 第15回：まとめ 第16回：定期試験	
授 業 外 の 学 習 方 法	
教育について自ら考察してみようとしめない限り、この授業の意味はほとんど感じ取れないのではないかとと思う。教育に関することなら何でもいいので、自ら調べ、考えをまとめ、記述してみる作業が必要である。参考文献をこまめに提示するので、最低2冊は読破するつもりで臨んでもらいたい。	
成 績 評 価 方 法	
定期試験(論述問題含む)(70%) 平常点(30%) (平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに判断する。)	
成 績 評 価 基 準	
西洋および日本における学校の歴史を体系的に概説することができるか。 教育に関する諸問題を経験のみに依拠することなく、理論的に考察できているか。 学校教育の役割や意義を体系的に説明することができるか。	
テ キ ス ト 、 参 考 図 書	
プリントを配布する。	

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	大野木 裕明	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2202	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
教職に関する科目のうち教育の基礎理論に関する科目である。必要事項は、幼児児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)。となっているが、このうち主として中高を中心としながらも広く児童生徒の発達と学習の過程を論じる。
授 業 の 到 達 目 標
学校教育の場において、子どもの教育と学習に関する教育方法や関わり方、子どもの心理面について教育心理学の理論を学び、方法を援用できるようにする。 ・子どもの記憶について理解し、記憶を定着させる教授法を学ぶ。 ・授業の方法として、視聴覚的方法、発見学習、有意味受容学習、講義法、プロジェクト学習、T Tなどについて入門的な知識を身につけ、自分なりに模擬的に計画できるようにする。 ・児童生徒の学級内の集団力学について知る方法を身につける。 ・試験の諸形式とその評価法についてその特徴を知り、自分なりに立案・作成できるようにする。 など。
授 業 の 計 画
第1回：全体の授業計画と成績評価の説明、教育心理学の歴史(1) 第2回：教育心理学の歴史(2) 第3回：第1章 生涯発達の心理と方法 第4回：第2章 発達の障害 第5回：第3章 記憶・知能の理解 第6回：第4章 学習指導と評価 第7回：ここまでの進捗調整、および児童期以降の学力・知能研究の概説 第8回：第5章 生徒理解 第9回：第6章 生徒指導 第10回：第7章 教育相談 第11回：第8章 発達と教育の支援 第12回：進捗調整、および「特別活動」指導法の概説 第13回：教育測定・教育評価と指導要録 第14回：教育心理学の研究法(1) 第15回：教育心理学の研究法(2) ただし、学修の状態により進捗を変更することがある。
授 業 外 の 学 習 方 法
第1回の授業で、自己学習用のワークシートを配布する。すくなくとも、それらを参考にしながら自己学習をおこなうこと。入手しやすい関連図書や論文を紹介し、いくつかは解説を加えるので、自学自習して理解を深めること。
成 績 評 価 方 法
約1か月前に予告する課題レポート(20パーセント×2本)、授業中に実施する小テスト(20パーセント×2回)、授業中の小レポート(20パーセント、数回)の合計100パーセントによる。
成 績 評 価 基 準
専門的な知識については、配布するワークシートの内容、とくに2回の小テストで扱い、正確に知識として定着しているかどうかを評価する。実践力については、2回の演習的なレポートの内容などにより、よく検討し洗練されているかどうかを評価する。授業の終わりに指示する小レポートによって、短時間で的確に要約し発表する力を評価する。

テキスト、参考図書
『ガイドライン 発達学習・教育相談・生徒指導』 ナカニシヤ出版 2007年
その他(受講上の注意)
この授業に関する連絡は、授業中か、メール連絡ohnogi@jin.ac.jp、またはオフィスアワーに研究室へ来て下さい。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	奥谷 崇	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2301	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
我が国では、地域や家庭の教育力が低下し、教育を巡る困難な教育課題が混迷の度を深めている。1 日も早い教育課題の解決が望まれている今日、我が国の様々な教育課題や時事問題を取り上げ、問題の本質を理解し、解決について集団討議をもとに課題解決策を探る。今日の教育課題の解決に果敢に挑む教育観と教師としての力量を養う。授業をととして人間関係力、自己表現力、集団討論力を体得する。
授 業 の 到 達 目 標
教育課題の原因と解決法について自分の意見を出し合い、意欲的に議論し合うことができる。 教育課題について自分の考えをわかり易くは発表することができる。 時事問題に関心をもち、特に教育的課題について自分の考えをもち議論し合うことができる。
授 業 の 計 画
第1回：自他の追究課題を把握する 第2回：わが国の教育課題について 第3回：いじめと非行 第4回：不適応と不登校 第5回：学級崩壊と校内暴力 第6回：モンスターペアレントと親 第7回：学級担任と学校組織 第8回：授業と学校行事 第9回：問題解決への挑戦 第10回：子どもの成長 第11回：現職教育と研究授業 第12回：開かれた学校と学校評価 第13回：学校教育と家庭教育と社会教育 第14回：自己課題の解明と共通理解 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習として新聞記事の中から関心のある教育記事を探し、自分の考えや疑問点をまとめる。また、復習として話し合った新聞記事での意見交換のポイントを整理し、課題についての自分の考えの深まりや新たな疑問をまとめる。
成 績 評 価 方 法
レポート(70%) 平常点(30%) 平常点は、出席状況、受講態度、受講ノート等を総合して判断する
成 績 評 価 基 準
時事問題について自分の意見をまとめ発表することができる。 仲間の発表を聞き、意欲的に話し合いをすることができる。 話し合い、講義を通して自分の考えの深まりをまとめることができる。
テキスト、参考図書
「小学校学習指導要領解説(総則編)」 文部科学省 東洋館出版社 2008年

その他(受講上の注意)
私語・無気力厳禁。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育課程・特別活動論 (Theory of Education Curriculum)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2211	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
教育課程とは、学習指導要領によって示される基準にもとづいて、各学校が編成する教育計画のことである。その計画には、各教科の授業計画だけではなく、教科外の活動(特別活動、総合的な学習の時間、など)の計画も含まれる。また近年では、この計画をよりよいものにするべく、評価、改善していくプロセスも教育課程編成の一環とみなされるようになってきている。以上をふまえて、この授業では、①学習指導要領について、②特別活動、総合的な学習の時間について、③様々な教育評価について、の三つのテーマを取り上げる。
授 業 の 到 達 目 標
現行学習指導要領の内容を説明できる。 特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できる。 教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 教育課程とは何か 第2回：学習指導要領とは何か 第3回：学習指導要領を読む(1) 第一章「総則」前半 第4回：学習指導要領を読む(2) 第一章「総則」後半 第5回：学習指導要領の歴史的変遷(1) 1940年代後半 第6回：学習指導要領の歴史的変遷(2) 1950～60年代 第7回：学習指導要領の歴史的変遷(3) 1970～80年代 第8回：学習指導要領の歴史的変遷(4) 1990年代以降 第9回：学力とは何か 第10回：教育評価について 何のための評価なのか 第11回：学習指導要領を読む(3) 総合的な学習の時間、特別活動 第12回：特別活動、総合的な学習の時間の意義と課題 第13回：特別活動、総合的な学習の時間の実践例 第14回：特別活動、総合的な学習の時間の評価について 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
学習指導要領第一章「総則」を繰り返し読み直すことが求められる。 情報量が多い授業なので、毎時後の見直し、復習が必要となる。
成 績 評 価 方 法
定期試験(80%) 平常点(20%) (平常点は、授業への参加状況と授業時の課題の提出状況により判断する)
成 績 評 価 基 準
現行学習指導要領の内容を逐語的に理解しているか。 特別活動および総合的な学習の時間の意義と役割について説明できるか。 教育評価にはどのような種類、方法があるのかについて説明できるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
プリントを配布する。

その他(受講上の注意)	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

英語科教育法Ⅰ (English Language Teaching MethodologyⅠ)			担当教員	フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2203	2 単位	2 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
1. 英語教育の目的について考え、英語でディスカッションする。 2. 言語習得について様々な先行研究についての知識および理解を深め、英語でディスカッションする。 3. 様々な外国語教授法について知識及び理解を深め、英語でディスカッションする。
授 業 の 到 達 目 標
1. 学校教育における英語教育の目的について明確に理解でき、英語で自分の考えを述べることができる。 2. 様々な言語習得理論について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができる。 3. 様々な外国語教授法について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができる。
授 業 の 計 画
第1回：Introduction 第2回：Purposes of English Language Education 第3回：The Course of Study 第4回：The Components of Communication Abilities 1 第5回：The Components of Communication Abilities 2 第6回：Theories of Language Acquisition 1 第7回：Theories of Language Acquisition 2 第8回：Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 1 第9回：Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 2 第10回：Foreign Language Teaching Methodologies & Approaches 3 第11回：Autonomous learning 第12回：Psychological Aspects of Foreign Language Learning 第13回：Teaching Procedures 1 第14回：Teaching Procedures 2 第15回：Review
授 業 外 の 学 習 方 法
1. 予習として、テキストをよく読み、授業のテーマについて考えてくること。英語で自分の考えを発言する練習をしてくると良い。 2. 授業のテーマについて理解を深めるためのエッセイ課題が出るので、授業の内容をよく復習して取り組むこと。
成 績 評 価 方 法
授業での活動およびエッセイ課題40%、小テスト30%、レポート30%
成 績 評 価 基 準
1. 学校教育における英語教育の目的について明確に理解でき、英語で自分の考えを述べることができるか。 2. 様々な言語習得理論について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができるか。 3. 様々な外国語教授法について知識を得、理解ができ、英語で自分の考えを述べることができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
(1)『統合的英語科教育法』 村野井仁他共著 成美堂 2012年 (2)『現場で使える教室英語』 吉田研作他著 三修社 2012年
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
英和辞書、英英辞書を必ず持参する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅱ (English Language Teaching Methodology Ⅱ)			担当教員	フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2212	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
1. 学習指導過程および評価について考え、英語でディスカッションする。 2. 小学校での『外国語活動』、小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について考え、英語でディスカッションする。 3. 英語教員として成長し続けるために何をすべきか、何ができるか考え、英語でディスカッションする。
授 業 の 到 達 目 標
1. 学習指導過程および評価について考え、英語でディスカッションできる。 2. 小学校での『外国語活動』、小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について考え、英語でディスカッションできる。 3. 英語教員として成長し続けるために何をすべきか、何ができるか考え、英語でディスカッションできる。
授 業 の 計 画
第1回：Introduction 第2回：Teaching Plan 1 第3回：Teaching Plan 2 第4回：Teaching Plan 3 第5回：Teaching Plan 4 第6回：Assessment 1 第7回：Assessment 2 第8回：Assessment 3 第9回：Assessment 4 第10回：Foreign Language Activities in Elementary Schools 1 第11回：Foreign Language Activities in Elementary Schools 2 第12回：Cross-Cultural Education in English Classes 第13回：Teacher Training 第14回：Review 1 第15回：Review 2
授 業 外 の 学 習 方 法
1. 予習として、テキストをよく読み、授業のテーマについて考えてくること。英語で自分の考えを発言する練習をしてくる。 2. 授業のテーマについて理解を深めるためのエッセイ課題が出るので、授業の内容をよく復習して取り組むこと。
成 績 評 価 方 法
授業での活動およびエッセイ課題40%、小テスト30%、レポート30%
成 績 評 価 基 準
1. 学習指導過程および評価について考え、英語でディスカッションできるか。 2. 小学校での『外国語活動』、小・中・高・大の英語教育の連携、異文化理解教育について考え、英語でディスカッションできるか。 3. 英語教員として成長し続けるために何をすべきか、何ができるか考え、英語でディスカッションできるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
(1)『統合的英語科教育法』 村野井仁 他 成美堂 2012年 (2)『改訂版英語教育用語辞典』 白畑知彦 他 大修館書店 2011年 (3)『現場で使える教室英語』 吉田研作 他著 三修社 2012年

その他(受講上の注意)
英和辞書、英英辞書を必ず持参する。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

英語科教育法Ⅲ (English Language Teaching MethodologyⅢ)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2302	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
英語の授業を行う際によりどころとなる教授理論について理解を深めるとともに、具体的な指導事例の検討を通して効果的な指導法を学ぶ。さらに、個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持つ。模擬授業の検討・評価を通して、実践的な指導力を身につけ、教育実習への準備とする。
授 業 の 到 達 目 標
1. 授業準備に必要な事柄について理解する。 2. 学習指導案の書き方を理解し、作成できる。 3. 授業の組み立ての基本を理解する。 4. 基本的な指導法や指導技術を理解し、活用できるようにする。 5. 授業評価の観点を知り、客観的に授業を評価できる。 6. 模擬授業を通して、実際に指導できるようにする。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション、教育実習に臨んで、模擬授業の準備(1) 第2回：授業準備、観察参加、模擬授業の準備(2) 第3回：指導案の作成、模擬授業の準備(3) 第4回：授業案(1)―中学校編、模擬授業の準備(4)① 第5回：授業案(1)―中学校編、模擬授業の準備(4)② 第6回：授業案(2)―高等学校編、模擬授業の準備(5)① 第7回：授業案(2)―高等学校編、模擬授業の準備(5)② 第8回：授業の工夫(1)―Warm-up とReview、模擬授業、検討と評価(1) 第9回：授業の工夫(2)―文法・文型の導入、模擬授業、検討と評価(2) 第10回：授業の工夫(3)―文法・文型の練習と発展活動、模擬授業、検討と評価(3) 第11回：授業の工夫(4)―語彙の導入と指導、模擬授業のまとめ(1) 第12回：授業の工夫(5)―本文の読解指導、模擬授業、検討と評価(4) 第13回：教育機器等の活用、模擬授業、検討と評価(5) 第14回：教室管理、Team Teaching、模擬授業、検討と評価(6) 第15回：授業の評価と実習のまとめ、模擬授業のまとめ(2) 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
テキストの予習・復習を行うとともに、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を高めるよう自主的な学習を行う。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、課題・小テスト・模擬授業(35%)、平常点(15%) (平常点は、授業への参加状況から判断します。)
成 績 評 価 基 準
1. 授業準備に必要な事柄について理解できているか。 2. 学習指導案の書き方を理解し、作成できるか。 3. 授業の組み立ての基本を理解できているか。 4. 基本的な指導法や指導技術を理解し、活用できるか。 5. 授業評価の観点を知り、客観的に授業を評価できるか。 6. 模擬授業を通して、実際に指導できるようになったか。

テキスト、参考図書	
(1)『英語科教育実習ハンドブック(改訂版)』 米山朝二、杉山敏、多田茂著 大修館書店 2013年 (2)『英語教育用語事典』 白畑知彦他著 大修館書店 2012年	
その他(受講上の注意)	
主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

英語科教育法Ⅳ (English Language Teaching MethodologyⅣ)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2311	2単位	3年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
コミュニケーション能力を高める英語の授業を行うために必要な理論について理解を深めるとともに、具体的な指導事例の検討を通して効果的な指導法を学ぶ。さらに、個別に学習指導案を作成し、模擬授業を実施する機会を持つ。模擬授業の検討・評価を通して、実践的な指導力を身につけ、教育実習への準備とする。
授 業 の 到 達 目 標
1. コミュニケーション能力とその養成における問題点について理解する。 2. コミュニケーション能力を養成する効果的な指導法について理解する。 3. 模擬授業を通して、指導法や指導技術を活用できるようにする。
授 業 の 計 画
第1回：日本の英語教育とコミュニケーション能力の養成、模擬授業の準備(1) 第2回：コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備(2)① 第3回：コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備(2)② 第4回：コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備(3)① 第5回：コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備(3)② 第6回：コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備(4)① 第7回：コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備(4)② 第8回：コミュニケーション能力の養成と問題点、模擬授業の準備(5) 第9回：小学校・中学校・高等学校におけるコミュニケーション能力の養成、中間のまとめ 第10回：コミュニケーション能力を高める指導技術(1) 模擬授業、検討と評価(1) 第11回：コミュニケーション能力を高める指導技術(2) 模擬授業、検討と評価(2) 第12回：コミュニケーション能力を高める指導技術(3) 模擬授業、検討と評価(3) 第13回：コミュニケーション能力を高める指導技術(4) 模擬授業、検討と評価(4) 第14回：コミュニケーション能力を高める指導技術(5) 模擬授業、検討と評価(5) 第15回：模擬授業、検討と評価(6)、まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
テキストの予習・復習を行うとともに、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を高めるよう自主的な学習を行う。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、課題・小テスト・模擬授業(35%)、平常点(15%) (平常点は、授業への参加状況から判断します。)
成 績 評 価 基 準
1. コミュニケーション能力とその養成における問題点について理解できているか。 2. コミュニケーション能力を養成する効果的な指導法について理解できているか。 3. 模擬授業を通して、指導法や指導技術を活用できるようになったか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
(1)『コミュニケーション能力の養成』 大下邦幸編著 東京書籍 2009年 (2)『英語教育用語事典』 白畑知彦他著 大修館書店 2012年
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
主体的な学習を通して、教師に必要な指導力を身につけることを期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野 秀晴	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2312	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
学校で道徳教育をいかに行うかが大きな問題となっている。この古くて新しい問題について理解を深めたい。えで、学習指導要領における道徳教育の内容について詳細に考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成してもらい、完成したグループから順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。
授 業 の 到 達 目 標
学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができる。 学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができる。
授 業 の 計 画
以下は、現時点での計画であるが、模擬授業の実施状況に応じて、変更が生じる場合がある。 第1回：オリエンテーション 第2回：学習指導要領第1章「総則」を読む 第3回：学習指導要領第3章「道徳」を読む 第4回：教材研究(1)『心のノート』を読む 第5回：教材研究(2) 読み物教材をどう取り上げるか 第6回：日本における道徳教育の歴史の変遷(1) 江戸時代～戦前 第7回：日本における道徳教育の歴史の変遷(2) 戦後 第8回：道徳教育の難しさ(1) 道徳は知識か行為か 第9回：道徳教育の難しさ(2) 宗教と道徳 第10回：指導法の検討(1) インカレーション 第11回：指導法の検討(2) ディベート 第12回：指導法の検討(3) モラルジレンマ 第13回：指導法の検討(4) ロールプレイ 第14回：指導法の検討(5) 構成的グループエンカウンター 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
指導案の作成は、授業外の時間にグループごとに行ってもらう。また、指導案の添削、修正等も授業外の時間にグループごとに行っていく。具体的な作業はその都度指示するが、授業外においてかなりの学習時間が必要となることを覚悟されたい。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) 指導案の内容(25%) 平常点(25%) (平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容をもとに判断する。)
成 績 評 価 基 準
学習指導要領における道徳教育の内容を確実に説明することができるか。 学習指導要領の内容を踏まえて、指導案を作成することができるか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
必要に応じてプリントを配布する。

その他(受講上の注意)	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

教育の方法と技術 (Teaching Methods and Skills)			担当教員	宮川 祐一	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2213	2 単位	2 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
教育方法の改善のための基礎的な視点の習得と分析力の習得を目指す。 教育実践の現場においては、教育方法の改善に関する工夫が必要である。すなわち、メディアの教育利用、学習教材の開発など、教育工学の知識の活用が望まれる。この授業では、授業の設計・実施・評価等に関する知識、教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量を育成する内容としている。
授 業 の 到 達 目 標
教育メディアの効用について説明することができる。 教育史におけるメディアの関わりについて説明することができる。 授業において、教育メディアを活用するための教材準備(選択・構成)から展開、さらに事後分析までできる。
授 業 の 計 画
第1回：「教育の方法と技術」と「教育工学」 第2回：視聴覚メディアの発達と視聴覚教育の意義 第3回：教育史からみた教育方法とメディア利用 第4回：視聴覚メディアの教育への活用・方法、放送教育 第5回：教育メディアの選択と活用、メディアリテラシー、事例紹介 第6回：教育におけるコンピュータ活用、事例紹介 第7回：テストの方法と学習評価 第8回：成績処理の例 第9回：S-P表分析 第10回：模擬授業の実施・分析と相互評価(1) 第11回：模擬授業の実施・分析と相互評価(2) 第12回：模擬授業の実施・分析と相互評価(3) 第13回：授業評価と授業改善(学習目標とメディア活用の視点から) 第14回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と改善、相互評価(1) 第15回：教育メディアを活用した模擬授業の実施と改善、相互評価(2) 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
参考図書については、5冊以上に目を通すこと。 模擬授業の事前準備には、5時間以上。事後の分析処理には、5時間以上を充てること。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%) レポート課題(30%) 授業への取り組み態度等(20%)
成 績 評 価 基 準
教育メディアの効用について説明することができるか。 教育史におけるメディアの関わりについて説明することができるか。 教育メディアを活用した授業を展開できるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて、資料を配付する。

参考図書

- (1)『教職必修 教育の方法と技術』 山下省蔵 実教出版 2003年
- (2)『新しい時代の教育方法』 田中耕治・鶴田清司ほか 有斐閣 2012年
- (3)『新しい教育の方法と技術』 篠原正典・宮寺晃夫 ミネルヴァ書房 2012年
- (4)『教育の方法と技術(教職課程シリーズ)』 平沢 茂 図書文化社 2006年
- (5)『教育の方法と技術(教育学のポイント・シリーズ)』 柴田義松・山崎準二 学文社 2005年
- (6)『教育の方法と技術』 西之園晴夫・宮寺晃夫 ミネルヴァ書房 2004年
- (7)『教育の方法と技術』 平田啓一・町田隆哉編 教育出版 1997年
- (8)『視聴覚教育の新しい展開』 野津良夫 東信堂 1995年
- (9)『教育情報工学入門(教育情報工学シリーズ1)』 佐藤隆博 コロナ社 1989年

その他(受講上の注意)

正当な理由のない連続欠席は、受講を放棄したものとみなす。

模擬授業は、受講者一人当たり30分間を割り当てて実施の予定。十分な事前準備が必要であり、事後の評価分析については指定課題の位置づけとし、多角的詳細なレポートの提出を期待する。

オフィスアワー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育相談 (Educational Counseling)			担当教員	佐々木 雅代	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2401	2 単位	4 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
いじめ、不登校、非行への対応および発達障害を抱える児童生徒への支援について学ぶ。現場で活用されている技法について体験的に学ぶ。グループディスカッションを通して、視野を広げ、自分で考える経験を積む。
授 業 の 到 達 目 標
いじめ、不登校、非行への対応および発達障害について基礎知識を習得。支援プランをたてる。
授 業 の 計 画
第1回：教育相談が生きる場 第2回：教育相談に生かす心理学的理解:見立て 第3回：教育相談に生かす心理学的理解:介入 第4回：不登校の理解と対応 1 第5回：不登校の理解と対応 2 第6回：いじめ・非行の理解と対応 1 第7回：特別支援教育(発達障害の理解と対応) 1 第8回：予防開発的アプローチ S S T 1 第9回：予防開発的アプローチ S S T 2 第10回：予防開発的アプローチ：アサーティブトレーニング 1 第11回：予防開発的アプローチ：アサーティブトレーニング 2 第12回：事件・事故・災害対応 第13回：学齢期の精神科疾患について 第14回：リラクゼーション 第15回：ふりかえり
授 業 外 の 学 習 方 法
各回の講義やワーク体験で気が付いたことを、各自ノートに自分の言葉で書き残してください。配布した資料や予習復習はその都度指示します。
成 績 評 価 方 法
小レポート(50%) 平常点(50%) 平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。
成 績 評 価 基 準
いじめ、不登校、発達障害について基礎知識を習得している。支援プランを提案できる。
テ キ ス ト、参 考 図 書
テキストは指定しません。各回にレジュメを用意します。 参考図書「教師のための初等教育相談」西本絹子著 萌文書林
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
予習復習については、授業時に指示します。授業で行う体験学習に積極的に取り組んでください。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

事前・事後指導 (Guidance for Teaching Practice)			担当教員	紺渡 弘幸、フッド 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2304	1 単位	3 年～ 4 年	実習		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱのための事前指導及び事後指導を行う。中学校・高等学校の生徒を指導する教師としての心構えを持つとともに、教育実習の目的・内容・方法及び留意事項を理解し、充実した実習が行えるよう準備する。実習終了後は評価・反省をし、課題を明確にする。
授 業 の 到 達 目 標
1. 教育実習の意義・目的を理解する。 2. 中学校・高等学校の教育現場の状況や教育環境を理解する。 3. 教育実習に臨むしっかりとした心構えを持つ。 4. 授業実習に必要な知識・指導法や技術を確認する。 5. 教育実習を振り返り、評価・反省して、自身の課題を明確にする。
授 業 の 計 画
3 年次 第1回：教職課程ガイダンス：全体指導、教育実習の予定、受講資格等の説明 第2回：教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義 第3回：学校見学(高等学校)：教育実習における注意事項、朝読書・朝礼参観 第4回：学校見学(高等学校)：授業参観、高等学校施設見学 第5回：教育実習Ⅱ反省会：上級生が教育実習について発表、質疑応答・意見交換、実習に向けてのアドバイス 第6回：教育実習Ⅰの準備：「教育実習の手引き」、「教育実習ノート」に基づく実習直前の具体的な指導 第7回：教育実習Ⅰのための直前指導(高等学校)：高等学校の教育現場の状況や現場を取り巻く環境、生徒理解・指導の心構え等に関する講義 第8回：教育実習Ⅰのための直前指導(高等学校)：教科指導(授業実習)に関する講義 第9回：教育実習Ⅰのための事前指導：実習直前の模擬授業に基づく指導 第10回：研究授業についての指導：指導教員による研究授業についての指導助言 第11回：教育実習Ⅰ反省会：実習生による実習報告・反省、意見交換、実習レポートの作成、自己点検 4 年次 第12回：教育実習Ⅱのための事前指導：教育実習Ⅱ、事前事後指導の予定確認・指導等 第13回：教育実習Ⅱのための事前指導：教育実習カードの作成、教育実習Ⅱへの心構え、教材研究等についての指導、特別講義に関する準備 第14回：教育実習特別講義：教育現場の状況や現場を取り巻く環境・生徒理解・教育実習の心構え等に関する講義 第15回：教育実習Ⅱのための事前指導：実習直前の模擬授業に基づく指導 第16回：教育実習Ⅱ反省会：実習生による実習についての発表、意見交換。実習レポートの作成、自己点検、教育実習履修のまとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
『実習のてびき』をよく読んで、実習について理解を深めておくとともに、課題に取り組み、教育実習に備える。実習後は、評価・反省をしっかりと実習レポートをまとめ自分自身の課題を明確にする。
成 績 評 価 方 法
課題・模擬授業(50%)、平常点(50%) (平常点は、授業への参加状況と受講態度から判断します。)

成 績 評 価 基 準
1. 教育実習の意義・目的を説明できるか。 2. 中学校・高等学校の教育現場の状況や教育環境を理解について理解できているか。 3. しっかりとした心構えを持って、教育実習に臨むことができたか。 4. 授業実習に必要な知識・指導法や技術を身につけていたか。 5. 教育実習を振り返り、評価・反省して、自身の課題を明確にできたか。
テキスト、参考図書
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート(平成27年度版)」
その他(受講上の注意)
充実した教育実習ができるように日頃から、教師としての知識や技能を自主的に身につけるよう努力することを期待する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅰ (Teaching PracticeⅠ)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2305	2 単位	3 年(9 月)	実習		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
高等学校における 2 週間の教育実習(観察実習・参加実習・授業実習)
授 業 の 到 達 目 標
1. 確かな心構えを持って実習に臨む。 2. 授業の教材研究がしっかりできる。 3. 指導態度が真剣で、意欲的である。 4. 生徒をよく理解しようと努める。 5. 教科外指導にも熱心に取り組む。 6. 実習ノートを欠かさず提出する。 10. 実習レポートはよくまとめられている。 11. 実習ノートは内容のある記録ができる。
授 業 の 計 画
教育実習校(高等学校)における実習 1. オリエンテーション(実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) 2. 教育実習(観察・参加・授業実習の諸活動。教材研究・学習指導案の作成、授業・生徒指導等の実習体験等) 3. 研究授業(実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践) 4. 研究授業の反省会(研究授業後、実習校の教員等から指導を受けるなど)
授 業 外 の 学 習 方 法
教育実習先の高等学校について、あらかじめ資料等を読んで理解を深めておく。 日頃から教育実習に必要な知識・技能をしっかり身につけておく。
成 績 評 価 方 法
平常点100%(教育実習校からの評価、レポート、実習ノートなどを総合して評価する。)
成 績 評 価 基 準
1. 指導に必要な基礎学力・知識が十分にあるか。 2. よく教材研究・工夫がなされていたか。 3. 指導態度は真剣で、意欲が感じられたか。 4. 生徒をよく理解しようと努めていたか。 5. 指導能力はあるか、指導態度は良かったか。 6. 教科外指導にも熱心に取り組んだか。 7. 勤務態度はまじめで、実習への熱意が感じられたか。 8. 事務・実務能力はあるか。 9. 実習ノートの提出はきちんとしていたか。 10. 実習レポートはよくまとめられていたか。 11. 実習ノートは内容のある記録ができていたか。
テキスト、参考図書
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート(平成27年度版)」、 指定教科書
その他(受講上の注意)
実習校での注意事項を遵守し、充実した実習になるよう努力することを期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育実習Ⅱ (Teaching PracticeⅡ)			担当教員	紺渡 弘幸	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2402	2 単位	4 年(6 月)	実習		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果(教育目標)					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
中学校における2週間の教育実習(観察実習・参加実習・授業実習)
授 業 の 到 達 目 標
1. 確かな心構えを持って実習に臨む。 2. 授業の教材研究がしっかりできる。 3. 指導態度が真剣で、意欲的である。 4. 生徒をよく理解しようと努める。 5. 教科外指導にも熱心に取り組む。 6. 実習ノートを欠かさず提出する。 10. 実習レポートはよくまとめられている。 11. 実習ノートは内容のある記録ができる。
授 業 の 計 画
教育実習校(中学校)における実習 1. オリエンテーション(実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) 2. 教育実習(観察・参加・授業実習の諸活動。教材研究・学習指導案の作成、授業・生徒指導等の実習体験等) 3. 研究授業(実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践) 4. 研究授業の反省会(研究授業後、実習校の教員等から指導を受けるなど)
授 業 外 の 学 習 方 法
教育実習先の中学校について、あらかじめ資料等を読んで理解を深めておく。 日頃から教育実習に必要な知識・技能をしっかり身につけておく。
成 績 評 価 方 法
平常点100%(教育実習校からの評価、レポート、実習ノートなどを総合して評価する。)
成 績 評 価 基 準
1. 指導に必要な基礎学力・知識が十分にあるか。 2. よく教材研究・工夫がなされていたか。 3. 指導態度は真剣で、意欲が感じられたか。 4. 生徒をよく理解しようと努めていたか。 5. 指導能力はあるか、指導態度は良かったか。 6. 教科外指導にも熱心に取り組んだか。 7. 勤務態度はまじめで、実習への熱意が感じられたか。 8. 事務・実務能力はあるか。 9. 実習ノートの提出はきちんとしていたか。 10. 実習レポートはよくまとめられていたか。 11. 実習ノートは内容のある記録ができていたか。
テキスト、参考図書
仁愛大学教職課程委員会編「仁愛大学教育実習の手引」、「仁愛大学教育実習ノート(平成27年度版)」、 指定教科書
その他(受講上の注意)
実習校での注意事項を遵守し、充実した実習になるよう努力することを期待する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教職実践演習 (Teaching Profession Practical Exercises)			担当教員	紺渡 弘幸、フッド晴美、奥谷 崇	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Bee-2411	2 単位	4 年後期	演習		必修
<科目区分> 人間学部特設科目 教職に関する専門科目					
求める学習成果（教育目標）					
次世代の英語コミュニケーション能力育成に携わるすぐれた知識と技能を持つ人間性豊かな中学校・高等学校の英語教員を育成する。					

授 業 の 内 容
基礎的指導技術修得の確認・強化及び実践的指導力の育成
授 業 の 到 達 目 標
1. 教職の意義・教員の職務と役割について理解する。 2. 生徒理解や学級経営について理解する。 3. 教科指導・生徒指導について理解する。 4. 英語指導の基本的指導技術を身につける。 5. 英語指導に有用なマクロストラテジーを理解し、使用できる。 6. ティーム・ティーチングの意義・目的を理解する。 7. ティーム・ティーチングの方法を理解し、実施することができる。
授 業 の 計 画
奥谷崇担当分(5 回) 第1回：教職の意義、教職員の職務と役割、生徒に対する使命と責任の重さについて事例研究・ロールプレイング・グループ討論 第2回：生徒理解と学級経営について事例研究・グループ討論 第3回：教科や生徒指導の方法についての事例研究・グループ討論 第4回：学校現場の調査研究とグループ討論 第5回：社会性や対人関係能力についての確認とまとめ 紺渡弘幸担当分(5 回) 第6回：基本的指導技術 ― Warm-up と Review とマクロストラテジー(1) 第7回：基本的指導技術 ― 文法・文型の導入とマクロストラテジー(2) 第8回：基本的指導技術 ― 文法・文型を用いた活動とマクロストラテジー(3) 第9回：基本的指導技術 ― 語彙の導入と指導とマクロストラテジー(4) 第10回：基本的指導技術 ― 教科書本文の読解指導とマクロストラテジー(5) 山田晴美担当分(5 回) 第11回：ティーム・ティーチング ― 意義と目的 ― 第12回：ティーム・ティーチング ― 現状と課題 ― 第13回：ティーム・ティーチング ― 目標設定・指導計画・ALTとの話し合いの持ち方 ― 第14回：ティーム・ティーチング ― 授業実践① 第15回：ティーム・ティーチング ― 授業実践②・評価の仕方 ―
授 業 外 の 学 習 方 法
与えられた課題について必ず準備をして授業に臨むこと。また、授業後、必ず復習し理解を深めるとともに実践できるようにすること。
成 績 評 価 方 法
課題(30%)、平常点(70%) (平常点は授業への参加状況、グループ討論、模擬授業などの取り組みを総合的に判断します。)

成 績 評 価 基 準
1. 教職の意義・教員の職務と役割について理解できているか。 2. 生徒理解や学級経営について理解できているか。 3. 教科指導・生徒指導について理解できているか。 4. 基本的指導技術を授業に活用できるか。 5. 英語指導に有用なマクロストラテジーを理解し、授業で利用できるか。 6. ティーム・ティーチングの意義・目的を理解できているか。 7. ティーム・ティーチングの方法を理解し、実施することができるか。
テキスト、参考図書
なし。
その他(受講上の注意)
自ら積極的に教員になる上で必要な知識・技能を再確認し、実際に活用できるようにするとともに、教師としての資質を向上させることができるよう努力を期待する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語教授法a (Japanese Language Teaching Skills a)			担当教員	大河 晴美	
講義コード	単 位	配当年度	開講形態		選択区分
CO-Dii-2301	2 単位	3 年前期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目					
求める学習成果(教育目標)					
日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					

授 業 の 内 容
日本語を母語としない学習者に対する日本語教育の方法について広く学習し、基本的な知識・技法を身につける。また、日本語教育の授業を扱ったビデオを視聴し、実際の教室活動について理解を深める。日本語教授法aでは、いろいろな教授法の特徴、日本語の音声、初級の発音/会話の教え方を中心に学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
- 日本語教師の役割を理解する。 - 日本語教育を行う際に必要な知識・技法の基本を理解し、実際の教室活動を想定できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：日本語教師の役割 第3回：日本語を教えるということ(1) 第4回：日本語を教えるということ(2) 第5回：いろいろな外国語教授法(1) 第6回：いろいろな外国語教授法(2) 第7回：いろいろな外国語教授法(3) 第8回：いろいろな外国語教授法(4) 第9回：言語としての日本語 第10回：日本語の音声(1) 第11回：日本語の音声(2) 第12回：初級の教え方 発音/会話(1) 第13回：初級の教え方 発音/会話(2) 第14回：初級の教え方 発音/会話(3) 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習：授業で理解したことを確認し、課題を行うこと。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%) (平常点は授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)
成 績 評 価 基 準
課題：対象となる回のテーマ・内容を理解できているか。 期末レポート：日本語教師の役割と必要な知識・技法を理解したうえで、教室活動を想定できているか。
テ キ ス ト、参 考 図 書
高見澤孟監修『新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』・アスク・2004年 高見澤孟著『新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』・アスク・2004年
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
自らの日本語力についても常に見直しをはかること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語教授法 b (Japanese Language Teaching Skills b)			担当教員	大河 晴美	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Dii-2311	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目					
求める学習成果(教育目標)					
日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					

授 業 の 内 容
日本語を母語としない学習者に対する日本語教育の方法について広く学習し、基本的な知識・技法を身につける。また、日本語教育の授業を扱ったビデオを視聴し、実際の教室活動について理解を深める。日本語教授法bでは、日本語の文法、初級の文字/表記の教え方、中上級への発展を中心に学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
- 日本語教師の役割を理解する。 - 日本語教育を行う際に必要な知識・技法の基本を理解し、実際の教室活動を想定できる。
授 業 の 計 画
第1回：オリエンテーション 第2回：日本語の文法(1) 第3回：日本語の文法(2) 第4回：日本語の文法(3) 第5回：文字・表記(1) 第6回：文字・表記(2) 第7回：文字・表記(3) 第8回：語彙 第9回：初級の教え方 文字/読解(1) 第10回：初級の教え方 文字/読解(2) 第11回：初級の教え方 文字/読解(3) 第12回：中上級の教え方 会話/聴解(1) 第13回：中上級の教え方 会話/聴解(2) 第14回：中上級の教え方 読解/情報収集 第15回：まとめ
授 業 外 の 学 習 方 法
予習：テキストの該当部分を読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。 復習：授業で理解したことを確認し、課題を行うこと。
成 績 評 価 方 法
期末レポート(50%)、課題(30%)、平常点(20%) (平常点は授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。)
成 績 評 価 基 準
課題：対象となる回のテーマ・内容を理解できているか。 期末レポート：日本語教師の役割と必要な知識・技法を理解したうえで、教室活動を想定できているか。
テ キ ス ト 、 参 考 図 書
高見澤孟監修『新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』 アスク 2004年 高見澤孟著『新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』 アスク 2004年
そ の 他 (受 講 上 の 注 意)
自らの日本語力についても常に見直しをはかること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語教育課程論 (Theory of Japanese Language Education Curriculum)			担当教員	笹原 幸子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Dii-2312	2 単位	3 年後期	講義		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目					
求める学習成果(教育目標)					
日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					

授 業 の 内 容
多様化する日本語学習者の現状を把握し、様々な学習者のニーズに応じてどのような日本語教育のコースを作り上げるかを学ぶ。ニーズ分析やレベルの把握、また、シラバスや教授法の選択、コミュニケーションを重視した教室活動の展開の仕方や評価の方法など、一つの日本語指導のためのコースをデザインするのに必要な事柄を具体的に学習する。
授 業 の 到 達 目 標
・多様化する日本語学習者の現状と問題点が理解できるようになる。 ・学習者のニーズを把握し、日本語指導ためのコースデザインの流れが理解できるようになる。 ・初級レベルの日本語指導の方法がわかるようになる。 ・中級レベルの日本語指導の方法がわかるようになる。 ・評価の種類と方法がわかるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：日本語教育における学習者の多様性／コース・デザイン概要 第2回：ニーズ分析と目標言語調査 第3回：レディネス分析 第4回：シラバスデザイン ― 1 第5回：シラバスデザイン ― 2 第6回：カリキュラムデザイン、教材の選択 第7回：外国語教授法 ― 1 第8回：外国語教授法 ― 2 第9回：初級の教室活動 ― 1 導入とドリルの方法 第10回：初級の教室活動 ― 2 コミュニケーションを重視した活動 第11回：中級の教室活動 ― 1 第12回：中級の教室活動 ― 2 第13回：テストの作成と評価の方法 ― 1 第14回：テストの作成と評価の方法 ― 2、コンサルティング 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習としては、テキストの該当課をよく読んで授業に臨むこと。授業では外国語教授法や日本語教育の文法の知識がある程度必要になるので、参考文献を読んでおくこと。復習としては、配布プリントを読んで、知識を確かなものにし、さらに教室活動などのイメージを掴んでおくことが求められる。
成 績 評 価 方 法
定期試験(50%)、小テスト(20%)、課題(20%)、平常点(10%)の割合で評価する。 (平常点は授業への参加状況と受講態度を総合して判断する)
成 績 評 価 基 準
・日本語学習者の現状と問題点を理解することができたか。 ・学習者のニーズを把握し、日本語指導ためのコースデザインの流れが理解できるようになったか。 ・初級レベルの日本語指導の方法がわかるようになったか。 ・中級レベルの日本語指導の方法がわかるようになったか。 ・評価の種類と方法がわかるようになったか。

テキスト、参考図書	
田中 望 『日本語教育の方法 ― コース・デザインの実例 ―』 大修館書店 1988年 石田敏子 『日本語教授法』(大修館書店 1995) 野田尚史 『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版 1991)	
その他(受講上の注意)	
講義内容などに関する質問は授業中およびe-mailで受け付ける。	
オフィスアワー	
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。	

日本語指導技法a (Japanese Language Teaching Skill a)			担当教員	笹原 幸子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Dii-2401	2 単位	4 年前期	演習		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目					
求める学習成果(教育目標)					
日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					

授 業 の 内 容
日本語初級教科書を使って、初級レベルの日本語学習者に対する日本語指導の方法を学ぶ。ここでは特に話す技能の養成の方法を模擬授業を通して学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・ 初級レベルの日本語教材についての知識を身につける。 ・ 初級レベルの指導に必要な日本語の言語的知識を身につける。 ・ 初級レベルの指導の流れを理解し、授業計画が立てられるようになる。 ・ 初級前半レベルの日本語指導ができるようになる。
授 業 の 計 画
第1回：「みんなの日本語」の構成とシラバス、初級レベルと教材 第2回：「みんなの日本語」と初級の文型 — 1 第3回：「みんなの日本語」と初級の文型 — 2 第4回：「みんなの日本語」を使った初級の授業の流れと教案作成の手順 第5回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（導入の方法） 第6回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（導入の方法） 第7回：「みんなの日本語」と初級の文型 — 3 第8回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（ドリルの方法） 第9回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（ドリルの方法） 第10回：「みんなの日本語」と初級の文型 — 4 第11回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（会話の指導） 第12回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（会話の指導） 第13回：「みんなの日本語」と初級の文型 — 5 第14回：モデル授業／模擬授業及び「みんなの日本語」の指導と教材・教具（聴解の指導） 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
・ 予習としては日本語テキストの該当課の学習項目を把握しておくこと。 ・ 模擬授業担当の際は、予め授業計画を立て、教材の準備をしておく。 ・ 指導法の参考書を読んで、該当学習項目の指導の方法について予め知識を入れておく。
成 績 評 価 方 法
定期試験(60%)、模擬授業(30%)、平常点(10%)の割合で評価する。 (平常点は授業への参加状況と受講態度を総合して判断する)
成 績 評 価 基 準
・ 初級レベルの指導に必要な日本語の言語的知識が身についたか。 ・ 初級の指導の流れを理解し、授業計画が立てられるようになったか。 ・ 初級の前半レベルの日本語指導ができるようになったか。

テキスト、参考図書
『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版』スリーエーネットワーク 2014年 寺田和子、三上京子、山形美保子、和栗雅子 共著『日本語の教え方ABC』（アルク 2005） 『みんなの日本語初級Ⅰ 教え方の手引き』（スリーエーネットワーク 2000） 『みんなの日本語初級Ⅰ 翻訳文法解説 英語版』（スリーエーネットワーク 1998） 庵功雄、高梨信乃、中西久実子、山田敏弘『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク 2000）
その他（受講上の注意）
講義内容などに関する質問は授業中およびe-mailで受け付ける。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

日本語指導技法 b (Japanese Language Teaching Skill b)			担当教員	笹原 幸子	
講義コード	単 位	配当年次	開講形態		選択区分
CO-Dii-2411	2 単位	4 年後期	演習		選択
<科目区分> 人間学部特設科目 日本語教員養成に関する科目					
求める学習成果(教育目標)					
日本語を母語としない人たちに日本語を教えられる能力を育成する。					

授 業 の 内 容
日本語初級後半から中級レベルの日本語指導の技法を学ぶ。
授 業 の 到 達 目 標
・初級後半レベルの学習者に対して日本語指導ができるようになる。 ・中級レベルの学習者に対して日本語指導ができるようになる。 ・日本語指導に必要な音声、文字・表記に関する知識を得て、日本語指導に役立てられるようにする。
授 業 の 計 画
第1回：初級後半の指導法 1 第2回：初級後半の指導法 2 第3回：初級後半の指導法 3 第4回：初級後半の指導法 4 第5回：中級の指導法 1 第6回：中級の指導法 2 第7回：中級の指導法 3 第8回：日本語の音声 1 (音声のレベルと音韻) 第9回：日本語の音声 2 (単音レベル：母音と子音) 第10回：日本語の音声 3 (音律レベル：リズム、アクセント、イントネーション、プロミネンス) 第11回：音声教育の実際 第12回：日本語の文字・表記 1 (文字と文字体系、文字体系の種類) 第13回：日本語の文字・表記 2 (日本語の文字種と音節：平仮名と片仮名) 第14回：日本語の文字・表記 3 (漢字の造字法と用字法)、日本語の正書法 第15回：まとめ 第16回：定期試験
授 業 外 の 学 習 方 法
予習としては授業で扱う項目について予め教科書や参考書を読んで概要を掴んでおくこと。また、講義を受けた後は配布プリントを見直して復習をしておくことが求められる。
成 績 評 価 方 法
定期試験(70%)、小テストの結果(10%)、平常点(20%)の割合で評価する。 (平常点は授業への参加状況と受講態度を総合して判断する)
成 績 評 価 基 準
・初級後半レベルの日本語指導ができるようになったか。 ・中級レベルの学習者に対して日本語指導ができるようになったか。 ・日本語指導に必要な音声、文字・表記に関する知識を得て、日本語指導に役立てられるようになったか。
テキスト、参考図書
『みんなの日本語初級Ⅱ』 スリーエーネットワーク 1998年 監修 佐治圭三・真田信治『改訂版日本語教師養成シリーズ第3巻 音声、文字、表記』 凡人社 2004年 『みんなの日本語中級Ⅰ』 スリーエーネットワーク 2008年
その他(受講上の注意)
講義内容などに関する質問は授業中およびe-mailで受け付ける。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。